

## Ⅱ. 区民調査の結果



## A 健康状態について



# 1 現在の健康状態について

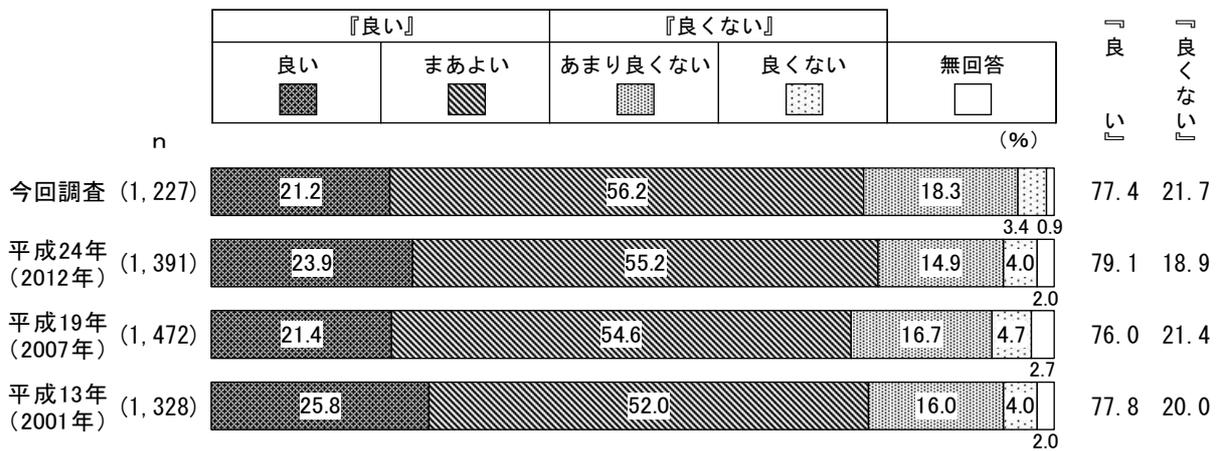
## (1) 主観的健康観

◎『良い』は77.4%

<前回79.1%、前々回76.0%>

問1 あなたは、ご自分の健康状態をどのように感じていますか。(○は1つだけ)

図表1-1-1 主観的健康観(過去の調査との比較)



主観的健康観は、「良い」(21.2%)と「まあよい」(56.2%)を合わせた『良い』が77.4%と高くなっている。一方、「あまり良くない」(18.3%)と「良くない」(3.4%)を合わせた『良くない』は21.7%となっている。

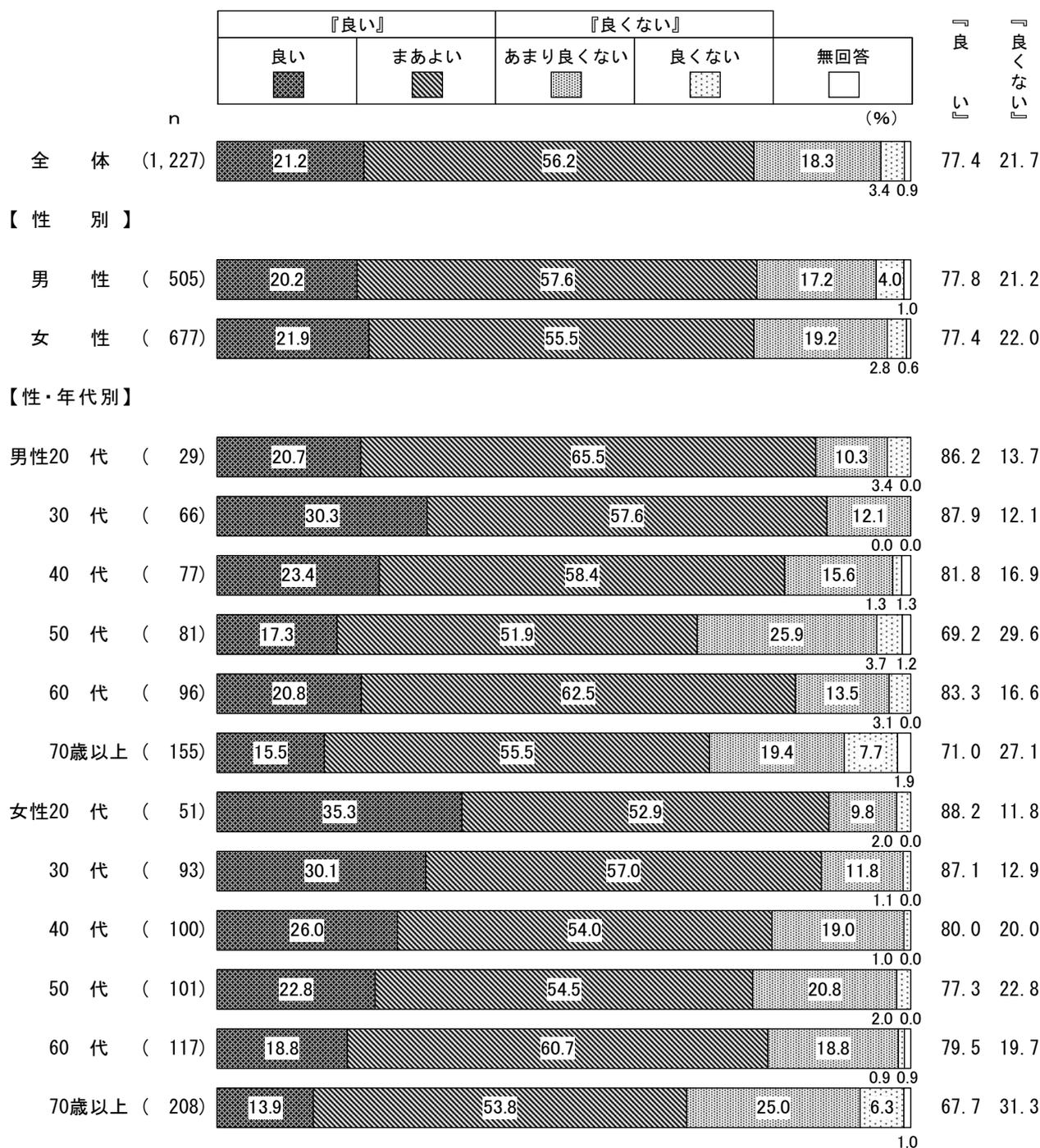
過去の調査結果と比較すると、『良い』は7割台後半、『良くない』は2割前後で推移しており、大きな傾向の違いはみられない。(図表1-1-1)

性別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

性・年代別でみると、『良い』は男女とも20代と30代で8割台後半と高くなっている。『良くない』は女性70歳以上で31.3%、男性50代で29.6%、男性70歳以上で27.1%と高くなっている。

(図表 1-1-2)

図表 1-1-2 主観的健康観—性・年代別



## 2 健康診査の受診について

### (1) 受診した健康診査の種類

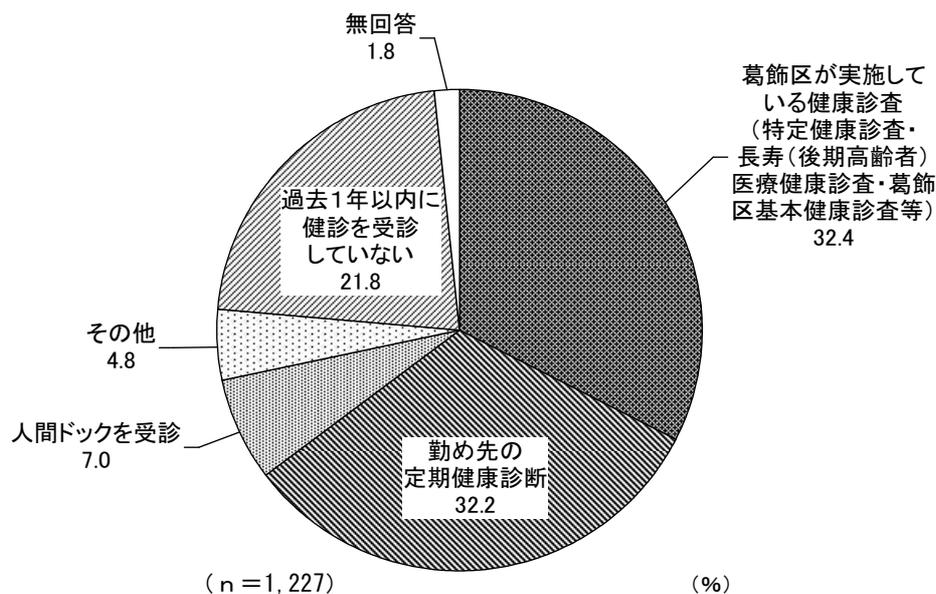
◎ 「葛飾区が実施している健康診査」は32.4%

< 前回32.1%、前々回40.2% >

問2 あなたが、過去1年以内に受診した健診(※)はどれですか。(○は1つだけ)

(※) 「がん検診のみの受診」、「妊産婦健診」、「歯の健康診査」、「病院や診療所で行う診療としての検査」は、この質問での「健診」には含めずにお答えください。

図表1-2-1 受診した健康診査の種類



過去1年以内に受診した健康診査の種類は、「葛飾区が実施している健康診査(特定健康診査(以下「特定健診」という)・長寿(後期高齢者)医療健康診査(以下「長寿健診」という)・葛飾区基本健康診査(以下「基本健診」という)等)」が32.4%、「勤め先の定期健康診断」が32.2%となっており、これらと「人間ドックを受診」(7.0%)、「その他」(4.8%)を合わせた『受診あり』は76.4%と高くなっている。一方、「過去1年以内に健診を受診していない」は21.8%となっている。

(図表1-2-1)

健康診査の『受診あり』の割合を、性別で過去の調査結果と比較すると、平成24年に比べて男性が5.8ポイント、女性が6.1ポイント減少している。(図表1-2-2)

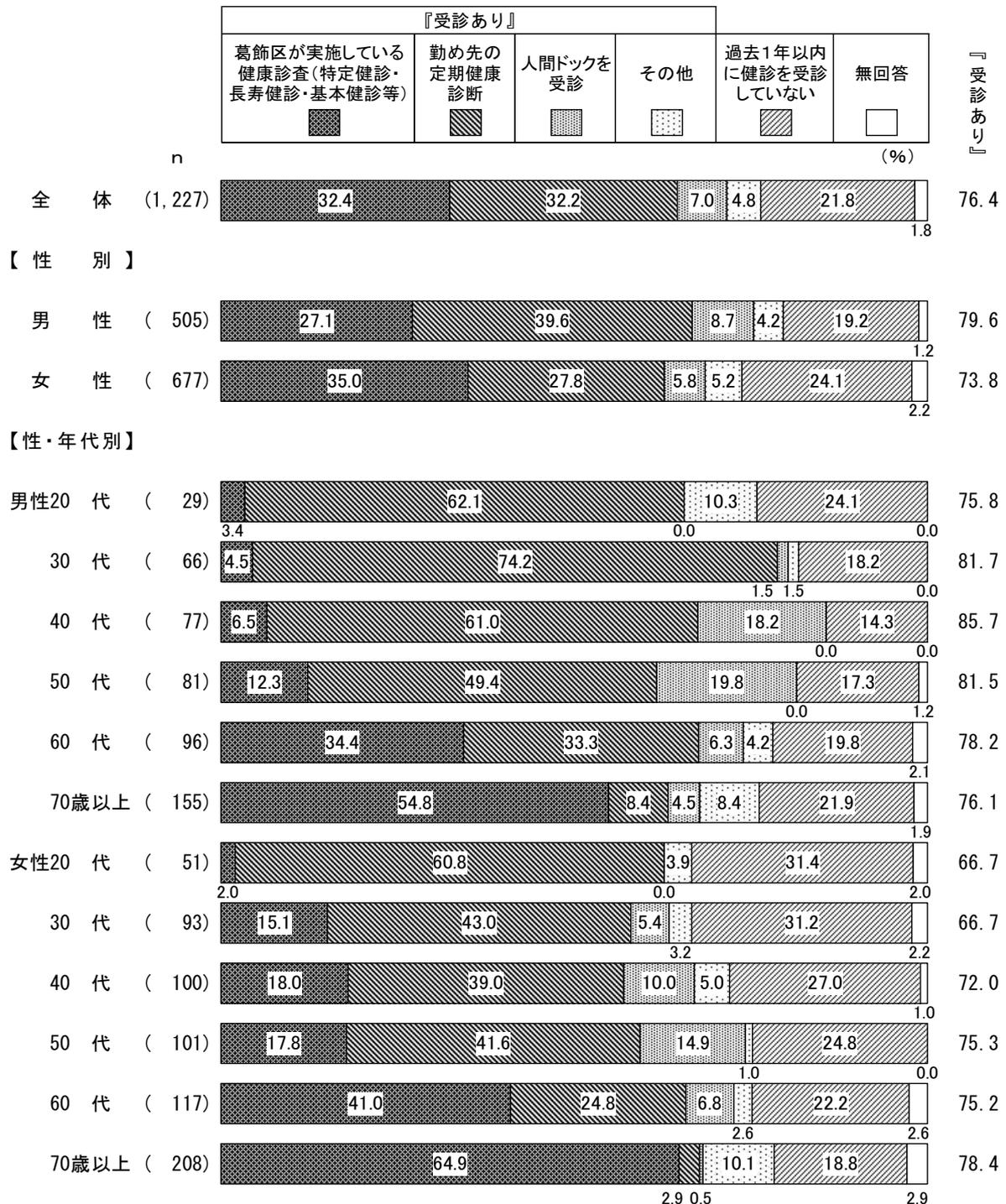
図表1-2-2 健康診査の『受診あり』の割合(過去の調査との比較)

	年度	健康診査の『受診あり』 (%)	
		男性	女性
葛飾区	今回調査	79.6	73.8
	平成24年(2012年)	85.4	79.9
	平成19年(2007年)	75.2	70.0

性別でみると、「葛飾区が実施している健康診査」を受診した割合は女性(35.0%)が男性(27.1%)より7.9ポイント高くなっている。「勤め先の定期健康診断」を受診した割合は男性(39.6%)が女性(27.8%)より11.8ポイント高くなっている。「過去1年以内に健診を受診していない」割合は女性(24.1%)が男性(19.2%)より4.9ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、「葛飾区が実施している健康診査」を受診した割合は女性70歳以上で64.9%、男性70歳以上で54.8%と高くなっている。「勤め先の定期健康診断」を受診した割合は男性30代で74.2%、男性20代・40代と女性20代で6割台と高くなっている。「過去1年以内に健診を受診していない」割合は女性20代で31.4%、女性30代で31.2%と高くなっている。(図表1-2-3)

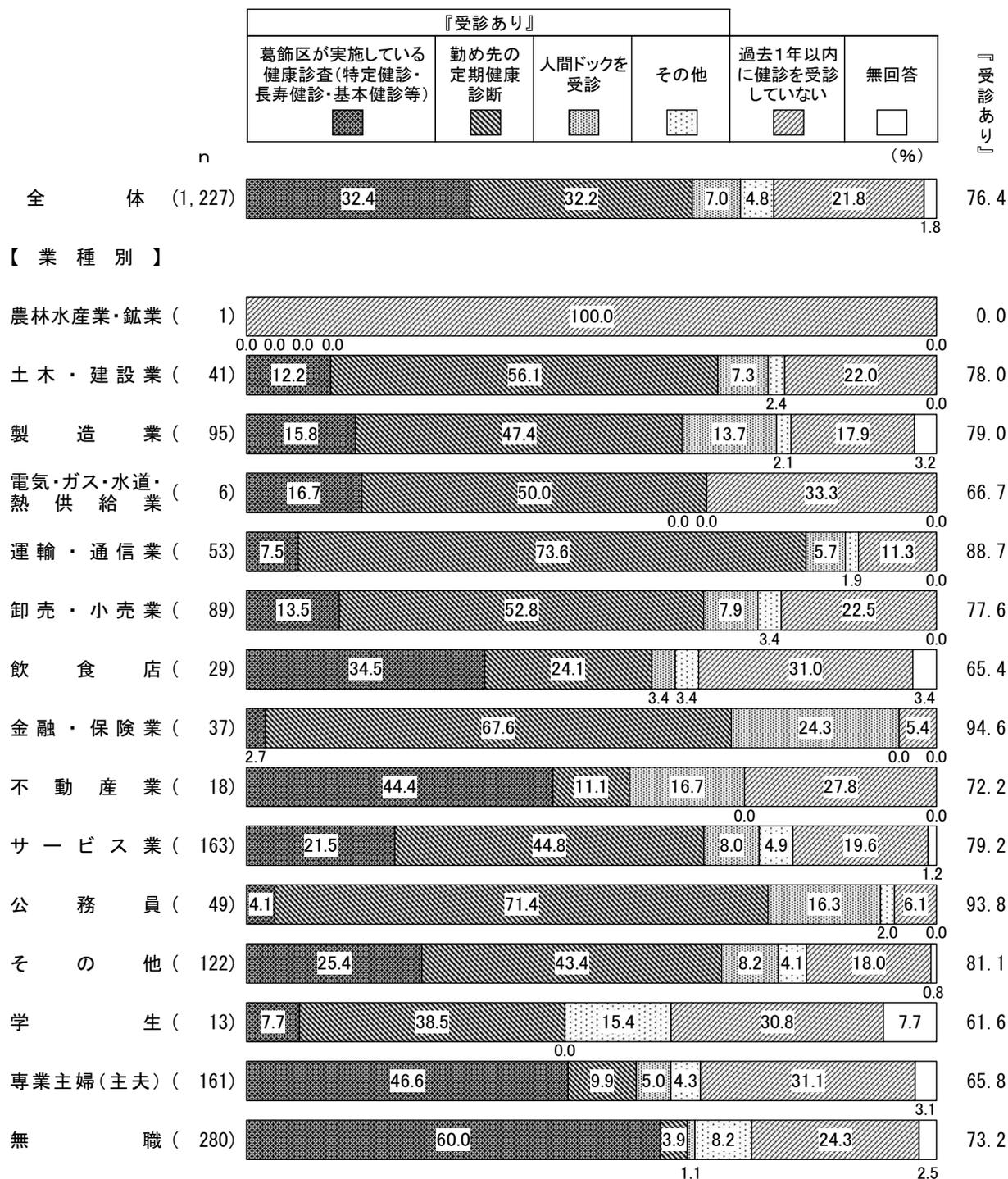
図表1-2-3 受診した健康診査の種類－性・年代別



業種別でみると、「葛飾区が実施している健康診査」を受診した割合は無職で60.0%、専業主婦（主夫）で46.6%、不動産業で44.4%と高くなっている。「勤め先の定期健康診断」を受診した割合は運輸・通信業で73.6%、公務員で71.4%、金融・保険業で67.6%と高くなっている。

(図表 1-2-4)

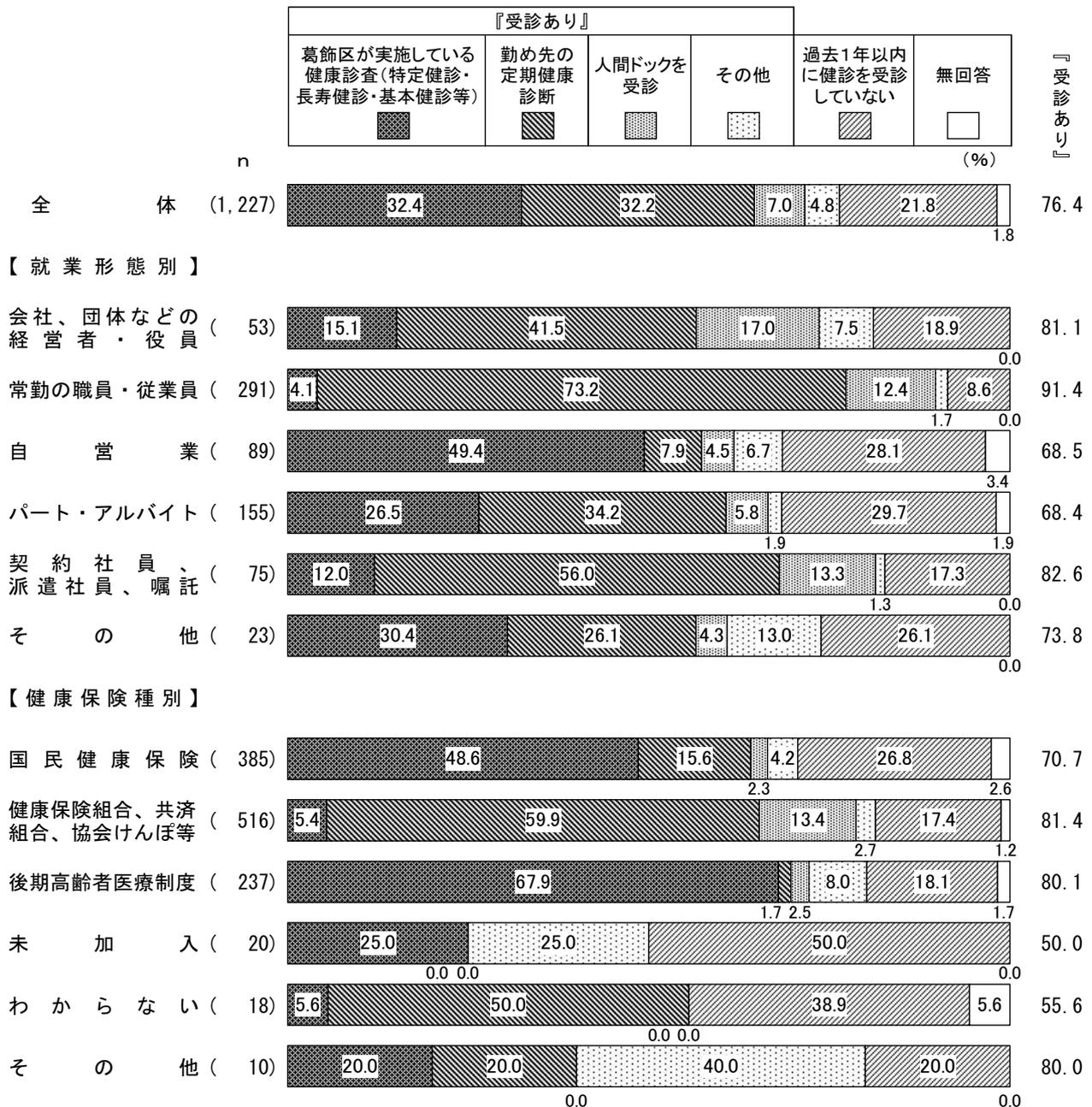
図表 1-2-4 受診した健康診査の種類－業種別



就業形態別でみると、「葛飾区が実施している健康診査」を受診した割合は自営業で49.4%と高くなっている。「勤め先の定期健康診断」を受診した割合は常勤の職員・従業員で73.2%と高くなっている。

健康保険種別でみると、「葛飾区が実施している健康診査」を受診した割合は後期高齢者医療制度で67.9%、国民健康保険で48.6%と高くなっている。「勤め先の定期健康診断」を受診した割合は健康保険組合、共済組合、協会けんぽ等で59.9%と高くなっている。(図表1-2-5)

図表1-2-5 受診した健康診査の種類－就業形態別・健康保険種別



(1-1) 健康診査を受診しなかった理由

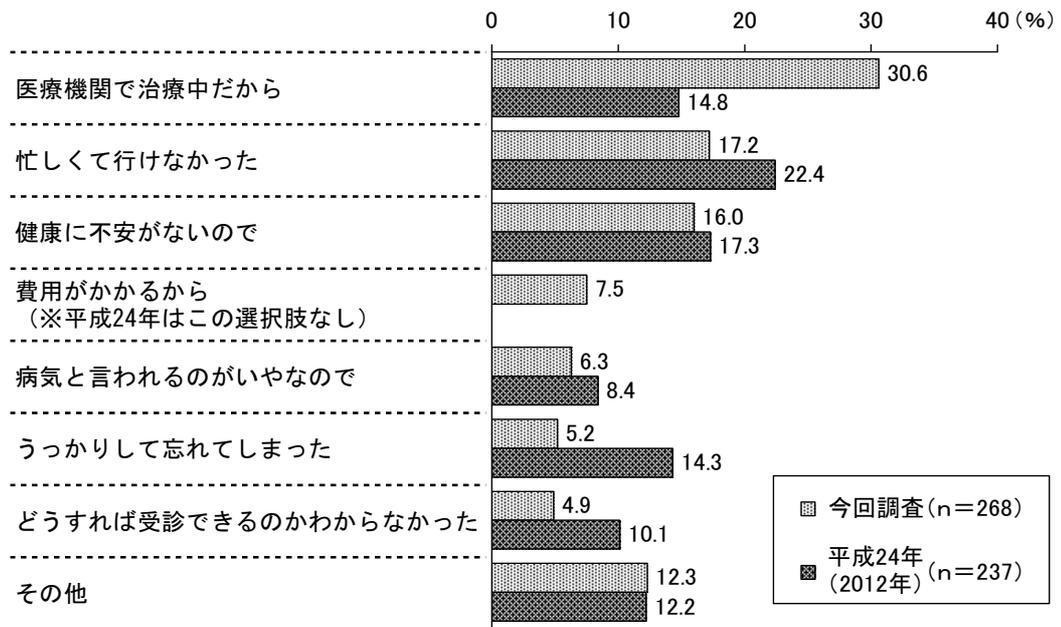
◎ 「医療機関で治療中だから」は30.6%

<前回14.8%>

(問2で「過去1年以内に健診を受診していない」を選んだ方へ)

問2-1 受診しなかった理由は何ですか。最もよくあてはまる番号に○を1つ付けてください。(○は1つだけ)

図表1-2-6 健康診査を受診しなかった理由(平成24年調査との比較)



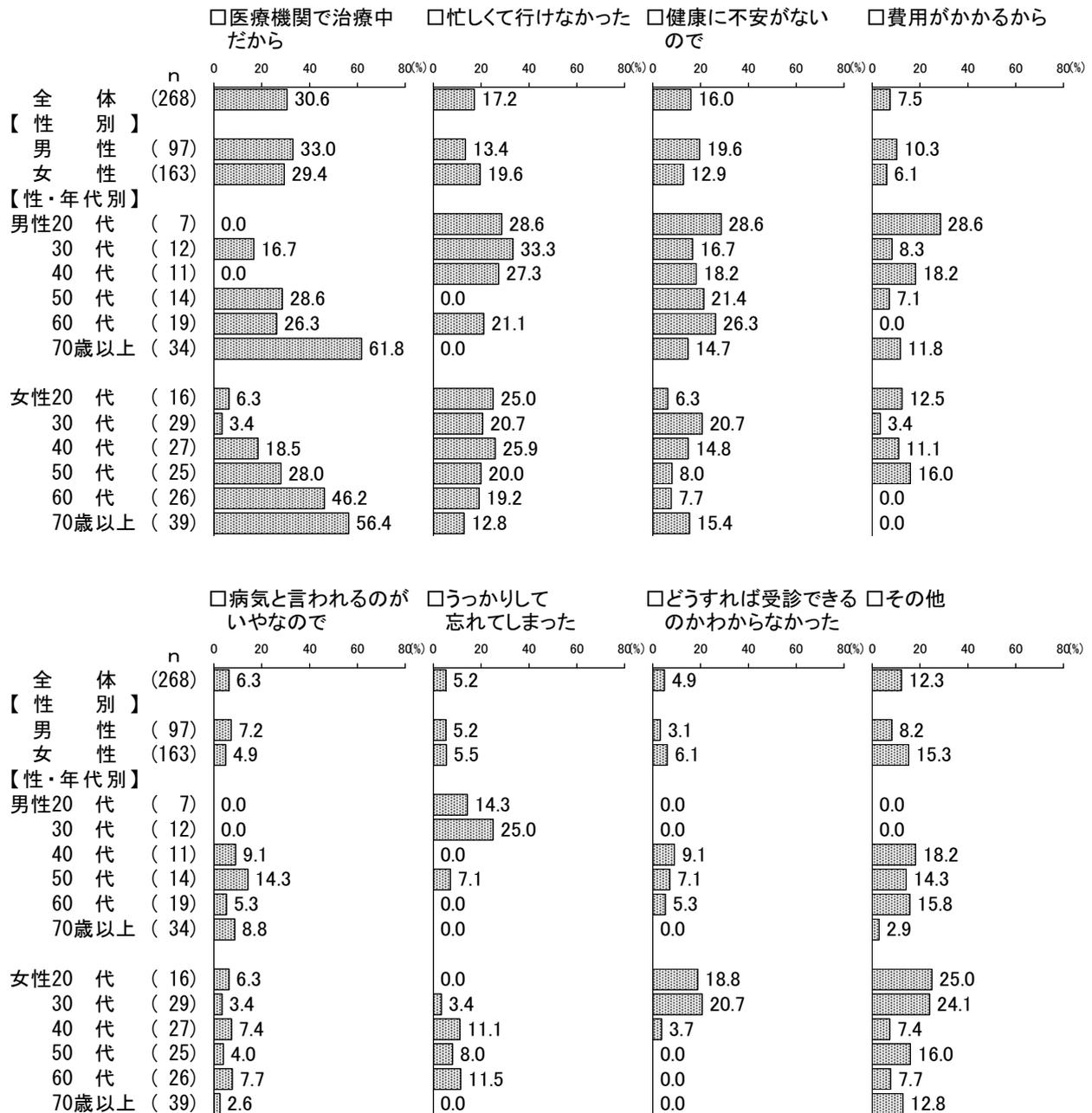
「過去1年以内に健診を受診していない」を選んだ方(268人)の、健康診査を受診しなかった理由は、「医療機関で治療中だから」が30.6%で最も高く、次いで「忙しくて行けなかった」(17.2%)、「健康に不安がないので」(16.0%)などの順となっている。

平成24年の調査結果との比較は、一部の選択肢が追加されているため参考にとどまるが、「医療機関で治療中だから」が15.8ポイント増加している。一方、「うっかりして忘れてしまった」が9.1ポイント、「忙しくて行けなかった」が5.2ポイント減少している。(図表1-2-6)

性別で見ると、「忙しくて行けなかった」は女性（19.6%）が男性（13.4%）より6.2ポイント高くなっている。「健康に不安がないので」は男性（19.6%）が女性（12.9%）より6.7ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、「医療機関で治療中だから」は男性70歳以上で61.8%、女性70歳以上で56.4%と高くなっている。「忙しくて行けなかった」は男性30代で33.3%と高くなっている。「うっかりして忘れてしまった」は男性30代で25.0%と高くなっている。（図表1-2-7）

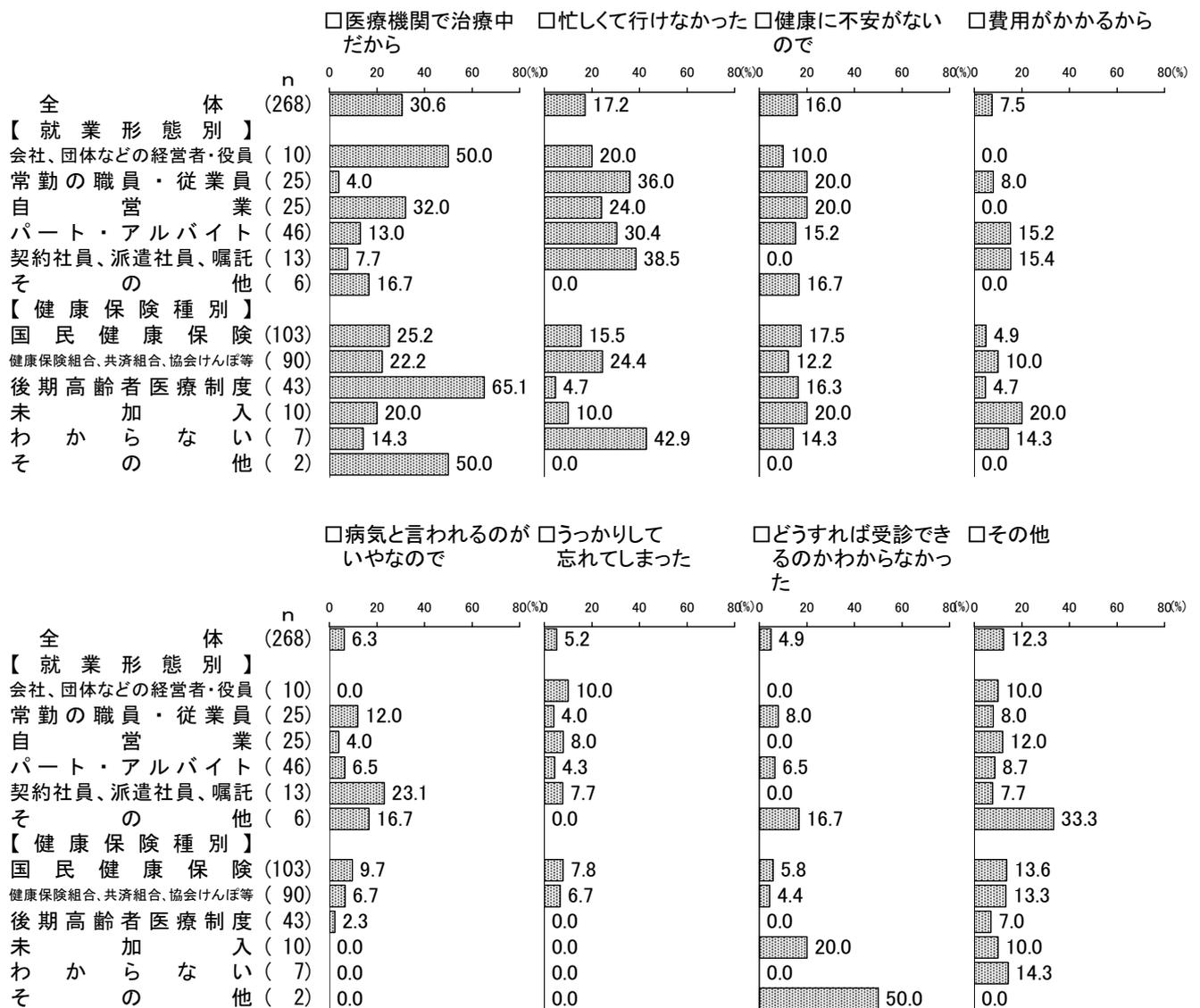
図表1-2-7 健康診査を受診しなかった理由－性・年代別



就業形態別でみると、「医療機関で治療中だから」は会社、団体などの経営者・役員で50.0%と高くなっている。「忙しくて行けなかった」は契約社員、派遣社員、嘱託で38.5%、常勤の職員・従業員で36.0%と高くなっている。

健康保険種別でみると、「医療機関で治療中だから」は後期高齢者医療制度で65.1%と高くなっている。(図表1-2-8)

図表1-2-8 健康診査を受診しなかった理由—就業形態別、健康保険種別



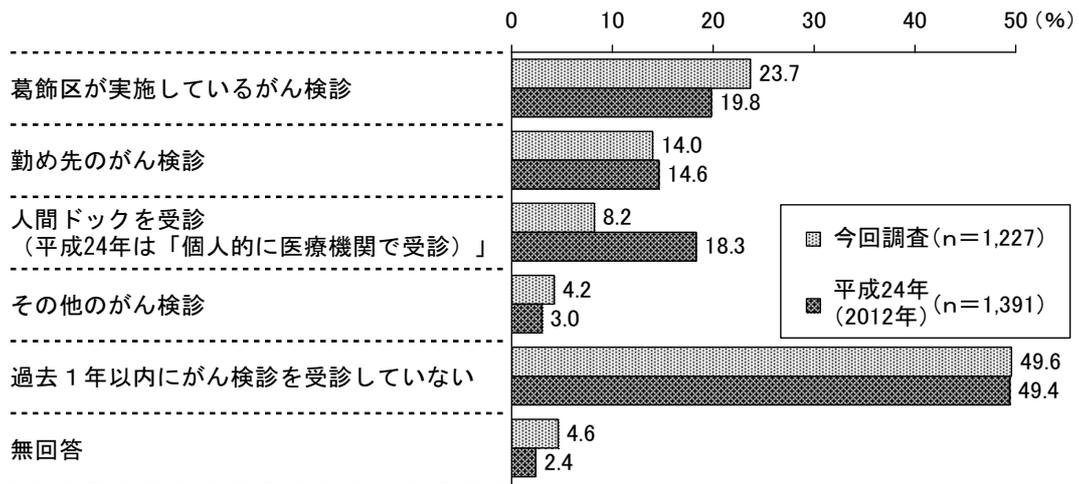
(2) 受診したがん検診の種類・がん検診の種別

◎ 「葛飾区が実施しているがん検診」は23.7%

<前回19.8%>

問3 あなたが過去1年以内に受診したがん検診は、次のうち、どれにあてはまりますか。  
どこで受診したか(1~5)、及びがん検診の種別(①~⑦)のあてはまる番号すべてに  
○を付けてください。(○はいくつでも)

図表1-2-9 受診したがん検診の種類(平成24年調査との比較)



過去1年以内に受診したがん検診の種類は、「葛飾区が実施しているがん検診」が23.7%で最も高く、次いで「勤め先のがん検診」(14.0%)、「人間ドックを受診」(8.2%)などの順となっている。一方、「過去1年以内にがん検診を受診していない」は49.6%となっている。

平成24年の調査結果との比較は、一部の選択肢が変更されているため参考にとどまるが、「葛飾区が実施しているがん検診」が3.9ポイント増加している。(図表1-2-9)

葛飾区が実施しているがん検診の対象者は以下の図表1-2-10のとおりである。

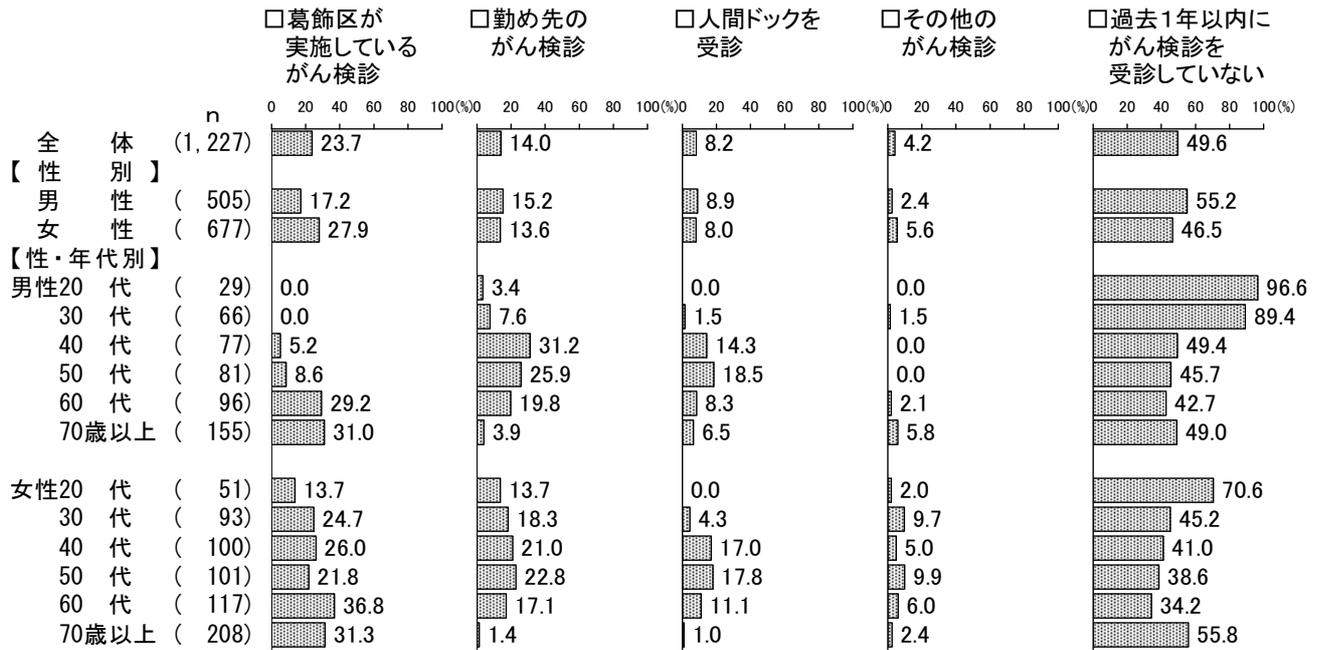
図表1-2-10 葛飾区が実施しているがん検診の対象者

種別	対象性別	対象年齢	検診の頻度
胃がん検診	35歳以上	男女	年1回
肺がん検診	40歳以上	男女	
乳がん検診	30歳以上	女	2年に1回
子宮がん検診	20歳以上	女	年1回
大腸がん検診	40歳以上	男女	
前立腺がん検診	60歳~74歳	男	

性別で見ると、「葛飾区が実施しているがん検診」を受診した割合は女性(27.9%)が男性(17.2%)より10.7ポイント高くなっている。「過去1年以内にごん検診を受診していない」は男性(55.2%)が女性(46.5%)より8.7ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、「葛飾区が実施しているがん検診」を受診した割合は女性60代で36.8%、女性70歳以上で31.3%、男性70歳以上で31.0%と高くなっている。「勤め先のがん検診」を受診した割合は男性40代で31.2%と高くなっている。(図表1-2-11)

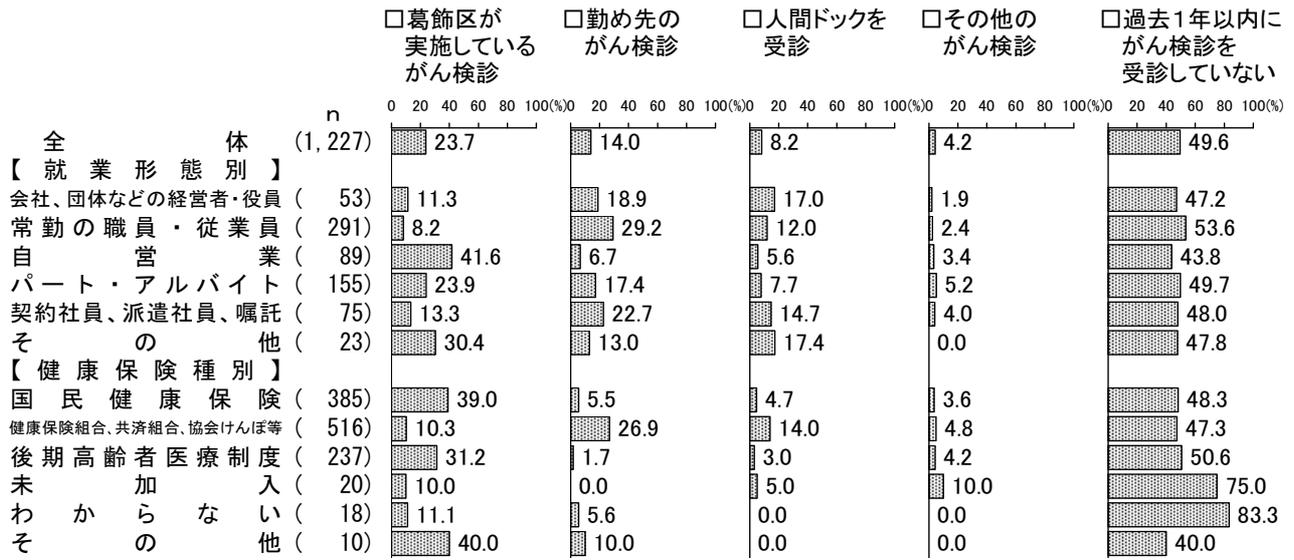
図表1-2-11 受診したがん検診の種類—性・年代別



就業形態別でみると、「葛飾区が実施しているがん検診」を受診した割合は自営業で41.6%と高くなっている。「勤め先のがん検診」を受診した割合は常勤の職員・従業員で29.2%と高くなっている。

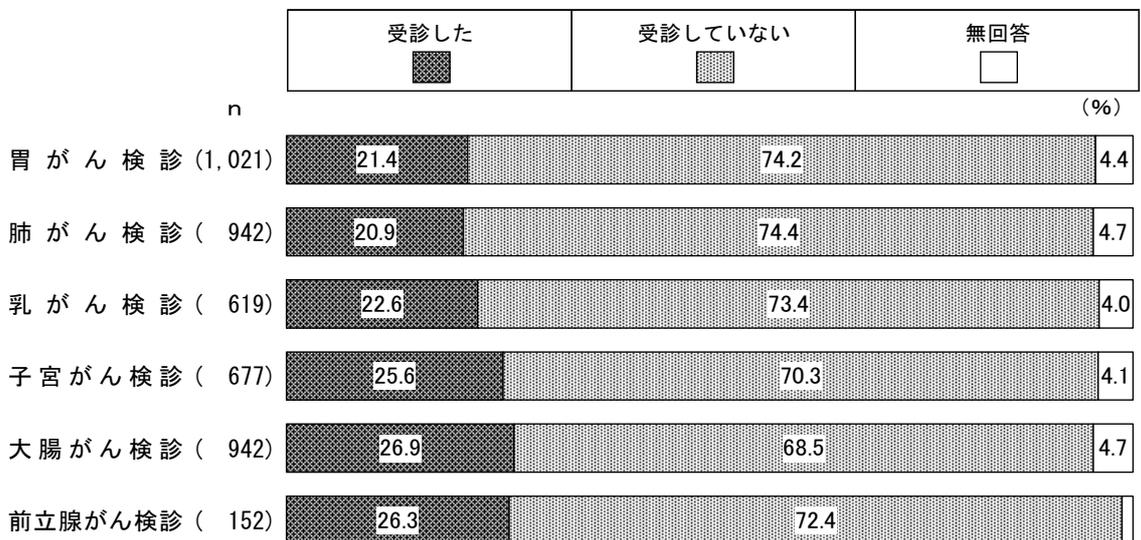
健康保険種別でみると、「葛飾区が実施しているがん検診」を受診した割合は国民健康保険で39.0%、後期高齢者医療制度で31.2%と高くなっている。「勤め先のがん検診」を受診した割合は健康保険組合、共済組合、協会けんぽ等で26.9%と高くなっている。(図表1-2-12)

図表1-2-12 受診したがん検診の種類－性・年代別



図表1-2-10（葛飾区が実施しているがん検診の対象者）に示した各がん検診の対象の性別・年齢に該当する人が、「葛飾区が実施しているがん検診」、「勤め先のがん検診」、「人間ドックを受診」のいずれかを過去1年以内に「受診した」と答えた割合は、胃がん検診で21.4%、肺がん検診で20.9%、乳がん検診で22.6%、子宮がん検診で25.6%、大腸がん検診で26.9%、前立腺がん検診で26.3%となっている。(図表1-2-13)

図表1-2-13 がん検診の受診状況



(2-1) がん検診を受診しなかった理由

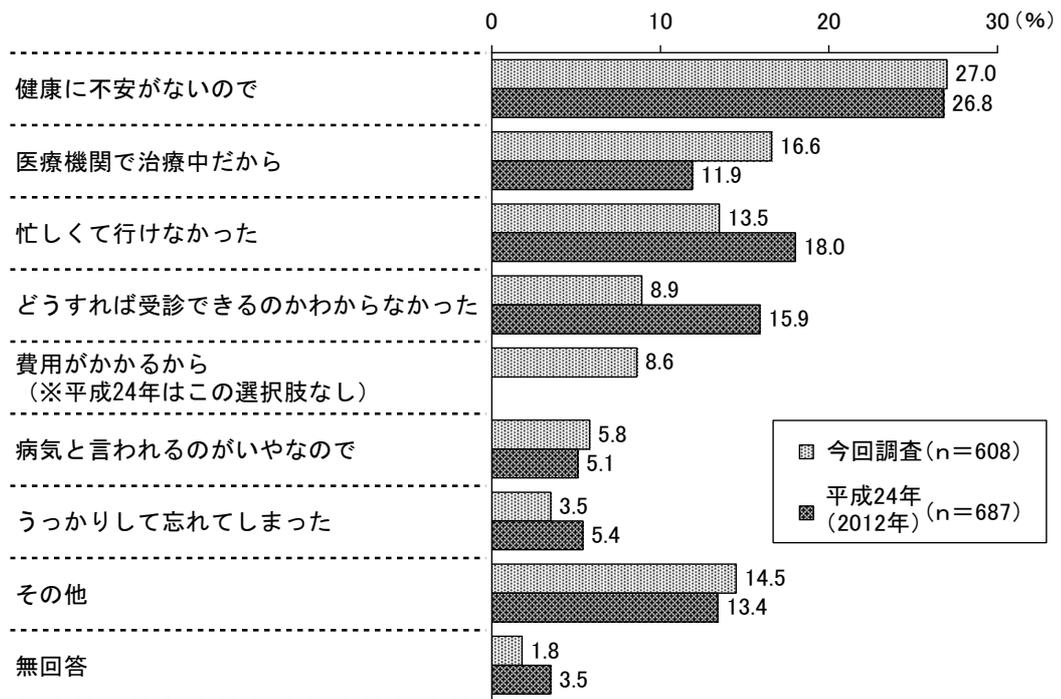
◎ 「健康に不安がないので」は27.0%

<前回26.8%>

(問3で「過去1年以内にごがん検診を受診していない」を選んだ方へ)

問3-1 受診しなかった理由は何ですか。最もよくあてはまる番号に○を1つ付けてください。(○は1つだけ)

図表1-2-14 がん検診を受診しなかった理由(平成24年調査との比較)



「過去1年以内にごがん検診を受診していない」を選んだ方(608人)の、がん検診を受診しなかった理由は、「健康に不安がないので」が27.0%で最も高く、次いで「医療機関で治療中だから」(16.6%)、「忙しくて行けなかった」(13.5%)などの順となっている。

平成24年の調査結果との比較は、一部の選択肢が追加されているため参考にとどまるが、「医療機関で治療中だから」が4.7ポイント増加している。一方、「どうすれば受診できるのかわからなかった」が7.0ポイント、「忙しくて行けなかった」が4.5ポイント減少している。(図表1-2-14)



### 3 かかりつけについて

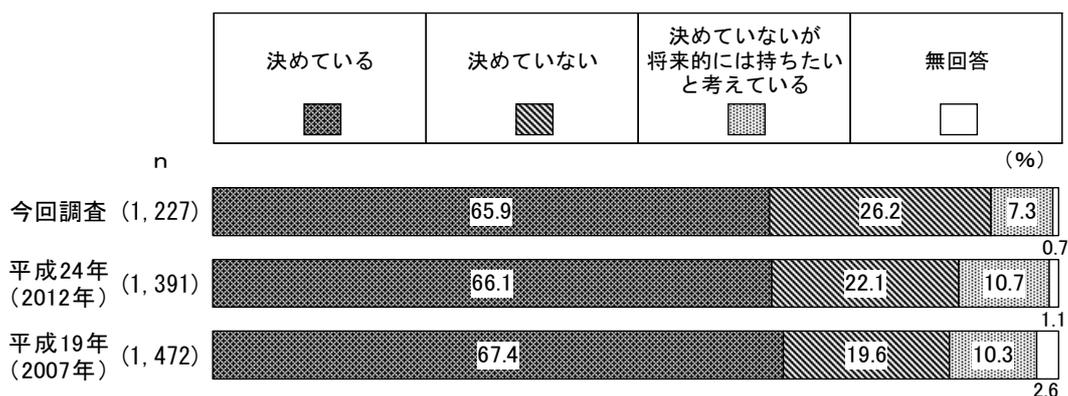
#### (1) かかりつけ医の状況

◎ 「決めている」は65.9%

<前回66.1%、前々回67.4%>

問4 あなたは、かかりつけの医師（歯科医師を除く）または医療機関を決めていますか。  
(○は1つだけ)

図表1-3-1 かかりつけ医の状況（過去の調査との比較）



かかりつけ医の状況は、「決めている」が65.9%と高くなっている。「決めていない」は26.2%、「決めていないが将来的には持ちたいと考えている」は7.3%となっている。

過去の調査結果と比較すると、「決めている」の割合はほぼ同じ傾向になっている。

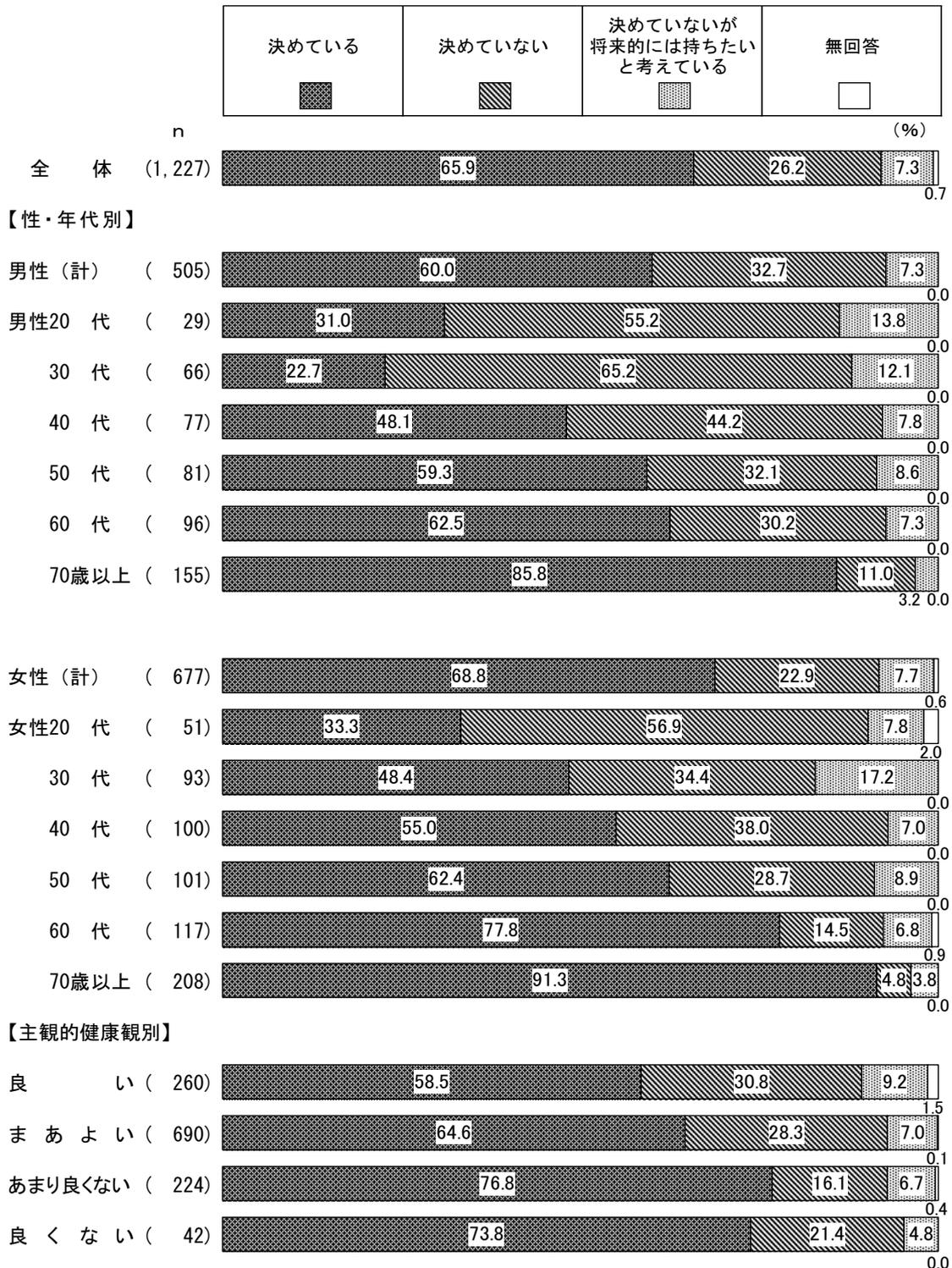
(図表1-3-1)

性別でみると、「決めている」は女性（68.8%）が男性（60.0%）より8.8ポイント高くなっている。「決めていない」は男性（32.7%）が女性（22.9%）より9.8ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、「決めている」は女性70歳以上で91.3%、男性70歳以上で85.8%、女性60代で77.8%と高くなっている。「決めていない」は男性30代で65.2%、女性20代で56.9%、男性20代で55.2%と高くなっている。

主観的健康観別でみると、「決めている」はあまり良くない人で76.8%、良くない人で73.8%と高くなっている。「決めていない」は良い人で30.8%と高くなっている。（図表1-3-2）

図表1-3-2 かかりつけ医の状況－性・年代別、主観的健康観別



(1-1) かかりつけ医の医療機関

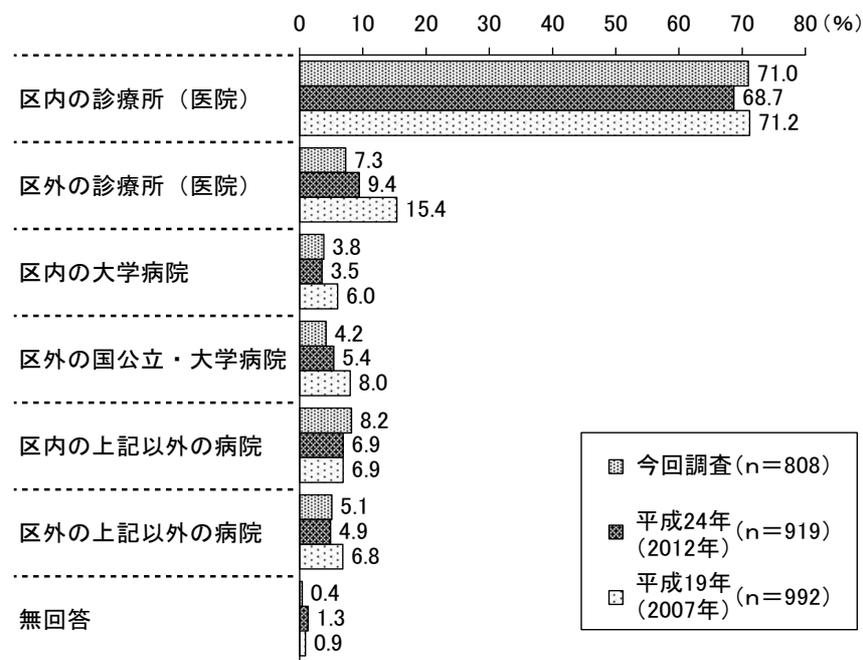
◎ 「区内の診療所 (医院)」は71.0%

<前回68.7%、前々回71.2%>

(問4で「決めている」を選んだ方へ)

問4-1 そのかかりつけ医は、次のうちどれですか。(○は1つだけ)

図表1-3-3 かかりつけ医の医療機関 (過去の調査との比較)

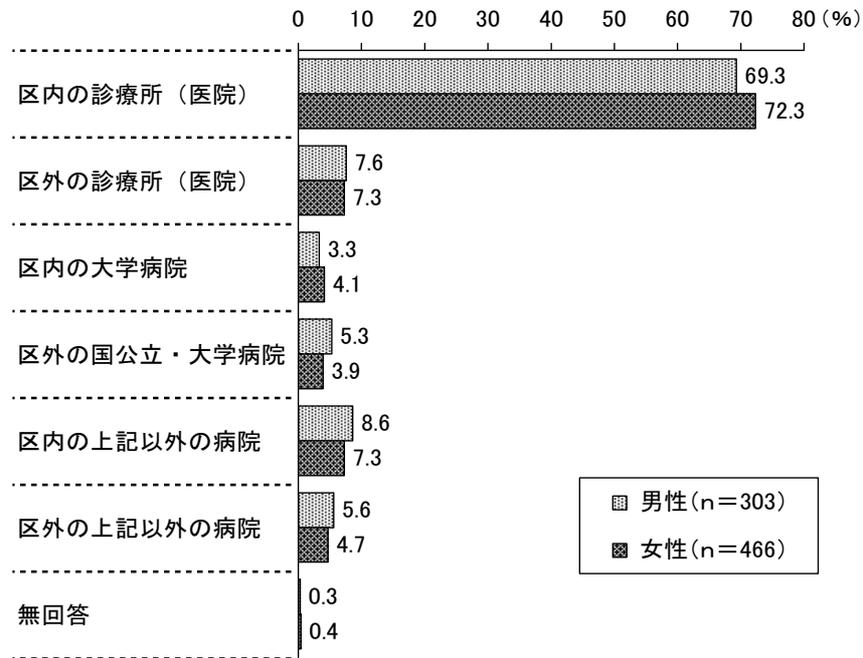


かかりつけ医を「決めている」を選んだ方 (808人) の、かかりつけ医の医療機関は、「区内の診療所 (医院)」が71.0%で最も高く、次いで「区内の上記以外の病院」(8.2%)、「区外の診療所 (医院)」(7.3%) などの順となっている。

過去の調査結果と比較すると、「区外の診療所 (医院)」が減少傾向にある。(図表1-3-3)

性別で見ると、「区内の診療所（医院）」は女性（72.3%）が男性（69.3%）より3.0ポイント高くなっている。（図表1-3-4）

図表1-3-4 かかりつけ医の医療機関一性別



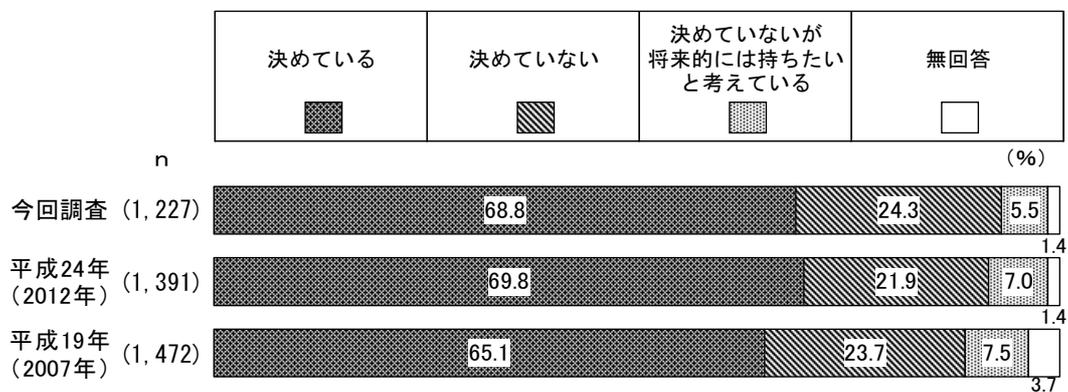
## (2) かかりつけ歯科医の状況

◎ 「決めている」は68.8%

<前回69.8%、前々回65.1%>

問5 あなたは、かかりつけ歯科医を決めていますか。(○は1つだけ)

図表1-3-5 かかりつけ歯科医の状況(過去の調査との比較)



かかりつけ歯科医の状況は、「決めている」が68.8%と高くなっている。「決めていない」は24.3%、「決めていないが将来的には持ちたいと考えている」は5.5%となっている。

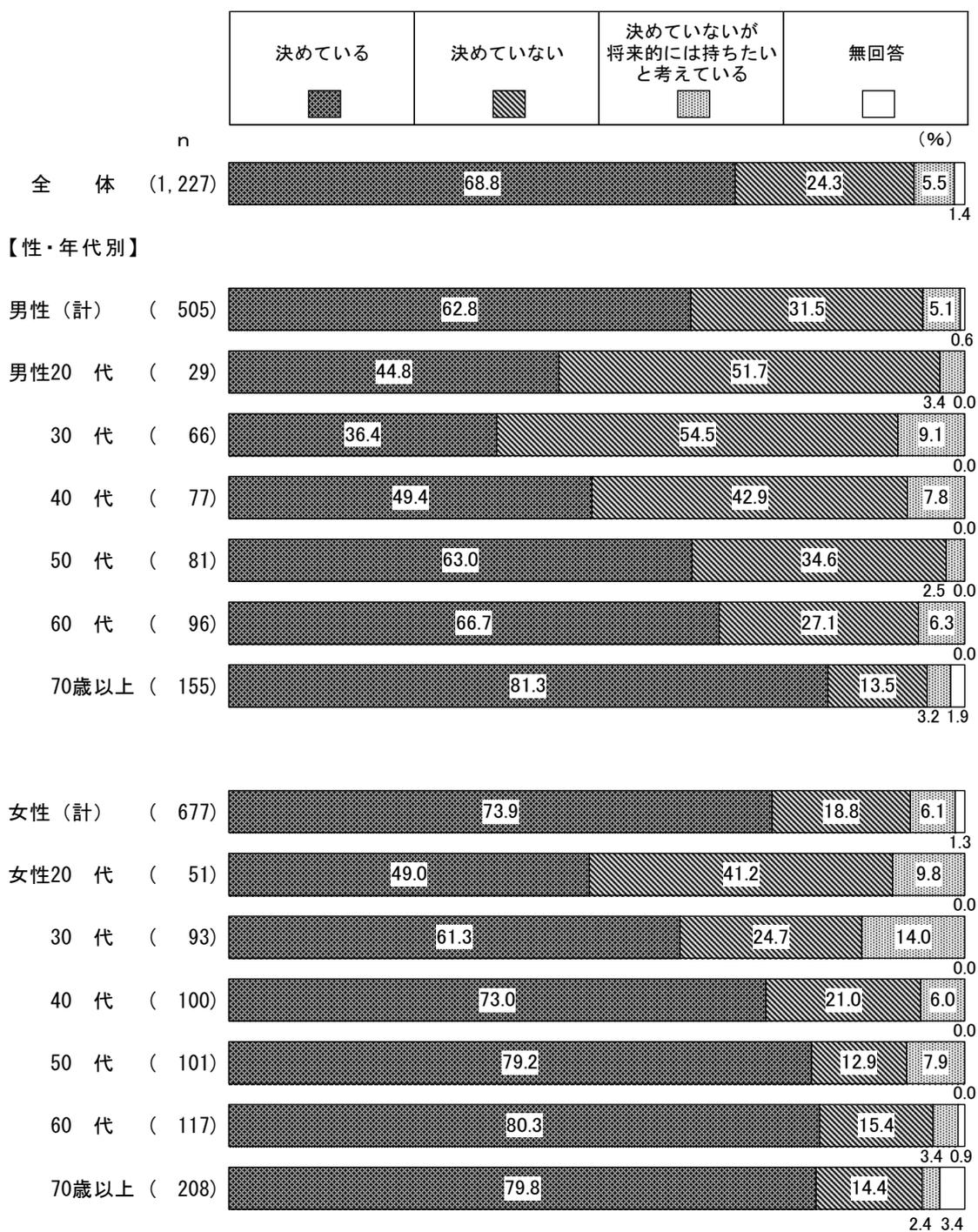
過去の調査結果と比較すると、平成24年調査とほぼ同じ傾向になっている。(図表1-3-5)

性別でみると、「決めている」は女性（73.9%）が男性（62.8%）より11.1ポイント高くなっている。「決めていない」は男性（31.5%）が女性（18.8%）より12.7ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、「決めている」は男性70歳以上と女性の50代以上の年代で8割前後と高くなっている。「決めていない」は男性30代で54.5%、男性20代で51.7%と高くなっている。

(図表1-3-6)

図表1-3-6 かかりつけ歯科医の状況—性・年代別



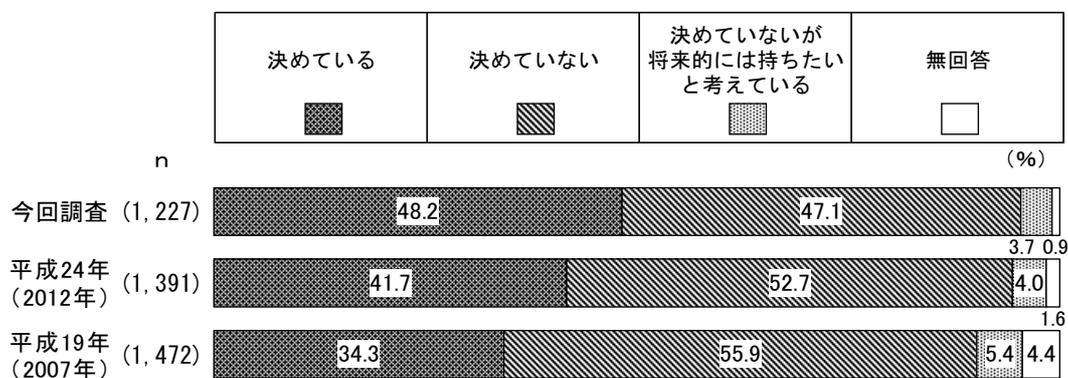
### (3) かかりつけ薬局の状況

◎ 「決めている」は48.2%

<前回41.7%、前々回34.3%>

問6 あなたは、かかりつけ薬局を決めていますか。(○は1つだけ)

図表1-3-7 かかりつけ薬局の状況(過去の調査との比較)



かかりつけ薬局の状況は、「決めている」が48.2%、「決めていない」が47.1%となっている。「決めていないが将来的には持ちたいと考えている」は3.7%となっている。

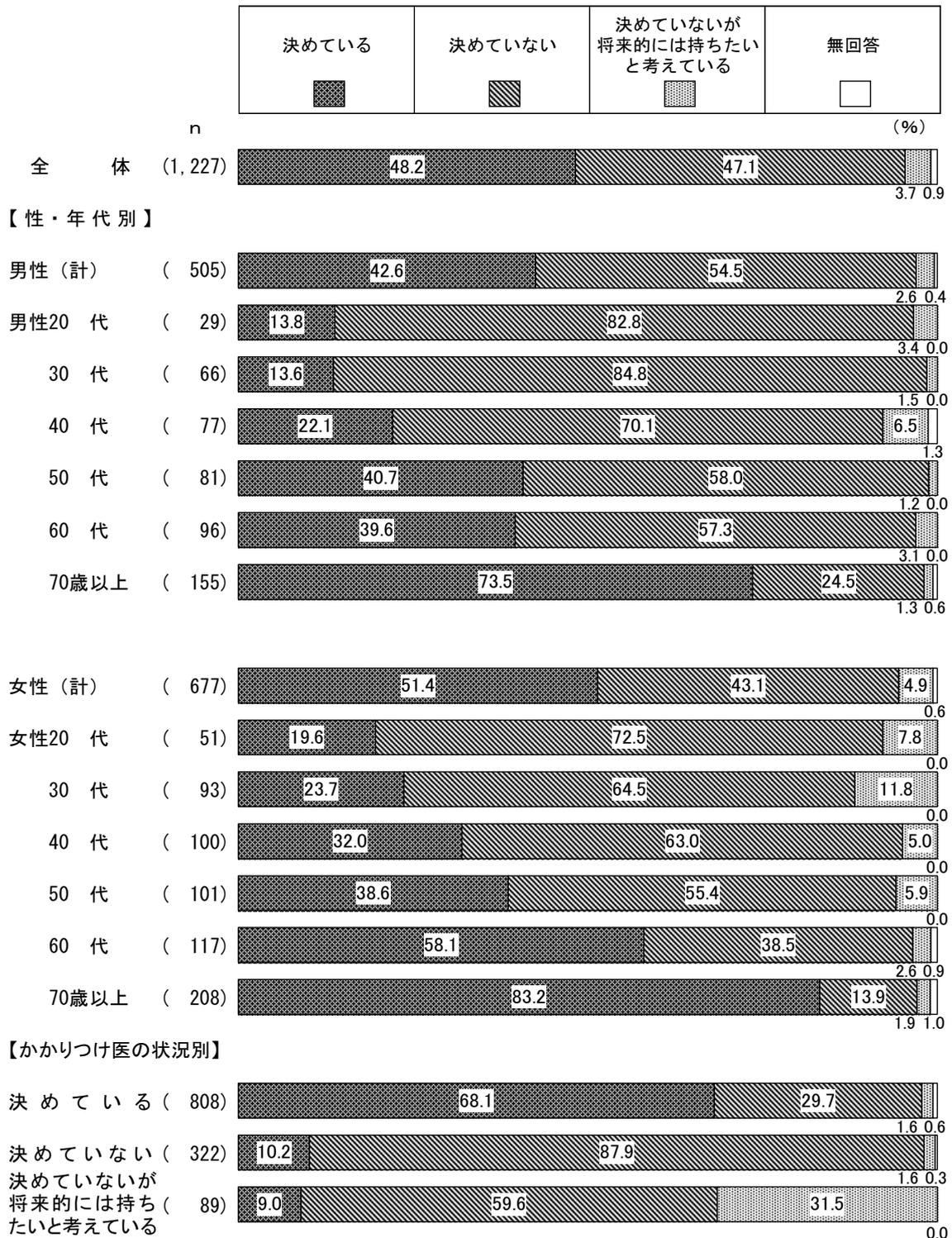
過去の調査結果と比較すると、「決めている」が増加傾向にあり、平成24年調査と比べて6.5ポイント増加している。(図表1-3-7)

性別でみると、「決めている」は女性（51.4%）が男性（42.6%）より8.8ポイント高くなっている。「決めていない」は男性（54.5%）が女性（43.1%）より11.4ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、「決めている」は女性70歳以上で83.2%、男性70歳以上で73.5%と高くなっている。「決めていない」は男性30代で84.8%、男性20代で82.8%と高くなっている。

かかりつけ医の状況別でみると、「決めている」はかかりつけ医を決めている人で68.1%と高くなっている一方、かかりつけ医を決めていない人では10.2%、かかりつけ医を決めていないが将来的には持ちたいと考えている人では9.0%にとどまっている。（図表1-3-8）

図表1-3-8 かかりつけ薬局の状況—性・年代別、かかりつけ医の状況別



## B 健康に関する日頃の行動



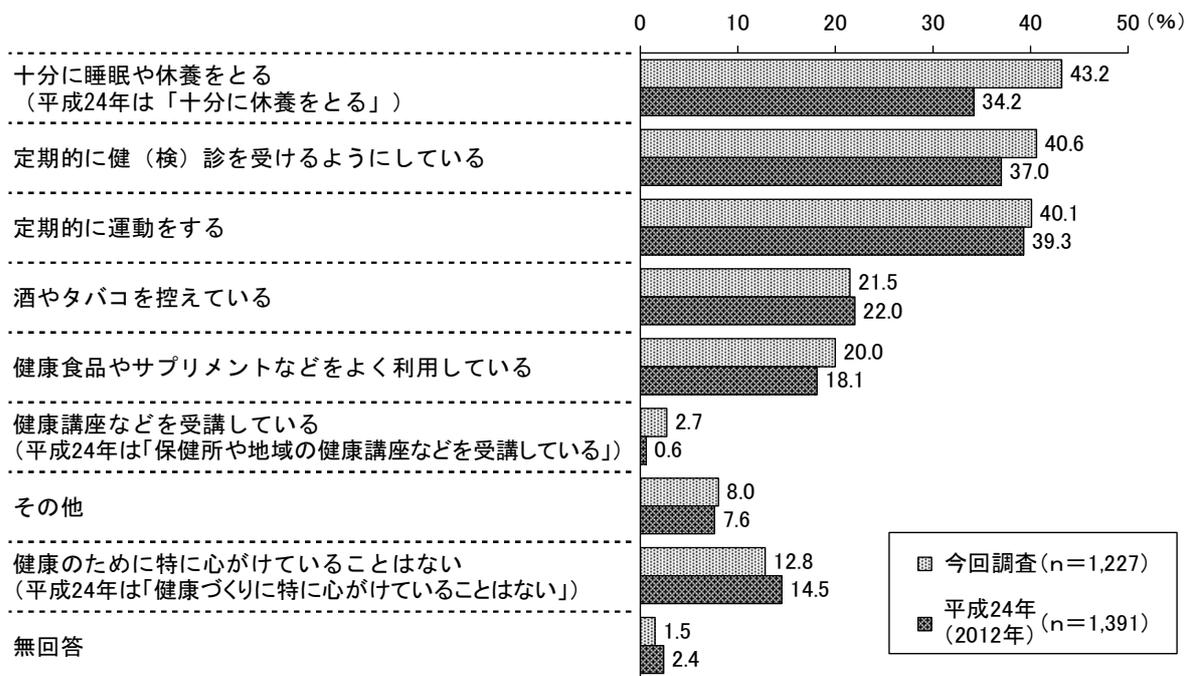
## 4 健康づくりについて

### (1) 健康のために心がけていること

◎ 「十分に睡眠や休養をとる」は43.2%

問7 あなたは日頃、健康のために心がけていることは何ですか。(〇はいくつでも)

図表1-4-1 健康のために心がけていること(平成24年調査との比較)



(※) 平成24年調査では、「あなたは日頃、健康づくりのために心がけていることは何ですか。」(複数回答)として質問していた。

健康のために心がけていることは、「十分に睡眠や休養をとる」が43.2%で最も高く、次いで「定期的に健(検)診を受けるようにしている」(40.6%)、「定期的に運動をする」(40.1%)、「酒やタバコを控えている」(21.5%)、「健康食品やサプリメントなどをよく利用している」(20.0%)などの順となっている。

平成24年の調査結果との比較は、質問文や一部の選択肢が変更されているため参考にとどまるが、「定期的に健(検)診を受けるようにしている」が3.6ポイント増加している。(図表1-4-1)

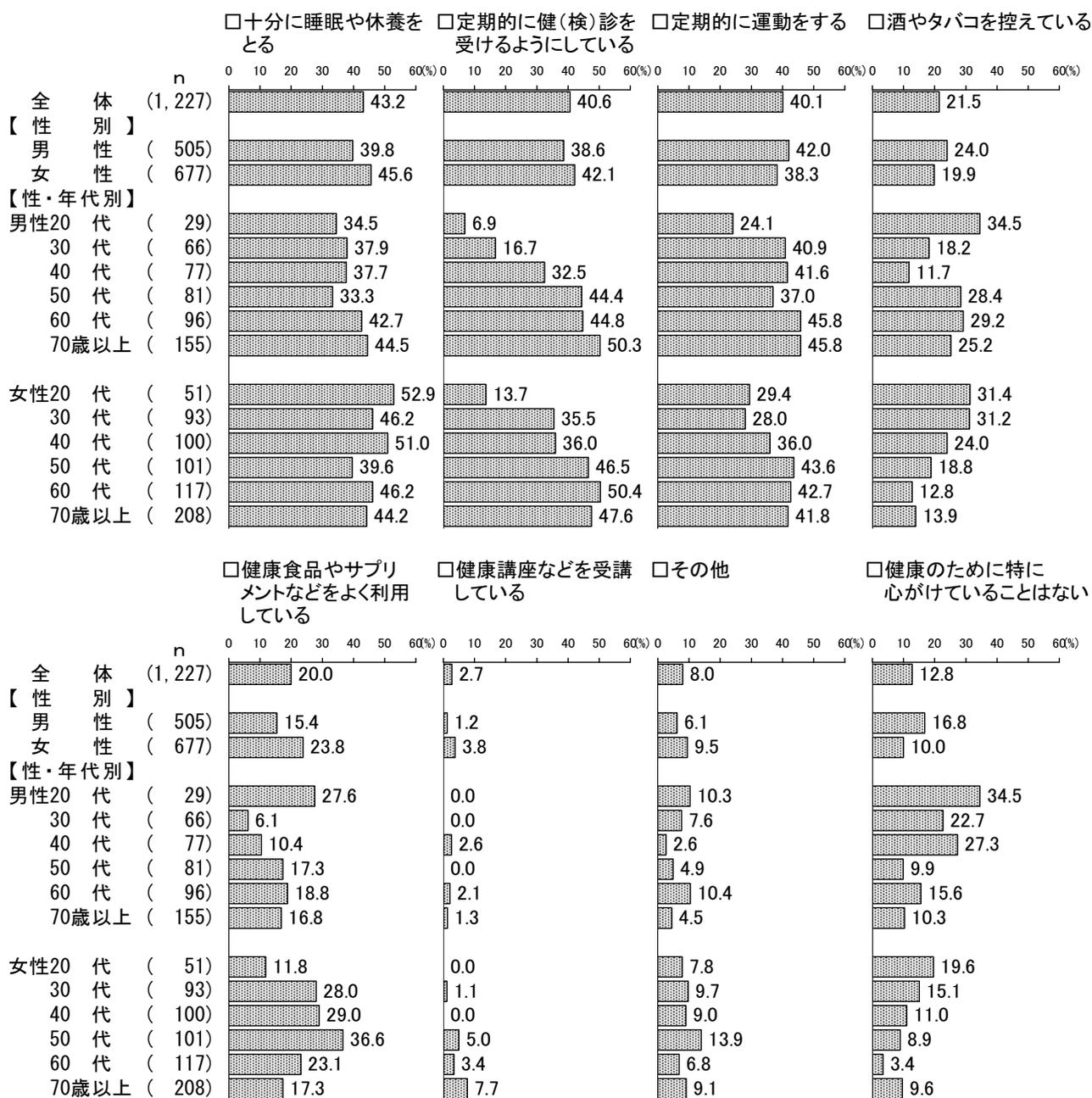
性別で見ると、「十分に睡眠や休養をとる」は女性（45.6%）が男性（39.8%）より5.8ポイント高くなっている。「健康食品やサプリメントなどをよく利用している」は女性（23.8%）が男性（15.4%）より8.4ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、「十分に睡眠や休養をとる」は女性20代で52.9%、女性40代で51.0%と高くなっている。「定期的に健（検）診を受けるようにしている」は女性60代で50.4%、男性70歳以上で50.3%と高くなっている。「酒やタバコを控えている」は男性20代で34.5%と高くなっている。

「健康食品やサプリメントなどをよく利用している」は女性50代で36.6%と高くなっている。「健康のために特に心がけていることはない」は男性20代で34.5%と高くなっている。

(図表 1-4-2)

図表 1-4-2 健康のために心がけていることー性・年代別



## (2) 「生活活動」の頻度

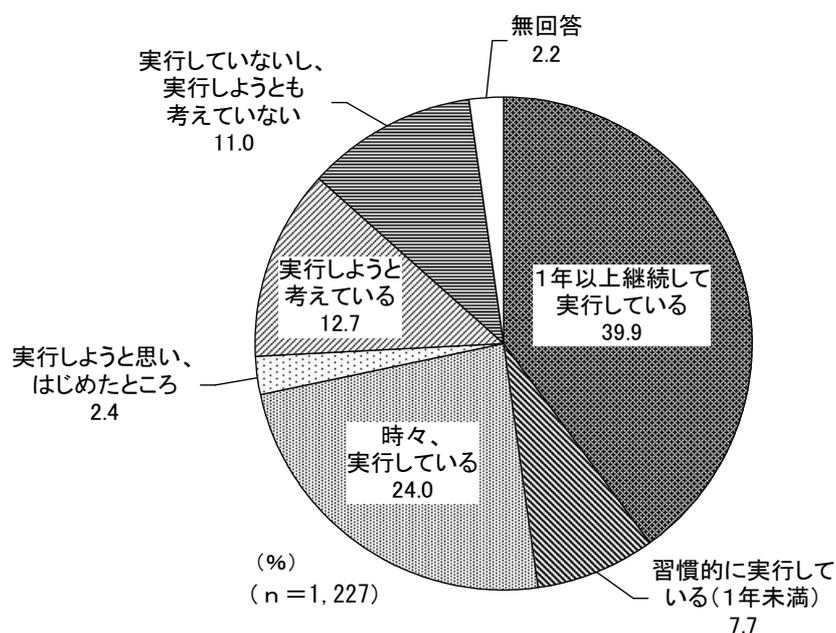
◎ 「1年以上継続して実行している」は39.9%

問8 健康維持・増進のために、以下のような内容の「生活活動（日常生活で身体を動かすこと）」が推奨されています。あなたは、この内容を実行していますか。（○は1つだけ）

推奨内容：生活活動

日常生活で毎日合計60分（18～64歳。65歳以上は合計40分）くらい身体を動かす（階段を上る、子どもと遊ぶ、そうじをする、歩くなど）ような生活をする。

図表 1-4-3 「生活活動」の頻度

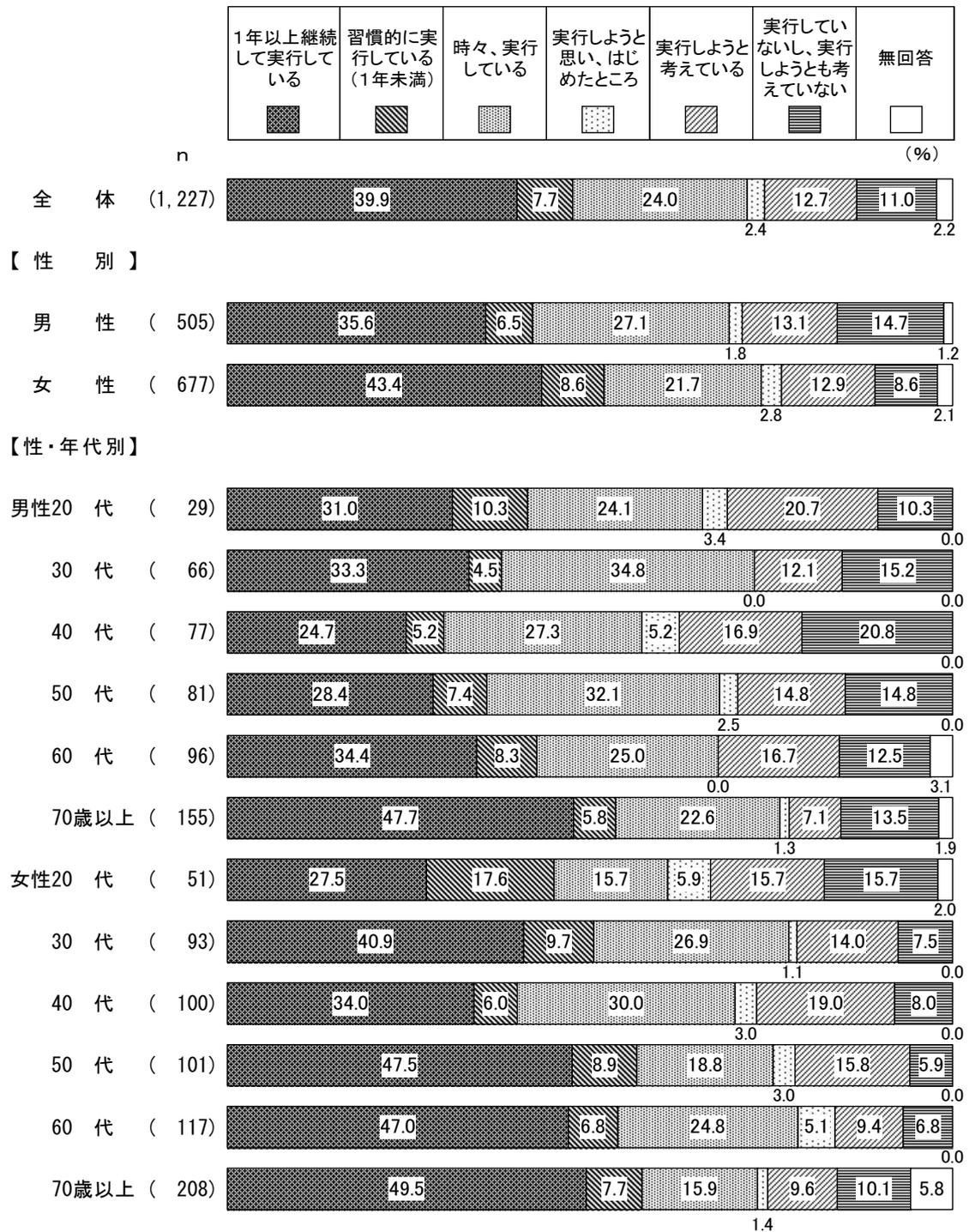


「生活活動」の頻度は、「1年以上継続して実行している」が39.9%で最も高く、次いで「時々、実行している」(24.0%)、「実行しようと考えている」(12.7%)、「実行していないし、実行しようとも考えていない」(11.0%)などの順となっている。(図表1-4-3)

性別でみると、「1年以上継続して実行している」は女性（43.4%）が男性（35.6%）より7.8ポイント高くなっている。「時々、実行している」は男性（27.1%）が女性（21.7%）より5.4ポイント高くなっている。「実行していないし、実行しようとも考えていない」は男性（14.7%）が女性（8.6%）より6.1ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、「1年以上継続して実行している」は男性70歳以上と女性の50代以上の年代で5割近くと高くなっている一方、男性40代では24.7%にとどまっている。「時々、実行している」は男性30代で34.8%、男性50代で32.1%と高くなっている。「実行していないし、実行しようとも考えていない」は男性40代で20.8%と高くなっている。（図表1-4-4）

図表 1-4-4 「生活活動」の頻度—性・年代別



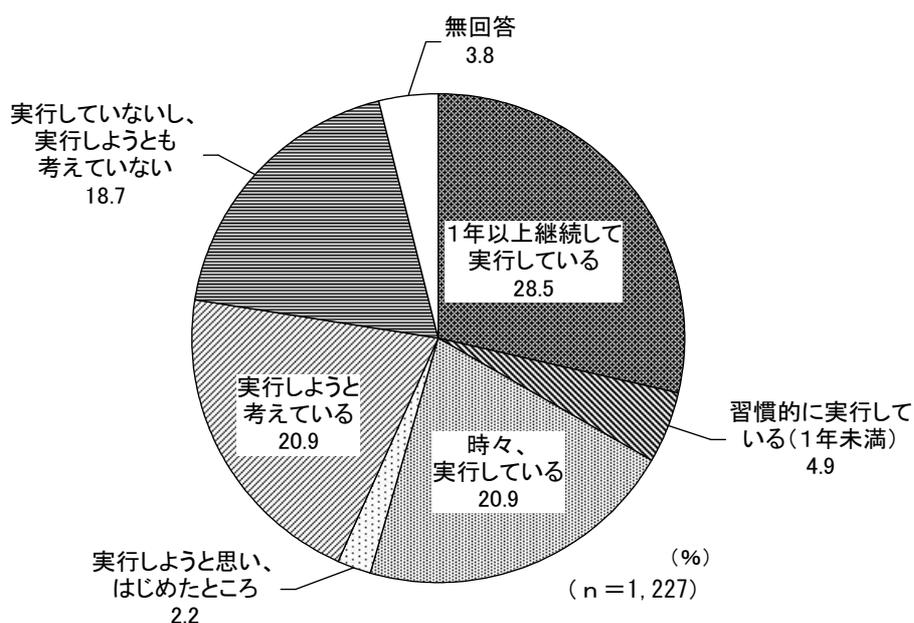
### (3) 「運動」の頻度

◎ 「1年以上継続して実行している」は28.5%

問9 健康維持・増進のために、以下のような内容の「運動」が推奨されています。あなたは、この内容を実行していますか。(〇は1つだけ)

推奨内容：運動（速歩（ウォーキング）、ジョギング、テニス、水泳など）  
1日30分以上の運動を週2日以上実施している。

図表1-4-5 「運動」の頻度

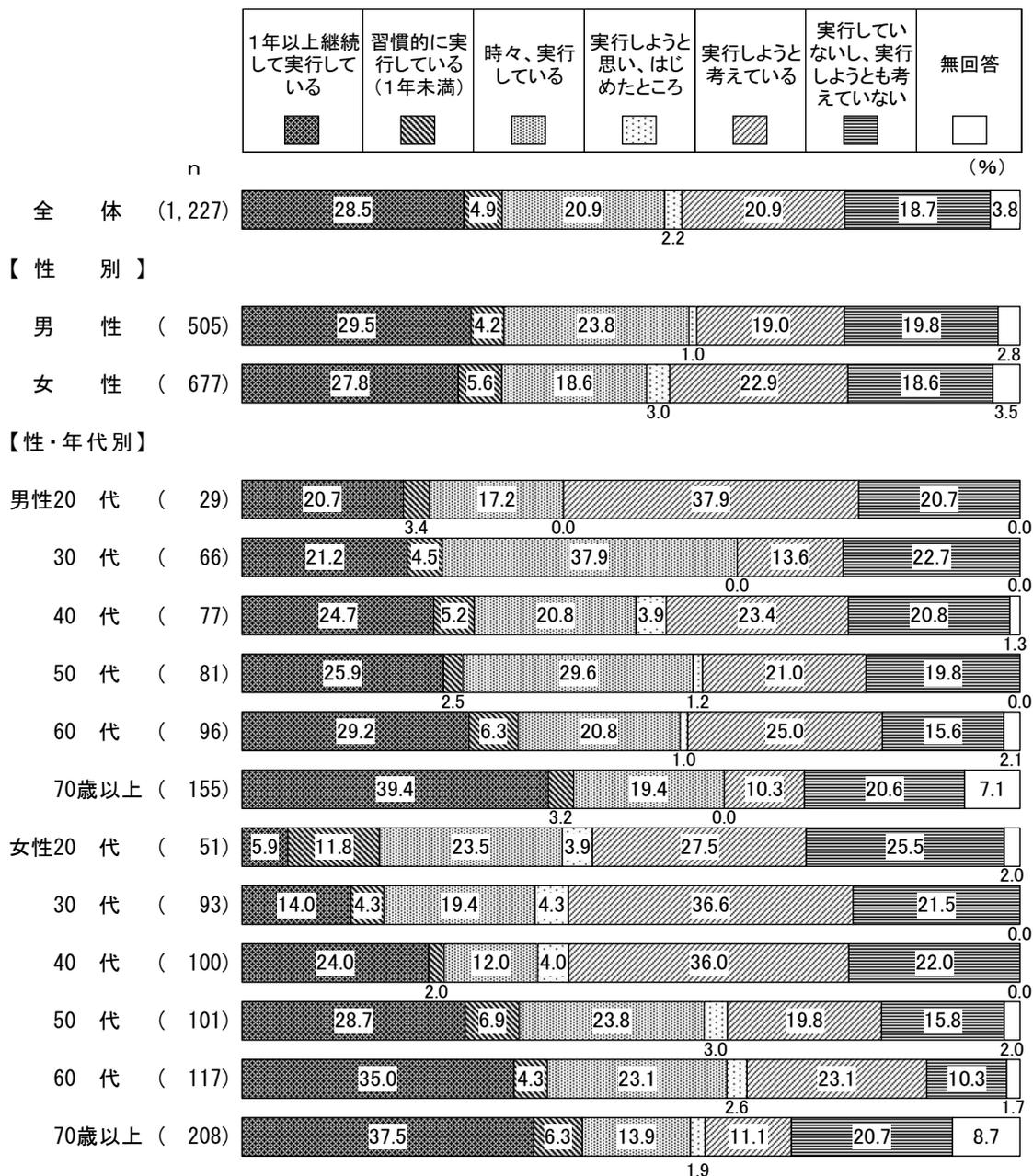


「運動」の頻度は、「1年以上継続して実行している」が28.5%で最も高く、次いで「時々、実行している」(20.9%)、「実行しようと考えている」(20.9%)、「実行していないし、実行しようとも考えていない」(18.7%)などの順となっている。(図表1-4-5)

性別でみると、「時々、実行している」は男性（23.8%）が女性（18.6%）より5.2ポイント高くなっている。「実行しようと考えている」は女性（22.9%）が男性（19.0%）より3.9ポイント高くなっている。

年代別でみると、「1年以上継続して実行している」は男性70歳以上で39.4%、女性70歳以上で37.5%と高くなっている一方、女性20代では5.9%、女性30代では14.0%にとどまっている。「時々、実行している」は男性30代で37.9%と高くなっている。「実行しようと考えている」は男性20代で37.9%、女性30代で36.6%、女性40代で36.0%と高くなっている。（図表1-4-6）

図表1-4-6 「運動」の頻度－性・年代別



（参考）「国民健康・栄養調査」（厚生労働省・平成28年）

運動習慣のある者（※）の割合は男性で35.1%、女性で27.4%であり、この10年間でみると男性では有意な増減はなく、女性では減少傾向である。年齢階級別にみると、その割合は男女ともに30代で最も低く、それぞれ18.4%、9.8%である。

（※）「運動習慣のある者」とは、1日30分以上の運動を週2回以上実施し、1年以上継続している者。

## 5 食生活について

### (1) 朝食の摂取状況

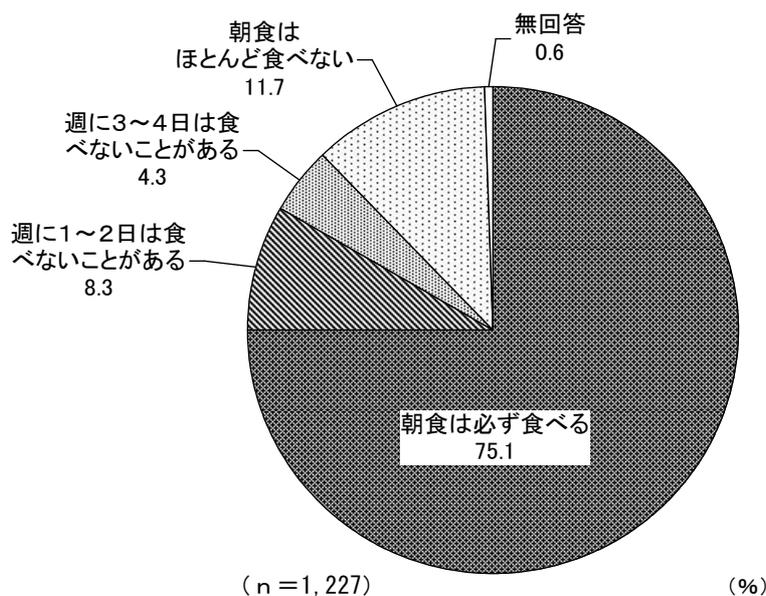
◎ 「朝食は必ず食べる」は75.1%

<前回75.5%、前々回77.4%>

問10 あなたは、朝食を食べますか。(○は1つだけ)

(※) 菓子、果物、乳製品、嗜好飲料などだけの飲食や、錠剤などのサプリメント、栄養ドリンク剤だけの飲食は「朝食を食べない」とします。

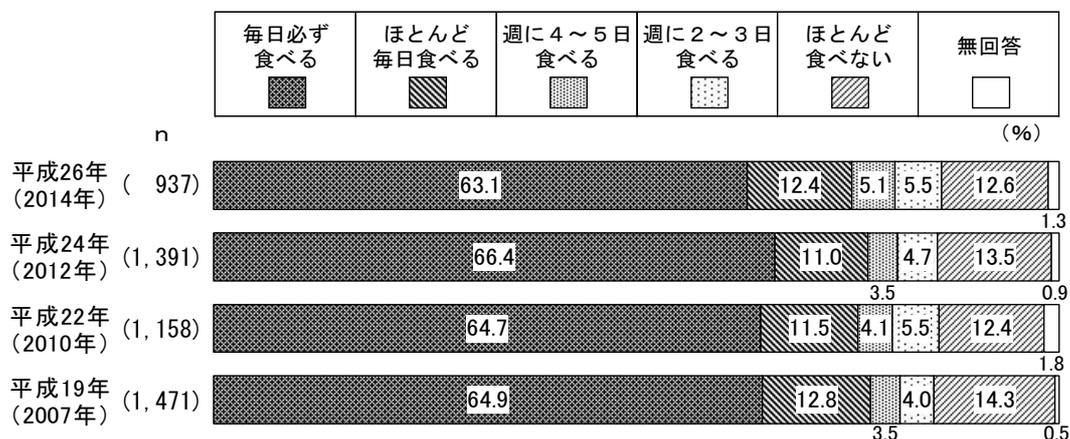
図表 1-5-1 朝食の摂取状況



朝食の摂取状況は、「朝食は必ず食べる」が75.1%で高くなっている。「週に1~2日は食べないことがある」は8.3%、「週に3~4日は食べないことがある」は4.3%、「朝食はほとんど食べない」は11.7%となっている。(図表1-5-1)

過去の調査結果との比較は、一部の選択肢が異なるため、参考に掲載する。(図表1-5-2)

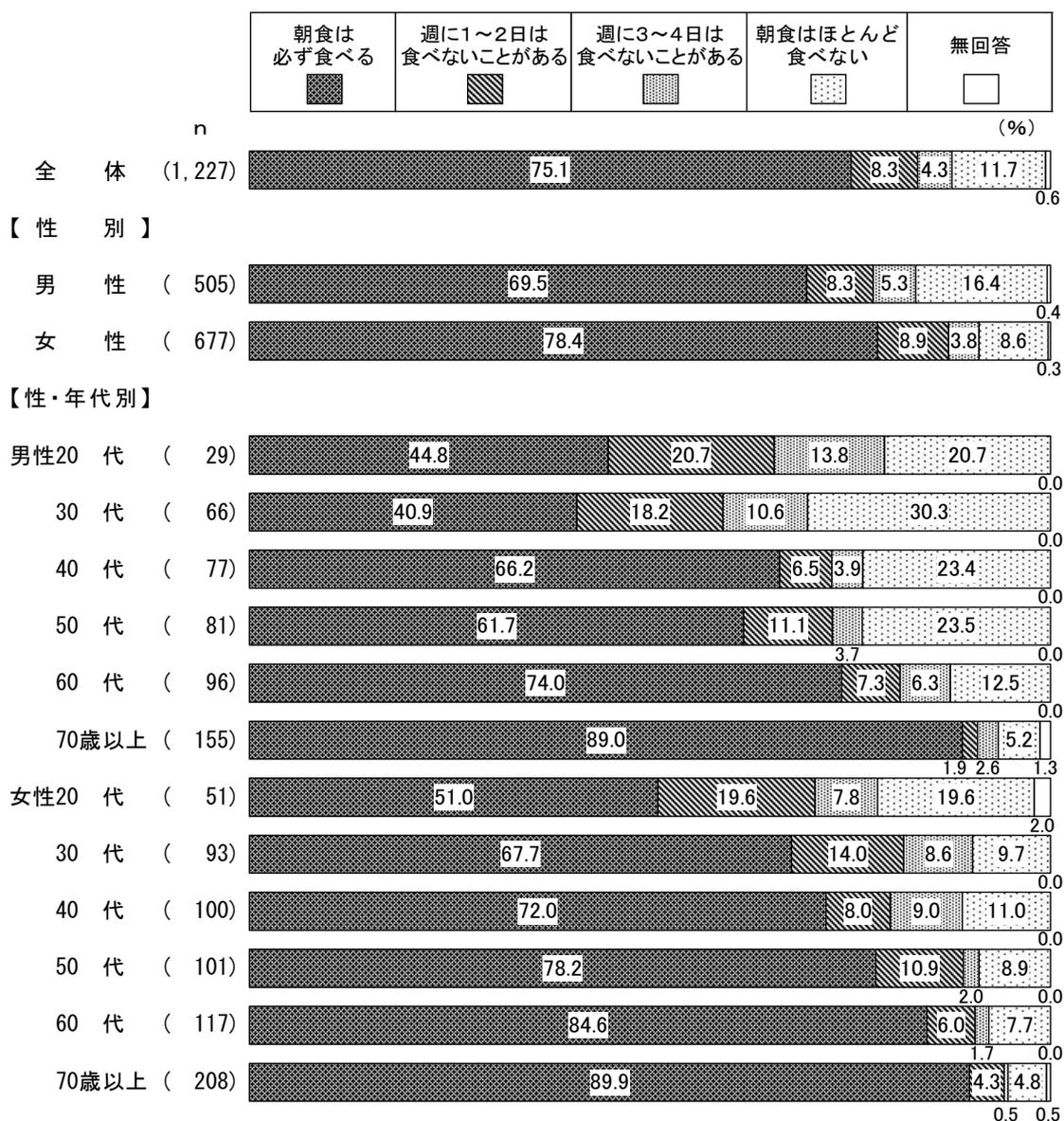
図表 1-5-2 朝食の摂取状況 (過去の調査結果)



性別でみると、「朝食は必ず食べる」は女性(78.4%)が男性(69.5%)より8.9ポイント高くなっている。「朝食はほとんど食べない」は男性(16.4%)が女性(8.6%)より7.8ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、「朝食は必ず食べる」は女性70歳以上で89.9%、男性70歳以上で89.0%と高くなっている一方、男性30代では40.9%、男性20代では44.8%にとどまっている。「週に1～2日は食べないことがある」は男性20代で20.7%、女性20代で19.6%、男性30代で18.2%と高くなっている。「朝食はほとんど食べない」は男性30代で30.3%、男性50代で23.5%、男性40代で23.4%と高くなっている。(図表1-5-3)

図表1-5-3 朝食の摂取状況一性・年代別



図表1-5-4 朝食の欠食率 (全国の調査結果との参考比較)

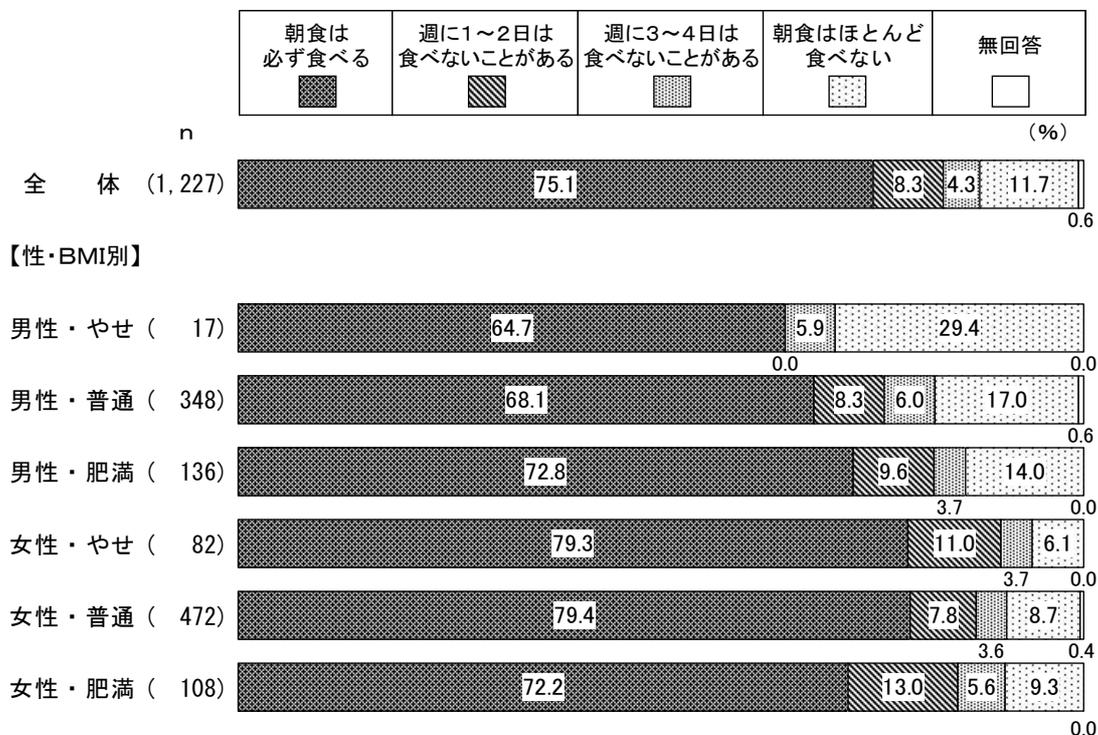
	男性(計)	男性20代	男性30代	男性40代	男性50代	男性60代	男性70歳以上
今回調査	16.4	20.7	30.3	23.4	23.5	12.5	5.2
全国	15.4	37.4	26.5	25.6	18.0	6.7	3.3
	女性(計)	女性20代	女性30代	女性40代	女性50代	女性60代	女性70歳以上
今回調査	8.6	19.6	9.7	11.0	8.9	7.7	4.8
全国	10.7	23.1	19.5	14.9	11.8	6.3	4.1

(※) 全国の調査は「国民健康・栄養調査」(厚生労働省・平成28年)

性・BMI別で見ると、「朝食は必ず食べる」は女性・普通で79.4%、女性・やせで79.3%と高くなっている。「朝食はほとんど食べない」は男性・やせで29.4%と高くなっている。

(図表1-5-5)

図表1-5-5 朝食の摂取状況—性・BMI別



東京都および全国の調査結果と比較すると、「朝食は必ず食べる（ほとんど毎日食べる）」と「週に1~2日は食べないことがある（週に4~5日（程度）食べる）」を合わせた割合（83.4%）は、東京都（84.3%）より0.9ポイント、全国（88.5%）より5.1ポイント下回っている。

(図表1-5-6)

図表1-5-6 朝食の摂取状況（東京都および全国の調査結果との参考比較）

	朝食は必ず食べる	週に1~2日は食べないことがある	週に3~4日は食べないことがある	朝食はほとんど食べない	無回答
今回調査	75.1	8.3	4.3	11.7	0.6
	83.4 (計)				
東京都	ほとんど毎日食べる	週に4~5日程度食べる	4.7	ほとんど食べない	無回答
	79.3	5.0			
84.3 (計)					
全国	ほとんど毎日食べる	週に4~5日食べる	4.2	ほとんど食べない	無回答
	83.7	4.8			
88.5 (計)					

(※1) 東京都の調査は「食生活と食育に関する世論調査」（平成26年7月）

(※2) 全国の調査は「食育に関する意識調査」（農林水産省消費・安全局・平成29年3月）

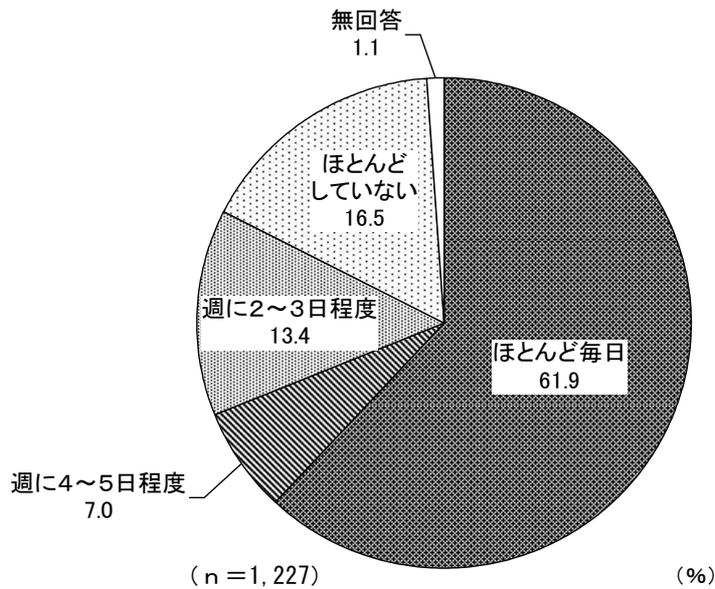
(2) 家族や親しい人と一緒に食事をする頻度

◎ 「ほとんど毎日」は61.9%

問11 あなたは、1週間のうちのどのくらい家族や親しい人と一緒に食事していますか。

(○は1つだけ)

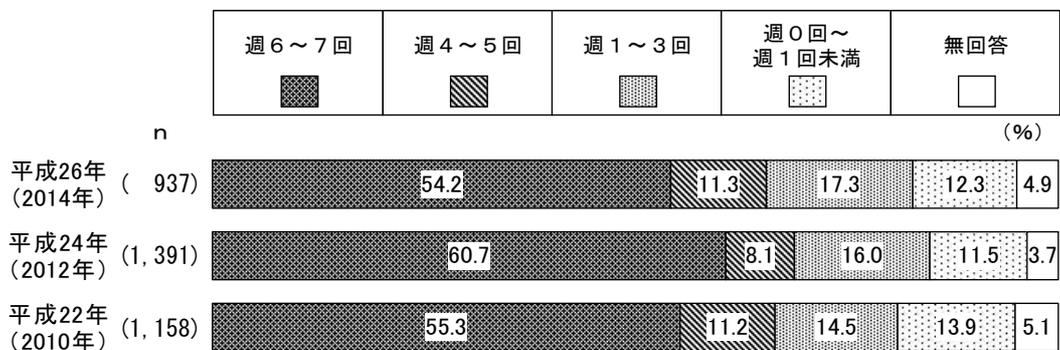
図表 1-5-7 家族や親しい人と一緒に食事をする頻度



家族や親しい人と一緒に食事をする頻度は、「ほとんど毎日」が61.9%で高くなっている。「週に4~5日程度」は7.0%、「週に2~3日程度」は13.4%、「ほとんどしていない」は16.5%となっている。(図表1-5-7)

過去の調査では、家族や親しい人と一緒に食事をしている日は週に何日あるか、実数値の記入を求めている。回答形式が異なるため参考に掲載する。(図表1-5-8)

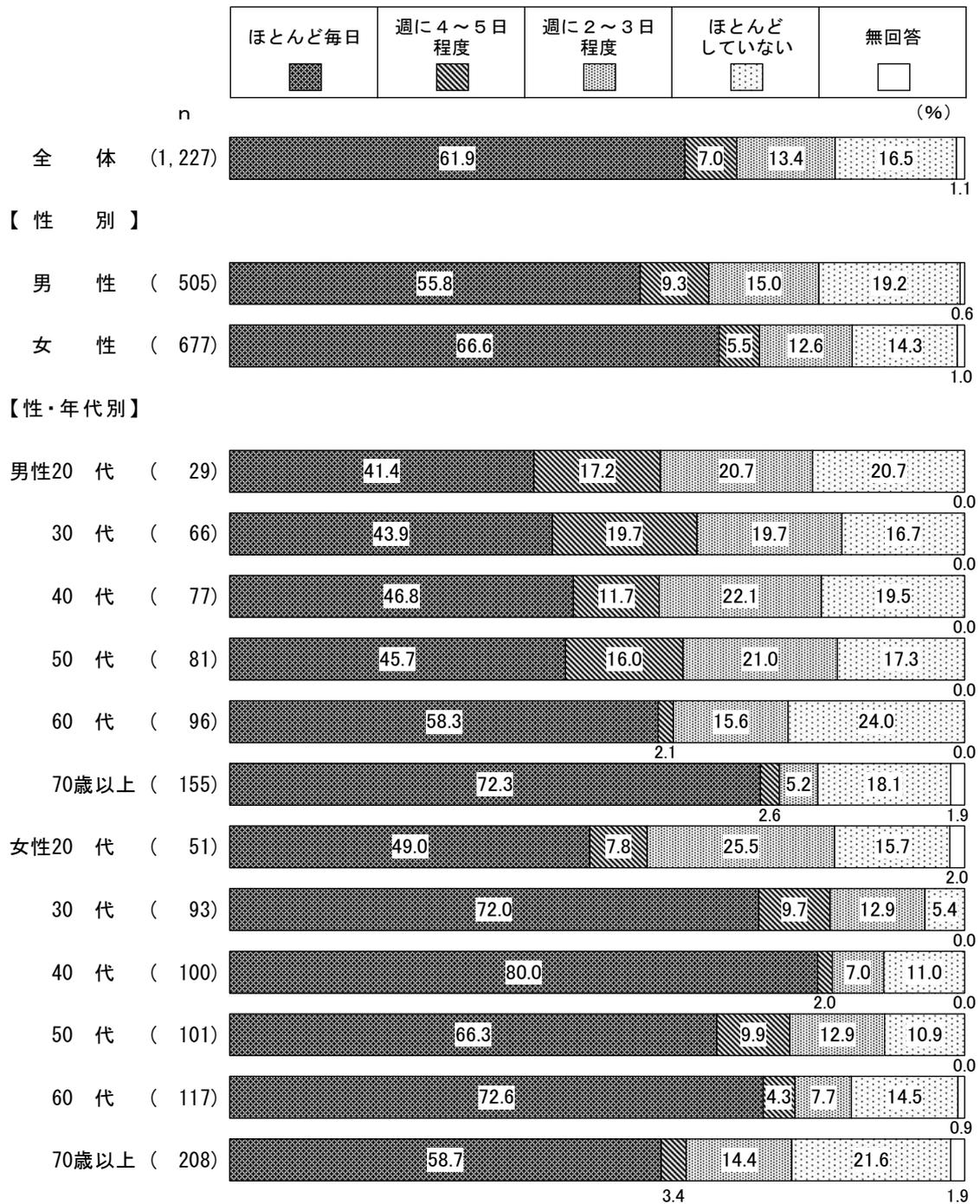
図表 1-5-8 家族や親しい人と一緒に食事をする頻度 (過去の調査結果)



性別で見ると、「ほとんど毎日」は女性（66.6%）が男性（55.8%）より10.8ポイント高くなっている。「ほとんどしていない」は男性（19.2%）が女性（14.3%）より4.9ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、「ほとんど毎日」は女性40代で80.0%と高くなっている一方、男性の20代から50代と女性20代では4割台にとどまっている。「ほとんどしていない」は男性60代で24.0%と高くなっている。（図表1-5-9）

図表1-5-9 家族や親しい人と一緒に食事をする頻度—性・年代別



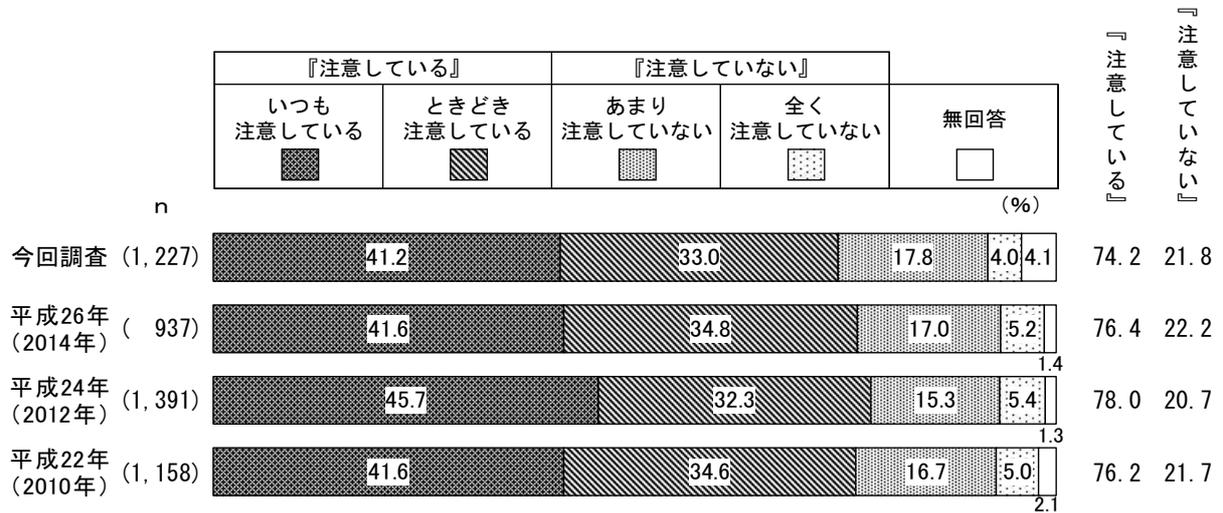
### (3) 栄養バランスの配慮

◎ 『注意している』は74.2%

<前回76.4%、前々回78.0%>

問12 あなたは調理や食事をするとき、栄養バランスに注意していますか。(○は1つだけ)

図表 1-5-10 栄養バランスの配慮 (過去の調査との比較)



(※1) 「いつも注意している」は、平成24年以前の調査では「注意している」としていた。

(※2) 「まったく注意していない」は、平成26年調査では「ほとんど注意していない」、平成24年以前の調査では「注意していない」としていた。

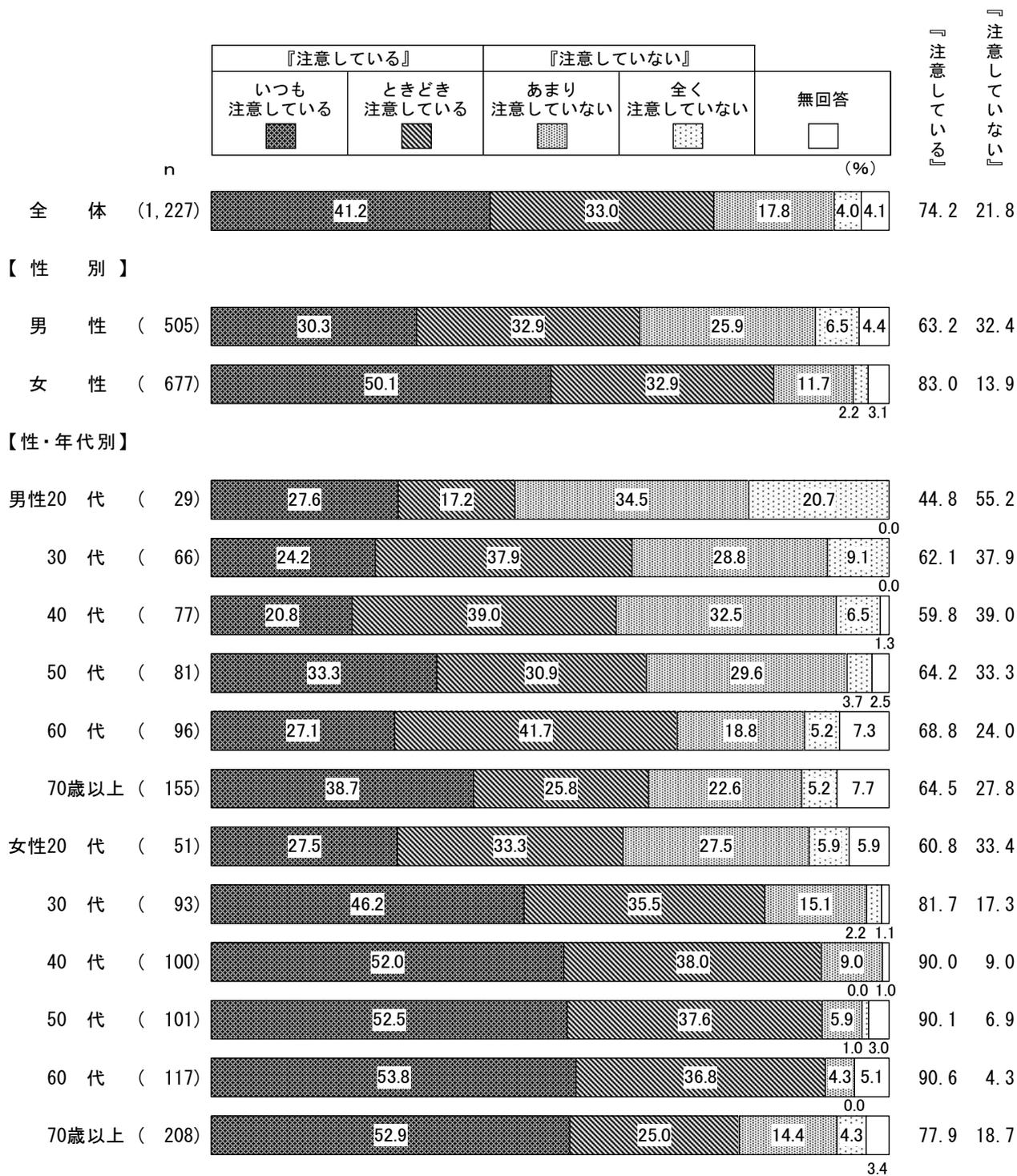
栄養バランスの配慮は、「いつも注意している」(41.2%)と「ときどき注意している」(33.0%)を合わせた『注意している』が74.2%と高くなっている。一方、「あまり注意していない」(17.8%)と「全く注意していない」(4.0%)を合わせた『注意していない』は21.8%となっている。

過去の調査結果と比較すると、平成26年調査とほぼ同じ傾向になっている。(図表1-5-10)

性別で見ると、『注意している』は女性（83.0%）が男性（63.2%）より19.8ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、『注意している』は女性60代で90.6%、女性50代で90.1%、女性40代で90.0%と高くなっている。『注意していない』は男性20代で55.2%と高くなっている。（図表1-5-11）

図表1-5-11 栄養バランスの配慮—性・年代別



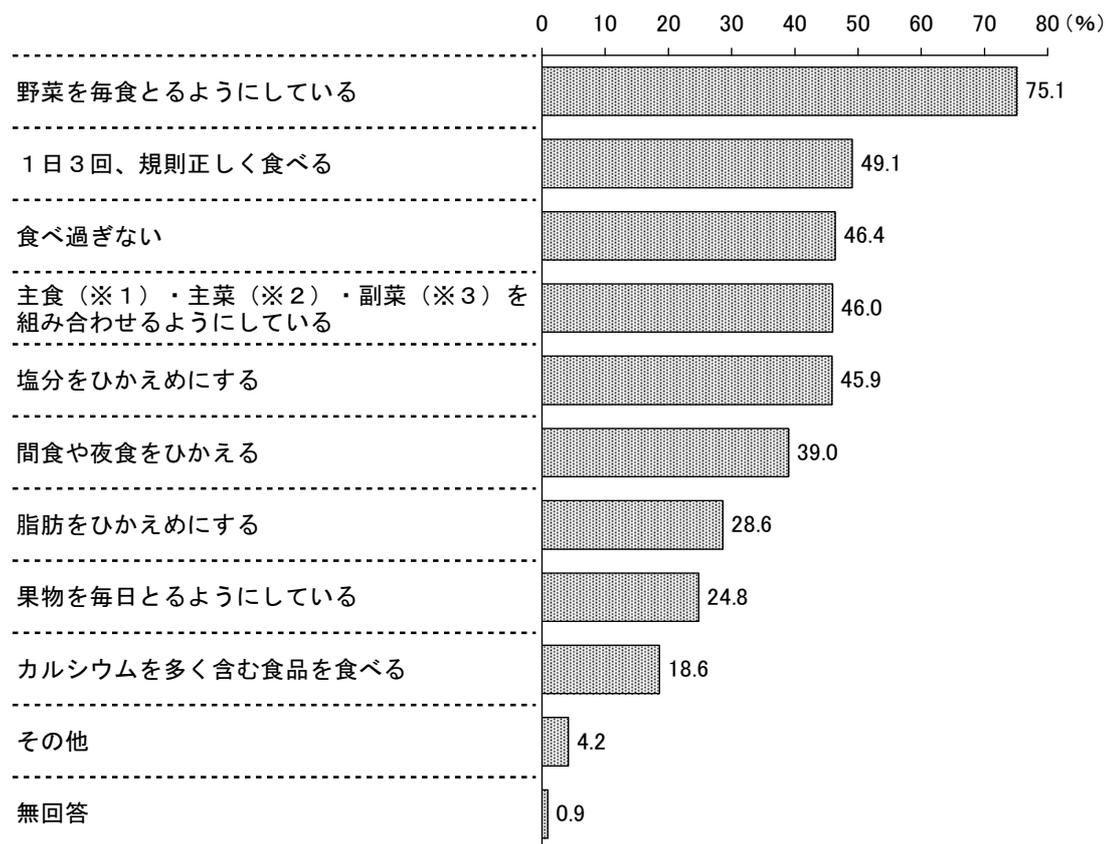
### (3-1) 栄養バランスで気をつけていること

◎ 「野菜を毎食とるようにしている」は75.1%

(問12で「いつも注意している」、「ときどき注意している」を選んだ方へ)

問12-1 あなたは食事のとり方でどのようなことに気をつけていますか。(〇はいくつでも)

図表 1-5-12 栄養バランスで気をつけていること



(※1) 主食とは、ごはん、パン、麺類などの料理。

(※2) 主菜とは、魚介類、肉類、大豆・大豆製品を主材料にした料理。

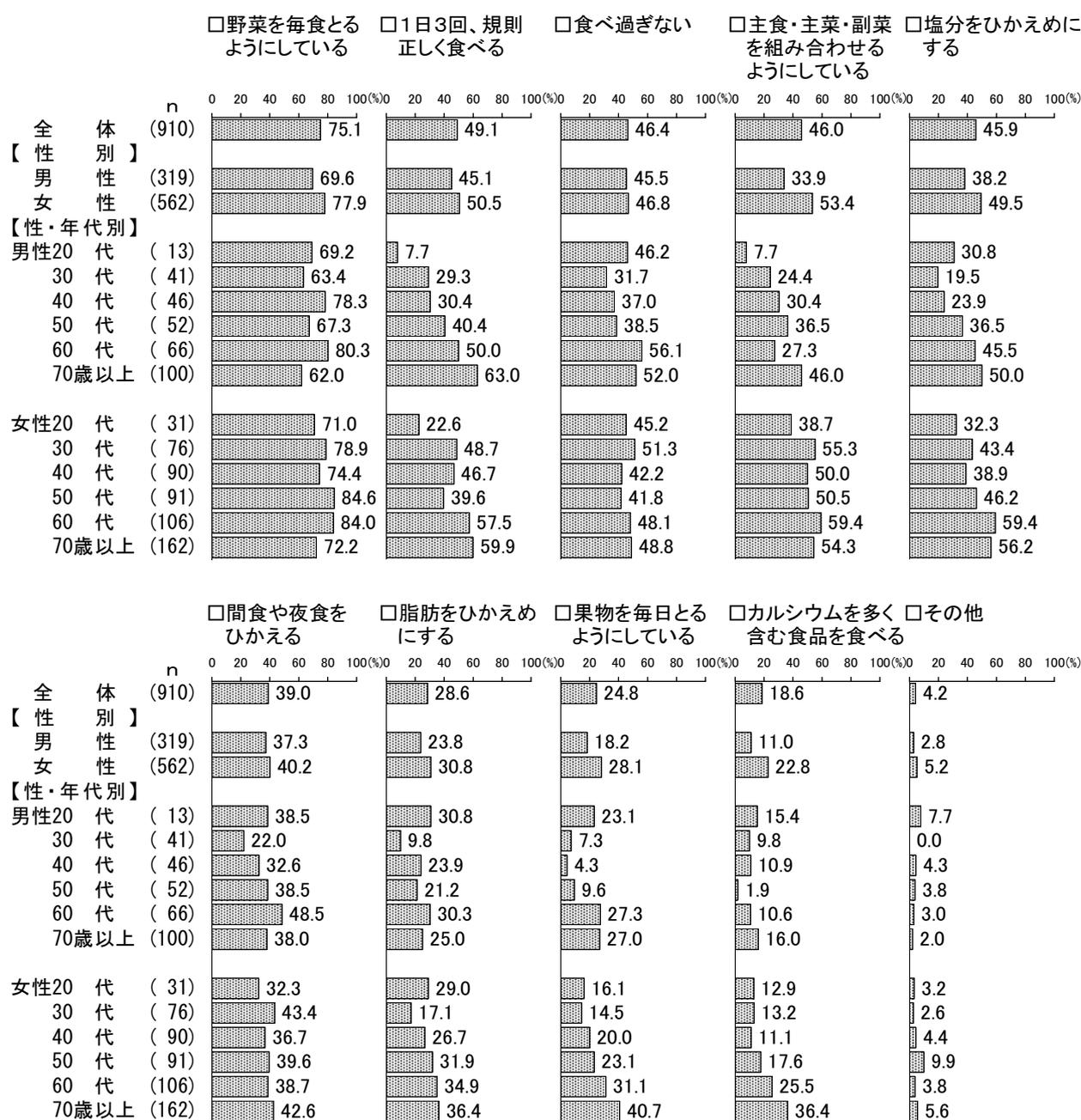
(※3) 副菜とは、野菜類、海藻類、きのこ類を主材料にした料理。

栄養バランスの配慮について「いつも注意している」、「ときどき注意している」を選んだ方(910人)の、栄養バランスで気をつけていることは、「野菜を毎食とるようにしている」が75.1%で最も高く、次いで「1日3回、規則正しく食べる」(49.1%)、「食べ過ぎない」(46.4%)、「主食・主菜・副菜を組み合わせるようにしている」(46.0%)、「塩分をひかえめにする」(45.9%)などの順となっている。(図表1-5-12)

性別でみると、「主食・主菜・副菜を組み合わせるようにしている」は女性(53.4%)が男性(33.9%)より19.5ポイント高くなっている。「塩分をひかえめにする」は女性(49.5%)が男性(38.2%)より11.3ポイント高くなっている。「カルシウムを多く含む食品を食べる」は女性(22.8%)が男性(11.0%)より11.8ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、「野菜を毎食とるようにしている」は女性50代で84.6%、女性60代で84.0%と高くなっている。「1日3回、規則正しく食べる」は男性70歳以上で63.0%と高くなっている。「食べ過ぎない」は男性60代で56.1%と高くなっている。「主食・主菜・副菜を組み合わせるようにしている」は女性60代で59.4%と高くなっている。「塩分をひかえめにする」は女性60代で59.4%、女性70歳以上で56.2%と高くなっている。「間食や夜食をひかえる」は男性60代で48.5%と高くなっている。(図表1-5-13)

図表1-5-13 栄養バランスで気をつけていること一性・年代別



性別で順位をみると、「野菜を毎食とるようにしている」は男女ともに1位となっている。「食べ過ぎない」は男性で2位、「主食・主菜・副菜を組み合わせるようにしている」は女性で2位となっており、「1日3回、規則正しく食べる」は男女ともに3位となっている。

性・年代別で順位をみると、「野菜を毎食とるようにしている」は男性70歳以上で2位となっているほかはすべての性・年代で1位となっている。「1日3回、規則正しく食べる」は男性70歳以上で1位、男性50代と女性70歳以上で2位となっている。「食べ過ぎない」は男性20代から40代、男性60代と女性20代で2位となっている。「主食・主菜・副菜を組み合わせるようにしている」は女性30代から60代で2位となっている。「塩分をひかえめにする」は女性60代で2位となっている。

(図表1-5-14)

図表1-5-14 栄養バランスで気をつけていること一性・年代別

上段：％  
下段：順位

	n	野菜を毎食とるようにしている	1日3回、規則正しく食べる	食べ過ぎない	主食・主菜・副菜を組み合わせるようにしている	塩分をひかえめにする	間食や夜食をひかえる	脂肪をひかえめにする	果物を毎日とるようにしている	カルシウムを多く含む食品を食べる	その他	無回答
全体	910	75.1 1位	49.1 2位	46.4 3位	46.0	45.9	39.0	28.6	24.8	18.6	4.2	0.9
男性	319	69.6 1位	45.1 3位	45.5 2位	33.9	38.2	37.3	23.8	18.2	11.0	2.8	0.9
女性	562	77.9 1位	50.5 3位	46.8	53.4 2位	49.5	40.2	30.8	28.1	22.8	5.2	0.9
男性20代	13	69.2 1位	7.7	46.2 2位	7.7	30.8	38.5 3位	30.8	23.1	15.4	7.7	-
30代	41	63.4 1位	29.3 3位	31.7 2位	24.4	19.5	22.0	9.8	7.3	9.8	-	2.4
40代	46	78.3 1位	30.4	37.0 2位	30.4	23.9	32.6 3位	23.9	4.3	10.9	4.3	-
50代	52	67.3 1位	40.4 2位	38.5 3位	36.5	36.5	38.5 3位	21.2	9.6	1.9	3.8	1.9
60代	66	80.3 1位	50.0 3位	56.1 2位	27.3	45.5	48.5	30.3	27.3	10.6	3.0	1.5
70歳以上	100	62.0 2位	63.0 1位	52.0 3位	46.0	50.0	38.0	25.0	27.0	16.0	2.0	-
女性20代	31	71.0 1位	22.6	45.2 2位	38.7 3位	32.3	32.3	29.0	16.1	12.9	3.2	-
30代	76	78.9 1位	48.7	51.3 3位	55.3 2位	43.4	43.4	17.1	14.5	13.2	2.6	-
40代	90	74.4 1位	46.7 3位	42.2	50.0 2位	38.9	36.7	26.7	20.0	11.1	4.4	1.1
50代	91	84.6 1位	39.6	41.8	50.5 2位	46.2 3位	39.6	31.9	23.1	17.6	9.9	2.2
60代	106	84.0 1位	57.5	48.1	59.4 2位	59.4 2位	38.7	34.9	31.1	25.5	3.8	-
70歳以上	162	72.2 1位	59.9 2位	48.8	54.3	56.2 3位	42.6	36.4	40.7	36.4	5.6	1.2

#### (4) 1日の野菜摂取量の目標の認知度

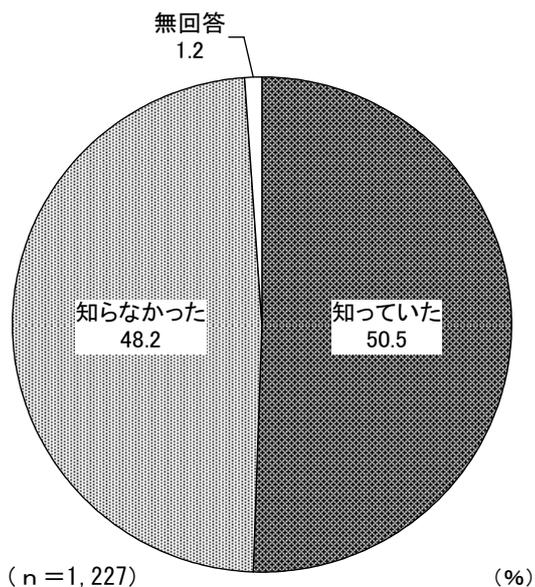
◎ 「知っていた」は50.5%

問13 あなたは、1日の野菜摂取量の目標を知っていますか。(○は1つだけ)

(※) 1日の野菜摂取量の目標は350g以上(調理前の生の状態)です。350gとは、大人の手で両手に山盛り1杯程度です。

図表1-5-15 1日の野菜摂取量の目標の認知度

(※) 両手山盛り1杯の例



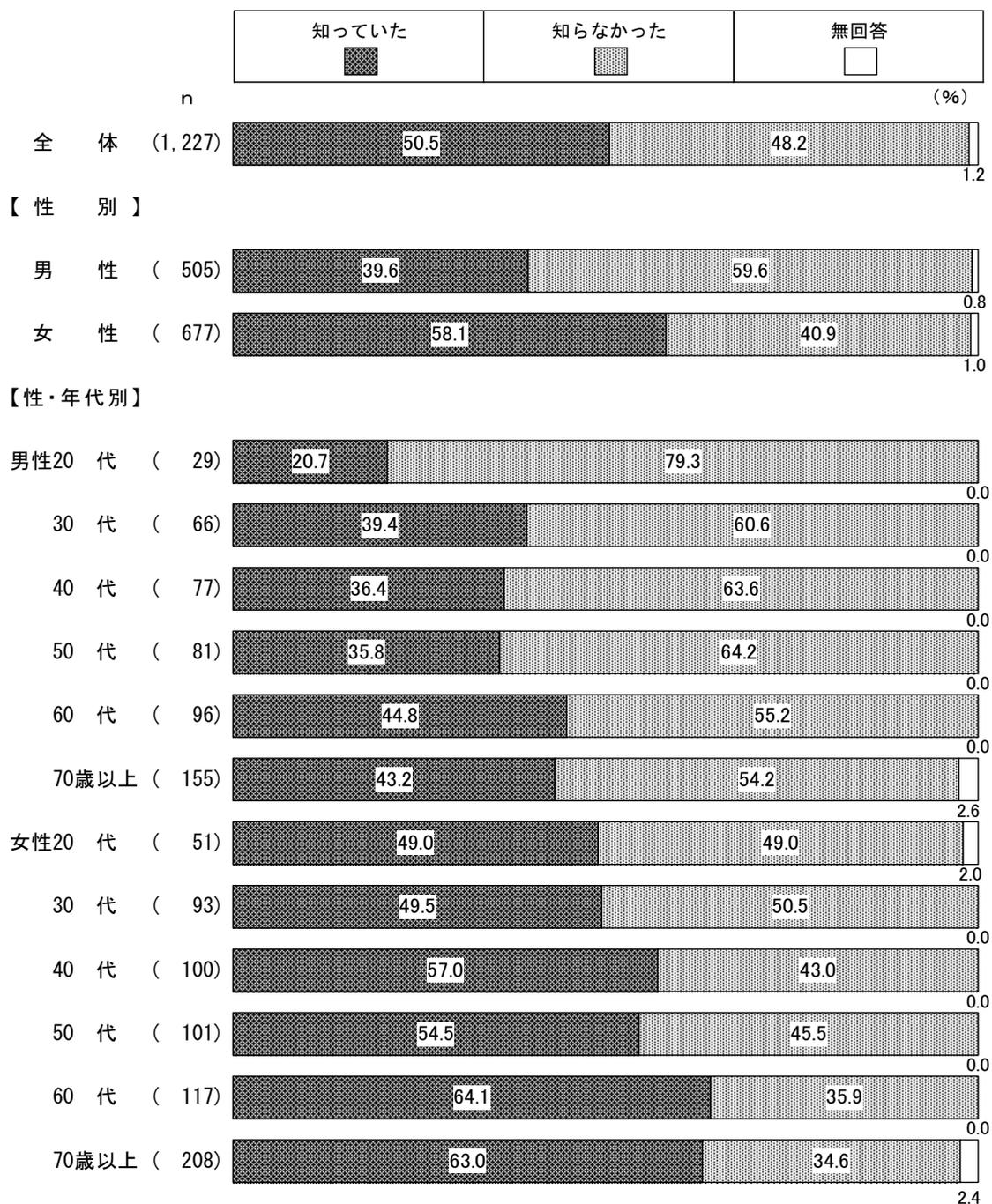
1日の野菜摂取量の目標の認知度は、「知っていた」が50.5%、「知らなかった」が48.2%となっている。(図表1-5-15)

性別で見ると、「知っていた」は女性（58.1%）が男性（39.6%）より18.5ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、「知っていた」は女性60代で64.1%、女性70歳以上で63.0%と高くなっている。「知らなかった」は男性20代で79.3%、男性の30代から50代で6割台と高くなっている。

（図表 1－5－16）

図表 1－5－16 1日の野菜摂取量の目標の認知度－性・年代別



### (5) 1日の野菜摂取量

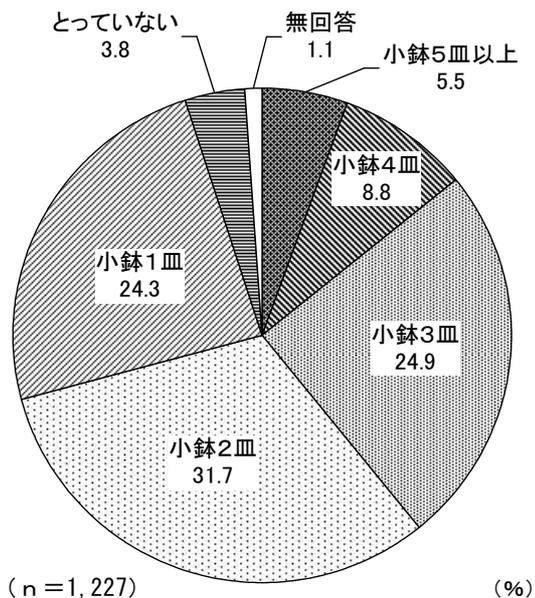
◎ 「小鉢5皿以上」は5.5%

問14 あなたは、ふだん1日でどれくらいの量の野菜をとっていますか。(○は1つだけ)

(※) 小鉢1皿：70g

図表1-5-17 1日の野菜摂取量

(※) 小鉢1皿の例

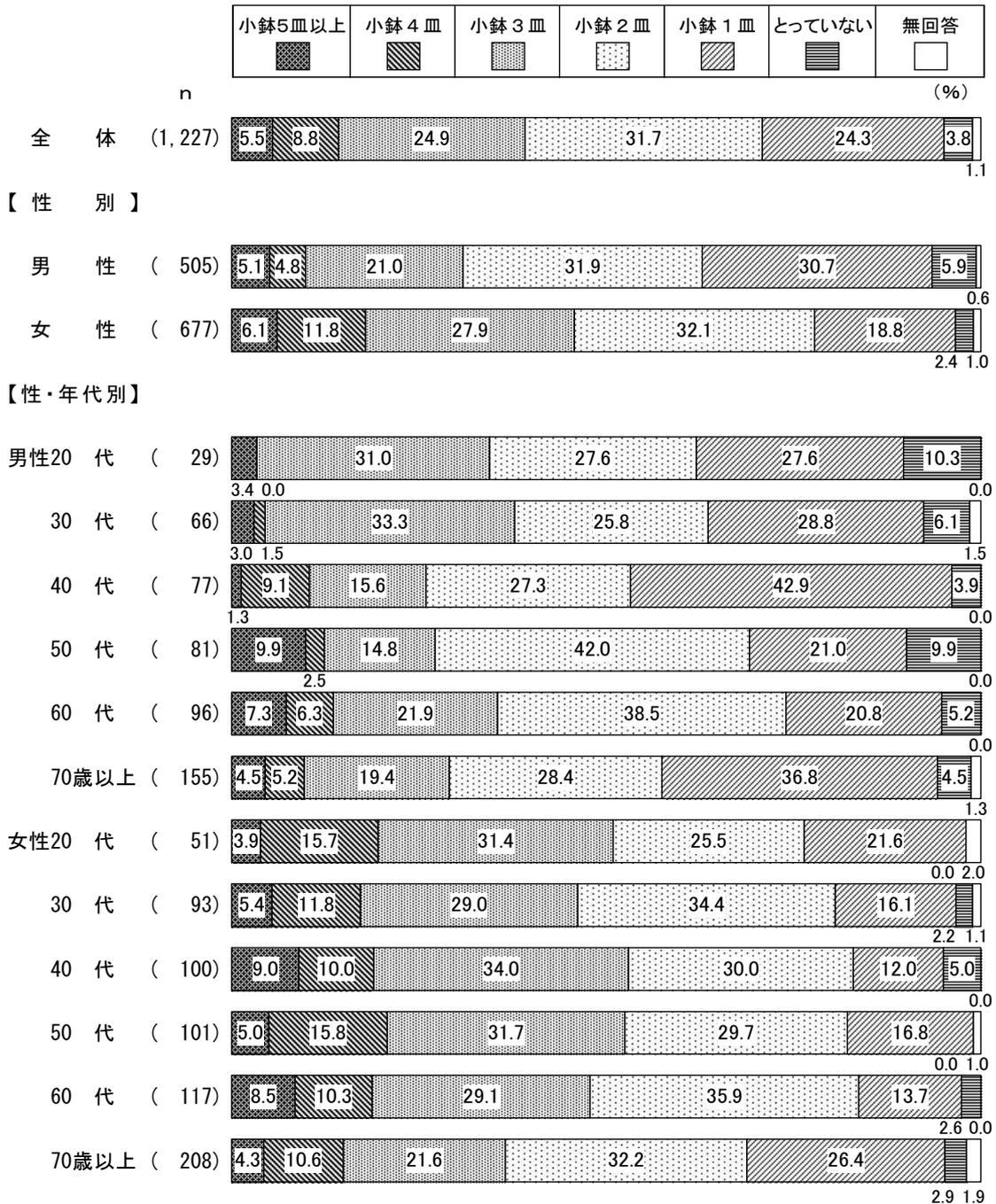


1日の野菜摂取量は、1日の野菜摂取量の目標(53～54ページ参照)を達成している「小鉢5皿以上」は5.5%にとどまっている。「小鉢4皿」は8.8%、「小鉢3皿」は24.9%、「小鉢2皿」は31.7%、「小鉢1皿」は24.3%、「とっていない」は3.8%となっている。(図表1-5-17)

性別でみると、「小鉢1皿」は男性（30.7%）が女性（18.8%）より11.9ポイント高くなっている。「小鉢3皿」は女性（27.9%）が男性（21.0%）より6.9ポイント高くなっている。「小鉢4皿」は女性（11.8%）が男性（4.8%）より7.0ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、「小鉢5皿以上」はすべての性・年代で1割に満たない。「小鉢1皿」は男性40代で42.9%、男性70歳以上で36.8%と高くなっている。「小鉢2皿」は男性50代で42.0%と高くなっている。「小鉢3皿」は女性40代で34.0%と高くなっている。（図表1-5-18）

図表1-5-18 1日の野菜摂取量—性・年代別



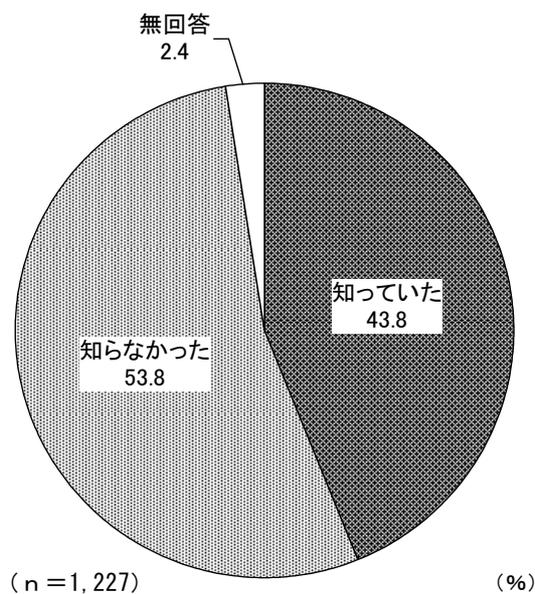
## (6) 1日の食塩摂取量の目標の認知度

◎ 「知っていた」は43.8%

問15 あなたは、1日の食塩摂取量の目標を知っていますか。(○は1つだけ)

(※) 1日の食塩摂取量の目標は男性が8g未満、女性が7g未満です。

図表 1-5-19 1日の食塩摂取量の目標の認知度



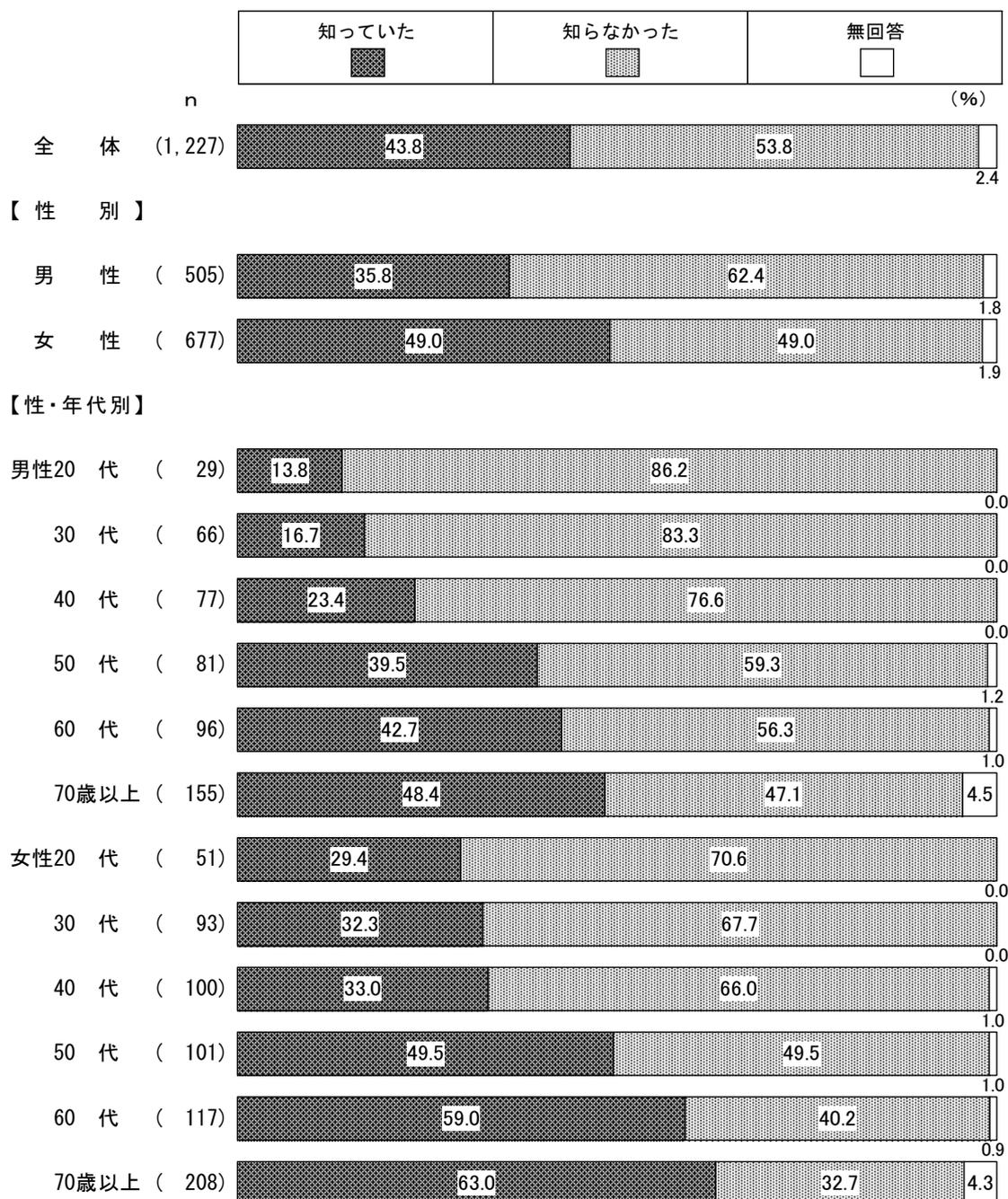
1日の食塩摂取量の目標の認知度は、「知っていた」が43.8%、「知らなかった」が53.8%となっている。(図表 1-5-19)

性別でみると、「知っていた」は女性（49.0%）が男性（35.8%）より13.2ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、「知っていた」は女性70歳以上で63.0%、女性60代で59.0%と高くなっている。「知らなかった」は男性20代で86.2%、男性30代で83.3%と高くなっている。

(図表 1 - 5 - 20)

図表 1 - 5 - 20 1日の食塩摂取量の目標の認知度－性・年代別

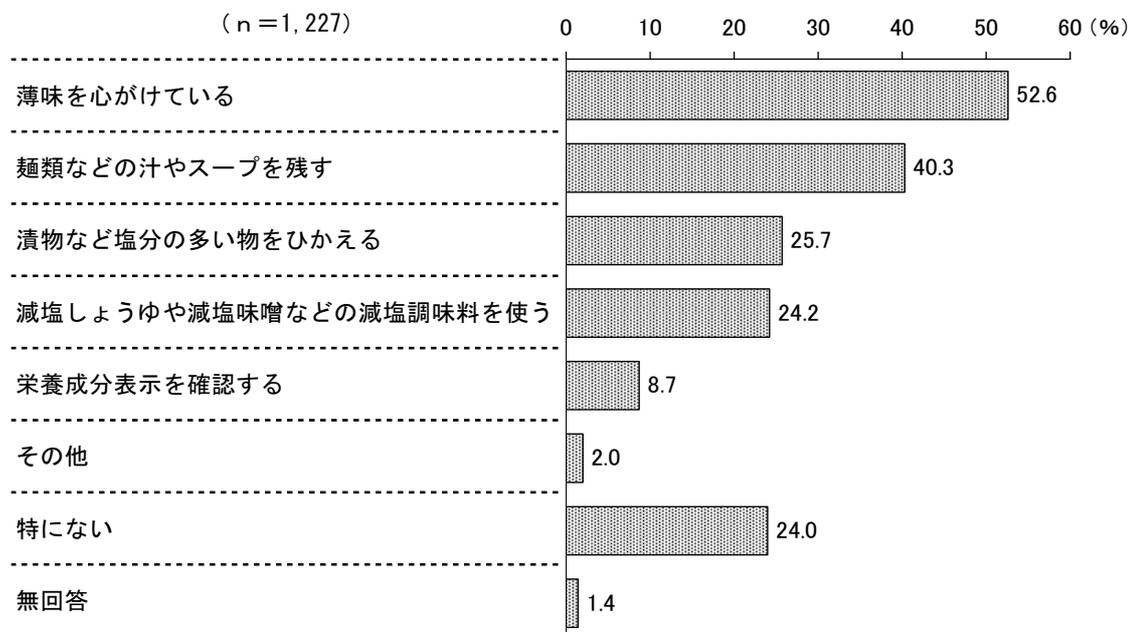


## (7) 減塩のために気をつけていること

◎ 「薄味を心がけている」は52.6%

問16 あなたが減塩のために気をつけていることは何ですか。(〇はいくつでも)

図表 1-5-21 減塩のために気をつけていること



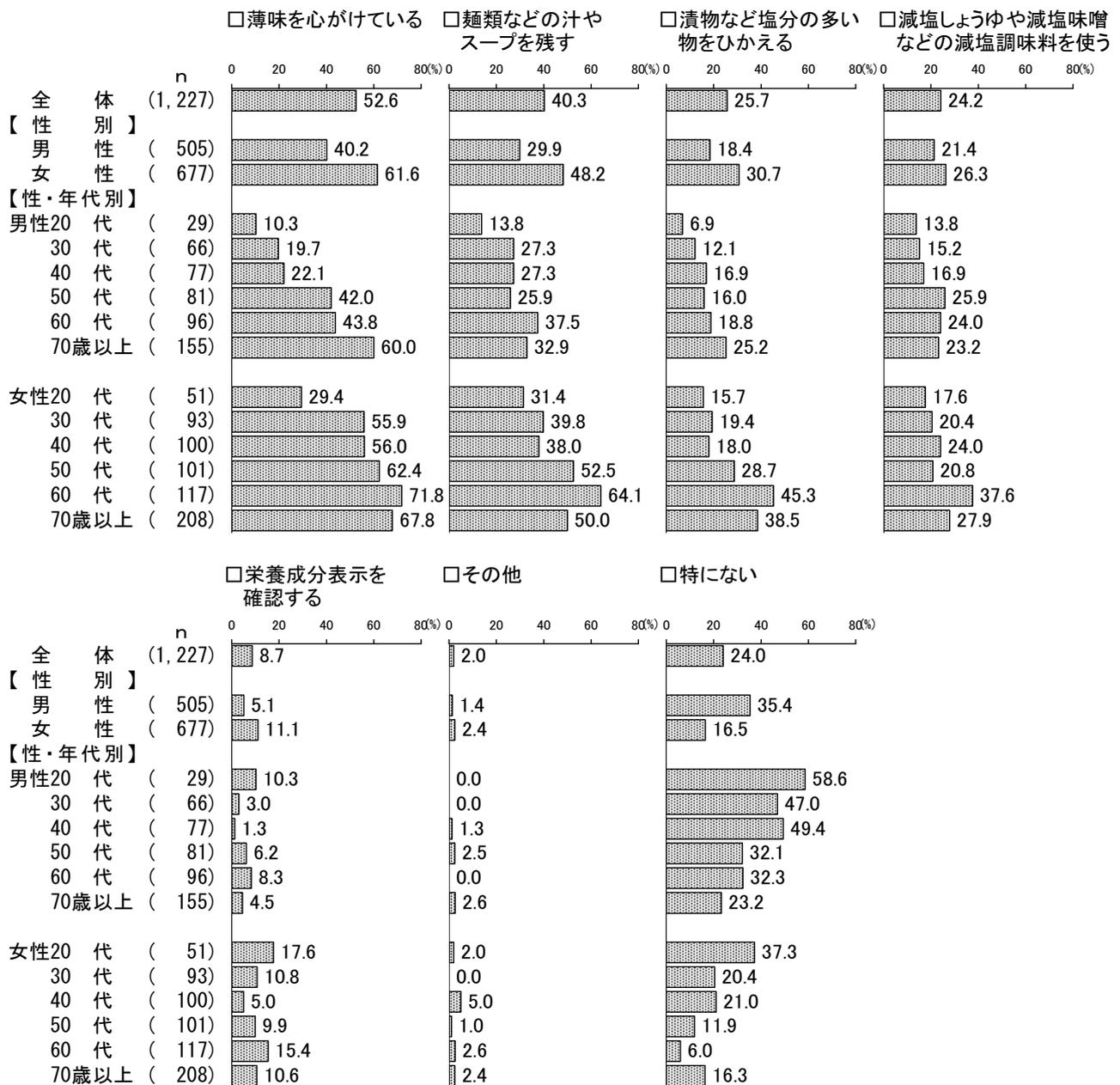
減塩のために気をつけていることは、「薄味を心がけている」が52.6%で最も高く、次いで「麺類などの汁やスープを残す」(40.3%)、「漬物など塩分の多い物をひかえる」(25.7%)、「減塩しょうゆや減塩味噌などの減塩調味料を使う」(24.2%)などの順となっている。(図表 1-5-21)

性別で見ると、「薄味を心がけている」は女性（61.6%）が男性（40.2%）より21.4ポイント高くなっている。「麺類などの汁やスープを残す」は女性（48.2%）が男性（29.9%）より18.3ポイント高くなっている。「漬物など塩分の多い物をひかえる」は女性（30.7%）が男性（18.4%）より12.3ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、「薄味を心がけている」は女性60代で71.8%、女性70歳以上で67.8%と高くなっている。「麺類などの汁やスープを残す」は女性60代で64.1%と高くなっている。「漬物など塩分の多い物をひかえる」は女性60代で45.3%、女性70歳以上で38.5%と高くなっている。「減塩しょうゆや減塩味噌などの減塩調味料を使う」は女性60代で37.6%と高くなっている。

(図表 1 - 5 - 22)

図表 1 - 5 - 22 減塩のために気をつけていることー性・年代別

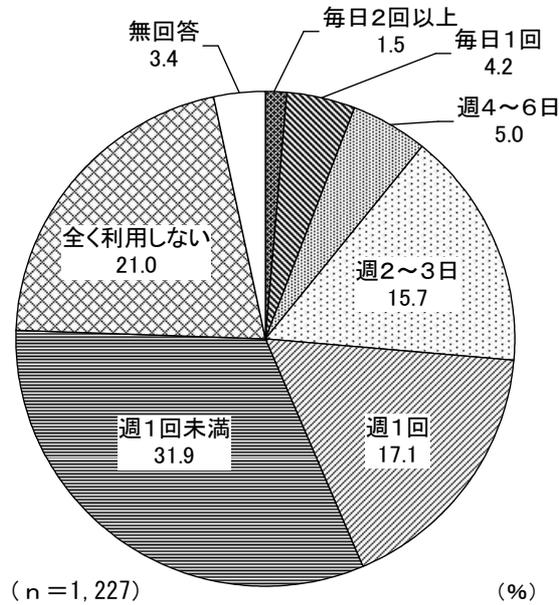


(8) 外食の頻度

◎ 「週1回未満」は31.9%

問17 あなたは、外食（飲食店での食事）をどのくらい利用していますか。（○は1つだけ）

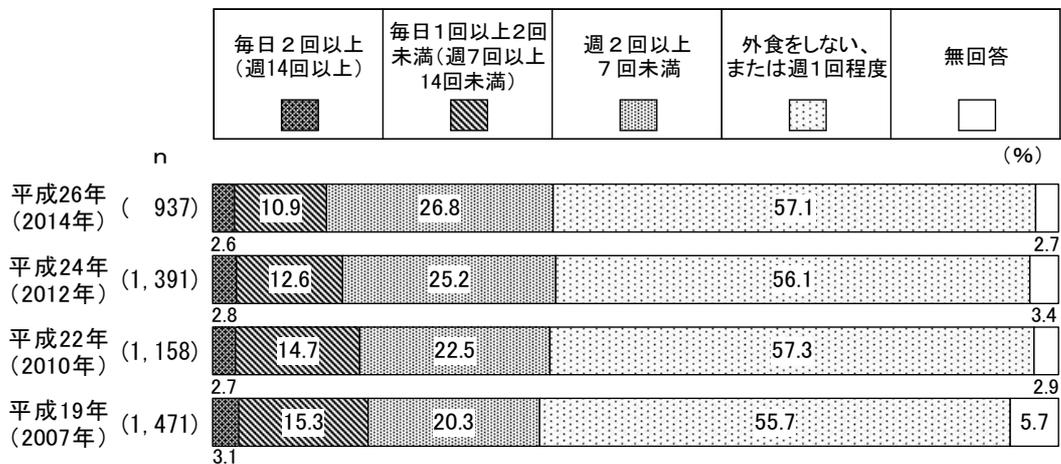
図表1-5-23 外食の頻度



外食の頻度は、「週1回未満」が31.9%で最も高く、次いで「全く利用しない」(21.0%)、「週1回」(17.1%)、「週2~3日」(15.7%)などの順となっている。また、『週1回以上』の割合は43.5%となっている。(図表1-5-23)

過去の調査結果との比較は、選択肢が異なるため参考に掲載する。(図表1-5-24)

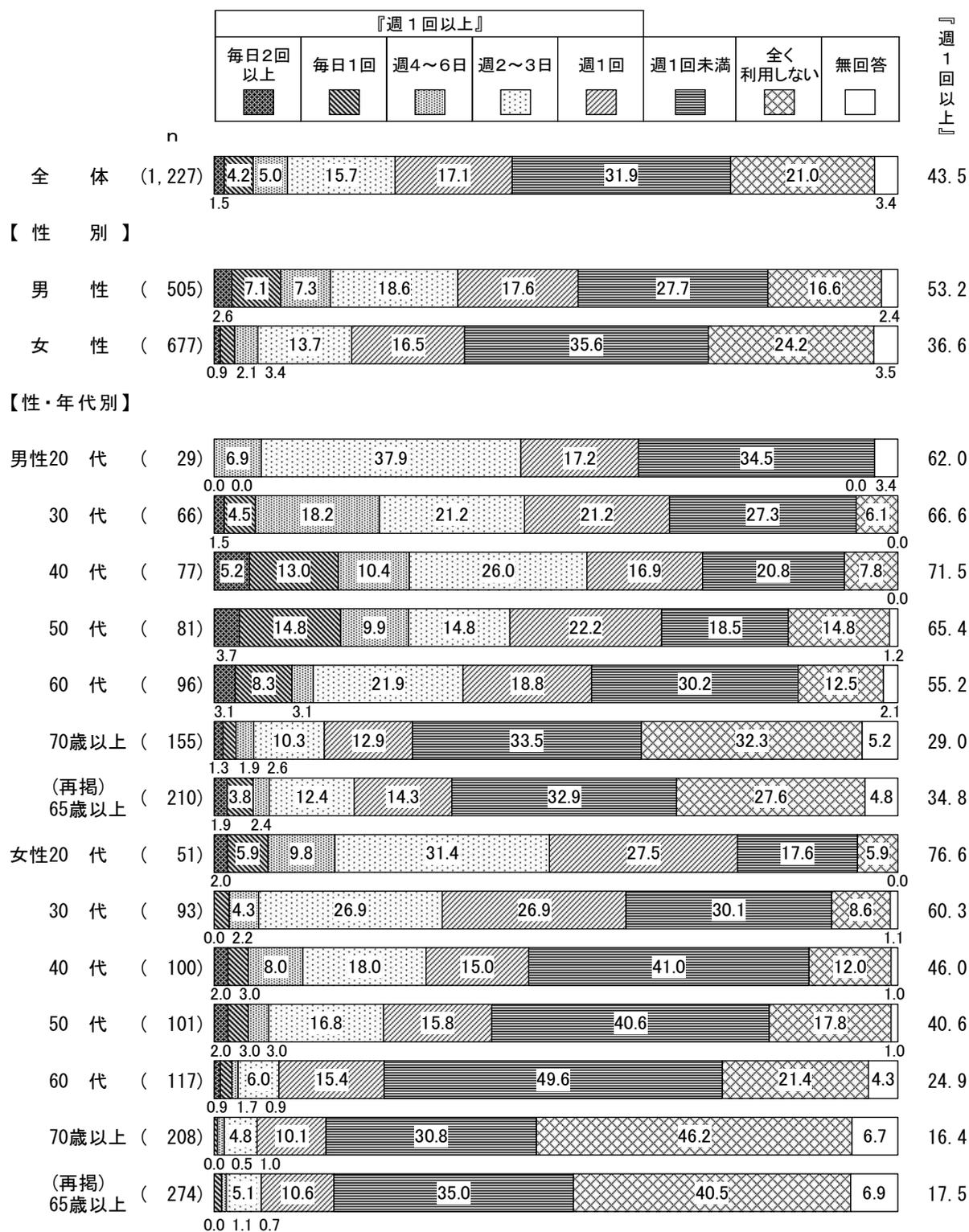
図表1-5-24 外食の頻度（過去の調査結果）



性別でみると、『週1回以上』は男性（53.2%）が女性（36.6%）より16.6ポイント高くなっている。「週1回未満」は女性（35.6%）が男性（27.7%）より7.9ポイント高くなっている。「全く利用しない」は女性（24.2%）が男性（16.6%）より7.6ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、「毎日1回」は男性50代で14.8%、男性40代で13.0%と高くなっている。「週1回未満」は女性60代で49.6%、女性40代で41.0%、女性50代で40.6%と高くなっている。「全く利用しない」は女性70歳以上で46.2%、男性70歳以上で32.3%と高くなっている。（図表1-5-25）

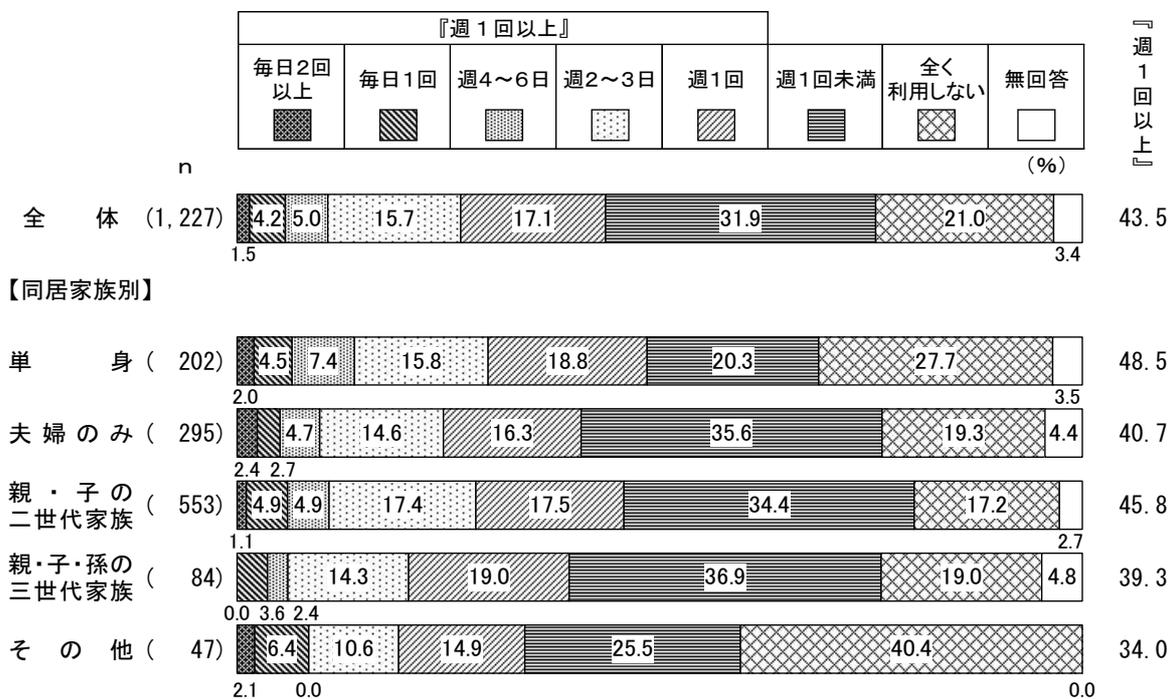
図表1-5-25 外食の頻度－性・年代別



同居家族別でみると、「全く利用しない」はその他で40.4%、単身で27.7%と高くなっている。

(図表 1 - 5 - 26)

図表 1 - 5 - 26 外食の頻度一同居家族別



図表 1 - 5 - 27 (参考) 全国の「外食を利用している頻度」

	外食を利用している (%)					
	(計)	毎日2回以上	毎日1回	週4~6回	週2~3回	週1回
男性 (計)	40.6	1.2	4.3	7.6	11.8	15.7
20代	63.1	2.0	7.8	8.2	20.0	25.1
30代	59.8	2.2	6.2	11.4	14.1	25.9
40代	49.9	1.6	5.1	9.6	16.0	17.6
50代	46.2	1.2	6.8	11.8	12.6	13.9
60代	33.9	1.4	2.8	6.9	9.8	12.9
70歳以上	20.0	0.1	1.4	2.0	6.7	9.9
女性 (計)	25.1	0.4	1.1	1.5	7.2	14.9
20代	47.3	1.4	1.4	4.4	16.9	23.3
30代	40.4	0.0	2.1	2.3	11.2	24.8
40代	32.2	0.3	1.2	1.4	10.2	19.1
50代	23.7	0.5	1.2	1.4	6.8	13.8
60代	18.9	0.2	0.8	1.1	5.0	11.8
70歳以上	13.2	0.5	0.6	0.8	2.6	8.7

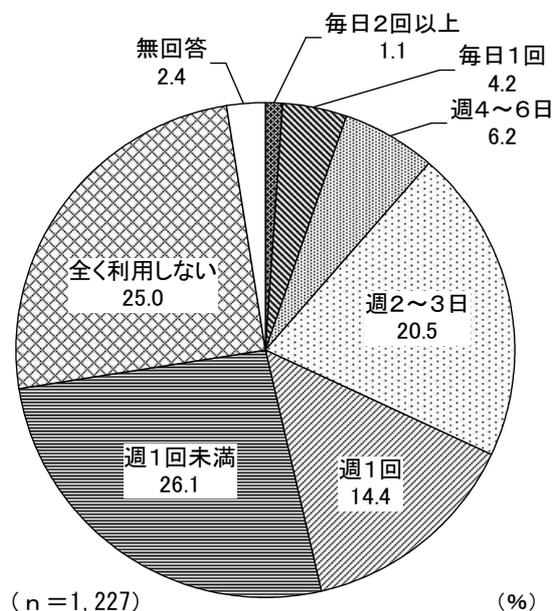
(※) 全国の調査は「国民健康・栄養調査」(厚生労働省・平成27年)

### (9) 中食の利用頻度

◎ 「週1回未満」は26.1%

問18 あなたは、持ち帰りの弁当や惣菜をどのくらい利用していますか。(○は1つだけ)

図表 1-5-28 中食の利用頻度

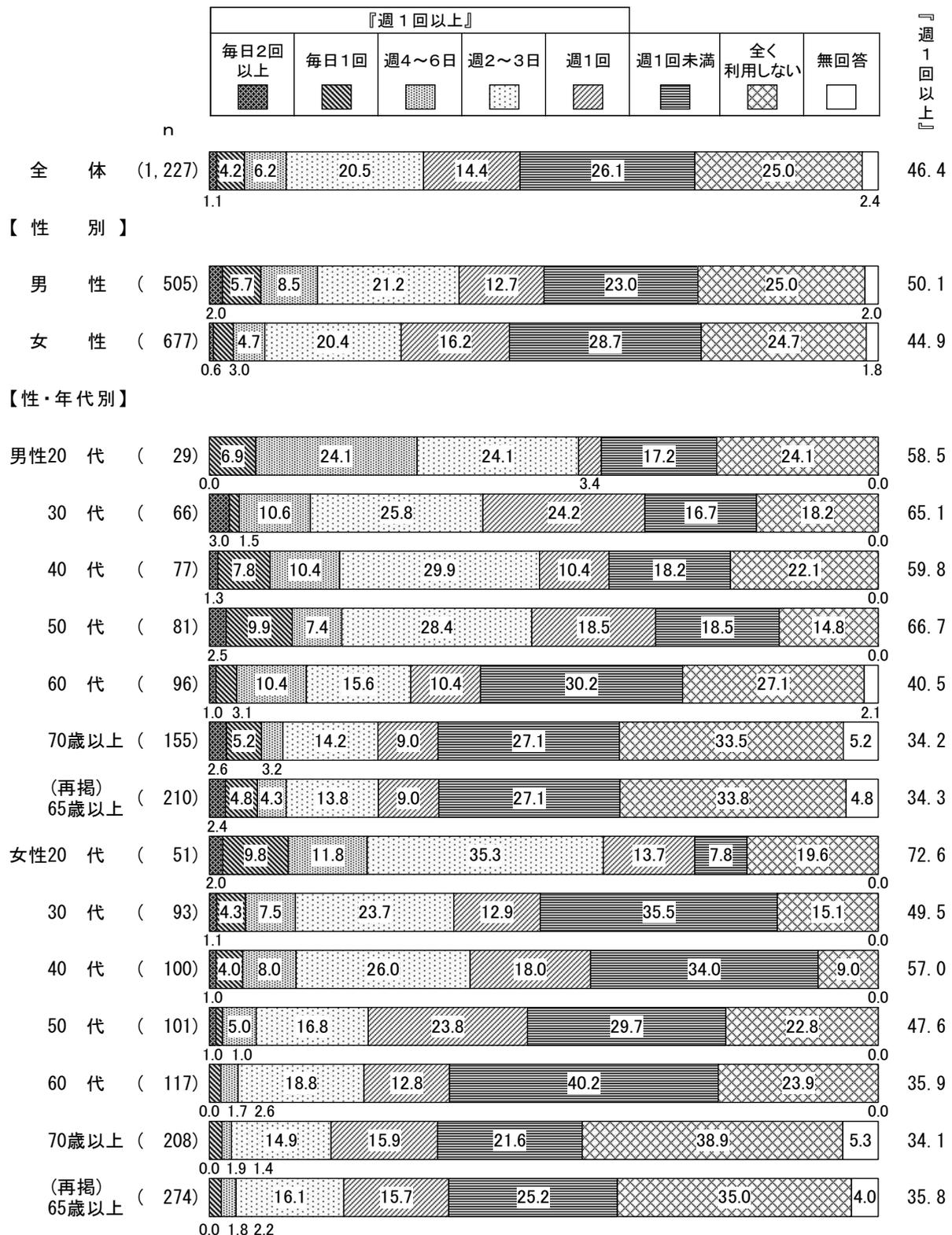


中食の利用頻度は、「週1回未満」が26.1%で最も高く、次いで「全く利用しない」(25.0%)、「週2~3日」(20.5%)、「週1回」(14.4%)などの順となっている。また、『週1回以上』の割合は46.4%となっている。(図表1-5-28)

性別でみると、『週1回以上』は男性（50.1%）が女性（44.9%）より5.2ポイント高くなっている。「週1回」は女性（16.2%）が男性（12.7%）より3.5ポイント高くなっている。「週1回未満」は女性（28.7%）が男性（23.0%）より5.7ポイント高くなっている。

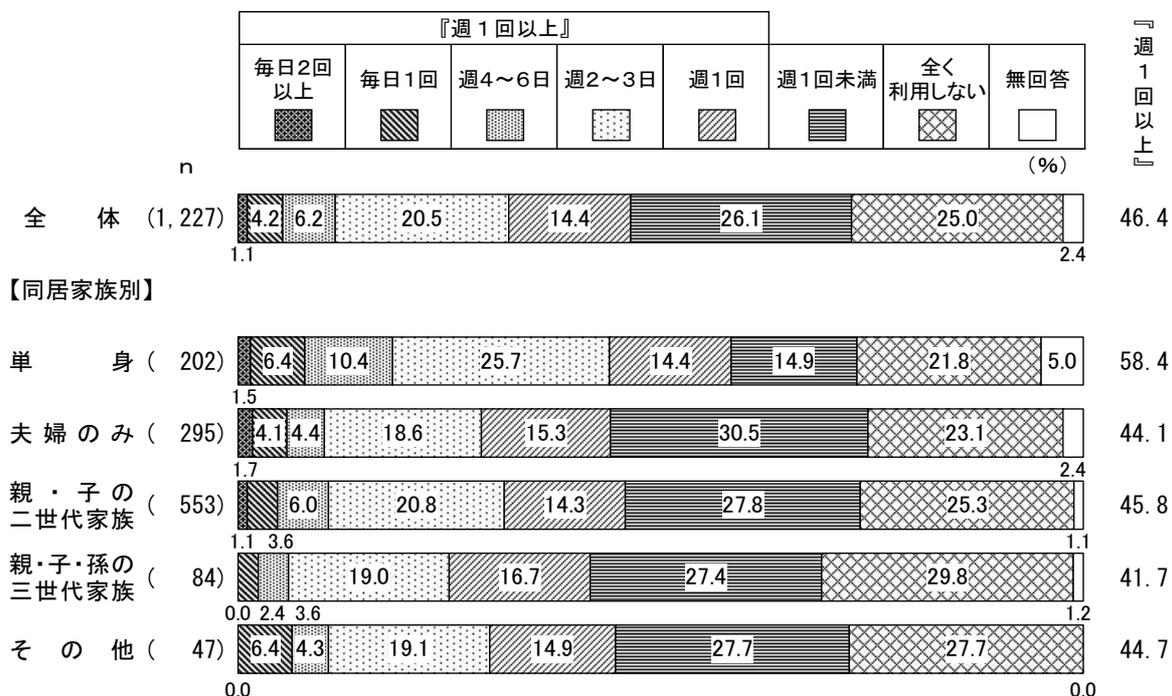
性・年代別でみると、「週4～6日」は男性20代で24.1%と高くなっている。「週1回未満」は女性60代で40.2%、女性30代で35.5%、女性40代で34.0%と高くなっている。「全く利用しない」は女性70歳以上で38.9%、男性70歳以上で33.5%と高くなっている。（図表1-5-29）

図表1-5-29 中食の利用頻度－性・年代別



同居家族別でみると、「週4～6日」は単身で10.4%と高くなっている。「週2～3日」は単身で25.7%と高くなっている。(図表1-5-30)

図表1-5-30 中食の利用頻度—同居家族別



図表1-5-31 (参考) 全国の「持ち帰りの弁当・惣菜を利用している頻度」

	持ち帰りの弁当・惣菜を利用している (%)					
	(計)	毎日2回以上	毎日1回	週4～6回	週2～3回	週1回
男性 (計)	41.1	1.1	4.2	6.0	17.0	12.8
20代	44.7	2.7	3.9	5.9	19.2	12.9
30代	50.6	1.2	4.9	7.9	18.8	17.8
40代	47.7	1.5	4.9	9.8	18.5	13.1
50代	47.4	1.0	5.8	6.2	20.4	14.1
60代	38.9	0.7	3.5	5.2	16.3	13.2
70歳以上	28.5	0.6	2.8	3.2	12.9	8.9
女性 (計)	39.4	0.5	2.1	4.0	17.3	15.4
20代	42.8	1.3	4.0	6.7	18.5	12.1
30代	47.0	0.5	2.6	4.4	18.7	20.8
40代	46.3	0.6	2.1	5.3	19.9	18.4
50代	45.6	0.5	3.1	4.6	21.2	16.2
60代	35.4	0.0	1.2	2.8	16.0	15.4
70歳以上	30.2	0.7	1.5	2.8	13.6	11.7

(※) 全国の調査は「国民健康・栄養調査」(厚生労働省・平成27年)

外食の頻度（問17・61～63ページ参照）と中食の利用頻度について、「週2～3日」以上と答えた方を『定期的に利用している』、「週1回」以下と答えた方を『定期的に利用していない』と分類して、外食または中食を『定期的に利用している』人（図表1－5－31の網かけ部分に該当する人の合計）の割合をみると、男性全体で53.7%、女性全体で38.8%、65歳以上の男性全体で35.2%、65歳以上の女性全体で23.7%となっている。（図表1－5－32）

図表1－5－32 外食の頻度と中食の利用頻度－性別

上段：件数  
下段：%

		中食の利用頻度				中食の利用頻度				中食の利用頻度			
		全 体	定期 的に 利用 して いる	定期 的に 利用 して いな い	無 回 答	男 性 全 体	定期 的に 利用 して いる	定期 的に 利用 して いな い	無 回 答	女 性 全 体	定期 的に 利用 して いる	定期 的に 利用 して いな い	無 回 答
外 食 の 頻 度	全 体	1,227 100.0	393 32.0	804 65.5	30 2.4	505 100.0	189 37.4	306 60.6	10 2.0	677 100.0	194 28.7	471 69.6	12 1.8
	定期 的に 利用 して いる	325 26.5	171 13.9	152 12.4	2 0.2	180 35.6	98 19.4	81 16.0	1 0.2	136 20.1	67 9.9	69 10.2	0 0.0
	定期 的に 利用 して いな い	860 70.1	214 17.4	633 51.6	13 1.1	313 62.0	88 17.4	221 43.8	4 0.8	517 76.4	122 18.0	387 57.2	8 1.2
	無 回 答	42 3.4	8 0.7	19 1.5	15 1.2	12 2.4	3 0.6	4 0.8	5 1.0	24 3.5	5 0.7	15 2.2	4 0.6
	(再掲) 65歳 以上 全体	490 100.0	108 22.0	360 73.5	22 4.5	210 100.0	53 25.2	147 70.0	10 4.8	274 100.0	55 20.1	208 75.9	11 4.0
	定期 的に 利用 して いる	63 12.9	31 6.3	30 6.1	2 0.4	43 20.5	22 10.5	20 9.5	1 0.5	19 6.9	9 3.3	10 3.6	0 0.0
	定期 的に 利用 して いな い	398 81.2	73 14.9	313 63.9	12 2.4	157 74.8	30 14.3	123 58.6	4 1.9	236 86.1	43 15.7	185 67.5	8 2.9
	無 回 答	29 5.9	4 0.8	17 3.5	8 1.6	10 4.8	1 0.5	4 1.9	5 2.4	19 6.9	3 1.1	13 4.7	3 1.1

外食または中食を定期的に利用している人（数表の網かけ部分が該当）の人数（割合）は、  
全体で547人（44.6%）、男性全体で271人（53.7%）、女性全体で263人（38.8%）  
65歳以上の全体で140人（28.6%）、65歳以上の男性全体で74人（35.2%）、65歳以上の女性全体で65人（23.7%）  
（※1）『定期的に利用している』は、「毎日2回以上」「毎日1回」「週4～6日」「週2～3日」の合計  
（※2）『定期的に利用していない』は、「週1回」「週1回未満」「全く利用しない」の合計

外食または中食を『定期的に利用している』人の割合を性・年代別にみると、男性40代が77.9%、女性20代が76.5%、男性20代が69.0%と高くなっている。

全国の調査結果と比較すると、男性の60代以下と女性の40代以下の年代で全国平均を10ポイント以上上回っており、特に女性20代で(76.5%)で全国(42.6%)より33.9ポイント、男性40代(77.9%)で全国(50.2%)より27.7ポイント高くなっている。(図表1-5-33)

図表1-5-33 外食または中食を『定期的に利用している』割合－性・年代別(全国の調査結果との参考比較)

(%)

性・年代	今回調査	全 国	性・年代	今回調査	全 国
男性(計)	53.7	41.3	女性(計)	38.8	29.2
男性20代	69.0	53.7	女性20代	76.5	42.6
30代	59.1	48.1	30代	51.6	33.4
40代	77.9	50.2	40代	52.0	34.5
50代	63.0	50.9	50代	42.6	32.9
60代	51.0	37.2	60代	27.4	24.4
70歳以上	32.9	25.4	70歳以上	22.6	21.6
(再掲)65歳以上	35.2		(再掲)65歳以上	23.7	

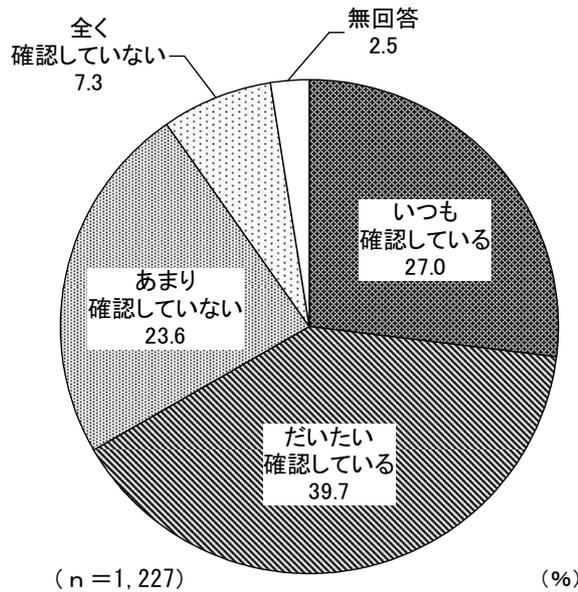
(※) 全国の調査は「国民健康・栄養調査」(厚生労働省・平成27年)

(10) 食品表示の利用度

◎『確認している』は66.7%

問19 あなたは、ふだん食品を購入するときに表示等を確認していますか。(○は1つだけ)

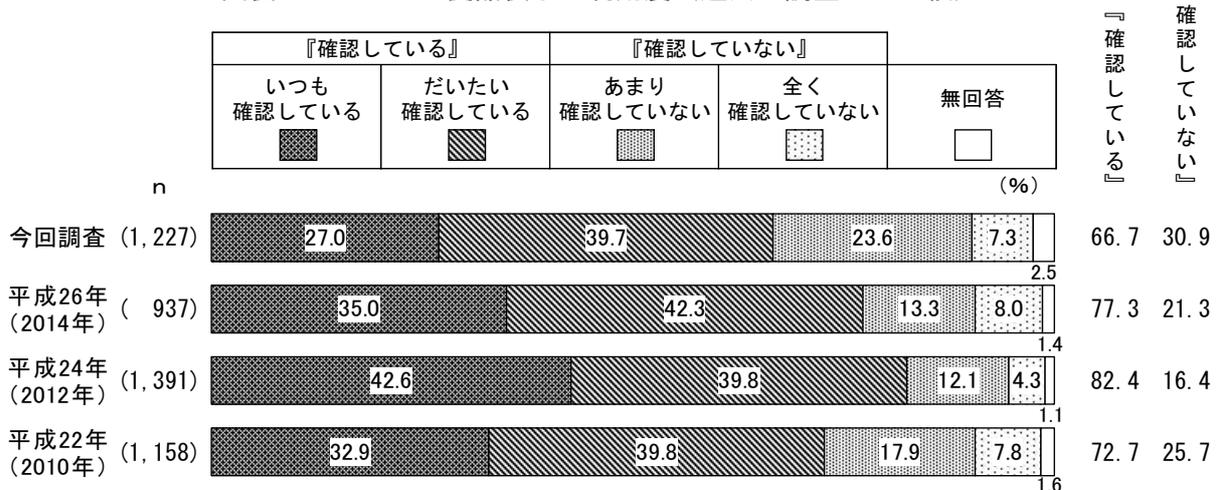
図表 1-5-34 食品表示の利用度



食品表示の利用度は、「いつも確認している」(27.0%)と「だいたい確認している」(39.7%)を合わせた『確認している』が66.7%と高くなっている。一方、「あまり確認していない」(23.6%)と「全く確認していない」(7.3%)を合わせた『確認していない』は30.9%となっている。(図表 1-5-34)

過去の調査結果との比較は、質問文や選択肢が異なるため参考に掲載する。(図表 1-5-35)

図表 1-5-35 食品表示の利用度 (過去の調査との比較)

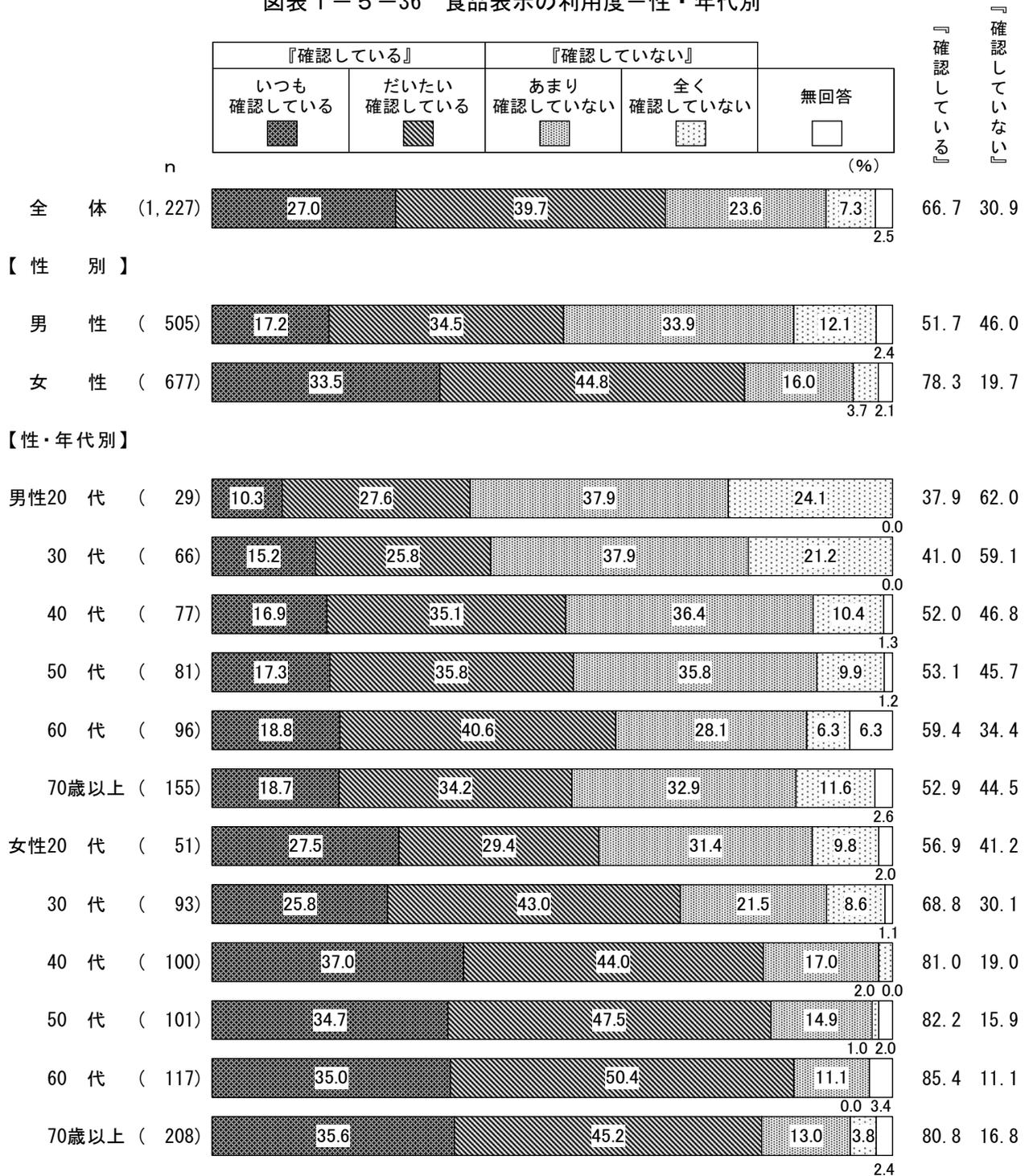


- (※1) 平成24年調査では、「あなたは、ふだん食品を購入するときに賞味期限や原材料名などの表示を確認していますか。」として質問していた。
- (※2) 「いつも確認している」は、平成26年調査以前は「いつもしている」としていた。
- (※3) 「だいたい確認している」は、平成26年調査以前は「だいたいしている」としていた。
- (※4) 「あまり確認していない」は、平成26年調査以前は「あまりしていない」としていた。
- (※5) 「全く確認していない」は、平成26年調査は「ほとんどしていない」、平成24年調査以前は「していない」としていた。

性別で見ると、『確認している』は女性（78.3%）が男性（51.7%）より26.6ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、『確認している』は女性の40代以上の年代で8割台と高くなっている。『確認していない』は男性20代で62.0%、男性30代で59.1%と高くなっている。（図表1-5-36）

図表1-5-36 食品表示の利用度—性・年代別



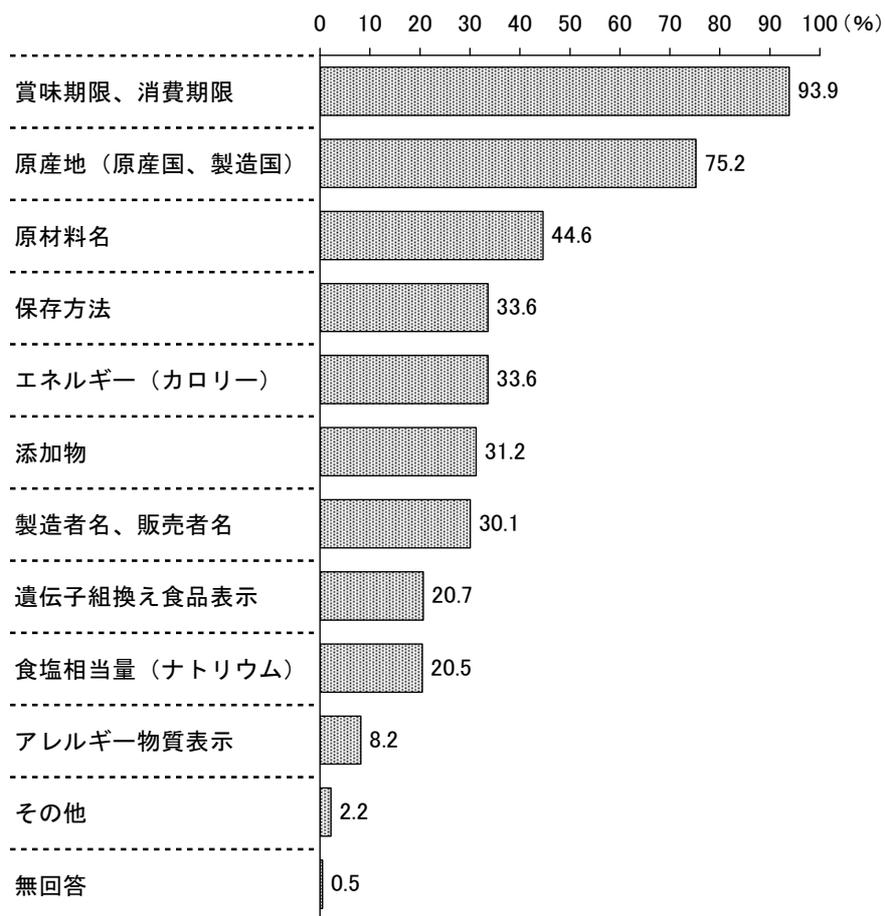
## (10-1) 食品表示で確認していること

◎ 「賞味期限、消費期限」は93.9%

(問19で「いつも確認している」、「だいたい確認している」を選んだ方へ)

問19-1 どんな表示を確認していますか。(○はいくつでも)

図表 1-5-37 食品表示で確認していること

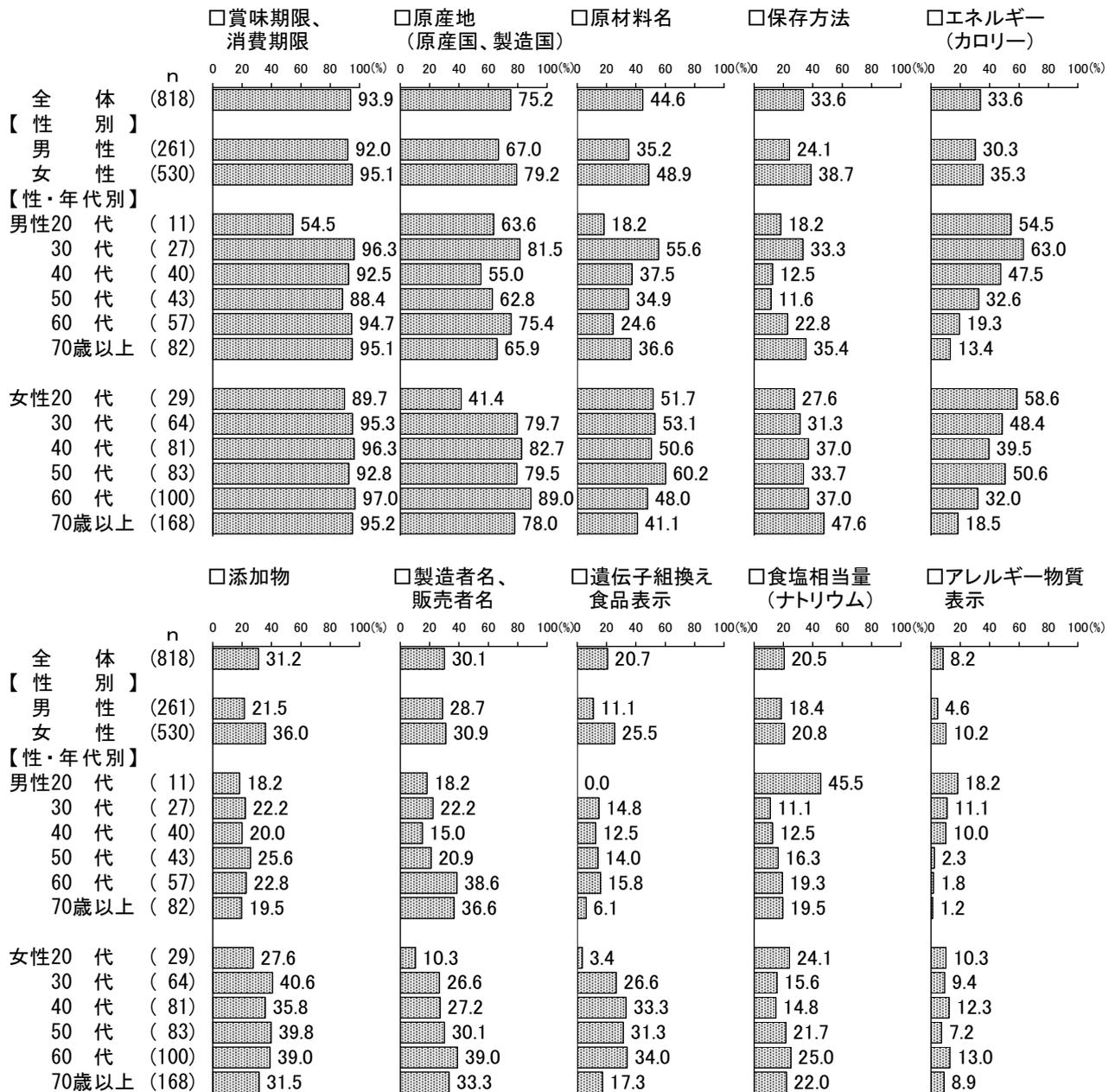


食品表示を「いつも確認している」、「だいたい確認している」を選んだ方 (818人) の、食品表示で確認していることは、「賞味期限、消費期限」が93.9%で最も高く、次いで「原産地 (原産国、製造国)」(75.2%)、「原材料名」(44.6%)、「保存方法」(33.6%)、「エネルギー (カロリー)」(33.6%)などの順となっている。(図表 1-5-37)

性別で見ると、「原産地（原産国、製造国）」は女性（79.2%）が男性（67.0%）より12.2ポイント高くなっている。「原材料名」は女性（48.9%）が男性（35.2%）より13.7ポイント高くなっている。「保存方法」は女性（38.7%）が男性（24.1%）より14.6ポイント高くなっている。「添加物」は女性（36.0%）が男性（21.5%）より14.5ポイント高くなっている。「遺伝子組換え食品表示」は女性（25.5%）が男性（11.1%）より14.4ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、「原産地（原産国、製造国）」は女性60代で89.0%と高くなっている。「原材料名」は女性50代で60.2%と高くなっている。「保存方法」は女性70歳以上で47.6%と高くなっている。「エネルギー（カロリー）」は男性30代で63.0%、女性20代で58.6%と高くなっている。「食塩相当量（ナトリウム）」は男性20代で45.5%と高くなっている。（図表1-5-38）

図表1-5-38 食品表示で確認していること—性・年代別

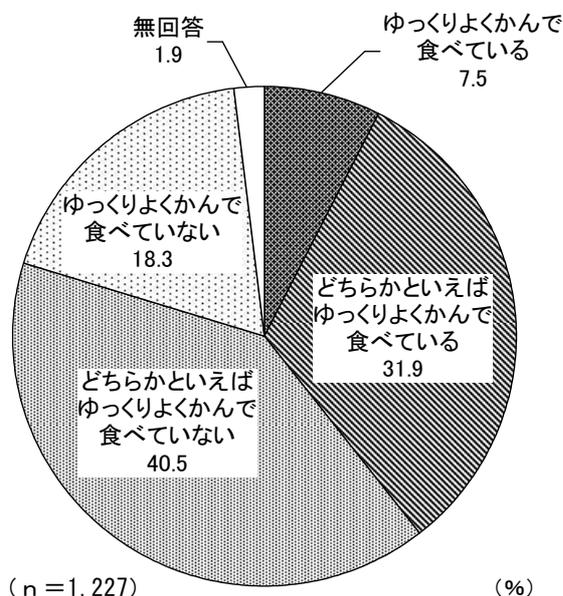


(11) よくかんで食事をしているか

◎『よくかんでいる』は39.4%

問20 あなたは、ふだんゆっくりよくかんで（一口30回程度）食べていますか。（○は1つだけ）

図表1-5-39 よくかんで食事をしているか



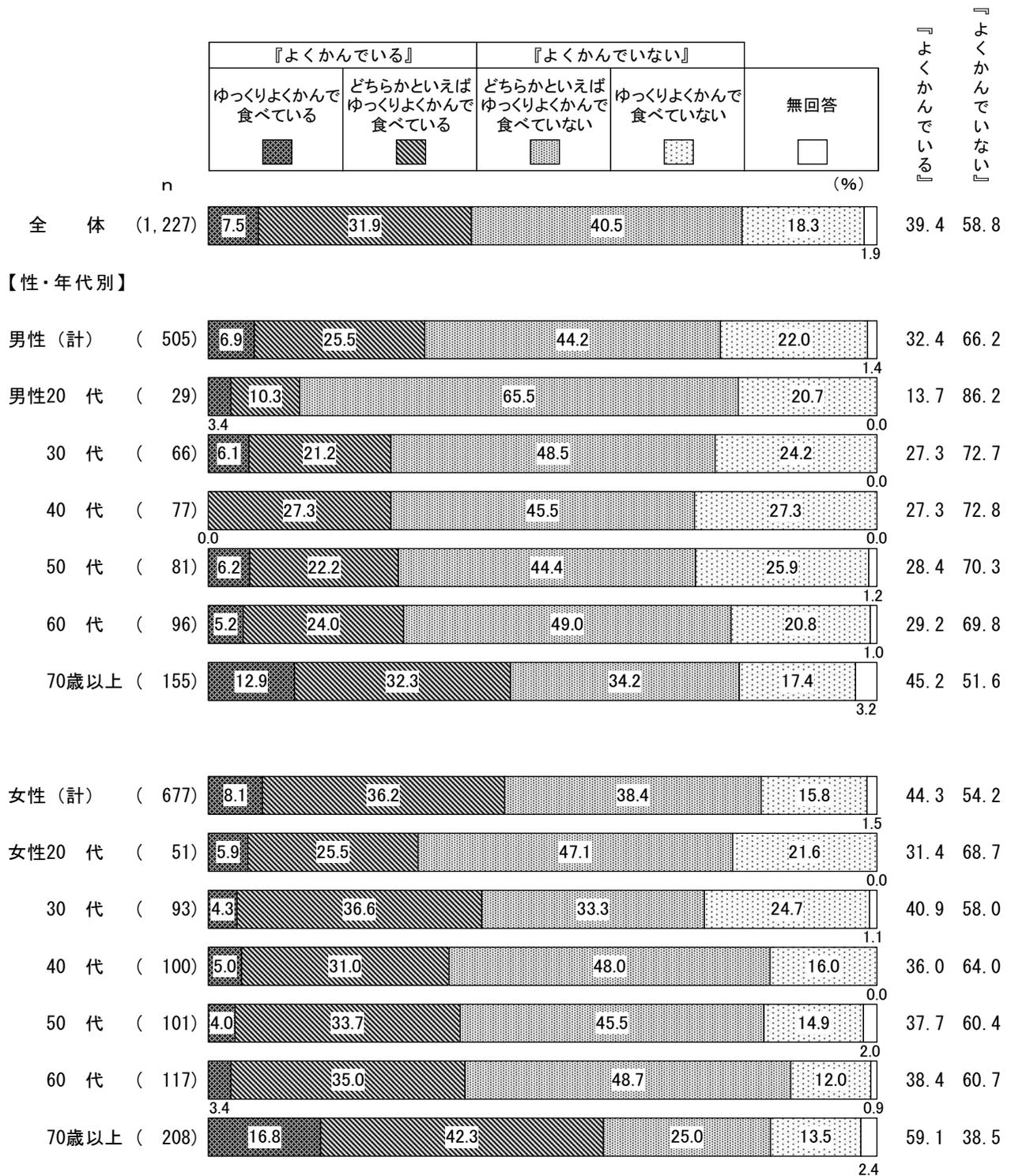
よくかんで食事をしているかについては、「ゆっくりよくかんで食べている」(7.5%)と「どちらかといえばゆっくりよくかんで食べている」(31.9%)を合わせた『よくかんでいる』が39.4%となっている。一方、「どちらかといえばゆっくりよくかんで食べていない」(40.5%)と「ゆっくりよくかんで食べていない」(18.3%)を合わせた『よくかんでいない』は58.8%となっている。

(図表1-5-39)

性別で見ると、『よくかんでいる』は女性（44.3%）が男性（32.4%）より11.9ポイント高くなっている。

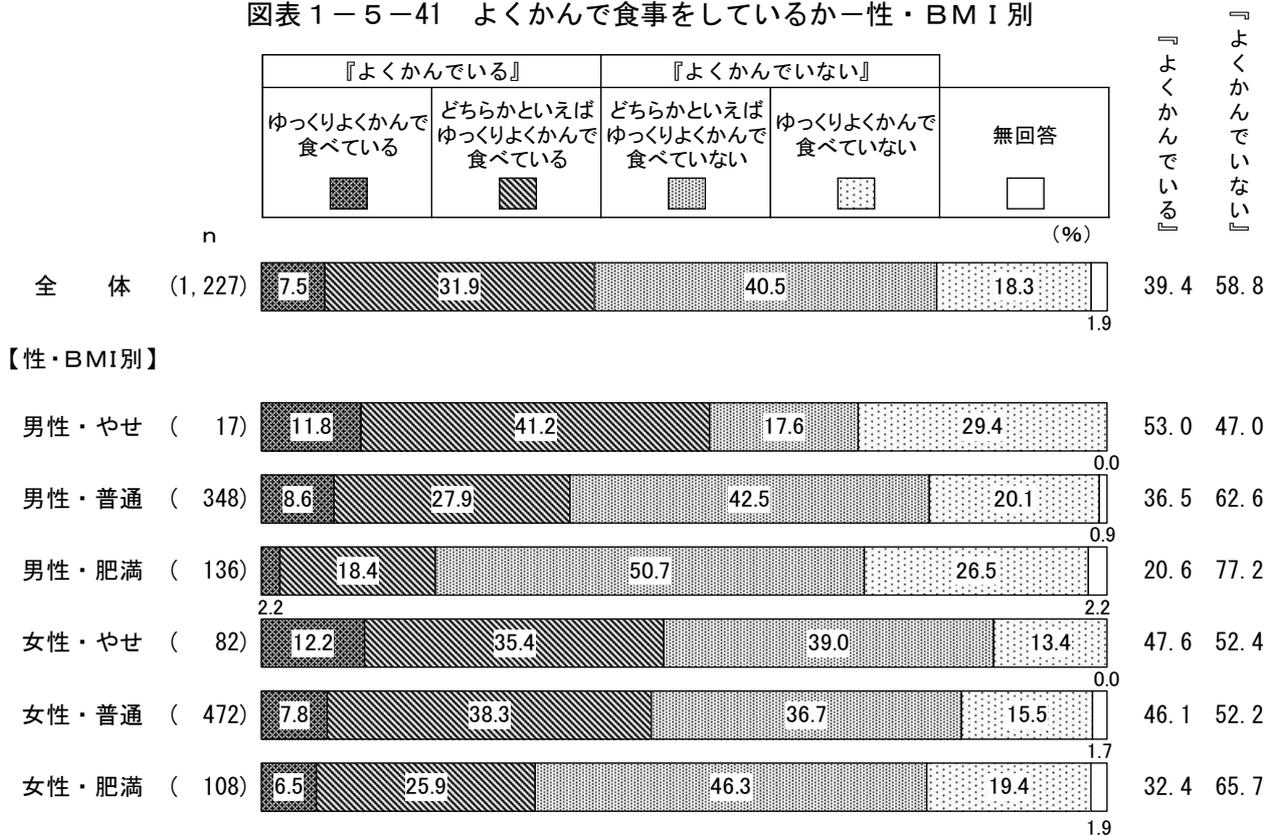
性・年代別で見ると、『よくかんでいる』は女性70歳以上で59.1%、男性70歳以上で45.2%と高くなっている。『よくかんでいない』は男性20代で86.2%と高くなっている。（図表1-5-40）

図表1-5-40 よくかんで食事をしているかー性・年代別



性・BMI別でみると、『よくかんでいる』は男性・やせで53.0%と高くなっている。『よくかんでいない』は男性・肥満で77.2%、女性・肥満で65.7%と高くなっている。(図表1-5-41)

図表1-5-41 よくかんで食事をしているかー性・BMI別



全国の調査結果と比較すると、『よくかんでいる』(39.4%)は全国(51.0%)より11.6ポイント低くなっている。(図表1-5-42)

図表1-5-42 ゆっくりよくかんで食べているか(全国の調査結果との参考比較)

	『よくかんでいる』		『よくかんでいない』		無回答	『よくかんでいる』	『よくかんでいない』
	ゆっくりよくかんで食べている	どちらかといえばゆっくりよくかんで食べている	どちらかといえばゆっくりよくかんで食べていない	ゆっくりよくかんで食べていない			
今回調査	7.5	31.9	40.5	18.3	1.9	39.4	58.8
全国	17.6	33.4	37.4	11.4	-	51.0	48.8

(※) 全国の調査は「食育に関する意識調査」(農林水産省消費・安全局・平成29年3月)

また、東京都の調査結果を参考に掲載する。(図表1-5-43)

図表1-5-43 よくかむ習慣(一口30回程度)のある人の割合(東京都の調査結果との参考比較)

	全体	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80歳以上
今回調査	39.4	25.0	35.0	32.0	33.5	34.1	49.1	60.5
東京都	38.4	34.4	30.0	33.6	34.0	38.8	47.8	51.8

(※1) 今回調査の比率は、『よくかんでいる』の割合を示す。

(※2) 東京都の調査は「東京都歯科診療所患者調査」(平成26年度)

(※3) 「東京都歯科診療所患者調査」は、歯科診療所を受診した人を対象とした調査であり、今回調査と母集団が異なるため、直接の比較はできない。

## (12) BMI (肥満指数) 区分

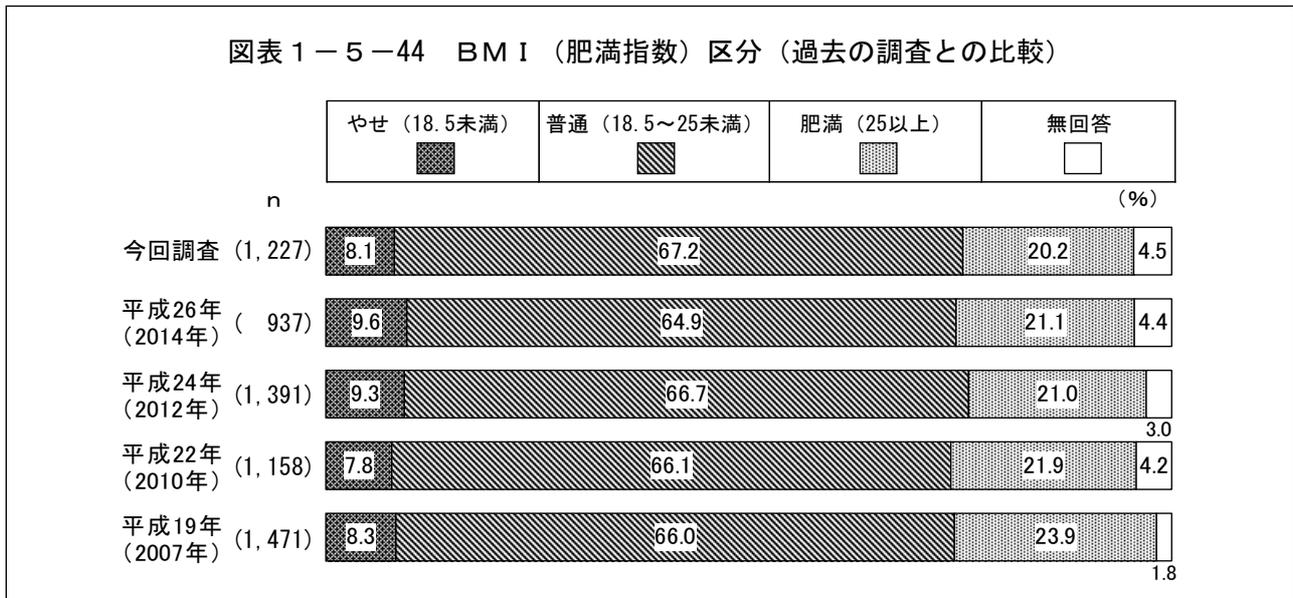
◎ 「やせ」 8.1%、「普通」 67.2%、「肥満」 20.2% < 前回やせ9.6%、普通64.9%、肥満21.1% >

身長と体重よりBMI (肥満指数) を求め、18.5未満を「やせ」、18.5以上25.0未満を「普通」、25.0以上を「肥満」と分類した。

BMI (肥満指数) は以下の式により求められる。

$$BMI(\text{Body Mass Index}) = \text{体重}(\text{kg}) \div \text{身長}(\text{m}) \div \text{身長}(\text{m})$$

図表 1-5-44 BMI (肥満指数) 区分 (過去の調査との比較)

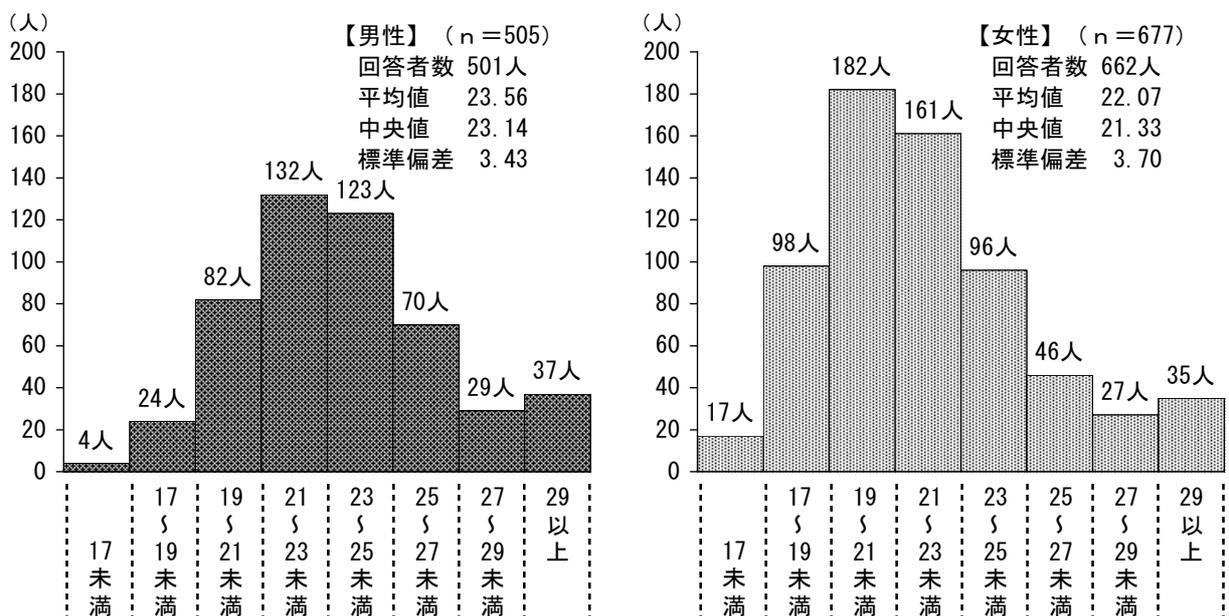


BMI (肥満指数) 区分は、「普通」が67.2%で最も高く、「肥満」は20.2%、「やせ」は8.1%となっている。

過去の調査結果と比較すると、大きな傾向の違いはみられない。(図表 1-5-44)

また、BMI を性別のヒストグラムに示した結果は以下のとおりである。(図表 1-5-45)

図表 1-5-45 BMI (肥満指数) 区分—性別



性別で過去の調査結果と比較すると、「やせ」は男性で平成26年調査と比べて3.8ポイント減少している。「肥満」は女性で平成26年調査と比べて2.6ポイント減少している。(図表1-5-46)

図表1-5-46 BMI（肥満指数）区分—性別（過去の調査との比較）

(%)

	年度	やせ (18.5未満)	普通 (18.5~25未満)	肥満 (25以上)	無回答
男性	今回調査	3.4	68.9	26.9	0.8
	平成26年(2014年)	7.2	65.2	26.5	1.1
	平成24年(2012年)	5.6	64.5	28.3	1.7
	平成22年(2010年)	4.3	65.9	26.7	3.1
	平成19年(2007年)	3.6	64.2	30.6	1.6
女性	今回調査	12.1	69.7	16.0	2.2
	平成26年(2014年)	11.8	67.6	18.6	2.0
	平成24年(2012年)	12.5	69.9	16.1	1.5
	平成22年(2010年)	10.7	68.3	18.8	2.2
	平成19年(2007年)	12.4	67.3	18.2	2.0

「やせ」の割合を性・年代別で全国の調査結果と比較すると、女性50代で2.9ポイント上回っている。一方、女性30代で5.0ポイント、男性40代で2.4ポイント、女性60代で2.2ポイント下回っている。(図表1-5-47)

「肥満」の割合を性・年代別で全国の調査結果と比較すると、女性20代で8.1ポイント上回っている。一方、女性70歳以上で12.2ポイント、男性50代で10.6ポイント、男性30代で10.4ポイント、女性50代で7.4ポイント下回っている。(図表1-5-48)

図表1-5-47 BMI（肥満指数）区分が「やせ」の割合—性・年代別（全国の調査との参考比較）

(%)

性・年代	今回調査	全 国	性・年代	今回調査	全 国
男性(計)	3.4	4.4	女性(計)	12.1	11.6
男性20代	6.9	8.2	女性20代	19.6	20.7
30代	4.5	5.2	30代	11.8	16.8
40代	1.3	3.7	40代	13.0	11.2
50代	3.7	3.1	50代	12.9	10.0
60代	2.1	3.2	60代	6.8	9.0
70歳以上	3.9	5.1	70歳以上	13.0	10.4

(※) 全国の調査は「国民健康・栄養調査」(厚生労働省・平成28年)

図表1-5-48 BMI（肥満指数）区分が「肥満」の割合—性・年代別（全国の調査との参考比較）

(%)

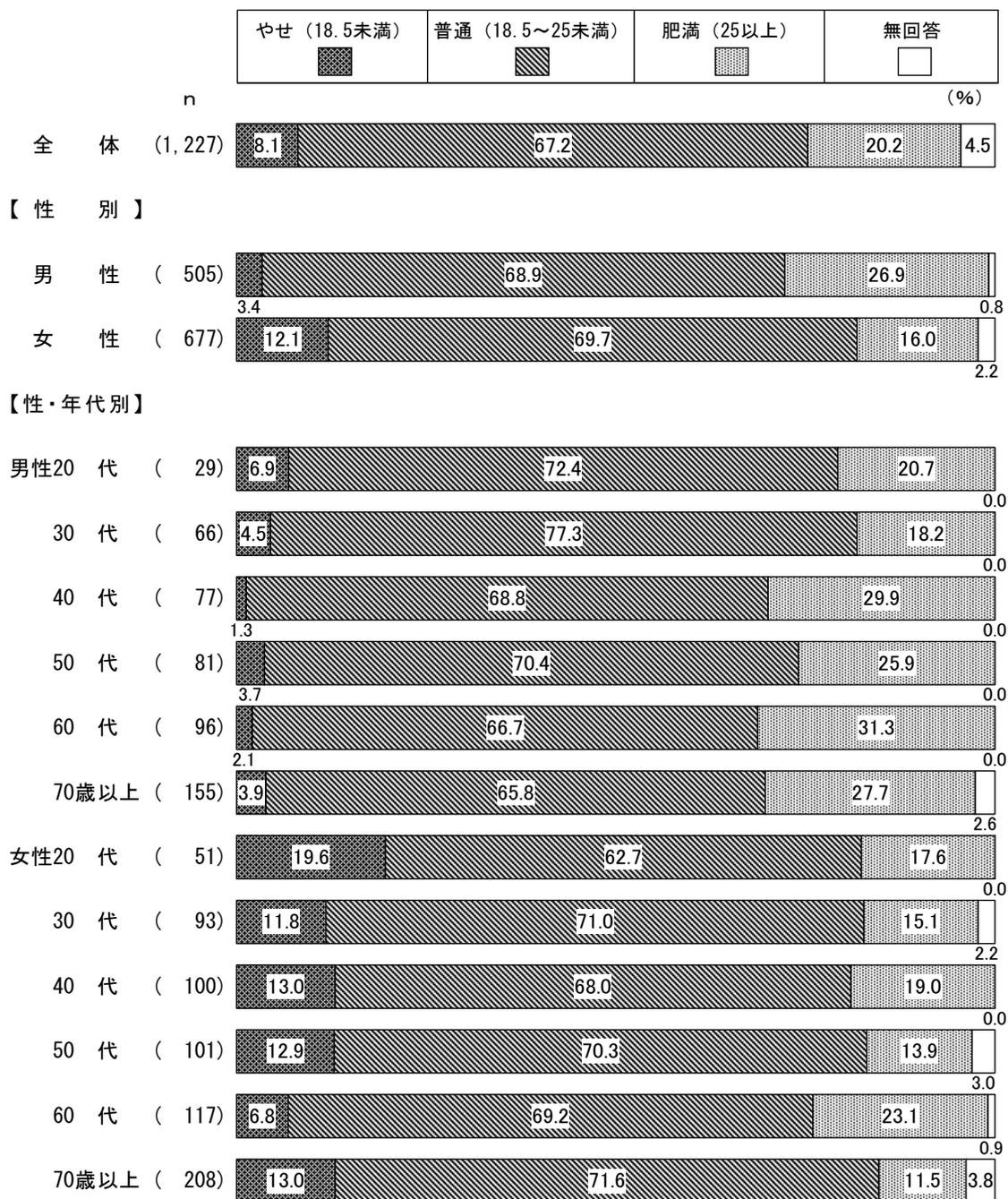
性・年代	今回調査	全 国	性・年代	今回調査	全 国
男性(計)	26.9	31.3	女性(計)	16.0	20.6
男性20代	20.7	25.7	女性20代	17.6	9.5
30代	18.2	28.6	30代	15.1	14.3
40代	29.9	34.6	40代	19.0	18.3
50代	25.9	36.5	50代	13.9	21.3
60代	31.3	32.3	60代	23.1	24.2
70歳以上	27.7	28.6	70歳以上	11.5	23.7

(※) 全国の調査は「国民健康・栄養調査」(厚生労働省・平成28年)

性別でみると、「やせ」は女性（12.1%）が男性（3.4%）より8.7ポイント高くなっている。「肥満」は男性（26.9%）が女性（16.0%）より10.9ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、「やせ」は女性20代で19.6%と高くなっている。「肥満」は男性60代で31.3%、男性40代で29.9%と高くなっている。（図表1-5-49）

図表1-5-49 BMI（肥満指数）区分—性・年代別



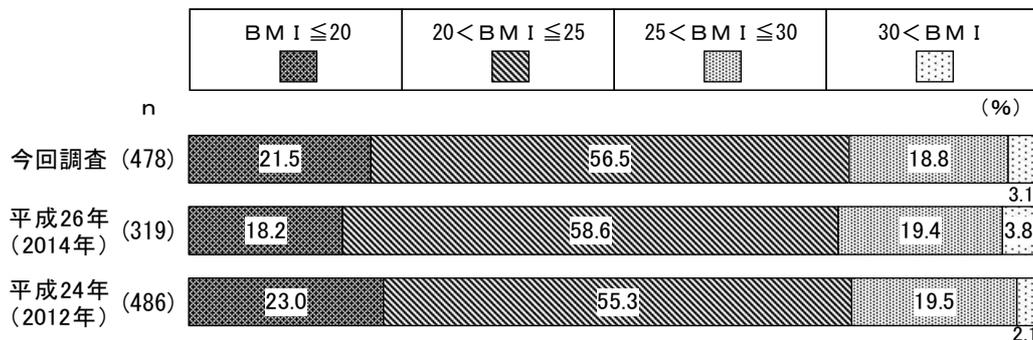
### (13) 高齢者のBMI

◎65歳以上の高齢者のうち、BMI 20以下の人は21.5% <前回18.2%、前々回23.0%>

高齢期の適切な栄養は、生活の質のみならず、身体機能を維持し生活機能の自立を確保する上でも重要である。健康日本21（第2次）では、「低栄養傾向にある高齢者」の割合を減少させることを重視しており、その際の指標としてBMI 20以下が有用と考えられている。

今回調査で身長と体重の回答があった65歳以上の人は478人（全体の39.0%）であり、このうちBMI 20以下の割合は21.5%となっている。この割合を過去の調査結果と比較すると、BMI 20以下の割合は2割前後で推移しており、大きな傾向の違いはみられない。（図表1-5-50）

図表1-5-50 高齢者（65歳以上）のBMI（過去の調査との比較）



65歳以上の人のBMI 20以下の割合を全国の調査結果と比較すると、3.6ポイント上回っている。

さらに5歳年齢階級別でみると、65～69歳は全国より7.7ポイント下回っているが、75～79歳では全国より9.5ポイント、80～84歳では全国より7.3ポイント、70～74歳では全国より6.0ポイント、85歳以上では全国より5.1ポイント上回っている。（図表1-5-51）

図表1-5-51 高齢者（65歳以上）でBMI 20以下の割合－5歳年齢階級別（全国の調査との参考比較）

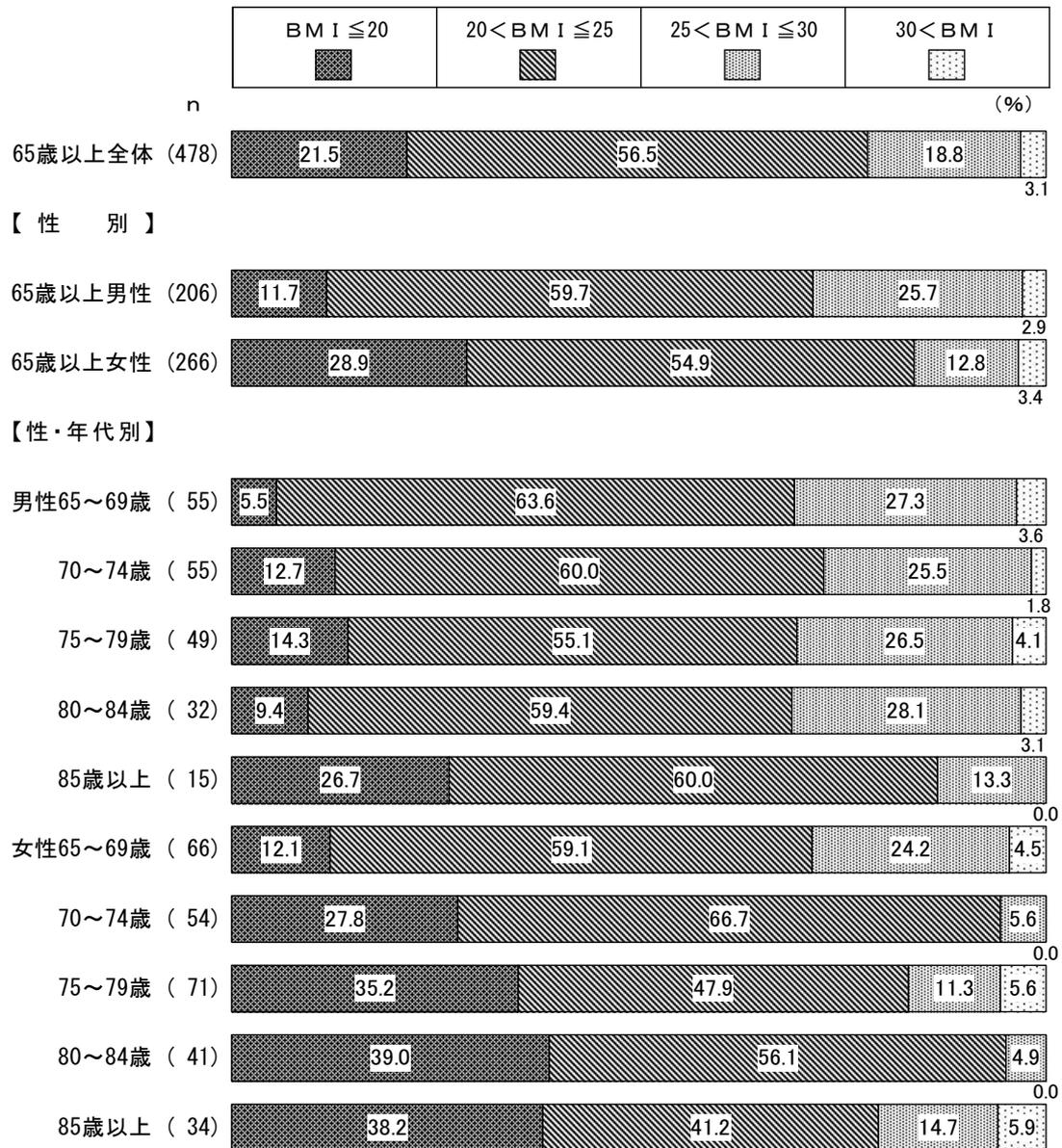
年代	今回調査	平成26年	平成24年	全国
65歳以上（計）	21.5	18.2	23.0	17.9
65～69歳	9.0	17.2	22.1	16.7
70～74歳	20.7	15.2	15.6	14.7
75～79歳	26.7	20.3	23.1	17.2
80～84歳	25.7	14.3	27.4	18.4
85歳以上	35.3	33.3	39.6	30.2

（※）全国の調査は「国民健康・栄養調査」（厚生労働省・平成28年）

性別でみると、BMI 20以下の割合は65歳以上の女性（28.9%）が65歳以上の男性（11.7%）より17.2ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、BMI 20以下の割合は女性80～84歳で39.0%、女性85歳以上で38.2%、女性75～79歳で35.2%と高くなっている。（図表1-5-52）

図表1-5-52 高齢者（65歳以上）のBMI－性・年代（5歳年齢階級）別



図表1-5-53 高齢者（65歳以上）の「低栄養傾向の者（BMI ≤ 20）」（全国の調査との参考比較）

	低栄養傾向の者 (BMI ≤ 20) (%)					
	男性65歳以上(計)	男性65～69歳	男性70～74歳	男性75～79歳	男性80～84歳	男性85歳以上
今回調査	11.7	5.5	12.7	14.3	9.4	26.7
全国	12.8	11.3	10.7	11.5	15.2	23.9
	低栄養傾向の者 (BMI ≤ 20) (%)					
	女性65歳以上(計)	女性65～69歳	女性70～74歳	女性75～79歳	女性80～84歳	女性85歳以上
今回調査	28.9	12.1	27.8	35.2	39.0	38.2
全国	22.0	21.7	18.1	21.7	20.7	34.3

(※) 全国の調査は「国民健康・栄養調査」（厚生労働省・平成28年）

(14) 食べ残しや食品の廃棄を減らす心がけ

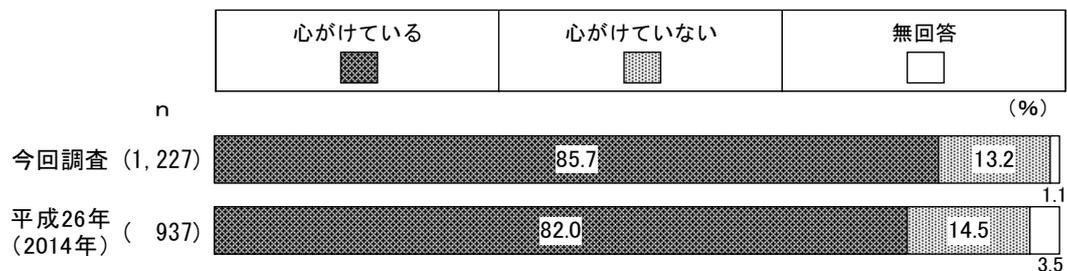
◎ 「心がけている」は85.7%

<前回82.0%>

問21 あなたは、食事の食べ残しや食品の廃棄を減らすことを心がけていますか。

(○は1つだけ)

図表 1-5-54 食べ残しや食品の廃棄を減らす心がけ (平成26年調査との比較)



食べ残しや食品の廃棄を減らす心がけは、「心がけている」が85.7%と高くなっている。「心がけていない」は13.2%となっている。

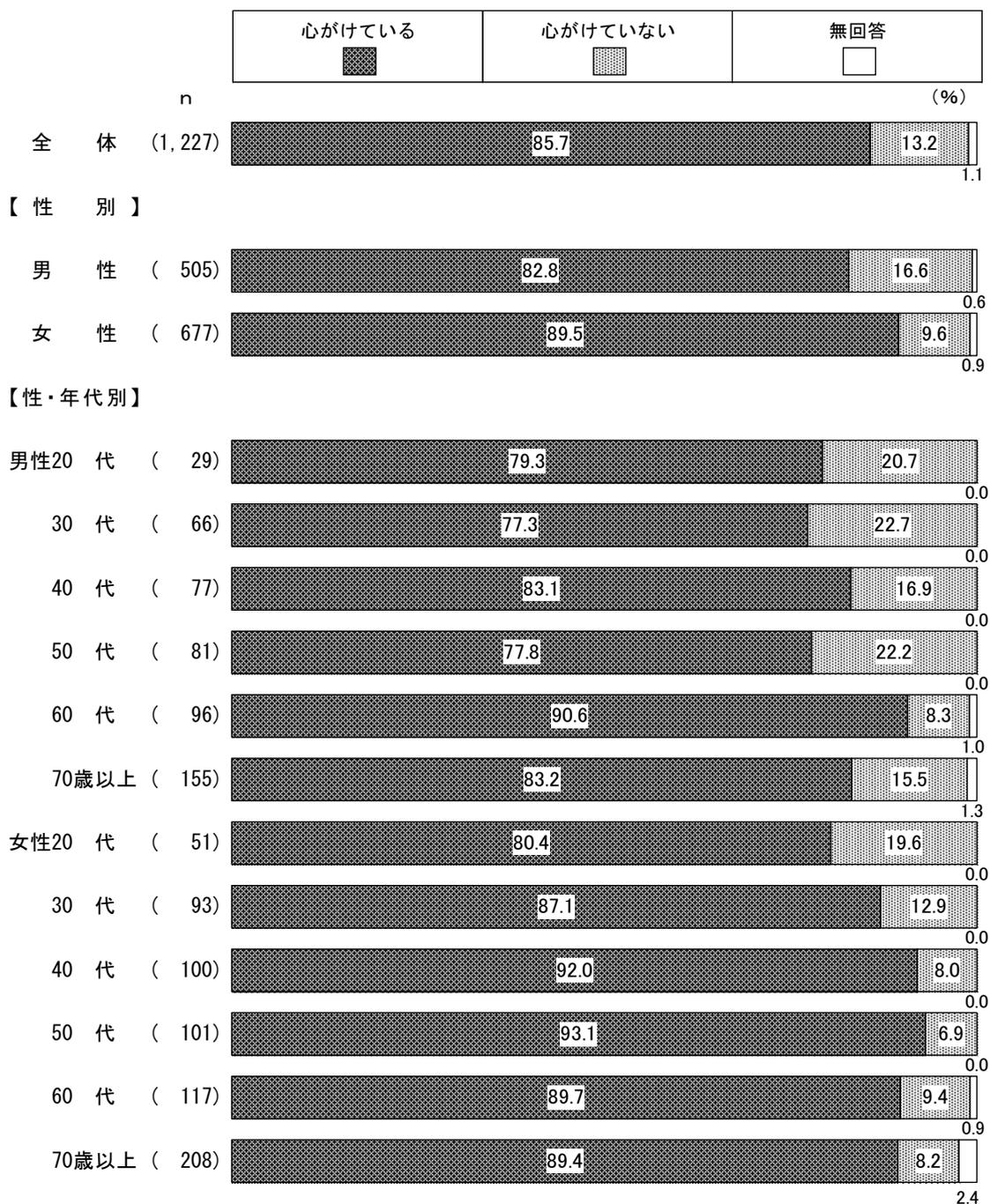
平成26年の調査結果と比較すると、「心がけている」が3.7ポイント増加している。

(図表 1-5-54)

性別で見ると、「心がけている」は女性（89.5%）が男性（82.8%）より6.7ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、「心がけている」は女性50代で93.1%、女性40代で92.0%、男性60代で90.6%と高くなっている。「心がけていない」は男性30代で22.7%、男性50代で22.2%、男性20代で20.7%と高くなっている。（図表1-5-55）

図表1-5-55 食べ残しや食品の廃棄を減らす心がけ—性・年代別



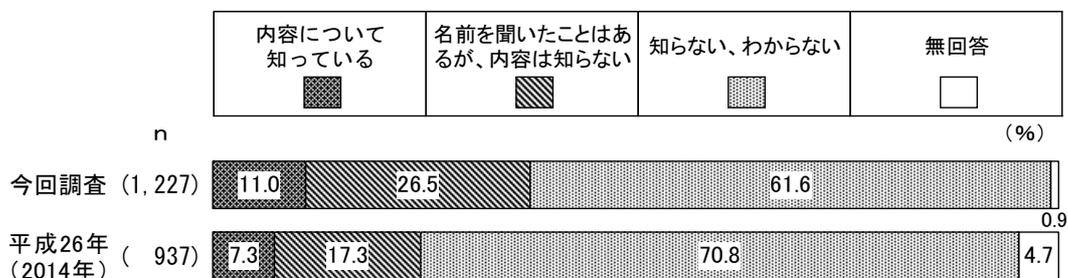
(15) 「かつしかの元気食堂」の認知度

◎ 「内容について知っている」は11.0%

<前回7.3%>

問22 あなたは、「かつしかの元気食堂」という言葉を知っていますか。(○は1つだけ)

図表 1-5-56 「かつしかの元気食堂」の認知度 (平成26年調査との比較)



「かつしかの元気食堂」のシンボルマーク



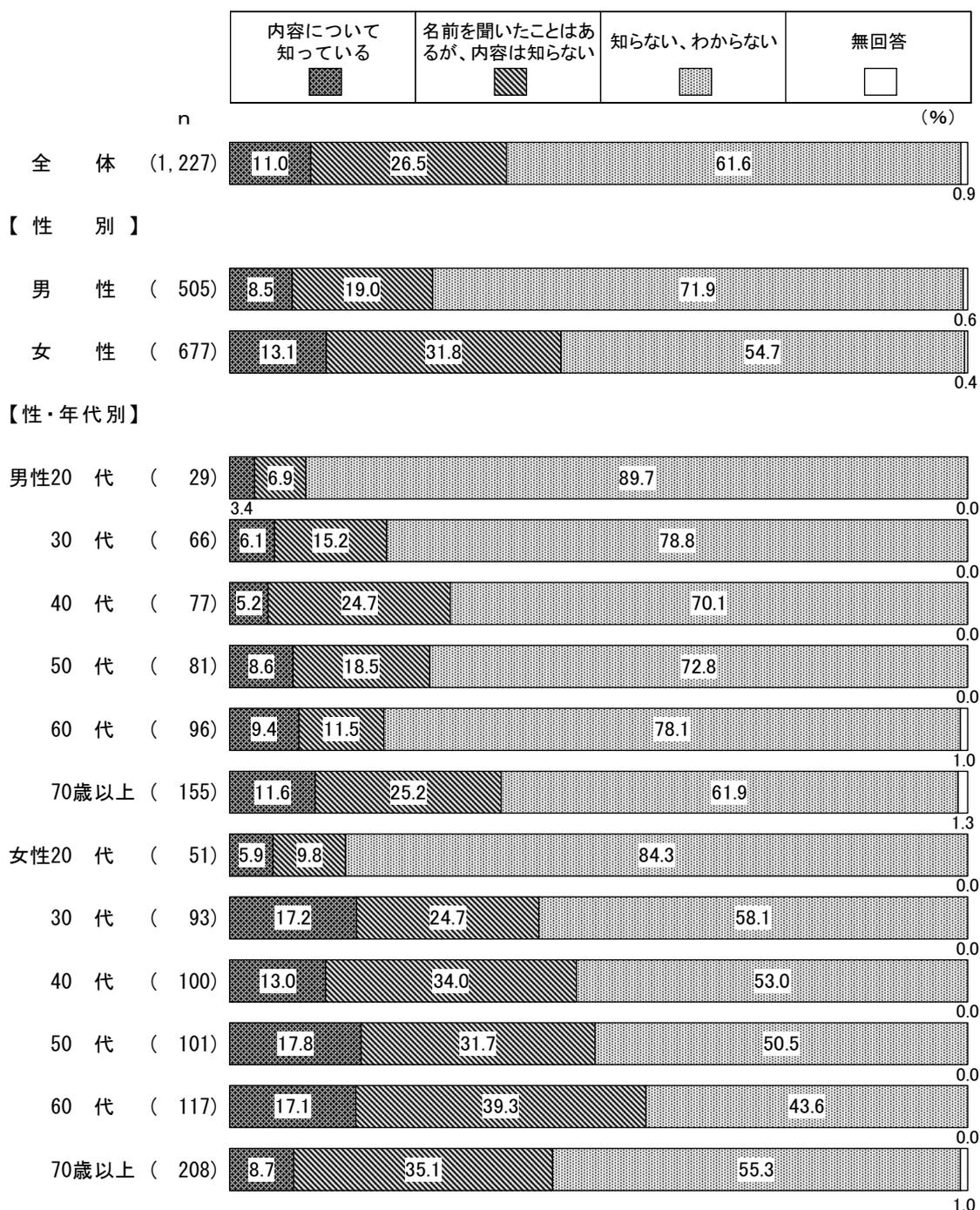
「かつしかの元気食堂」の認知度は、「内容について知っている」が11.0%となっている。「名前を聞いたことはあるが、内容は知らない」は26.5%、「知らない、わからない」は61.6%となっている。

平成26年の調査結果と比較すると、「内容について知っている」が3.7ポイント、「名前を聞いたことはあるが、内容は知らない」が9.2ポイント増加している。(図表 1-5-56)

性別でみると、「内容について知っている」は女性（13.1%）が男性（8.5%）より4.6ポイント高くなっている。「名前を聞いたことはあるが、内容は知らない」は女性（31.8%）が男性（19.0%）より12.8ポイント高くなっている。「知らない、わからない」は男性（71.9%）が女性（54.7%）より17.2ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、「内容について知っている」は女性50代で17.8%、女性30代で17.2%、女性60代で17.1%と高くなっている。「名前を聞いたことはあるが、内容は知らない」は女性60代で39.3%、女性70歳以上で35.1%、女性40代で34.0%と高くなっている。「知らない、わからない」は男性20代で89.7%、女性20代で84.3%と高くなっている。（図表1-5-57）

図表1-5-57 「かつしかの元気食堂」の認知度—性・年代別



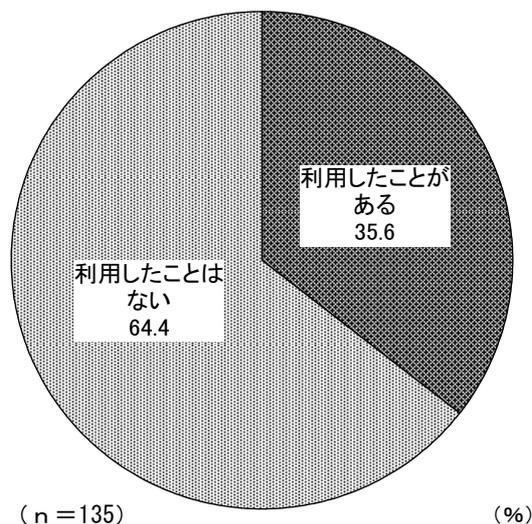
(15-1) 「かつしかの元気食堂」の利用状況

◎ 「利用したことがある」は35.6%

(問22で「内容について知っている」を選んだ方へ)

問22-1 「かつしかの元気食堂」を利用したことがありますか。(○は1つだけ)

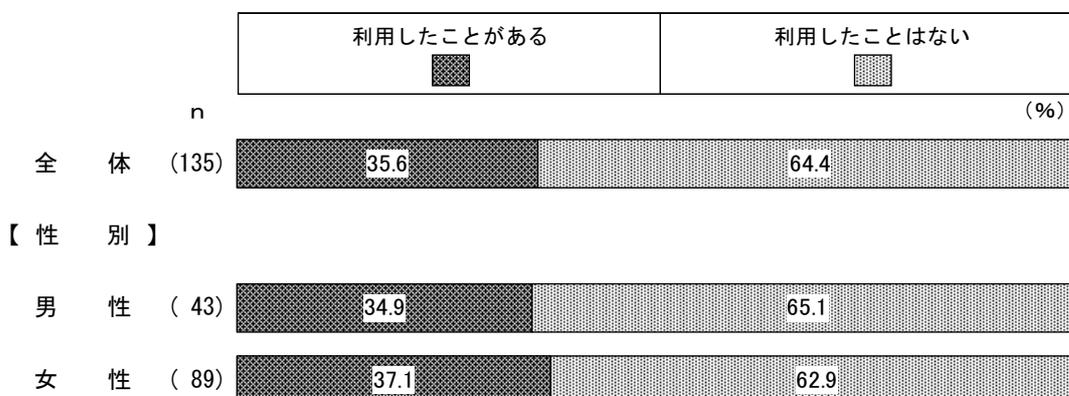
図表 1-5-58 「かつしかの元気食堂」の利用状況



「かつしかの元気食堂」の「内容について知っている」を選んだ方(135人)の、「かつしかの元気食堂」の利用状況は、「利用したことがある」が35.6%、「利用したことはない」が64.4%となっている。(図表 1-5-58)

性別でみると、大きな傾向の違いはみられない。(図表 1-5-59)

図表 1-5-59 「かつしかの元気食堂」の利用状況-性別



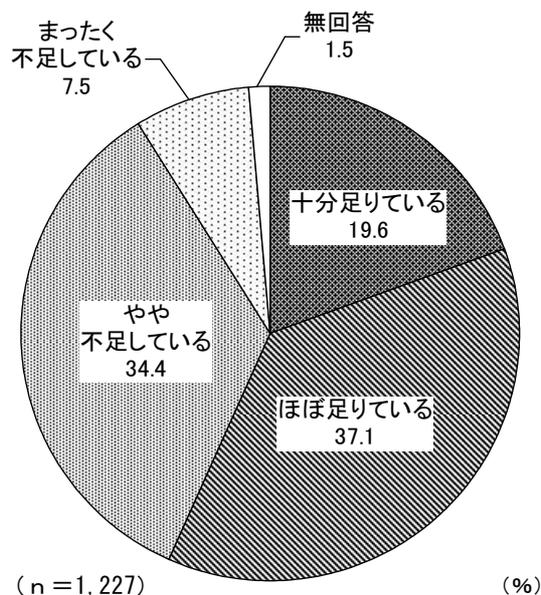
## 6 休養について

### (1) 睡眠の状況

◎『足りている』は56.7%

問23 あなたは、普段の睡眠時間は足りていますか。(○は1つだけ)

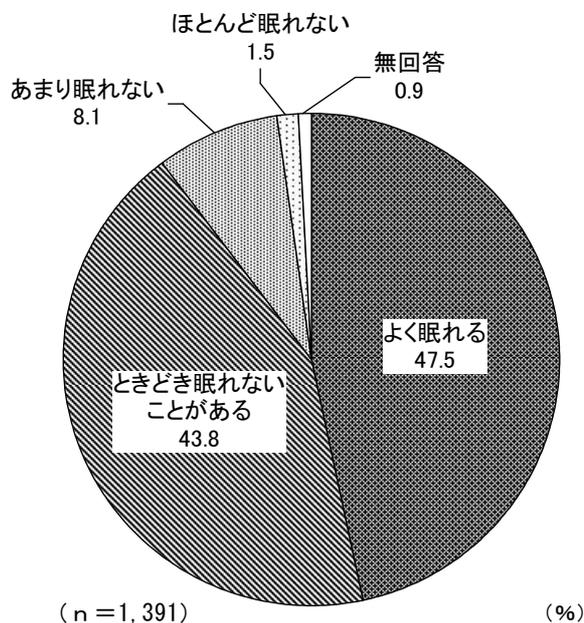
図表1-6-1 睡眠の状況



睡眠の状況は、「十分足りている」(19.6%)と「ほぼ足りている」(37.1%)を合わせた『足りている』が56.7%となっている。一方、「やや不足している」(34.4%)と「まったく不足している」(7.5%)を合わせた『不足している』は41.9%となっている。(図表1-6-1)

なお、平成24年調査では、「あなたは、眠れないことがありますか。」と質問していた。この結果を参考に掲載する。(図表1-6-2)

図表1-6-2 睡眠の状況 (平成24年調査の結果)

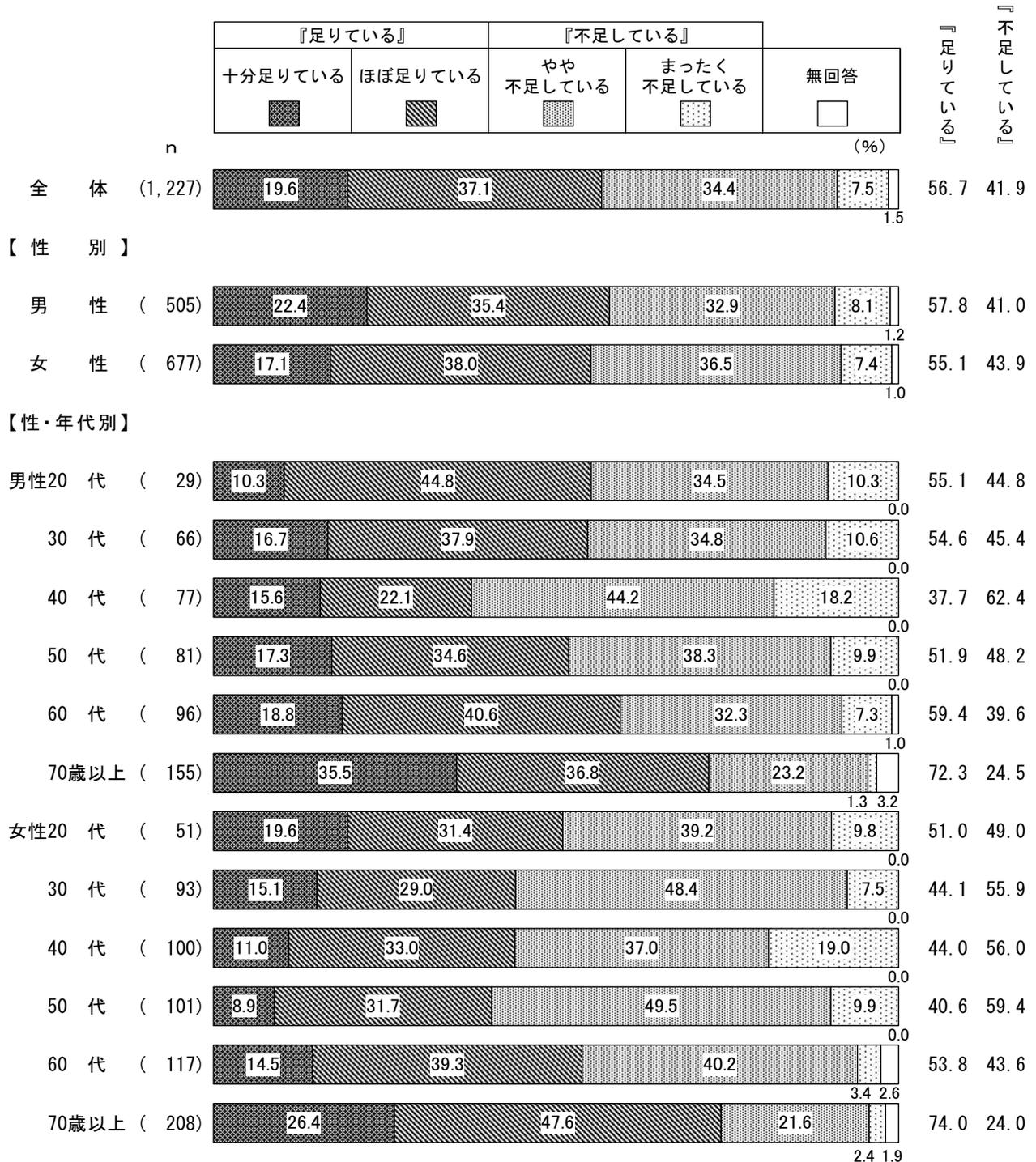


性別でみると、「十分足りている」は男性（22.4%）が女性（17.1%）より5.3ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、『足りている』は女性70歳以上で74.0%、男性70歳以上で72.3%と高くなっている。『不足している』は男性40代で62.4%、女性50代で59.4%と高くなっている。

(図表 1-6-3)

図表 1-6-3 睡眠の状況—性・年代別

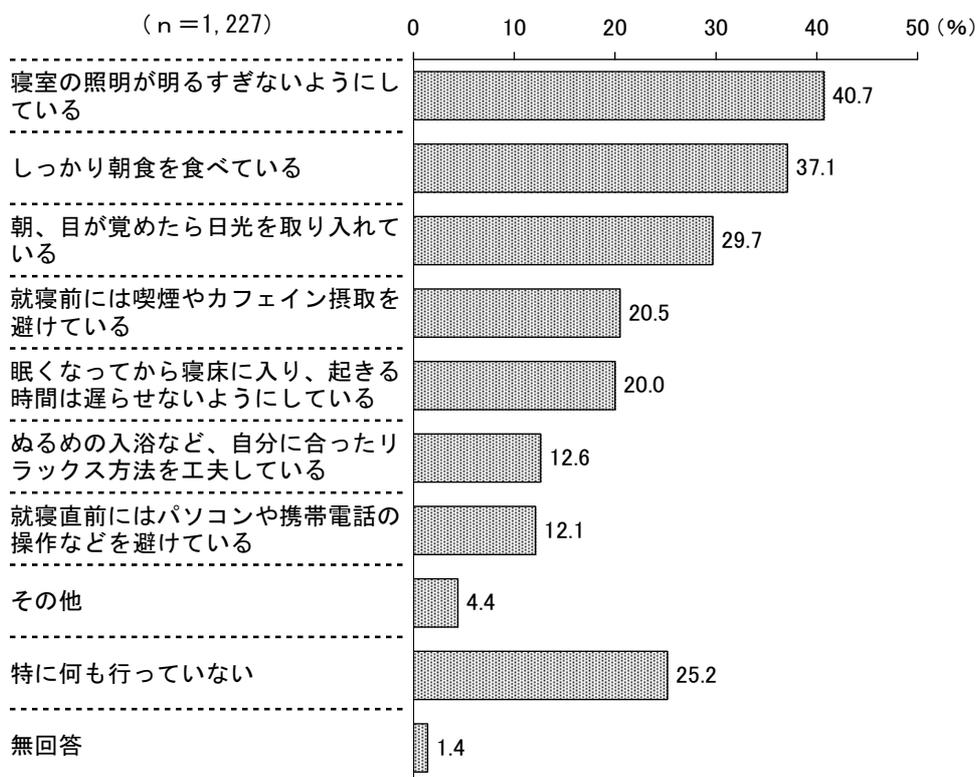


## (2) より充実した睡眠のために実行していること

◎「寝室の照明が明るすぎないようにしている」は40.7%

問24 より充実した睡眠のために、実行していることは何ですか。(〇はいくつでも)

図表 1-6-4 より充実した睡眠のために実行していること



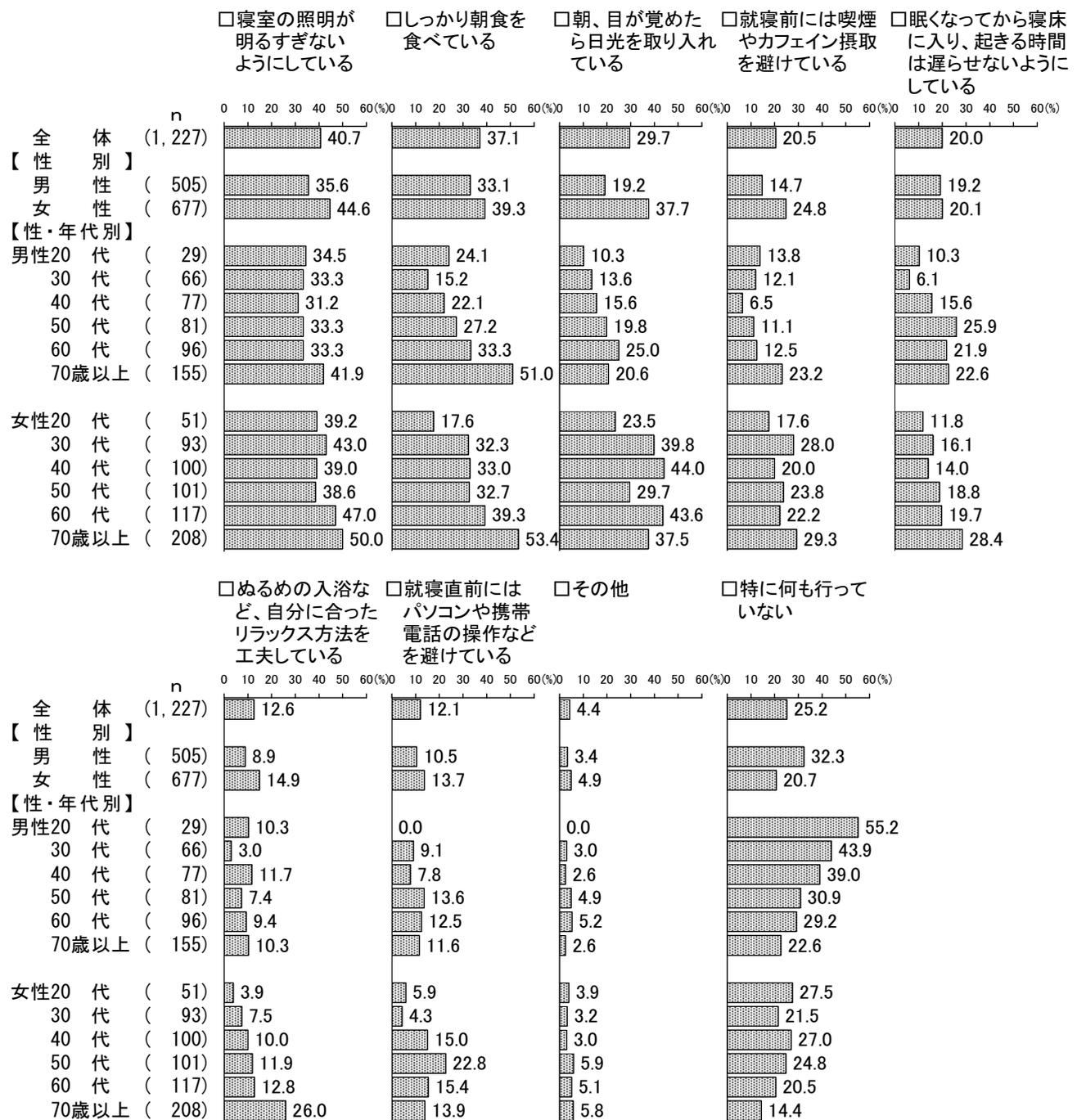
より充実した睡眠のために実行していることは、「寝室の照明が明るすぎないようにしている」が40.7%で最も高く、次いで「しっかり朝食を食べている」(37.1%)、「朝、目が覚めたら日光を取り入れている」(29.7%)、「就寝前には喫煙やカフェイン摂取を避けている」(20.5%)、「眠くなってから寢床に入り、起きる時間は遅らせないようにしている」(20.0%)などの順となっている。

(図表 1-6-4)

性別でみると、「寝室の照明が明るすぎないようにしている」は女性（44.6%）が男性（35.6%）より9.0ポイント高くなっている。「朝、目が覚めたら日光を取り入れている」は女性（37.7%）が男性（19.2%）より18.5ポイント高くなっている。「就寝前には喫煙やカフェイン摂取を避けている」は女性（24.8%）が男性（14.7%）より10.1ポイント高くなっている。「特に何も行ってない」は男性（32.3%）が女性（20.7%）より11.6ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、「寝室の照明が明るすぎないようにしている」は女性70歳以上で50.0%と高くなっている。「しっかり朝食を食べている」は女性70歳以上で53.4%、男性70歳以上で51.0%と高くなっている。「朝、目が覚めたら日光を取り入れている」は女性40代で44.0%、女性60代で43.6%と高くなっている。（図表1-6-5）

図表1-6-5 より充実した睡眠のために実行していること一性・年代別

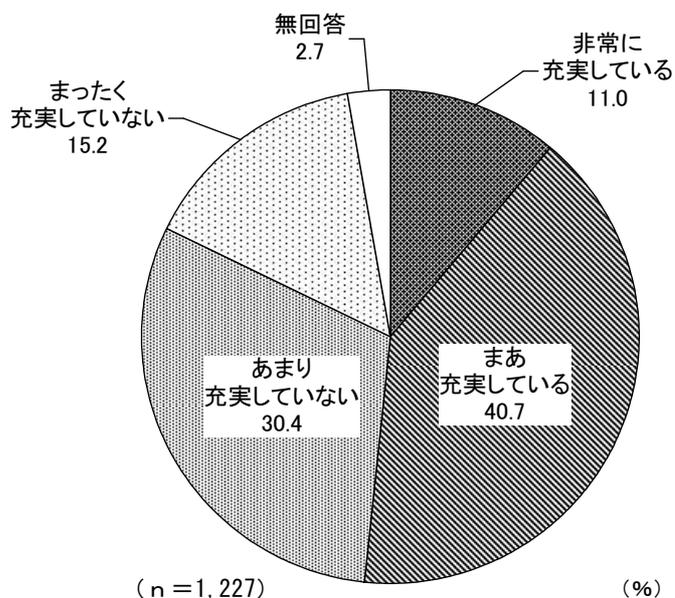


### (3) 余暇の過ごし方は充実しているか

◎『充実している』は51.7%

問25 あなたは、体を休めること以外に、趣味や運動、スポーツ、学習活動、地域活動などの余暇の過ごし方は充実していますか。(○は1つだけ)

図表 1-6-6 余暇の過ごし方は充実しているか



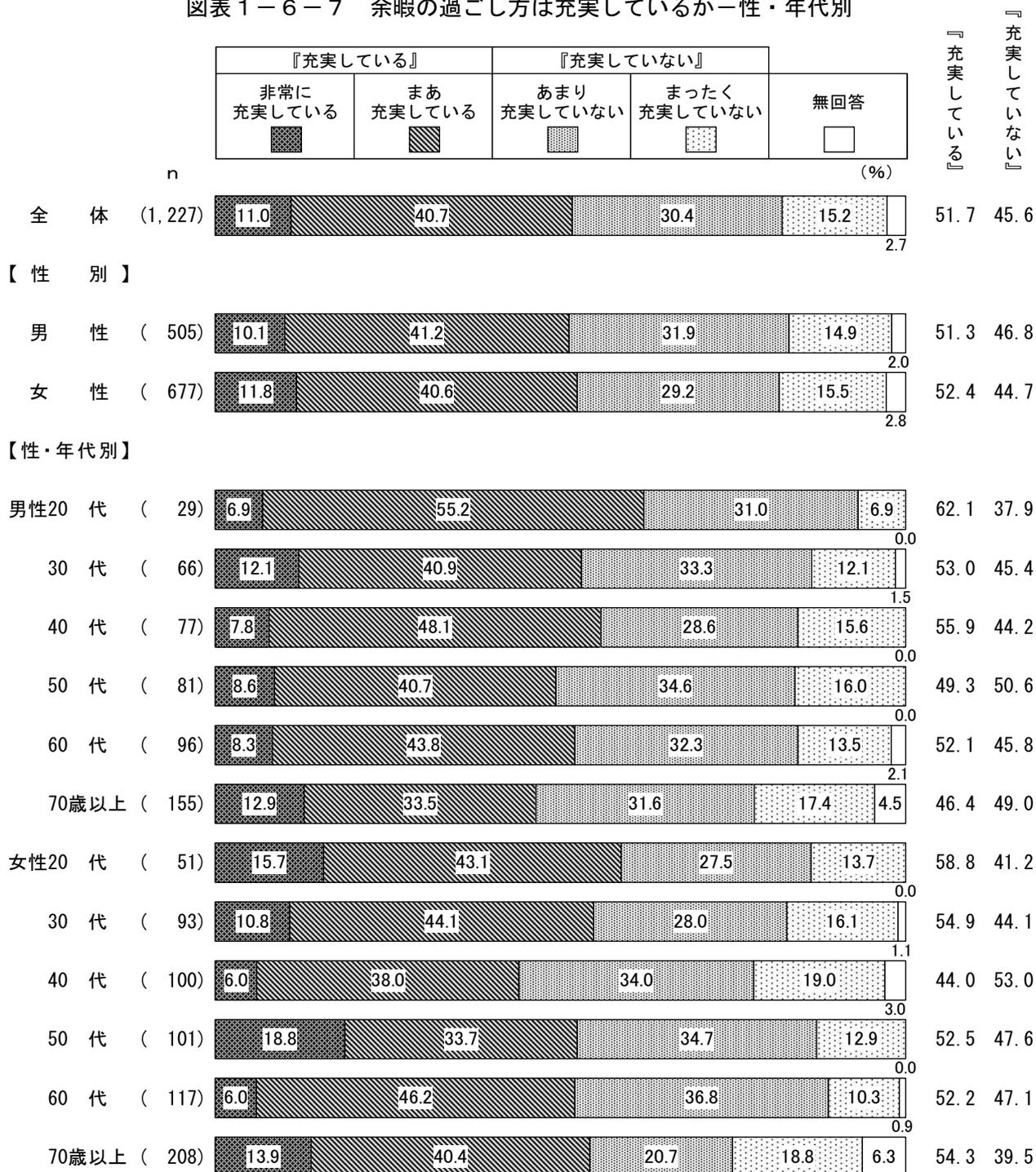
余暇の過ごし方は充実しているかについては、「非常に充実している」(11.0%)と「まあ充実している」(40.7%)を合わせた『充実している』が51.7%となっている。一方、「あまり充実していない」(30.4%)と「まったく充実していない」(15.2%)を合わせた『充実していない』は45.6%となっている。(図表1-6-6)

性別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

性・年代別でみると、『充実している』は男性20代で62.1%、女性20代で58.8%と高くなっている。『充実していない』は女性40代で53.0%、男性50代で50.6%と高くなっている。

(図表 1-6-7)

図表 1-6-7 余暇の過ごし方は充実しているかー性・年代別



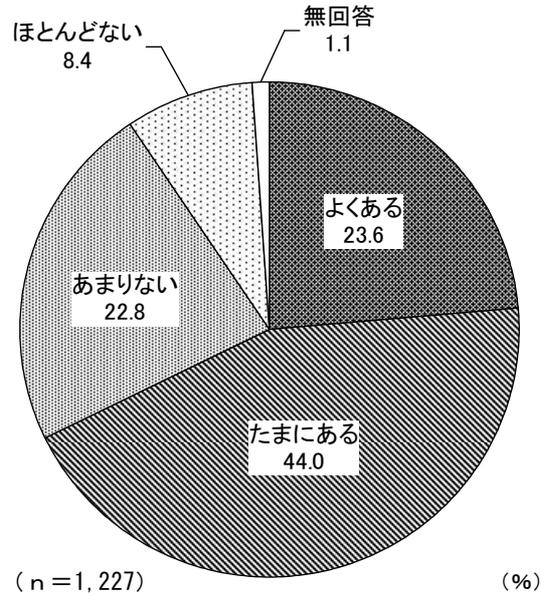
## 7 こころの健康について

### (1) 悩みやストレスの有無

◎『ある』は67.6%

問26 あなたは、毎日の生活の中で、悩みやストレスがありますか。(○は1つだけ)

図表1-7-1 悩みやストレスの有無

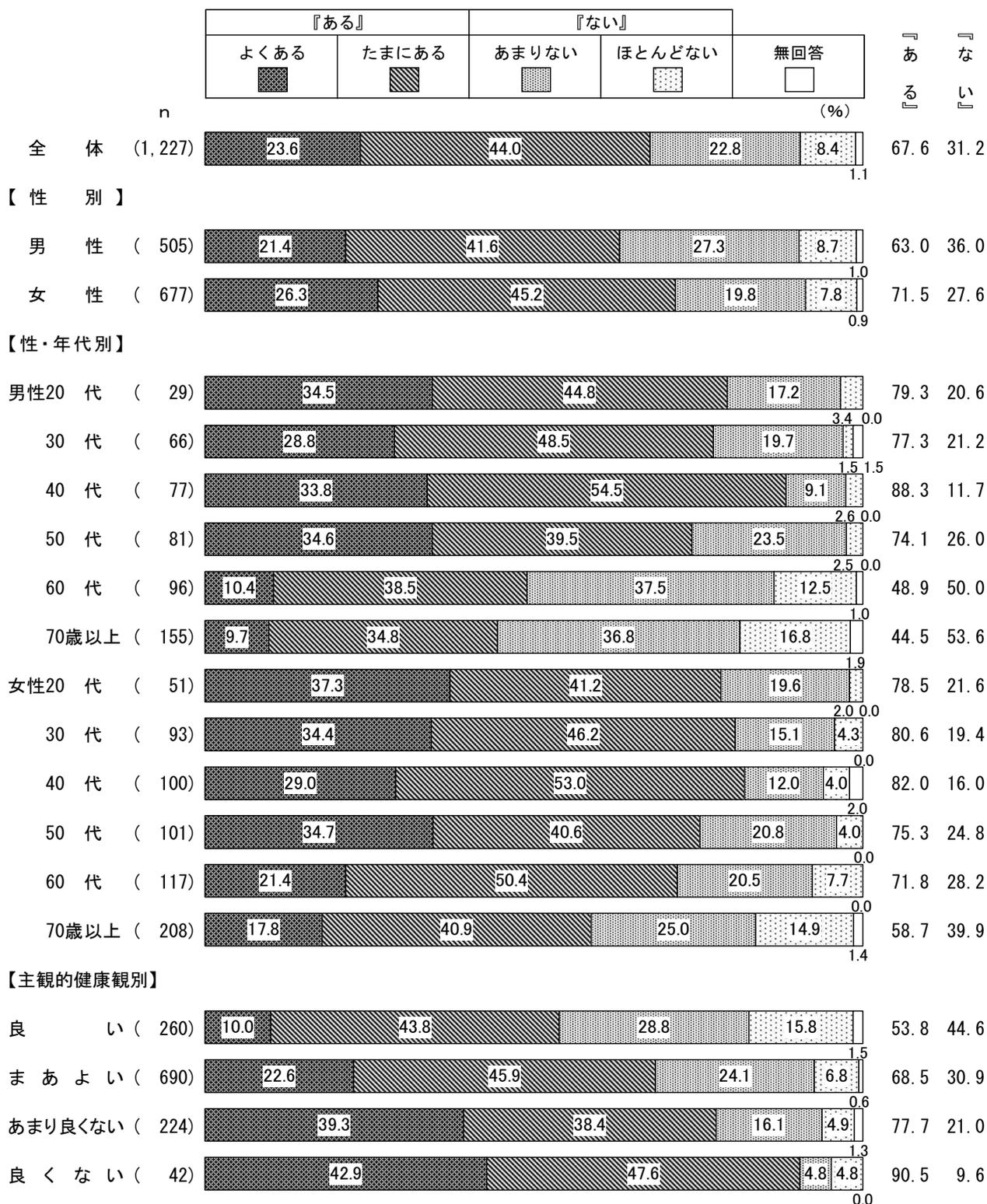


悩みやストレスの有無は、「よくある」(23.6%)と「たまにある」(44.0%)を合わせた『ある』が67.6%と高くなっている。一方、「あまりない」(22.8%)と「ほとんどない」(8.4%)を合わせた『ない』は31.2%となっている。(図表1-7-1)

性別でみると、『ある』は女性（71.5%）が男性（63.0%）より8.5ポイント高くなっている。  
 性・年代別でみると、『ある』は男性40代で88.3%、女性40代で82.0%、女性30代で80.6%と高くなっている。『ない』は男性70歳以上で53.6%、男性60代で50.0%と高くなっている。

主観的健康観別でみると、『ある』は主観的健康観が悪化するにつれて割合が高くなる傾向にあり、主観的健康観が良くない人では90.5%と高くなっている。（図表1-7-2）

図表1-7-2 悩みやストレスの有無－性・年代別、主観的健康観別

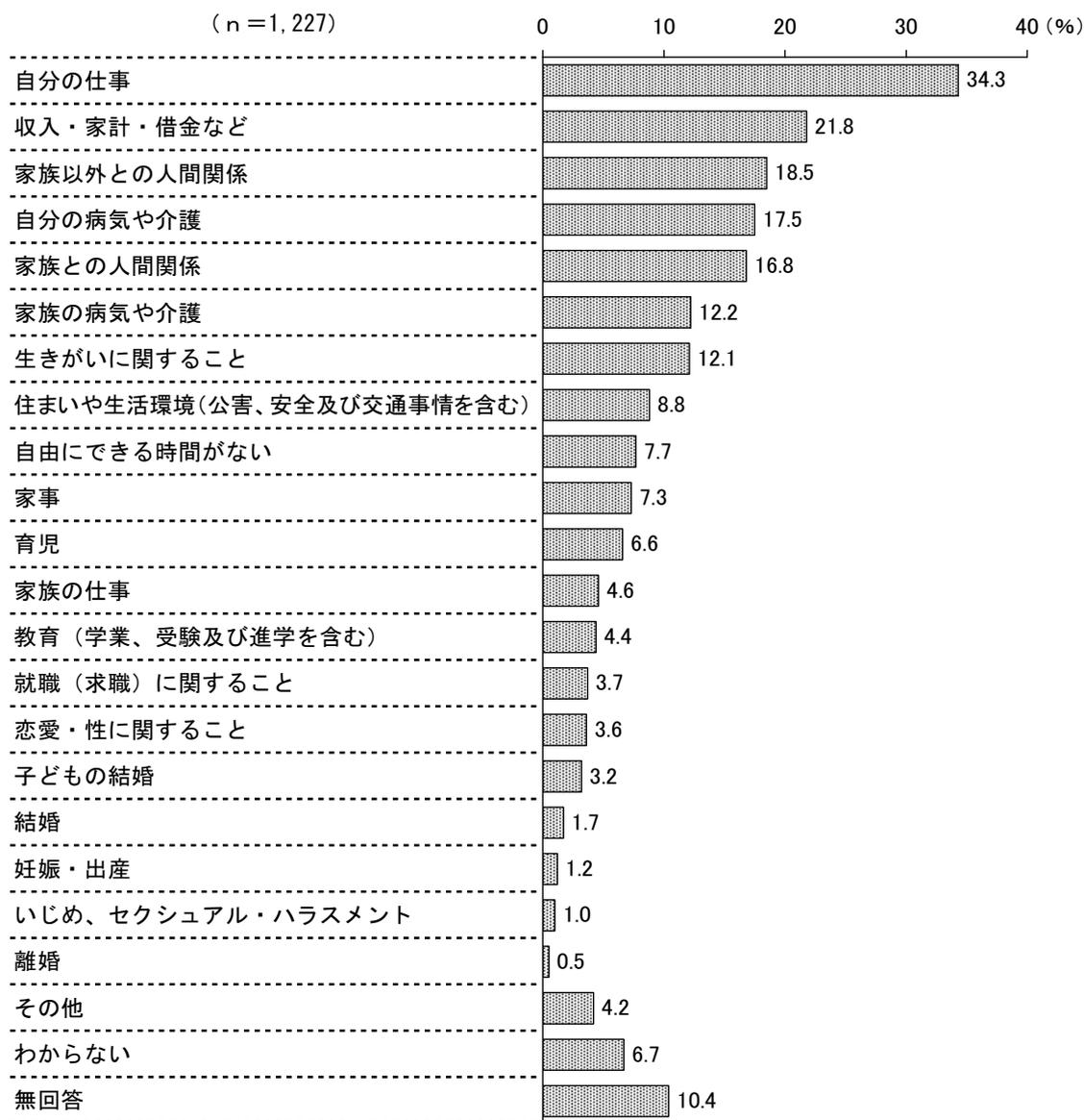


## (2) 悩みやストレスの原因

◎ 「自分の仕事」は34.3%

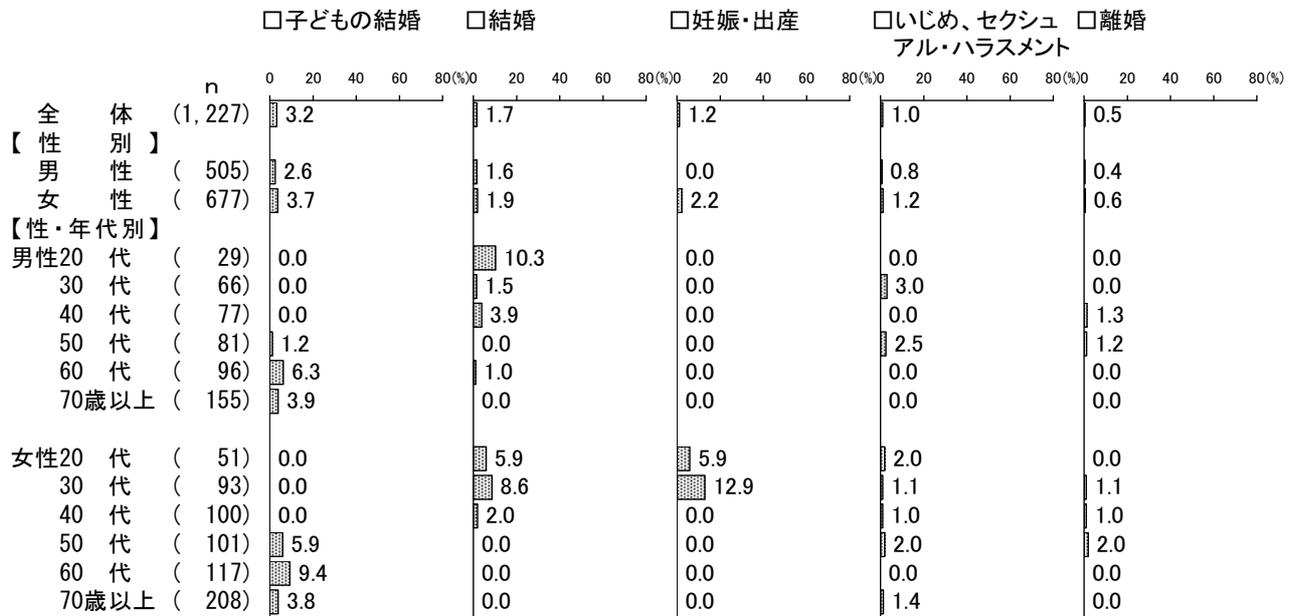
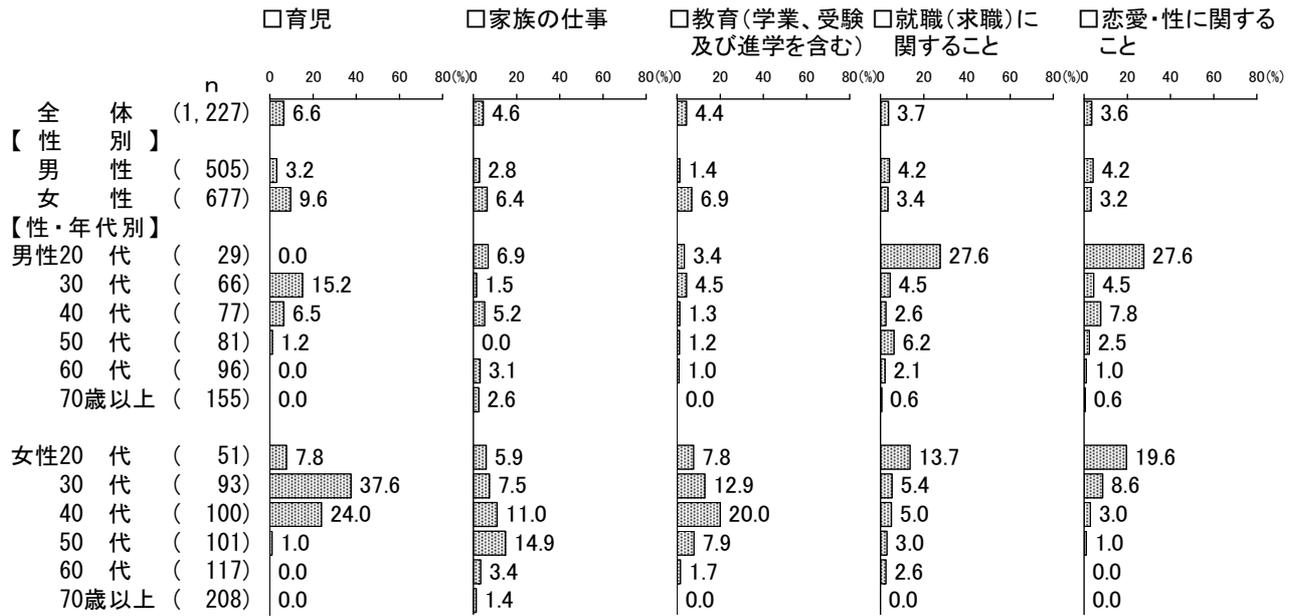
問27 あなたの悩みやストレスの原因は何ですか。(〇はいくつでも)

図表 1-7-3 悩みやストレスの原因



悩みやストレスの原因は、「自分の仕事」が34.3%で最も高く、次いで「収入・家計・借金など」(21.8%)、「家族以外との人間関係」(18.5%)、「自分の病気や介護」(17.5%)、「家族との人間関係」(16.8%)などの順となっている。(図表 1-7-3)





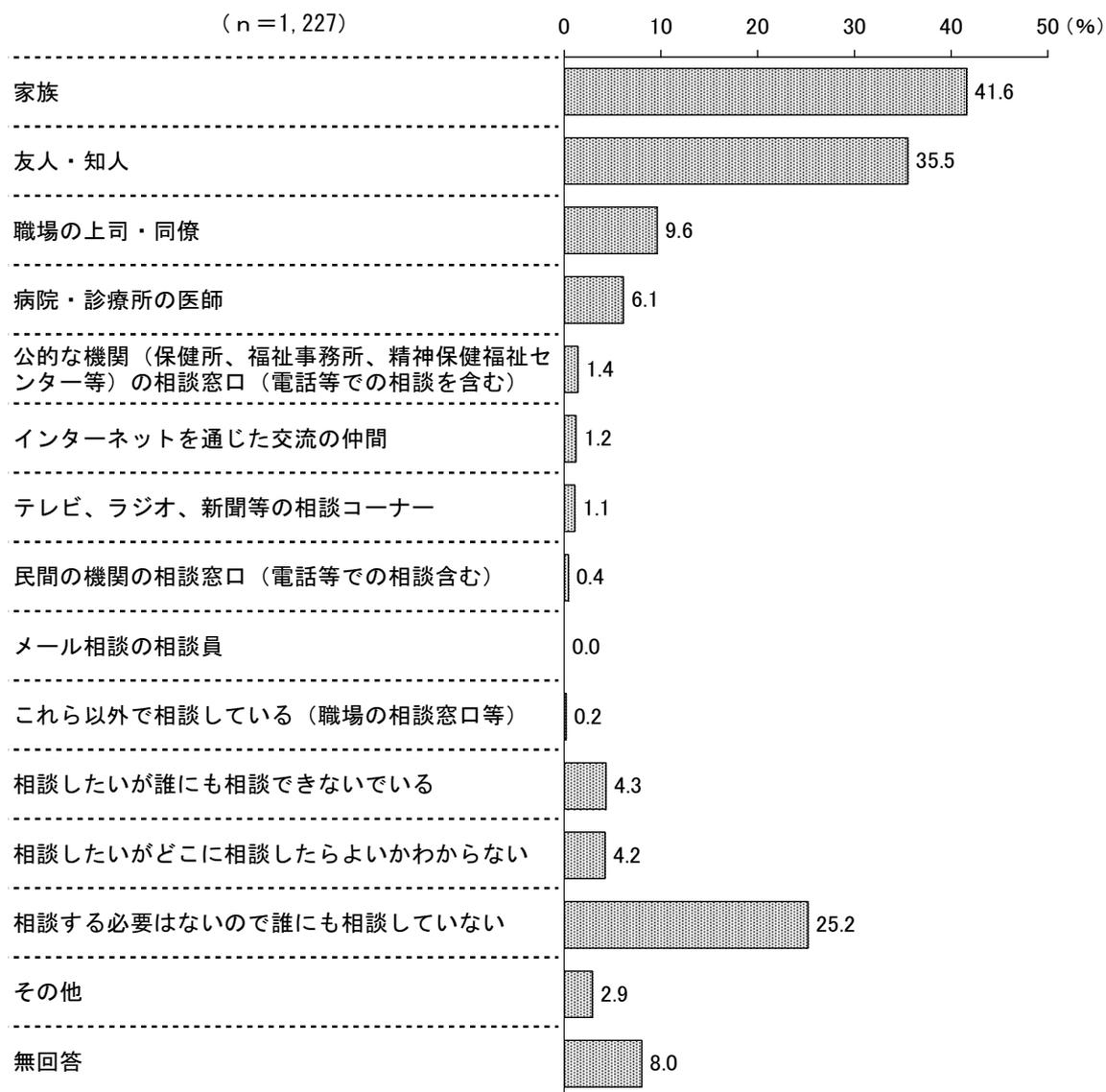
### (3) 悩みやストレスの相談相手

◎ 「家族」は41.6%

問28 悩みやストレスを、どのように相談していますか。(〇はいくつでも)

図表 1-7-5 悩みやストレスの相談相手

(n=1,227)



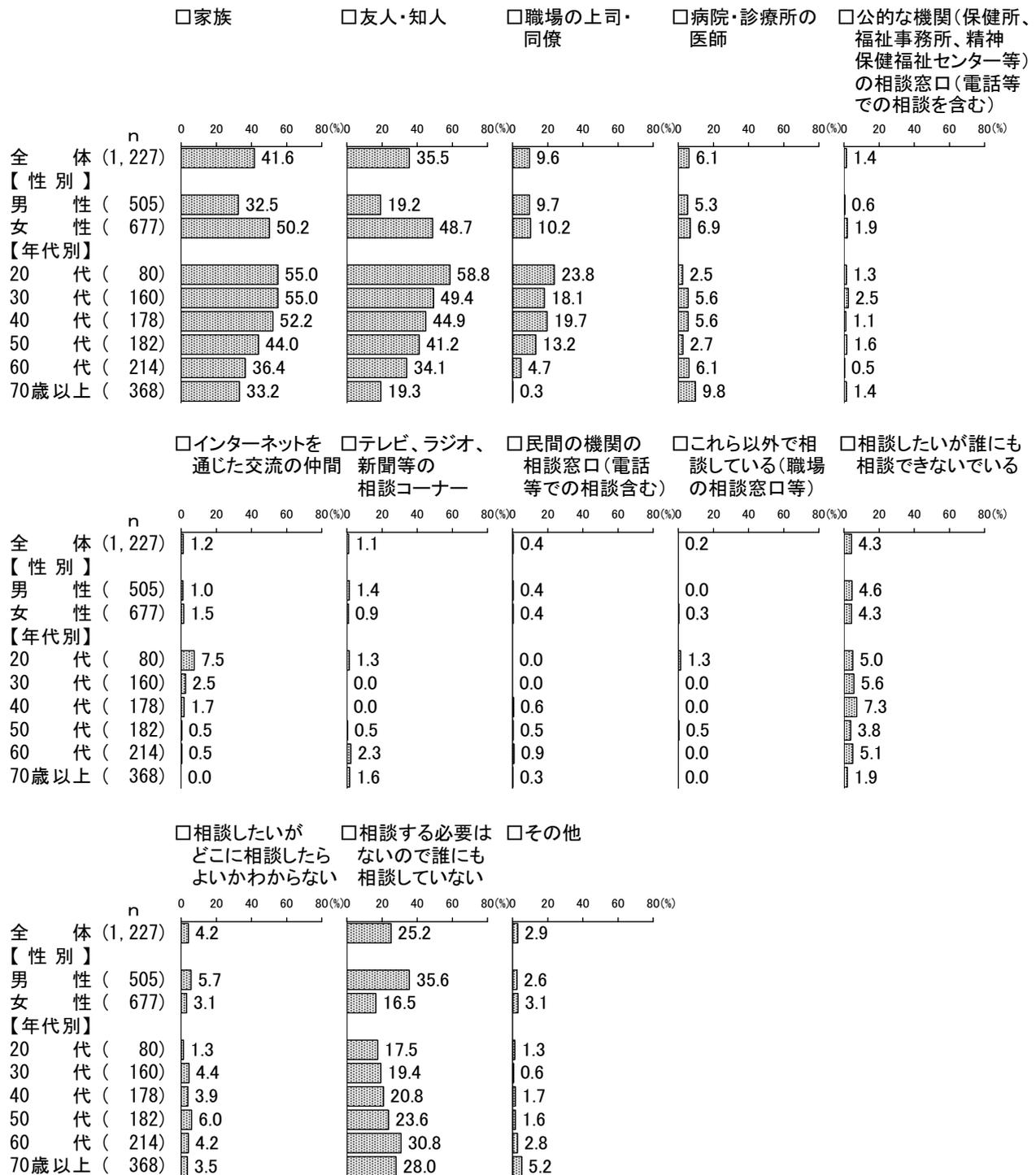
悩みやストレスの相談相手は、「家族」が41.6%で最も高く、次いで「友人・知人」(35.5%)、「職場の上司・同僚」(9.6%)、「病院・診療所の医師」(6.1%)などの順となっている。

(図表 1-7-5)

性別でみると、「家族」は女性（50.2%）が男性（32.5%）より17.7ポイント高くなっている。「友人・知人」は女性（48.7%）が男性（19.2%）より29.5ポイント高くなっている。「相談する必要はないので誰にも相談していない」は男性（35.6%）が女性（16.5%）より19.1ポイント高くなっている。

年代別でみると、「家族」は20代と30代でともに55.0%、40代で52.2%と高くなっている。「友人・知人」は20代で58.8%、30代で49.4%と高くなっている。「職場の上司・同僚」は20代で23.8%と高くなっている。（図表1-7-6）

図表1-7-6 悩みやストレスの相談相手—性別、年代別



## 8 地域や社会とのつながり（ソーシャルネットワーク）

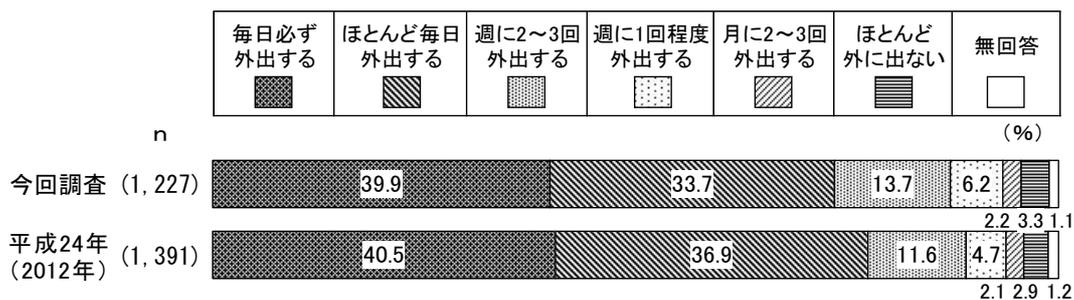
### （1）外出頻度

◎ 「毎日必ず外出する」は39.9%

<前回40.5%>

問29 あなたは、ふだん（仕事のある日も含めて）外出することがありますか。（○は1つだけ）  
 （※）「外出」には家のまわりの散歩など近所も含まれます。

図表 1－8－1 外出頻度（平成24年調査との比較）



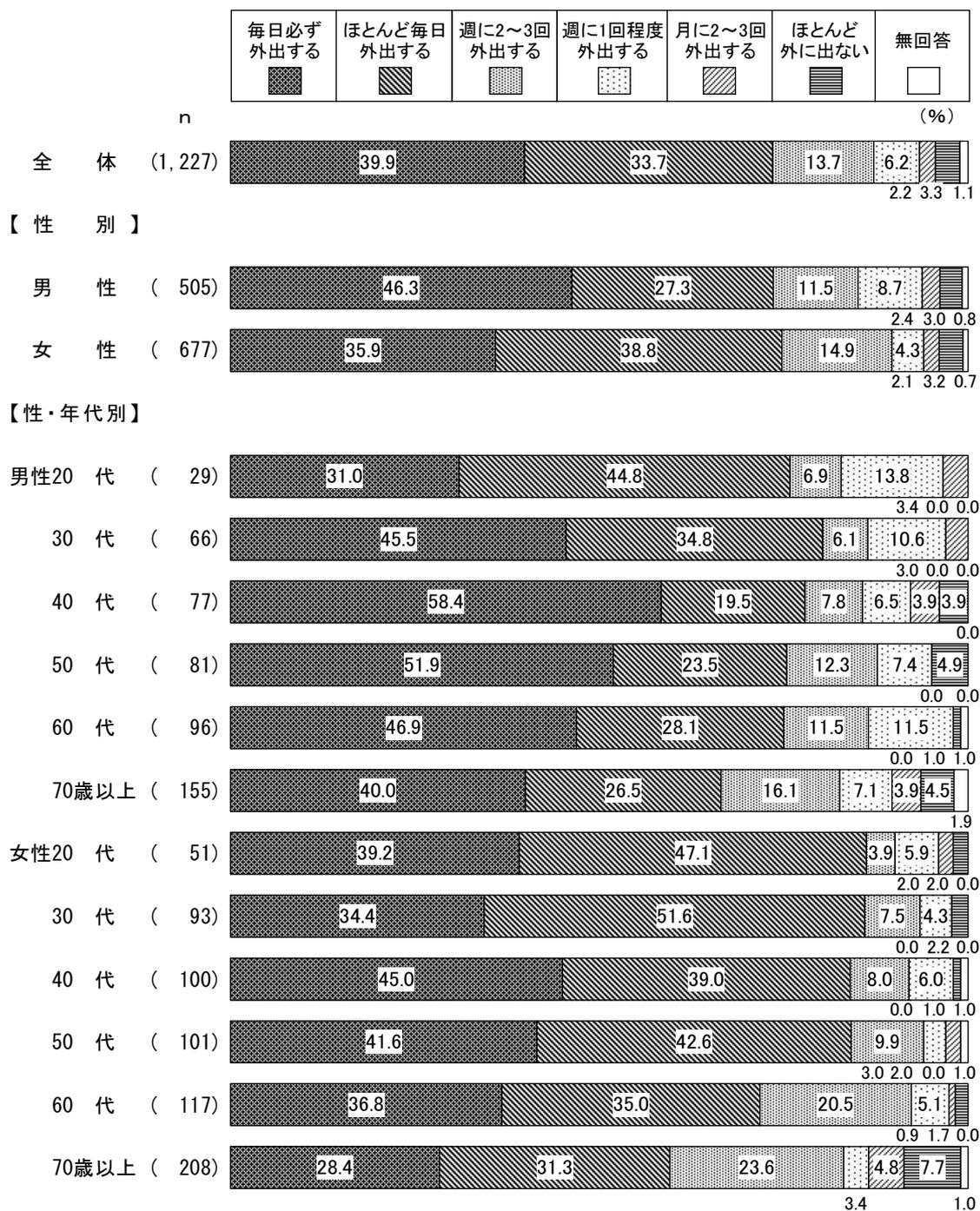
外出頻度は、「毎日必ず外出する」が39.9%で最も高く、次いで「ほとんど毎日外出する」(33.7%)、「週に2～3回外出する」(13.7%)、「週に1回程度外出する」(6.2%)などの順となっている。平成24年の調査結果と比較すると、大きな傾向の違いはみられない。(図表1－8－1)

性別でみると、「毎日必ず外出する」は男性（46.3%）が女性（35.9%）より10.4ポイント高くなっている。「ほとんど毎日外出する」は女性（38.8%）が男性（27.3%）より11.5ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、「毎日必ず外出する」は男性40代で58.4%、男性50代で51.9%と高くなっている。「ほとんど毎日外出する」は女性30代で51.6%、女性20代で47.1%と高くなっている。「週に2～3回外出する」は女性70歳以上で23.6%、女性60代で20.5%と高くなっている。

(図表1-8-2)

図表1-8-2 外出頻度-性・年代別



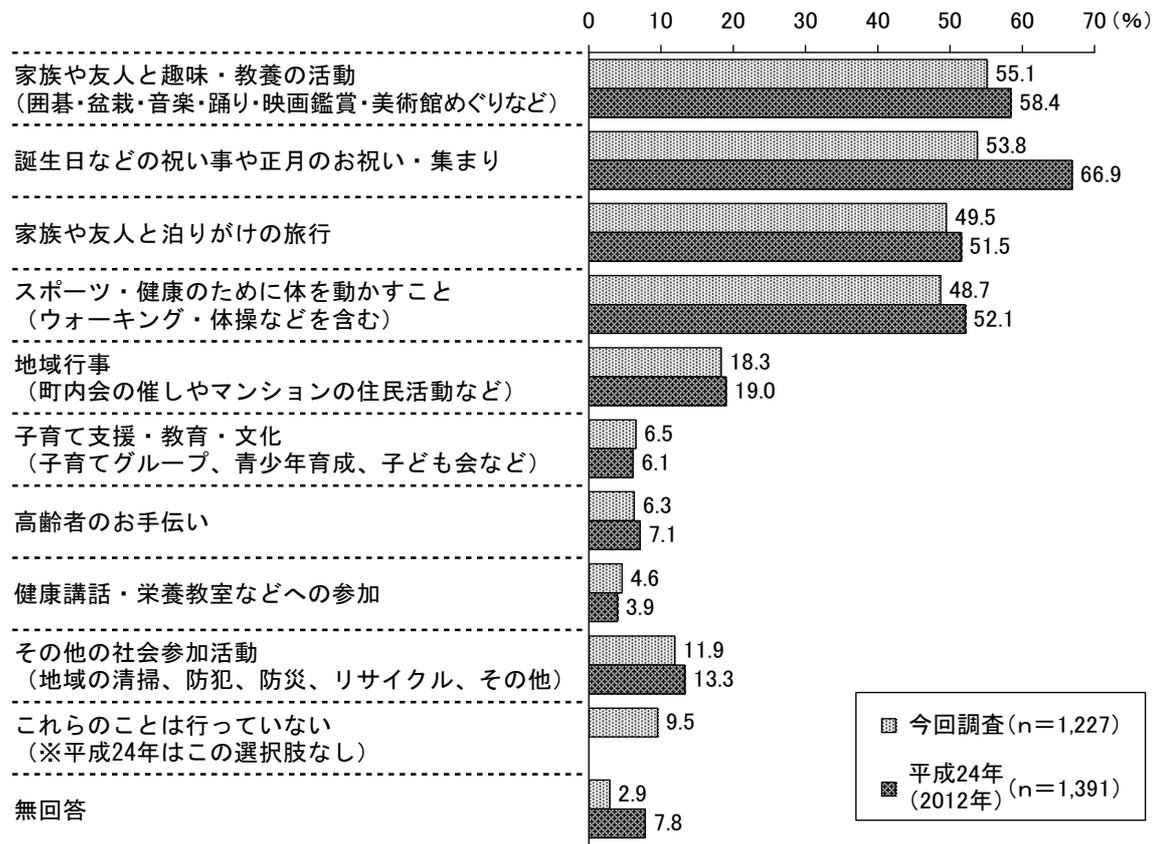
(2) 参加した行事

◎ 「家族や友人と趣味・教養の活動」は55.1%

<前回58.4%>

問30 あなたはこの1年間に、次のことを行いましたか。(〇はいくつでも)

図表 1-8-3 参加した行事 (平成24年調査との比較)



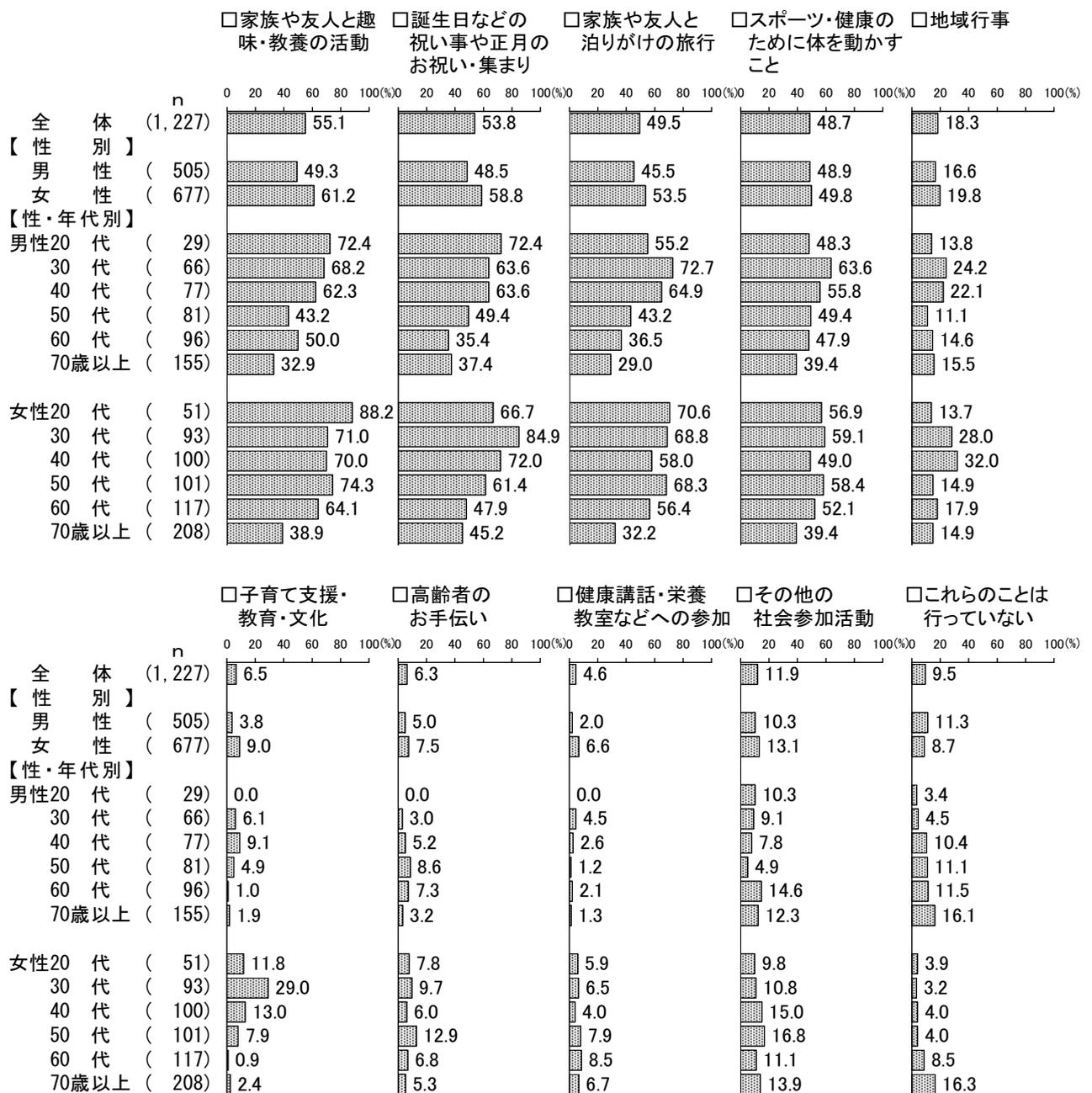
この1年間に参加した行事は、「家族や友人と趣味・教養の活動（囲碁・盆栽・音楽・踊り・映画鑑賞・美術館めぐりなど）」が55.1%で最も高く、次いで「誕生日などの祝い事や正月のお祝い・集まり」（53.8%）、「家族や友人と泊りがけの旅行」（49.5%）、「スポーツ・健康のために体を動かすこと（ウォーキング・体操などを含む）」（48.7%）、「地域行事（町内会の催しやマンションの住民活動など）」（18.3%）などの順となっている。

平成24年の調査結果と比較すると、「誕生日などの祝い事や正月のお祝い・集まり」が13.1ポイント減少している。（図表 1-8-3）

性別でみると、「家族や友人と趣味・教養の活動」は女性（61.2%）が男性（49.3%）より11.9ポイント高くなっている。「誕生日などの祝い事や正月のお祝い・集まり」は女性（58.8%）が男性（48.5%）より10.3ポイント高くなっている。「家族や友人と泊りがけの旅行」は女性（53.5%）が男性（45.5%）より8.0ポイント高くなっている。

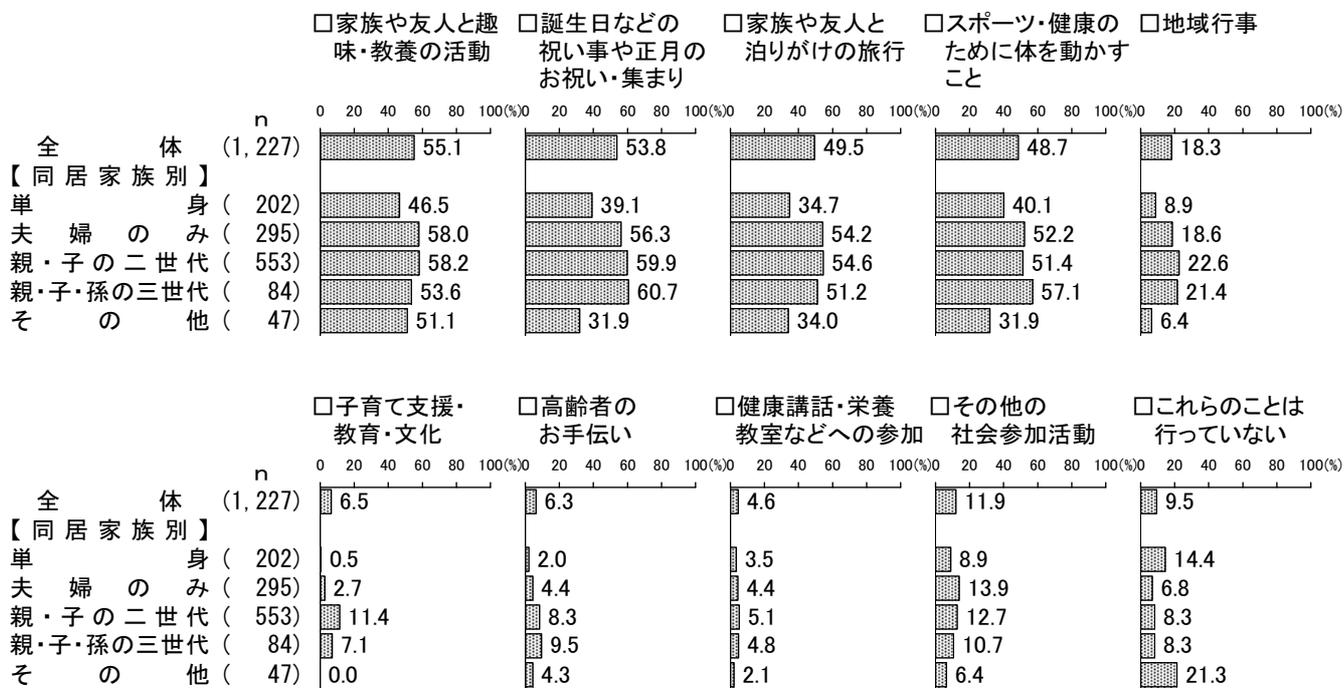
性・年代別でみると、「家族や友人と趣味・教養の活動」は女性20代で88.2%と高くなっている。「誕生日などの祝い事や正月のお祝い・集まり」は女性30代で84.9%、男性20代で72.4%、女性40代で72.0%と高くなっている。「家族や友人と泊りがけの旅行」は男性30代で72.7%、女性20代で70.6%と高くなっている。「スポーツ・健康のために体を動かすこと」は男性30代で63.6%と高くなっている。「地域行事」は女性40代で32.0%と高くなっている。「子育て支援・教育・文化」は女性30代で29.0%と高くなっている。（図表1-8-4）

図表1-8-4 参加した行事－性・年代別



同居家族別でみると、「家族や友人と趣味・教養の活動」、「誕生日などの祝い事や正月のお祝い・集まり」、「家族や友人と泊りがけの旅行」、「スポーツ・健康のために体を動かすこと」、「地域行事」の上位5項目は、夫婦のみ、親・子の二世帯、親・子・孫の三世帯に比べて、単身では割合が低くなっている。(図表1-8-5)

図表1-8-5 参加した行事－同居家族別



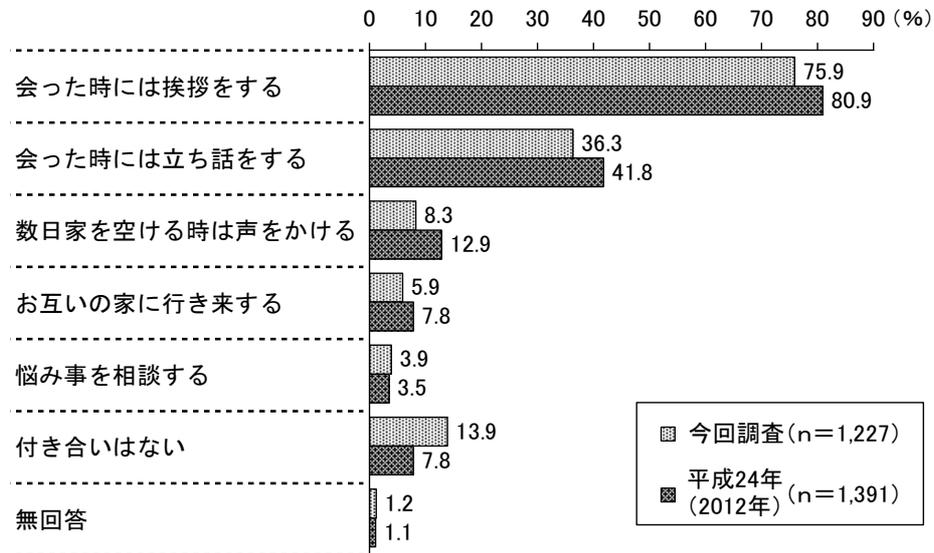
### (3) ご近所との関係

◎ 「会った時には挨拶をする」は75.9%

<前回80.9%>

問31 あなたは、ご近所の方とはどのようにお付き合いをしていますか。(〇はいくつでも)

図表 1-8-6 ご近所との関係 (平成24年調査との比較)



ご近所との関係は、「会った時には挨拶をする」が75.9%で最も高く、次いで「会った時には立ち話をする」(36.3%)、「数日家を空ける時は声をかける」(8.3%)などの順となっている。

平成24年の調査結果と比較すると、「会った時には立ち話をする」が5.5ポイント、「会った時には挨拶をする」が5.0ポイント、「数日家を空ける時は声をかける」が4.6ポイント減少している。一方、「付き合いはない」が6.1ポイント増加している。(図表1-8-6)



(4) 親族付き合い

◎ 「正月やお盆などの年中行事のときに会う」は21.8%

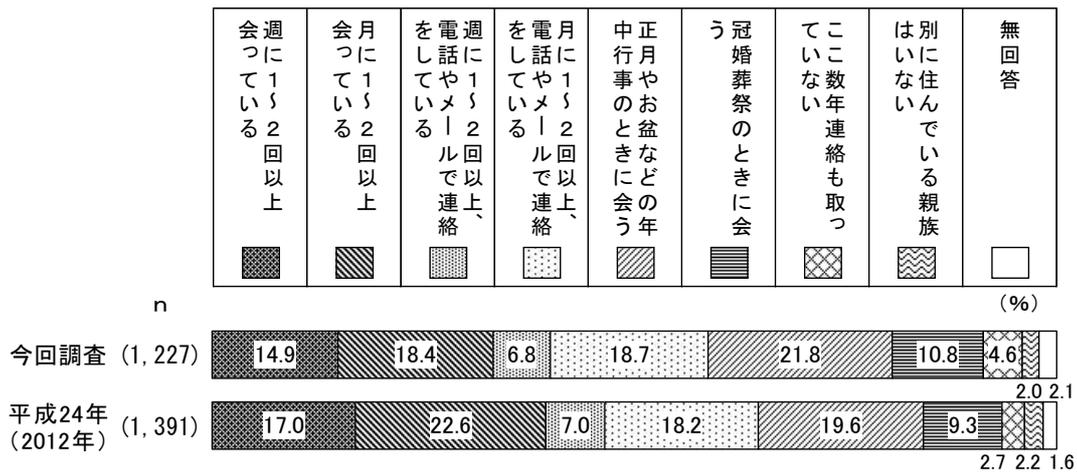
<前回19.6%>

問32 あなたは、別に住んでいる親族の方とはどのようにお付き合いされていますか。

(○は1つだけ)

(※) 一番親しくお付き合いしている親族の方との関係をお書きください。

図表 1-8-8 親族付き合い (平成24年調査との比較)



親族付き合いは、「正月やお盆などの年中行事のときに会う」が21.8%で最も高く、次いで「月に1〜2回以上、電話やメールで連絡をしている」(18.7%)、「月に1〜2回以上会っている」(18.4%)、「週に1〜2回以上会っている」(14.9%)、「冠婚葬祭のときに会う」(10.8%)などの順となっている。

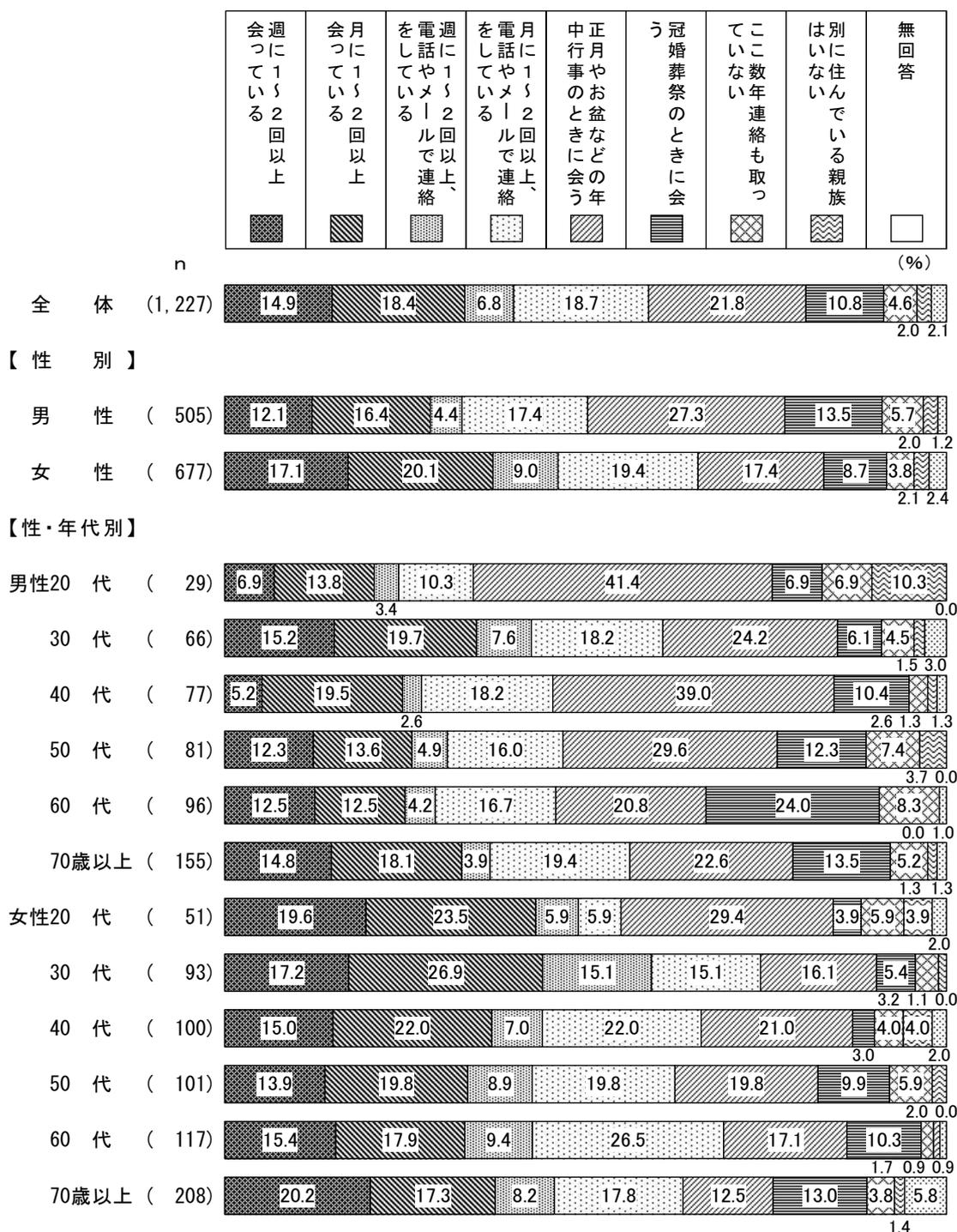
平成24年の調査結果と比較すると、「月に1〜2回以上会っている」が4.2ポイント減少している。

(図表 1-8-8)

性別でみると、「週に1～2回以上会っている」は女性（17.1%）が男性（12.1%）より5.0ポイント高くなっている。「週に1～2回以上、電話やメールで連絡をしている」は女性（9.0%）が男性（4.4%）より4.6ポイント高くなっている。「正月やお盆などの年中行事のときに会う」は男性（27.3%）が女性（17.4%）より9.9ポイント高くなっている。「冠婚葬祭のときに会う」は男性（13.5%）が女性（8.7%）より4.8ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、「月に1～2回以上会っている」は女性30代で26.9%と高くなっている。「正月やお盆などの年中行事のときに会う」は男性20代で41.4%、男性40代で39.0%と高くなっている。「冠婚葬祭のときに会う」は男性60代で24.0%と高くなっている。（図表1-8-9）

図表1-8-9 親族付き合い—性・年代別





## C 日常生活などについて



## 9 喫煙について

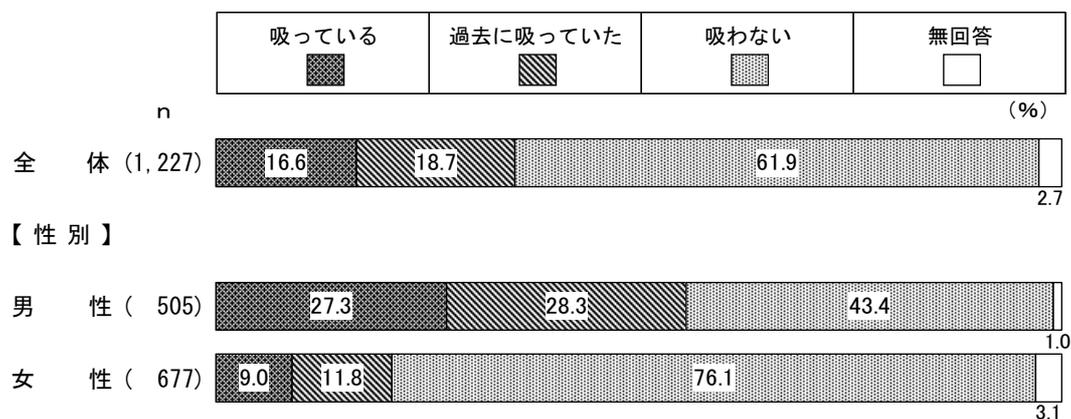
### (1) 喫煙状況

◎ 「吸っている」は男性27.3%、女性9.0%

<前回男性28.8%、女性14.1%>

問33 あなたは喫煙しますか。(○は1つだけ)

図表 1-9-1 喫煙状況-性別



喫煙状況は、「吸っている」が16.6%となっている。「過去に吸っていた」は18.7%、「吸わない」は61.9%となっている。

性別で見ると、「吸っている」は男性(27.3%)が女性(9.0%)より18.3ポイント高くなっている。「吸わない」は女性(76.1%)が男性(43.4%)より32.7ポイント高くなっている。

(図表 1-9-1)

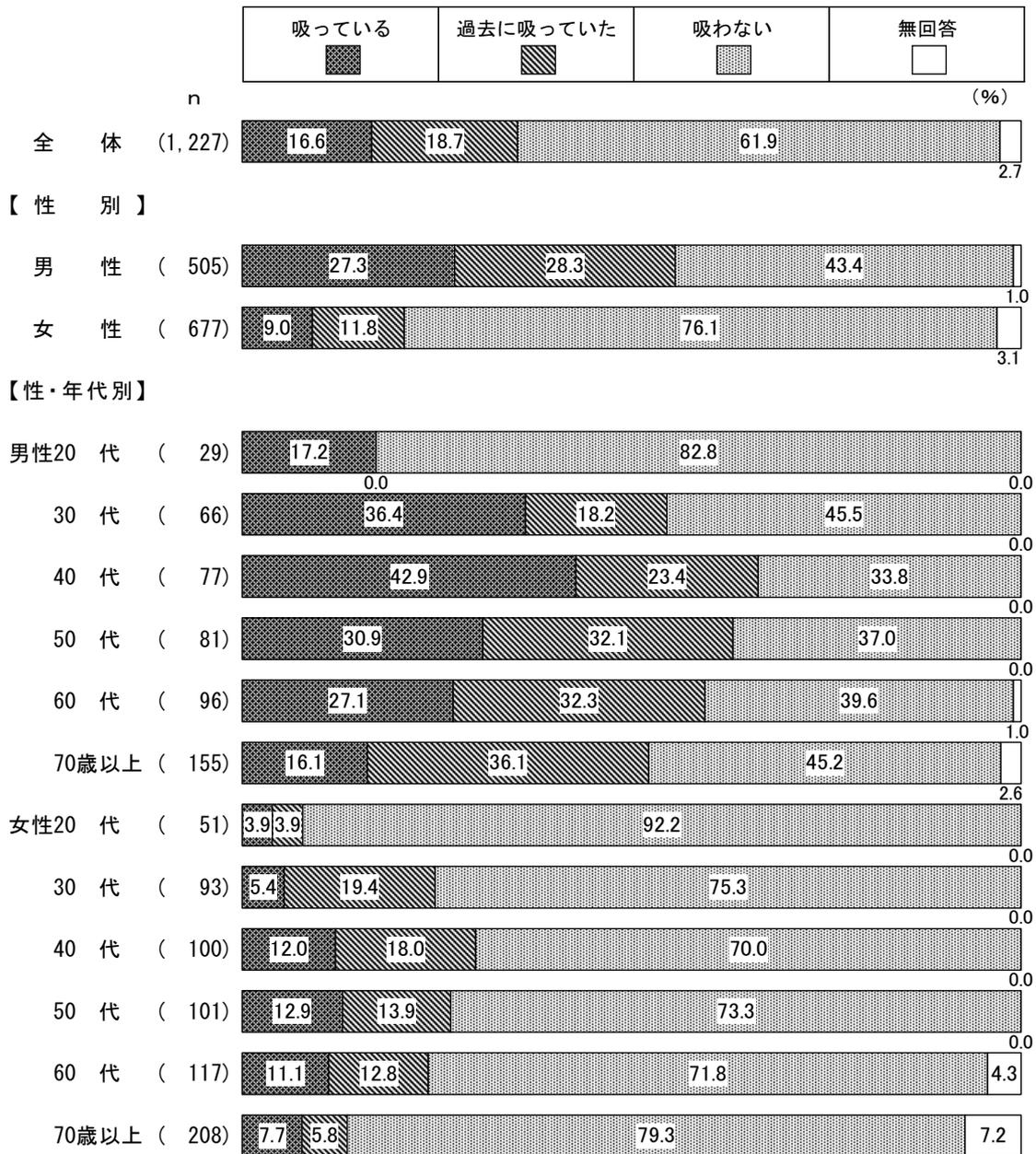
「吸っている」の割合を性別で過去の調査結果と比較すると、男女とも減少傾向にあり、女性では平成24年調査と比べて5.1ポイント減少している。(図表 1-9-2)

図表 1-9-2 喫煙状況-性別 (過去の調査との比較)

	年度	「吸っている」	
		男性	女性
葛飾区	今回調査	27.3	9.0
	平成24年(2012年)	28.8	14.1
	平成19年(2007年)	36.2	16.1
	平成13年(2001年)	51.5	19.2
	平成7年(1995年)	55.8	19.8

性・年代別でみると、「吸っている」は男性40代で42.9%、男性30代で36.4%、男性50代で30.9%と高くなっている。「過去に吸っていた」は男性70歳以上で36.1%、男性60代で32.3%、男性50代で32.1%と高くなっている。「吸わない」は女性20代で92.2%、男性20代で82.8%、女性70歳以上で79.3%と高くなっている。(図表1-9-3)

図表1-9-3 喫煙状況－性・年代別



図表1-9-4 現在習慣的に喫煙している者 (全国の調査との参考比較)

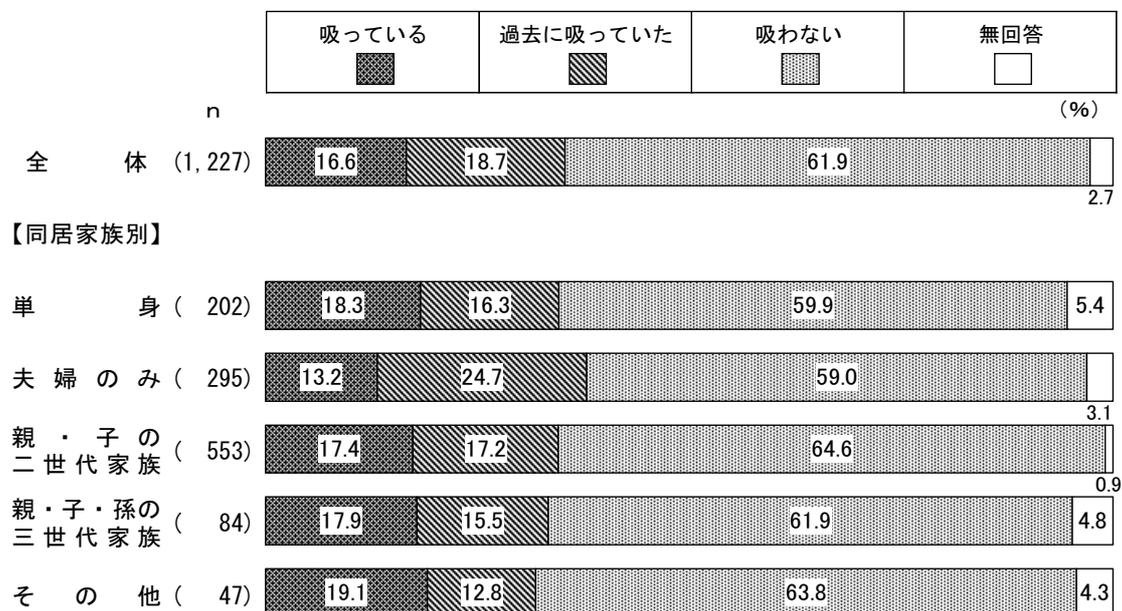
	男性(計)	男性20代	男性30代	男性40代	男性50代	男性60代	男性70歳以上
今回調査	27.3	17.2	36.4	42.9	30.9	27.1	16.1
全国	30.2	30.7	42.0	41.1	39.0	28.9	12.8
	女性(計)	女性20代	女性30代	女性40代	女性50代	女性60代	女性70歳以上
今回調査	9.0	3.9	5.4	12.0	12.9	11.1	7.7
全国	8.2	6.3	13.7	13.8	12.5	6.3	2.3

(※) 全国の調査は「国民健康・栄養調査」(厚生労働省・平成28年)

同居家族別でみると、「過去に吸っていた」は夫婦のみで24.7%と高くなっている。

(図表 1-9-5)

図表 1-9-5 喫煙状況-同居家族別



(1-1) 1日の喫煙本数・喫煙歴

◎ 1日の喫煙本数は、男性では「20～29本」42.3%

<前回37.5%>

女性では「10～19本」39.7%

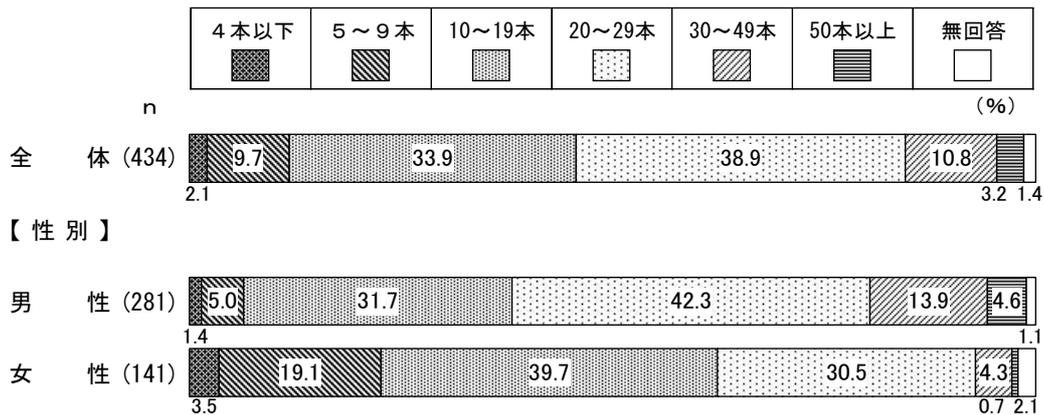
<前回39.9%>

喫煙歴は、「30～49年」が男性37.7%、女性22.0%

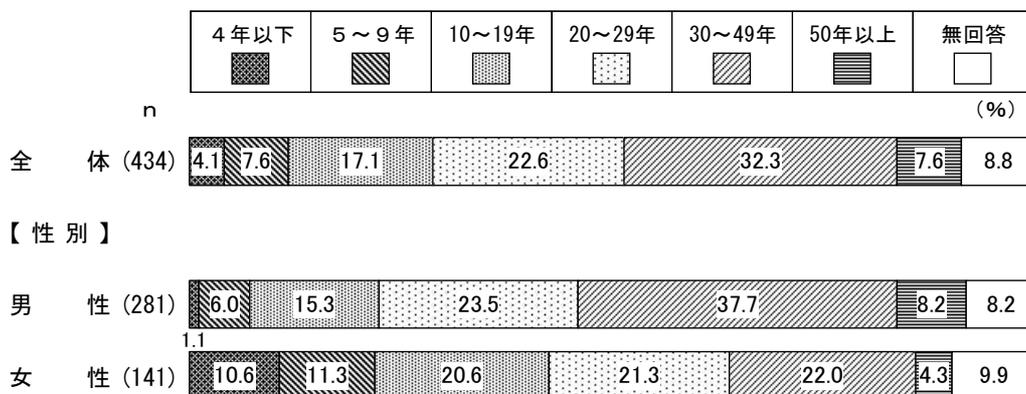
(問33で「吸っている」、「過去に吸っていた」を選んだ方へ)

問33-1 どのくらい吸っていますか(吸っていましたか)。

図表1-9-6 1日の喫煙本数-性別



図表1-9-7 喫煙歴-性別



たばこを「吸っている」または「過去に吸っていた」を選んだ方(434人)の、1日の喫煙本数は、「20～29本」が38.9%で最も高く、次いで「10～19本」(33.9%)、「30～49本」(10.8%)、「5～9本」(9.7%)などの順となっている。

性別で見ると、「5～9本」は女性(19.1%)が男性(5.0%)より14.1ポイント高くなっている。

「20～29本」は男性(42.3%)が女性(30.5%)より11.8ポイント高くなっている。

(図表1-9-6)

たばこを「吸っている」または「過去に吸っていた」を選んだ方(434人)の、喫煙歴は、「30～49年」が32.3%で最も高く、次いで「20～29年」(22.6%)、「10～19年」(17.1%)などの順となっている。

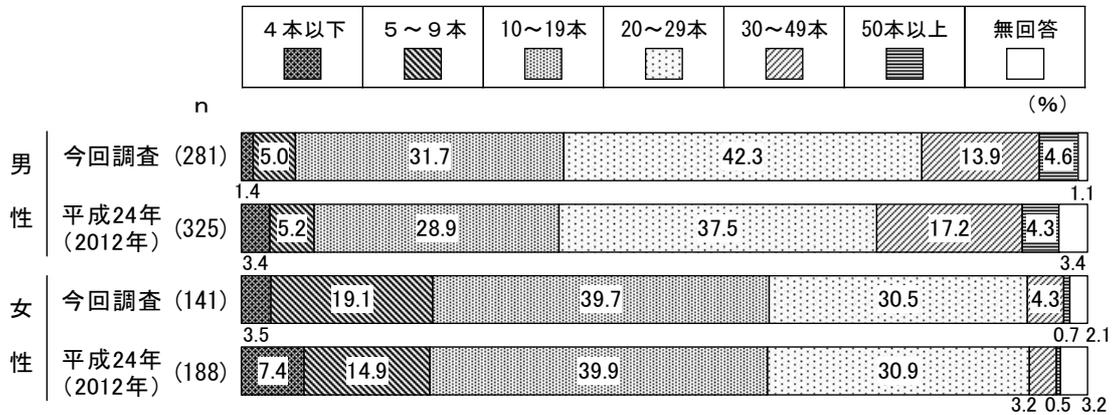
性別で見ると、「4年以下」は女性(10.6%)が男性(1.1%)より9.5ポイント高くなっている。

「30～49年」は男性(37.7%)が女性(22.0%)より15.7ポイント高くなっている。

(図表1-9-7)

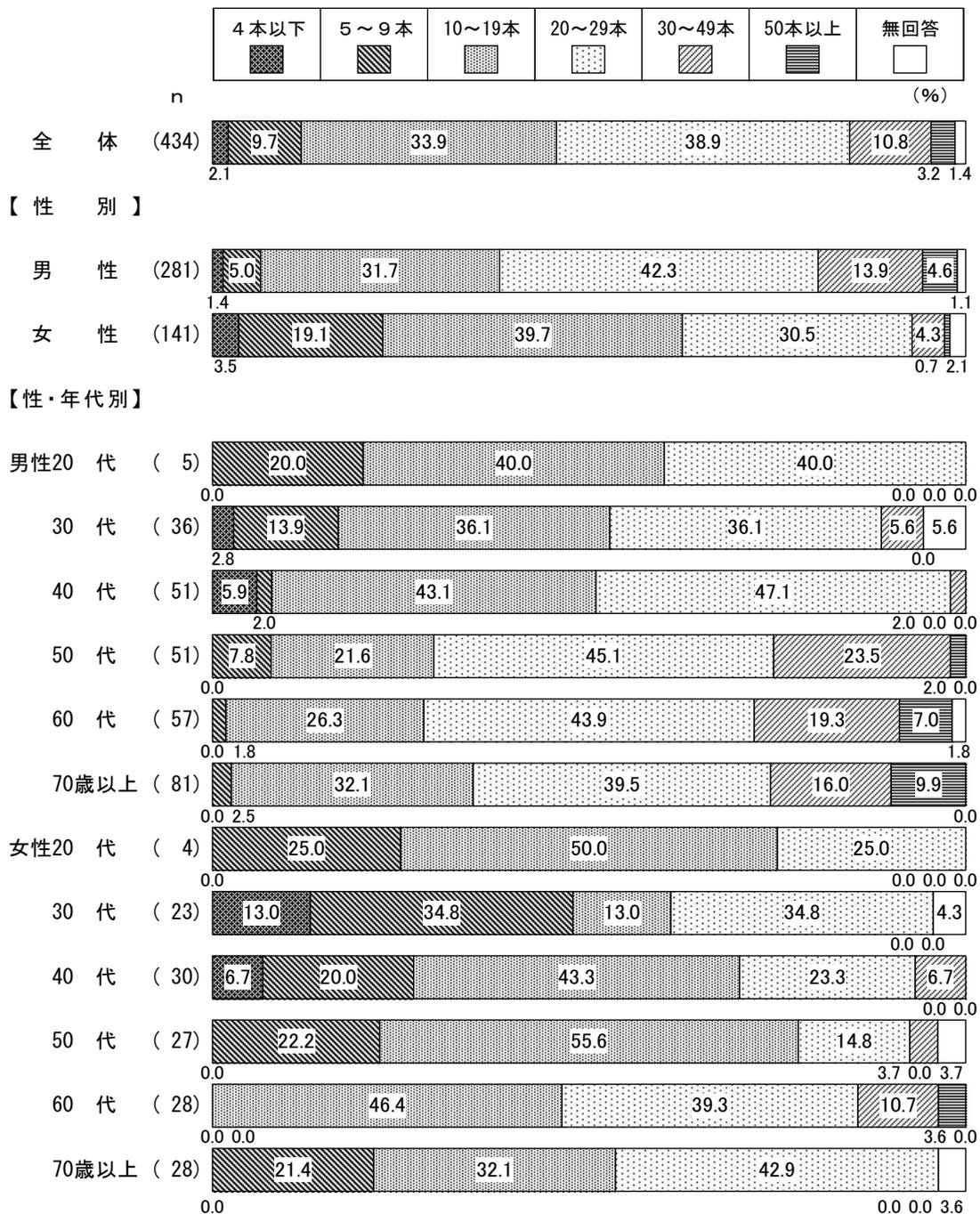
1日の喫煙本数を性別で平成24年の調査結果と比較すると、「20～29本」は男性で4.8ポイント増加し、「30～49本」は男性で3.3ポイント減少している。「5～9本」は女性で4.2ポイント増加し、「4本以下」は女性で3.9ポイント減少している。(図表1-9-8)

図表1-9-8 1日の喫煙本数-性別(平成24年調査との比較)



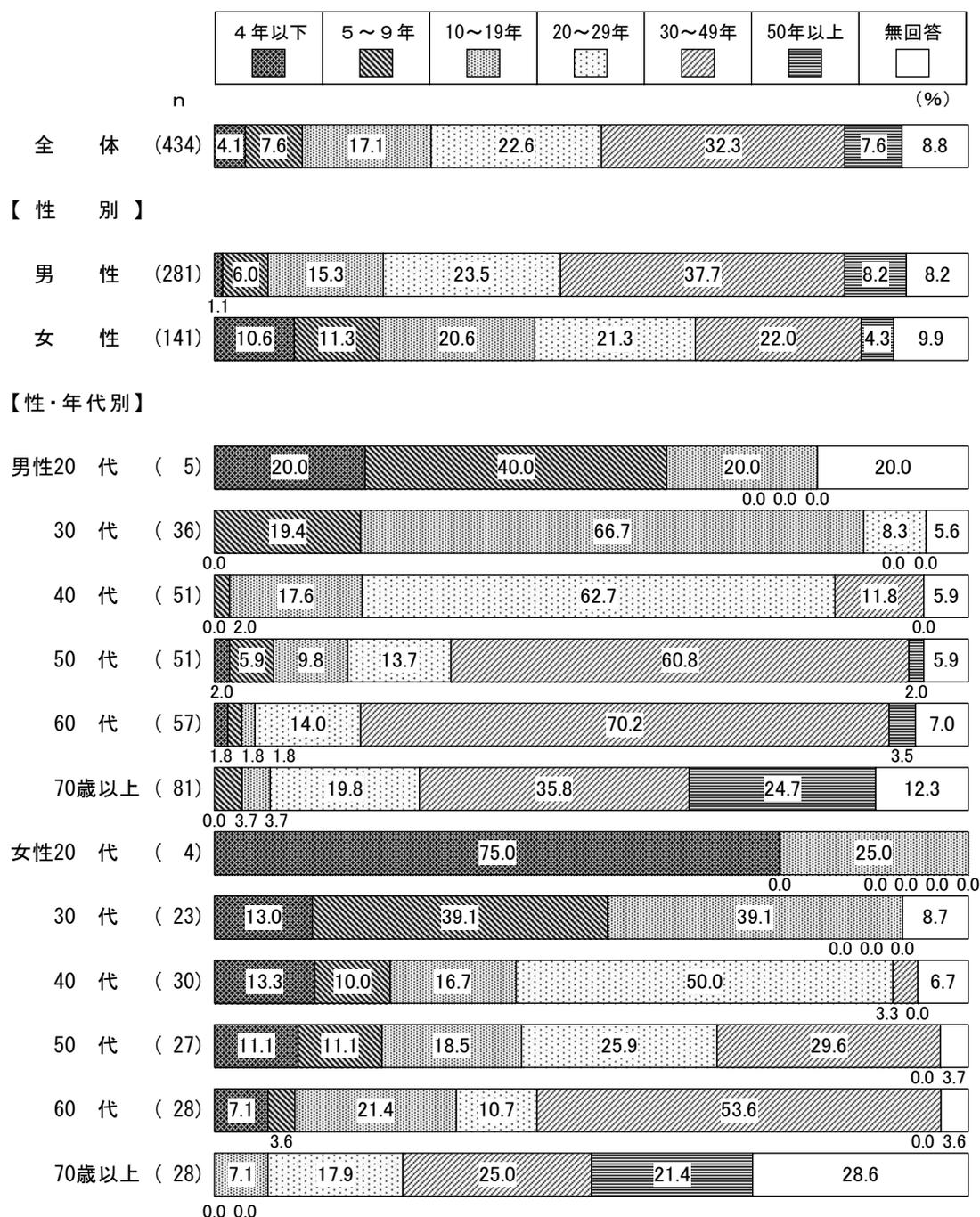
1日の喫煙本数を性・年代別で見ると、「5～9本」は女性30代で34.8%と高くなっている。「10～19本」は女性50代で55.6%、女性60代で46.4%と高くなっている。「20～29本」は男性40代で47.1%、男性50代で45.1%と高くなっている。「30～49本」は男性50代で23.5%、男性60代で19.3%と高くなっている。(図表1-9-9)

図表1-9-9 1日の喫煙本数-性・年代別



喫煙歴を性・年代別でみると、男女とも年代が高くなるにつれて喫煙歴の長い人の割合が高くなる傾向にあるが、「4年以下」と「5～9年」を合わせた割合は、女性30代で52.1%、女性40代で23.3%、女性50代で22.2%となっており、男性の30代から50代に比べて、喫煙歴の短い人の割合が高くなっている。(図表1-9-10)

図表1-9-10 喫煙歴－性・年代別



## (1-2) 禁煙の希望状況

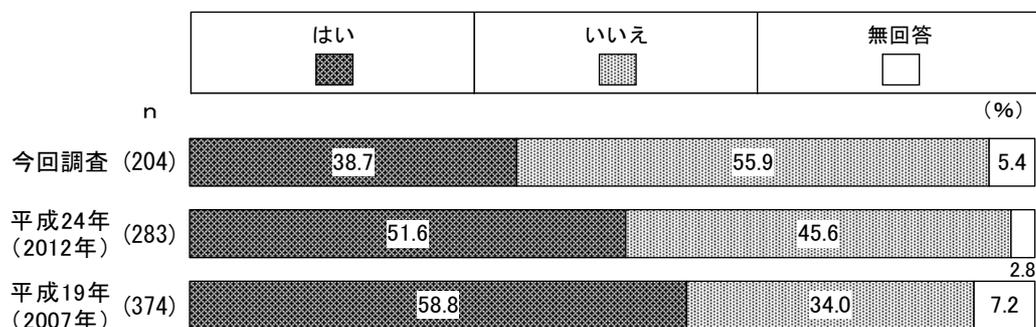
◎ 「はい」は38.7%

<前回51.6%、前々回58.8%>

(問33で「吸っている」を選んだ方へ)

問33-2 あなたは禁煙したいと思っていますか。(○は1つだけ)

図表 1-9-11 禁煙の希望状況 (過去の調査との比較)



たばこを「吸っている」を選んだ方(204人)の、禁煙の希望状況は、「はい」が38.7%、「いいえ」が55.9%となっている。

過去の調査結果と比較すると、「はい」は減少傾向にあり、平成24年調査と比べて12.9ポイント減少している。(図表1-9-11)

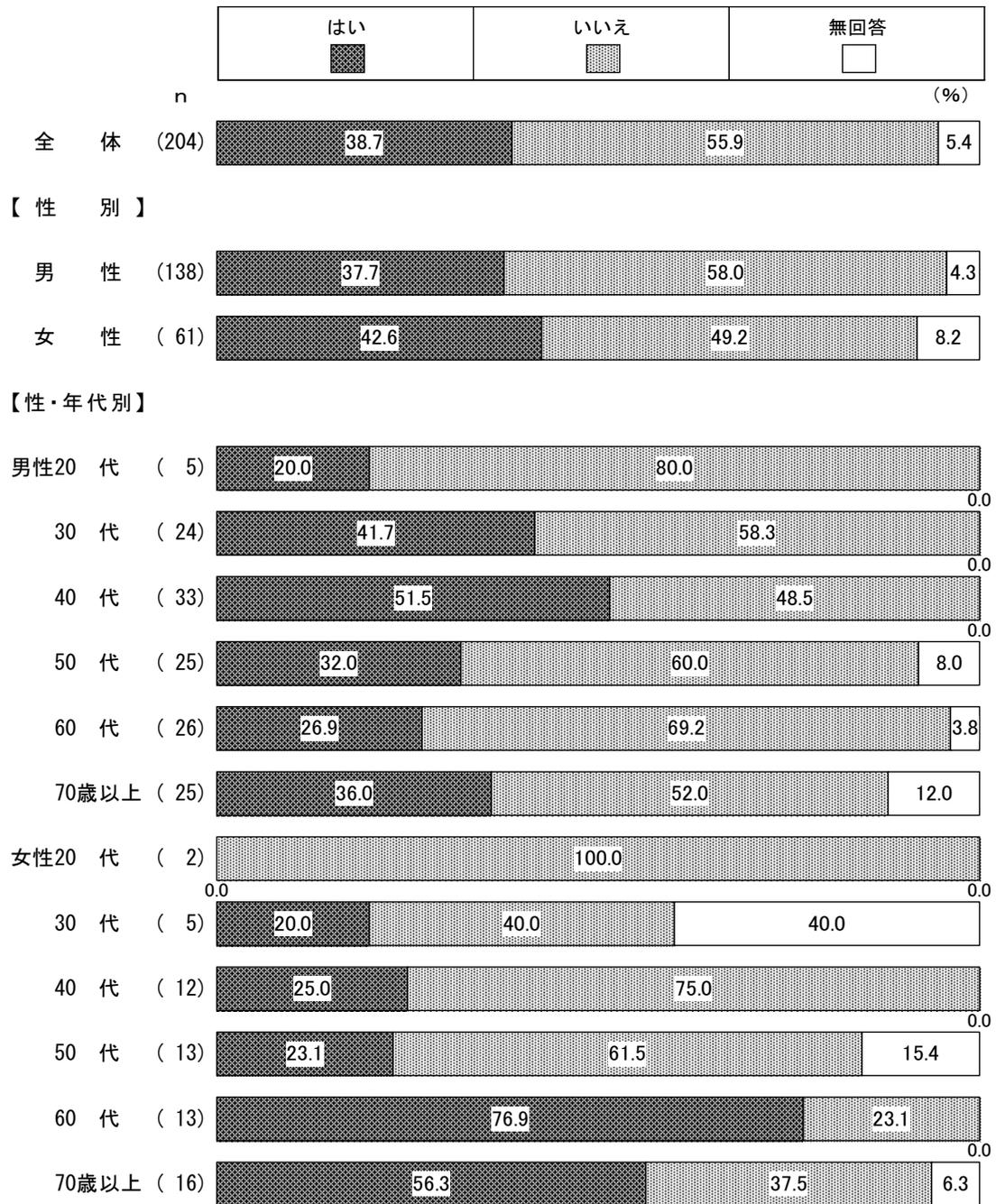
(参考)「国民健康・栄養調査」(厚生労働省・平成28年)

現在習慣的に喫煙している者のうち、たばこをやめたいと思う者の割合は27.7%であり、男女別にみると男性25.4%、女性35.0%である。平成19年以降で見ると、男性では平成22年まで増加傾向がみられ、その後有意に減少している。女性でも同様の推移であるが、有意な増減はみられない。

性別でみると、「はい」は女性（42.6%）が男性（37.7%）より4.9ポイント高くなっている。  
 年代別でみると、「はい」は40代で44.4%、60代で43.6%、70歳以上で42.9%と高くなっている。

(図表 1-9-12)

図表 1-9-12 禁煙の希望状況—性別、年代別



図表 1-9-13 現在習慣的に喫煙している者におけるたばこをやめたいと思う者(全国の調査との参考比較) (%)

	男性(計)	男性20代	男性30代	男性40代	男性50代	男性60代	男性70歳以上
今回調査	37.7	20.0	41.7	51.5	32.0	26.9	36.0
全国	25.4	17.7	24.1	27.2	23.7	28.4	26.7
	女性(計)	女性20代	女性30代	女性40代	女性50代	女性60代	女性70歳以上
今回調査	42.6	0.0	20.0	25.0	23.1	76.9	56.3
全国	35.0	34.2	34.2	35.8	33.6	35.4	38.4

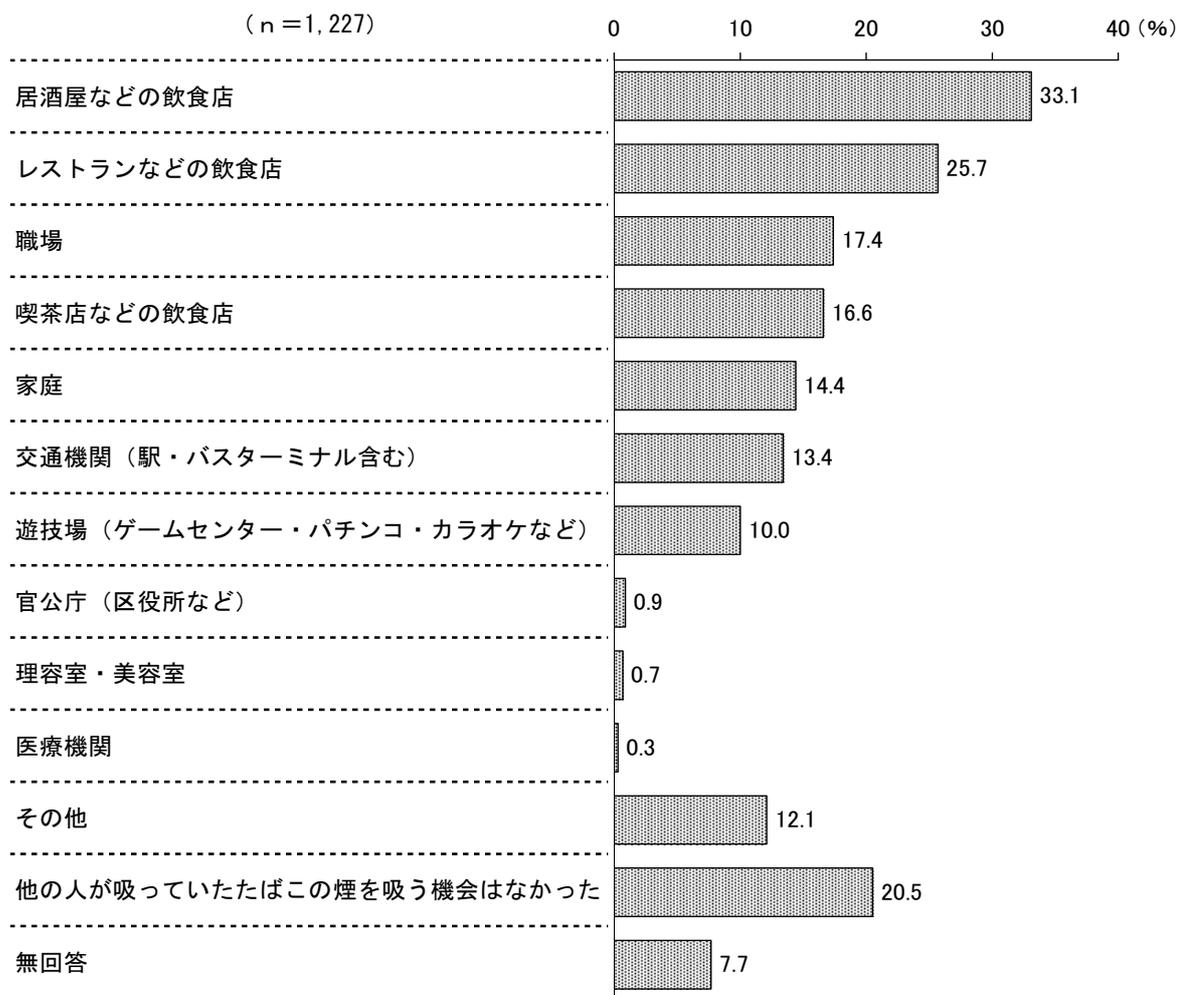
(※) 全国の調査は「国民健康・栄養調査」(厚生労働省・平成28年)

## (2) 副流煙

◎ 「居酒屋などの飲食店」は33.1%

問34 あなたはこの1か月間に、他の人が吸っていたたばこの煙を吸う機会がありましたか。その場所についてあてはまる番号に○印をつけてください。(○はいくつでも)

図表 1-9-14 副流煙

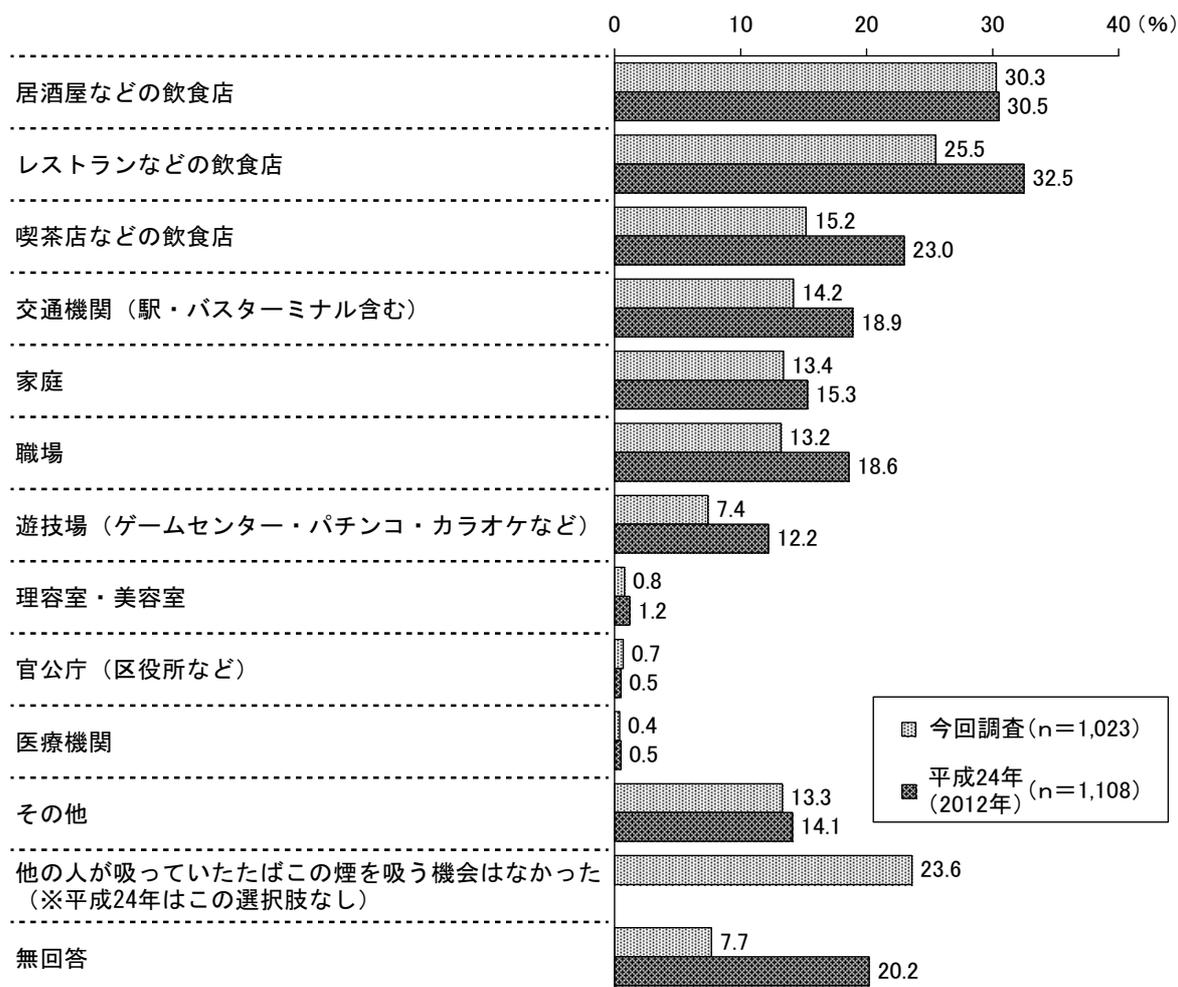


副流煙を吸う機会があった場所は、「居酒屋などの飲食店」が33.1%で最も高く、次いで「レストランなどの飲食店」(25.7%)、「職場」(17.4%)、「喫茶店などの飲食店」(16.6%)、「家庭」(14.4%)などの順となっている。(図表 1-9-14)

平成24年の調査では、現在たばこを「吸っている」を選んだ方以外に対してこの質問をしていた。このため、今回調査で、現在たばこを「吸っている」を選んだ方（204人）を除いて再集計した結果を平成24年の調査結果と比較すると、「喫茶店などの飲食店」が7.8ポイント、「レストランなどの飲食店」が7.0ポイント、「職場」が5.4ポイント、「遊技場（ゲームセンター・パチンコ・カラオケなど）」が4.8ポイント、「交通機関（駅・バスターミナル含む）」が4.7ポイント減少している。

(図表 1-9-15)

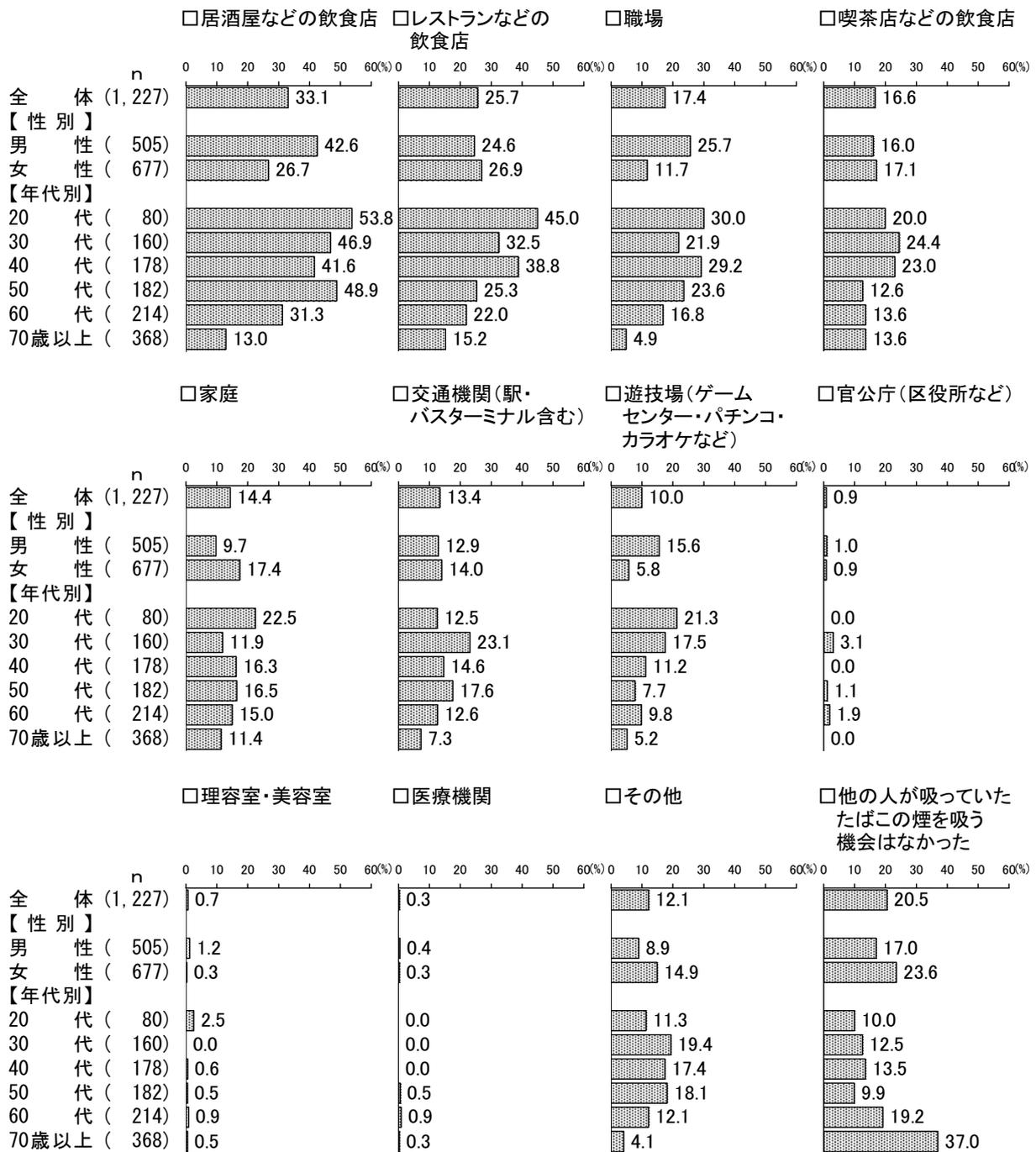
図表 1-9-15 副流煙（平成24年調査との比較）



性別でみると、「居酒屋などの飲食店」は男性（42.6%）が女性（26.7%）より15.9ポイント高くなっている。「職場」は男性（25.7%）が女性（11.7%）より14.0ポイント高くなっている。「家庭」は女性（17.4%）が男性（9.7%）より7.7ポイント高くなっている。「遊技場（ゲームセンター・パチンコ・カラオケなど）」は男性（15.6%）が女性（5.8%）より9.8ポイント高くなっている。

年代別でみると、「居酒屋などの飲食店」は20代で53.8%、50代で48.9%と高くなっている。「レストランなどの飲食店」は20代で45.0%、40代で38.8%と高くなっている。「職場」は20代で30.0%、40代で29.2%と高くなっている。（図表1-9-16）

図表1-9-16 副流煙—性別、年代別



## 10 飲酒について

### (1) 飲酒状況

◎男性では「ほぼ毎日のように飲む」33.1%

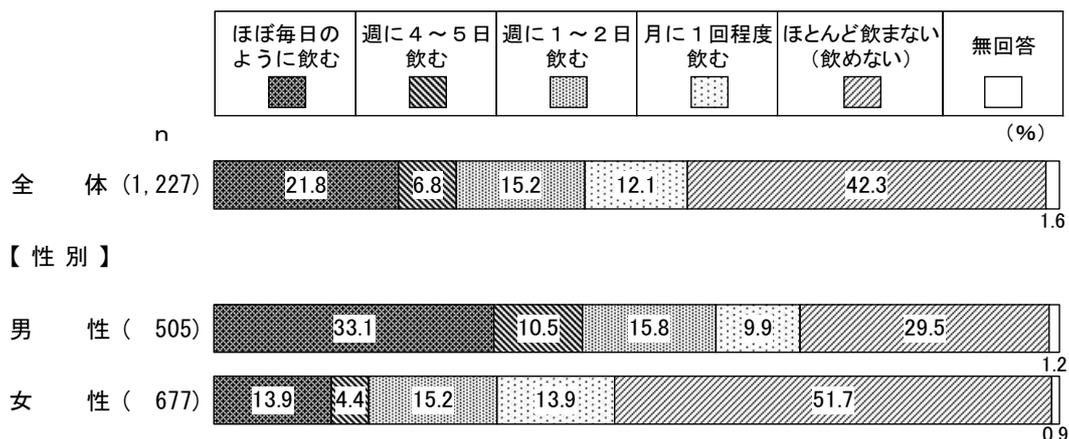
<前回31.6%>

女性では「ほとんど飲まない(飲めない)」51.7%

<前回52.7%>

問35 あなたはアルコールを飲みますか。(○は1つだけ)

図表 1-10-1 飲酒状況-性別

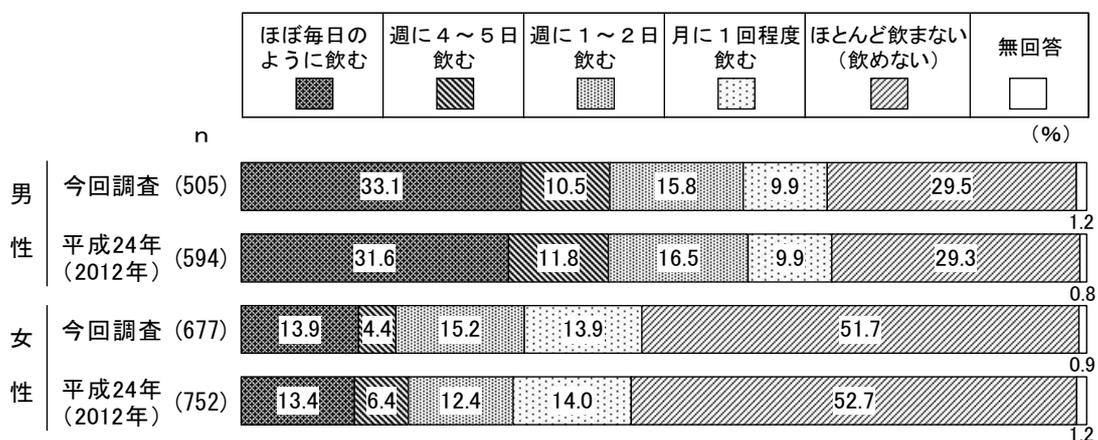


飲酒状況は、「ほとんど飲まない(飲めない)」が42.3%で最も高く、次いで「ほぼ毎日のように飲む」(21.8%)、「週に1~2日飲む」(15.2%)、「月に1回程度飲む」(12.1%)などの順となっている。

性別で見ると、「ほぼ毎日のように飲む」は男性(33.1%)が女性(13.9%)より19.2ポイント高くなっている。「週に4~5日飲む」は男性(10.5%)が女性(4.4%)より6.1ポイント高くなっている。「ほとんど飲まない(飲めない)」は女性(51.7%)が男性(29.5%)より22.2ポイント高くなっている。(図表1-10-1)

性別で平成24年の調査結果と比較すると、大きな傾向の違いはみられない。(図表1-10-2)

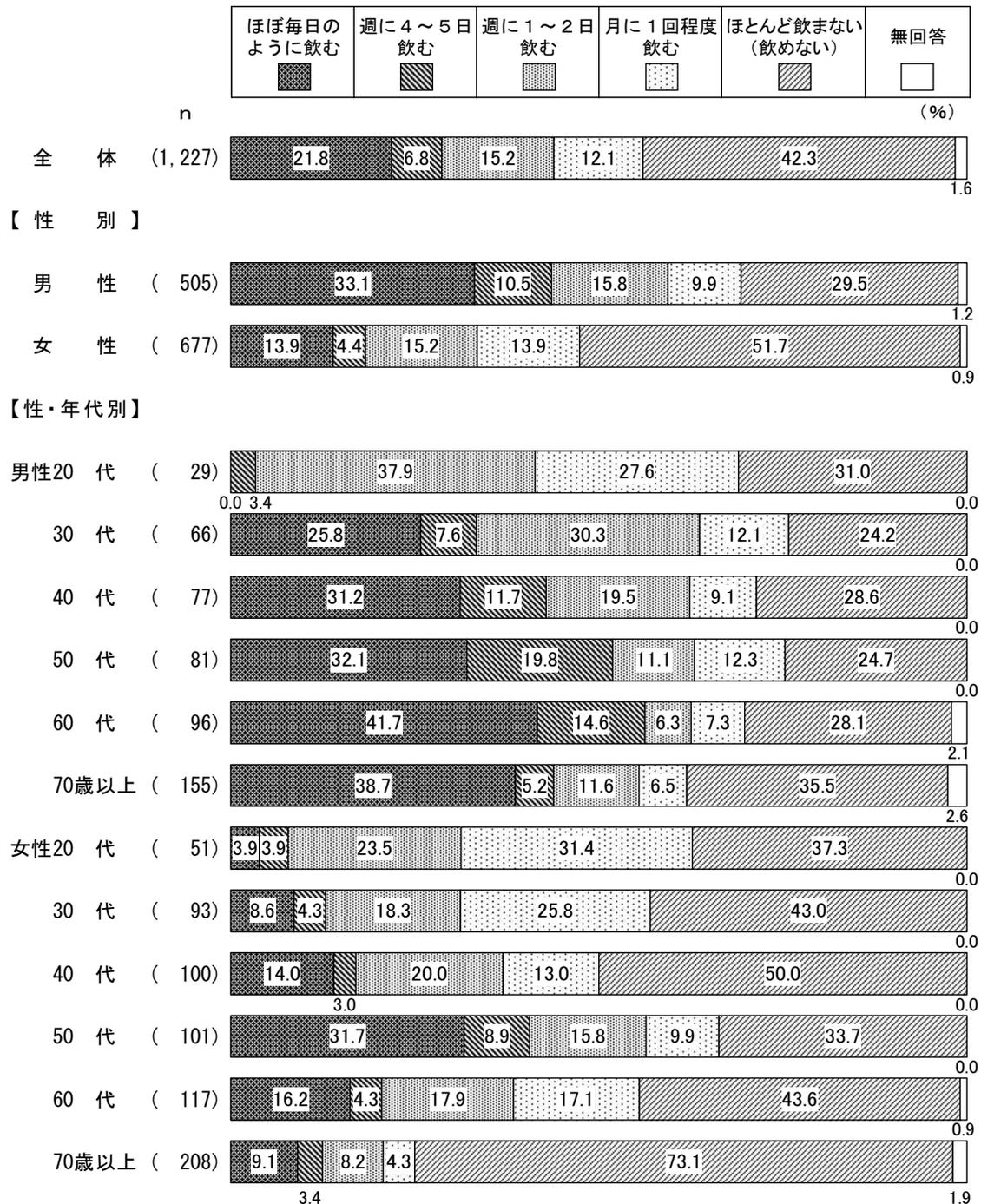
図表 1-10-2 飲酒状況-性別(平成24年調査との比較)



性・年代別でみると、「ほぼ毎日のように飲む」は男性60代で41.7%、男性70歳以上で38.7%と高くなっている。「月に1回程度飲む」は女性20代で31.4%、男性20代で27.6%と高くなっている。「ほとんど飲まない(飲めない)」は女性70歳以上で73.1%、女性40代で50.0%と高くなっている。

(図表 1-10-3)

図表 1-10-3 飲酒状況－性・年代別



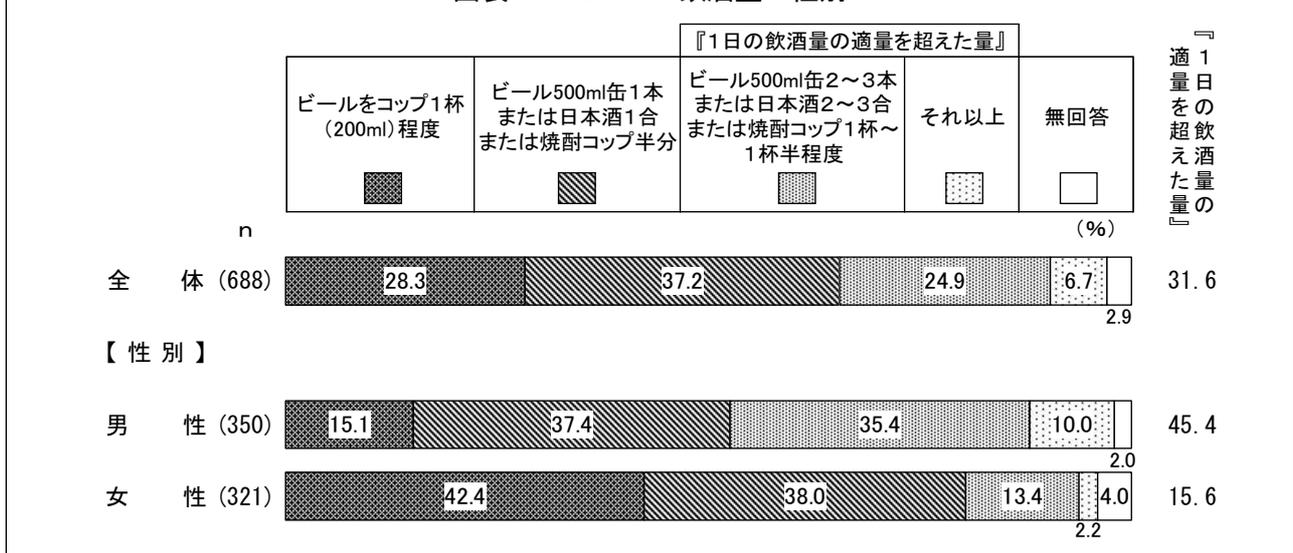
(1-1) 飲酒量

◎『1日の飲酒量の適量を超えた量』は男性45.4%、女性15.6%＜前回男性46.1%、女性24.9%＞

(問35で「ほぼ毎日のように飲む」、「週に4～5日飲む」、「週に1～2日飲む」、「月に1回程度飲む」を選んだ方へ)

問35-1 1日あたり、どれくらいの量を飲みますか。(○は1つだけ)

図表 1-10-4 飲酒量-性別

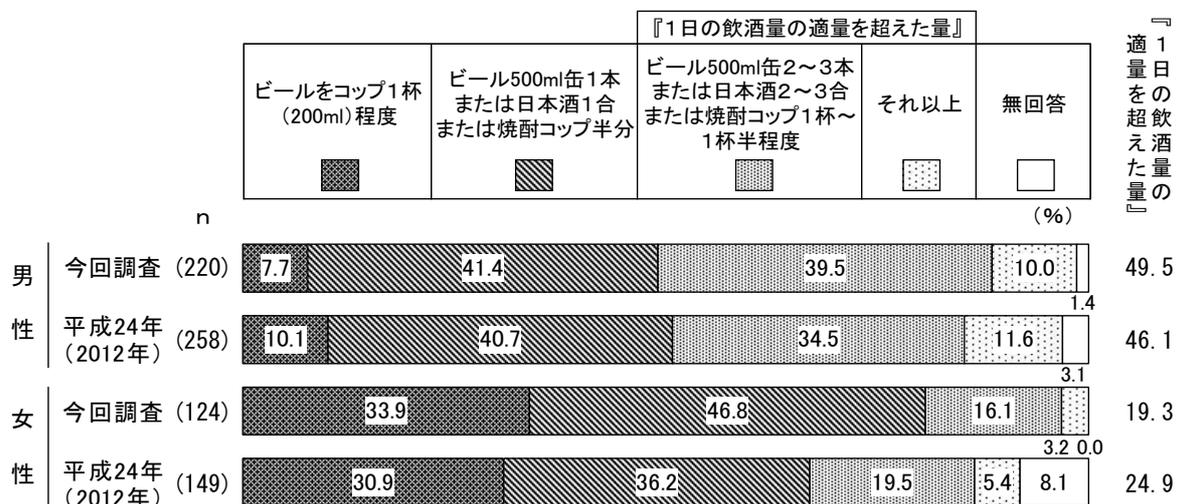


「ほぼ毎日のように飲む」、「週に4～5日飲む」、「週に1～2日飲む」、「月に1回程度飲む」を選んだ方(688人)の、飲酒量は、「ビールをコップ1杯(200ml)程度」が28.3%、「ビール500ml缶1本または日本酒1合または焼酎コップ半分」が37.2%となっている。また、「ビール500ml缶2～3本または日本酒2～3合または焼酎コップ1杯～1杯半程度」(24.9%)と「それ以上」(6.7%)を合わせた『1日の飲酒量の適量を超えた量』は31.6%となっている。

性別で見ると、『1日の飲酒量の適量を超えた量』は男性(45.4%)が女性(15.6%)より29.8ポイント高くなっている。(図表1-10-4)

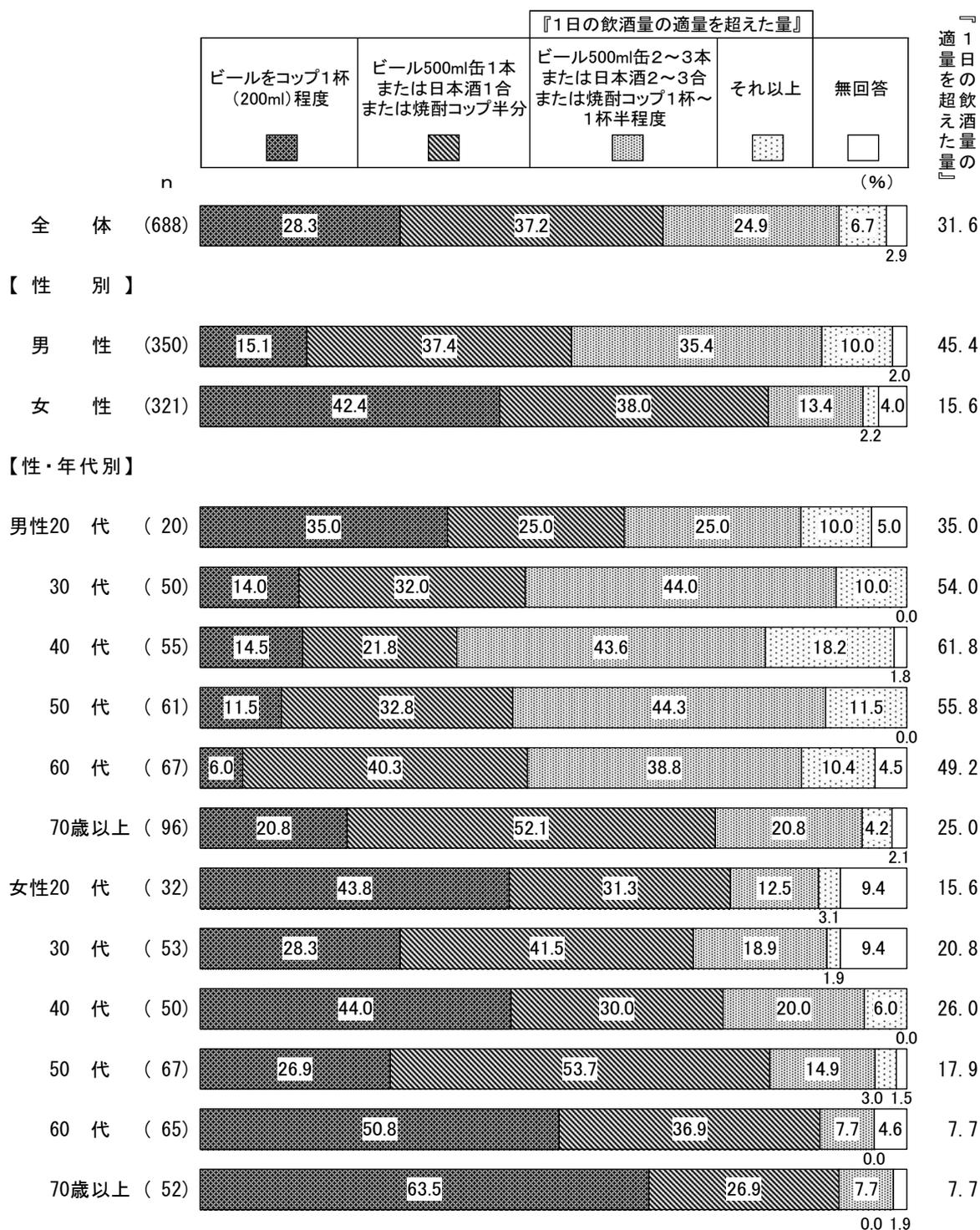
平成24年の調査では、「ほぼ毎日のように飲む」または「週に4～5日飲む」を選んだ方に対してこの質問をしていた。このため、今回調査で「ほぼ毎日のように飲む」または「週に4～5日飲む」を選んだ方(男性220人、女性124人)に限定して再集計した結果を平成24年の調査結果と比較すると、『1日の飲酒量の適量を超えた量』は女性で5.6ポイント減少している。(図表1-10-5)

図表 1-10-5 飲酒量-性別 (平成24年調査との比較)



性・年代別でみると、「ビールをコップ1杯（200ml）程度」は女性70歳以上で63.5%、女性60代で50.8%と高くなっている。「ビール500ml缶1本または日本酒1合または焼酎コップ半分」は女性50代で53.7%、男性70歳以上で52.1%と高くなっている。『1日の飲酒量の適量を超えた量』は男性40代で61.8%、男性50代で55.8%、男性30代で54.0%と高くなっている。（図表1-10-6）

図表1-10-6 飲酒量－性・年代別



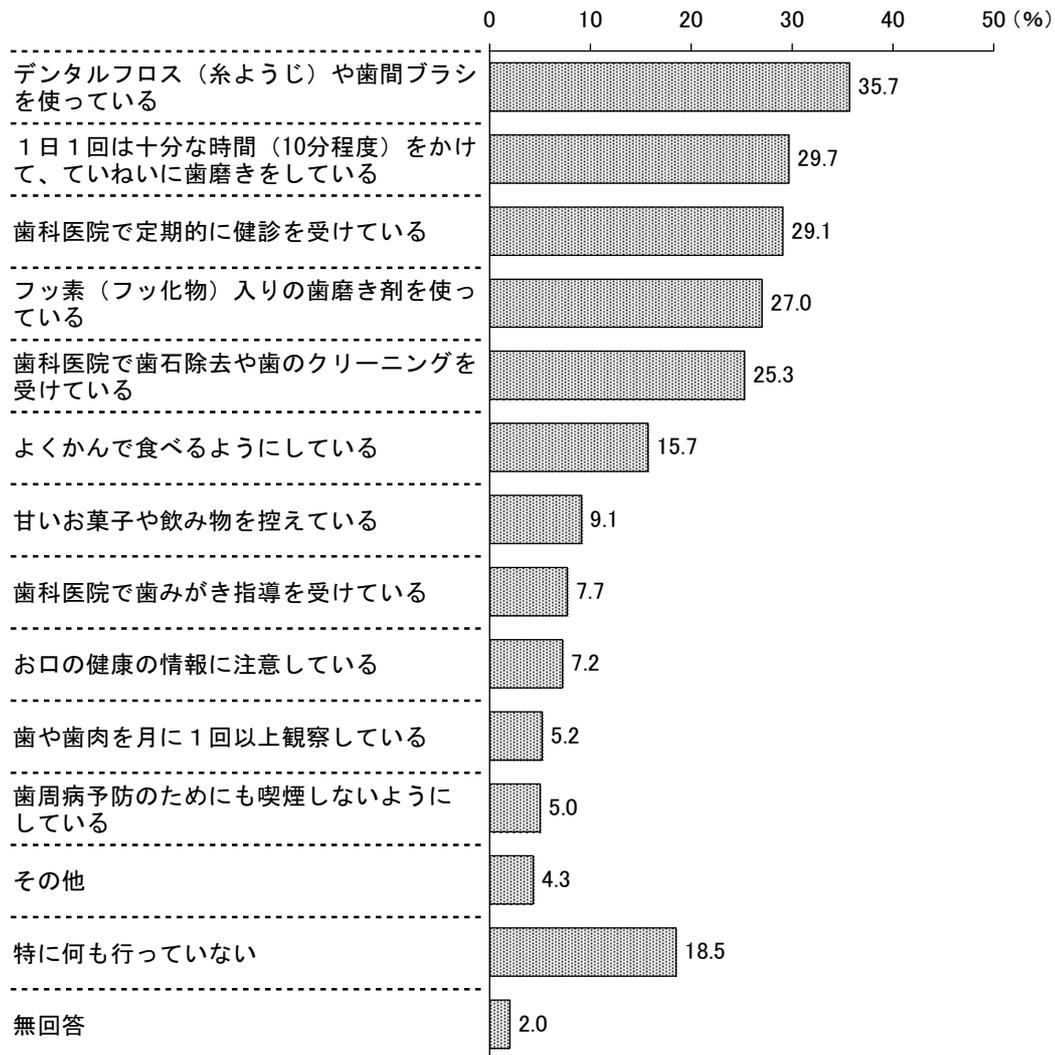
## 11 歯の健康について

### (1) 歯や歯肉の健康を保つために行っていること

◎ 「デンタルフロス（糸ようじ）や歯間ブラシを使っている」は35.7%

問36 あなたが、歯や歯肉の健康を保つために行っていることは何ですか。（○はいくつでも）

図表 1-11-1 歯や歯肉の健康を保つために行っていること



歯や歯肉の健康を保つために行っていることは、「デンタルフロス（糸ようじ）や歯間ブラシを使っている」が35.7%で最も高く、次いで「1日1回は十分な時間（10分程度）をかけて、ていねいに歯磨きをしている」（29.7%）、「歯科医院で定期的に健診を受けている」（29.1%）、「フッ素（フッ化物）入りの歯磨き剤を使っている」（27.0%）、「歯科医院で歯石除去や歯のクリーニングを受けている」（25.3%）などの順となっている。（図表 1-11-1）

東京都の調査結果と比較すると、「1日1回は十分な時間（10分程度）をかけて、ていねいに歯磨きをしている」（29.7%）は東京都（35.1%）より5.4ポイント、「歯周病予防のためにも喫煙しないようにしている」（5.0%）は東京都（10.4%）より5.4ポイント下回っている。

（図表1-11-2）

図表1-11-2 歯や歯肉の健康を保つために行っていること（東京都の調査結果との参考比較）

	今回調査	東京都
		(%)
デンタルフロス（糸ようじ）や歯間ブラシを使っている	35.7	34.3
1日1回は十分な時間（10分程度）をかけて、ていねいに歯磨きをしている	29.7	35.1
歯科医院で定期的に健診を受けている	29.1	28.1
フッ素（フッ化物）入りの歯磨き剤を使っている	27.0	28.3
歯科医院で歯石除去や歯のクリーニングを受けている	25.3	27.8
歯科医院で歯みがき指導を受けている	7.7	11.2
歯や歯肉を月に1回以上観察している	5.2	8.1
歯周病予防のためにも喫煙しないようにしている	5.0	10.4
その他	4.3	3.1
特に何も行っていない	18.5	21.5
無回答	2.0	0.7

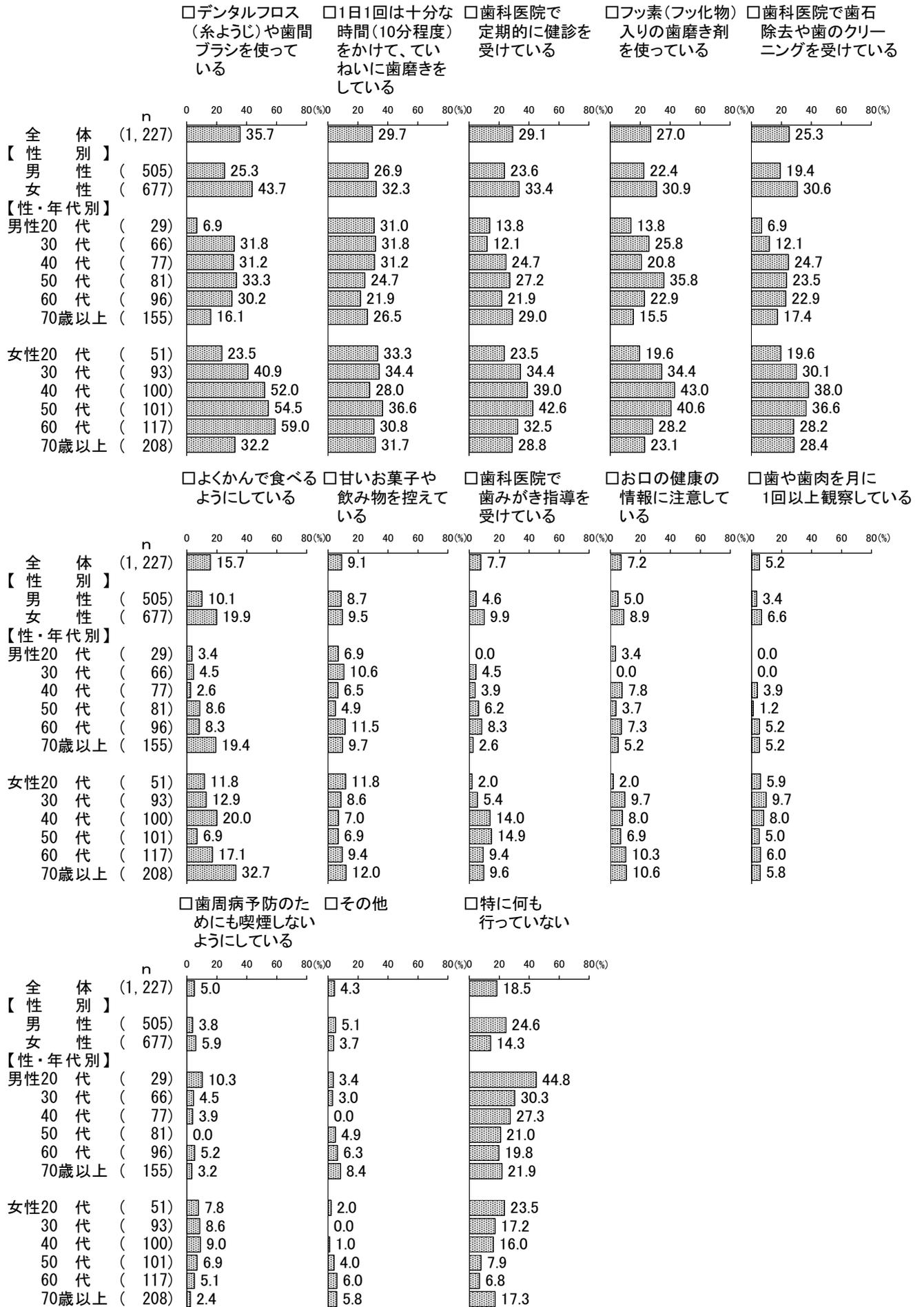
（※）東京都の調査は「東京都福祉保健基礎調査」（平成26年）

ただし、「よくかんで食べるようにしている」、「甘いお菓子や飲み物を控えている」、「お口の健康の情報に注意している」の選択肢は、東京都の調査にはない。

性別でみると、「デンタルフロス（糸ようじ）や歯間ブラシを使っている」は女性（43.7%）が男性（25.3%）より18.4ポイント高くなっている。「1日1回は十分な時間（10分程度）をかけて、ていねいに歯磨きをしている」は女性（32.3%）が男性（26.9%）より5.4ポイント高くなっている。「歯科医院で定期的に健診を受けている」は女性（33.4%）が男性（23.6%）より9.8ポイント高くなっている。「フッ素（フッ化物）入りの歯磨き剤を使っている」は女性（30.9%）が男性（22.4%）より8.5ポイント高くなっている。「歯科医院で歯石除去や歯のクリーニングを受けている」は女性（30.6%）が男性（19.4%）より11.2ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、「デンタルフロス（糸ようじ）や歯間ブラシを使っている」は女性60代で59.0%、女性50代で54.5%、女性40代で52.0%と高くなっている。「1日1回は十分な時間（10分程度）をかけて、ていねいに歯磨きをしている」は女性50歳代で36.6%と高くなっている。「歯科医院で定期的に健診を受けている」は女性50代で42.6%と高くなっている。「フッ素（フッ化物）入りの歯磨き剤を使っている」は女性40代で43.0%、女性50代で40.6%と高くなっている。「歯科医院で歯石除去や歯のクリーニングを受けている」は女性40代で38.0%、女性50代で36.6%と高くなっている。（図表1-11-3）

図表 1-11-3 歯や歯肉の健康を保つために行っていること（複数回答）－性別、性・年代別



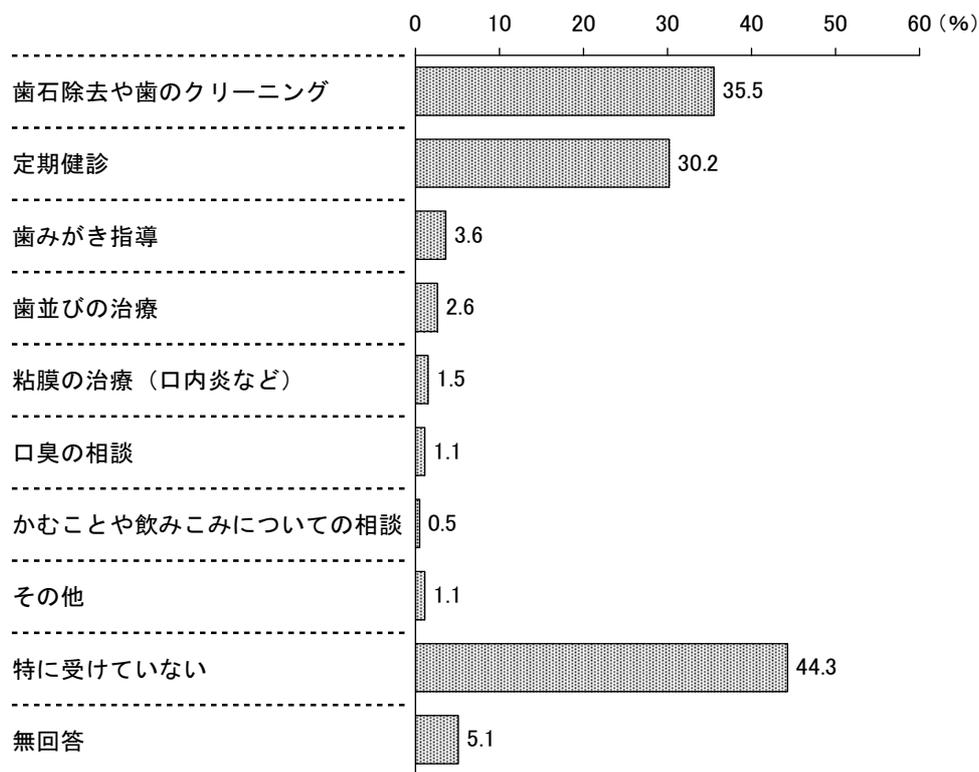
## (2) 歯科を受診する理由

◎ 「歯石除去や歯のクリーニング」は35.5%

<前回19.3%、前々回12.2%>

問37 あなたが、むし歯や歯周病、入れ歯などの治療のほかに、歯科を受診する理由は何ですか。(〇はいくつでも)

図表 1-11-4 歯科を受診する理由(複数回答)

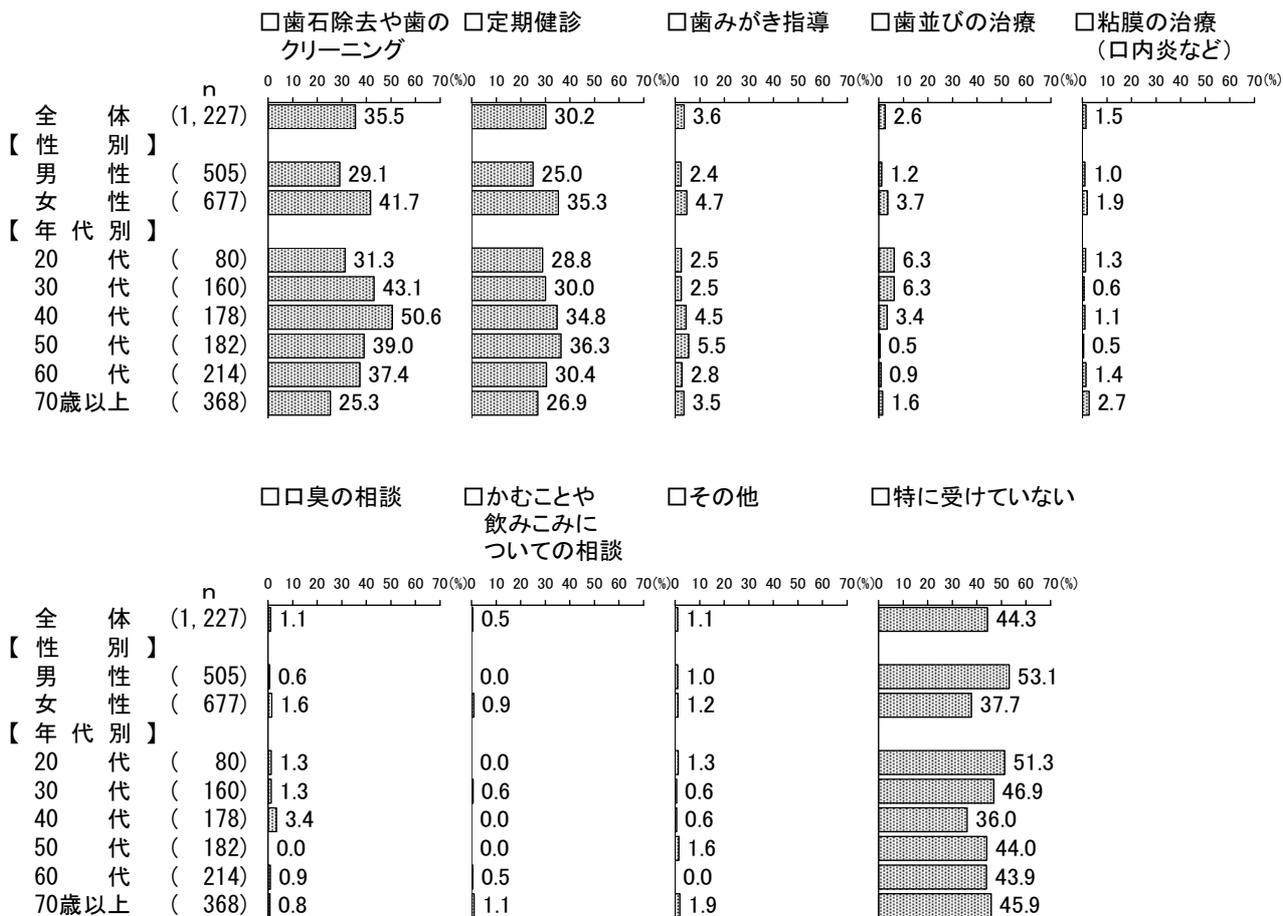


歯科を受診する理由は、「歯石除去や歯のクリーニング」が35.5%で最も高く、次いで「定期健診」(30.2%)、「歯みがき指導」(3.6%)などの順となっている。(図表 1-11-4)

性別でみると、「歯石除去や歯のクリーニング」は女性（41.7%）が男性（29.1%）より12.6ポイント高くなっている。「定期健診」は女性（35.3%）が男性（25.0%）より10.3ポイント高くなっている。「特に受けていない」は男性（53.1%）が女性（37.7%）より15.4ポイント高くなっている。

年代別でみると、「歯石除去や歯のクリーニング」は40代で50.6%と高くなっている。「定期健診」は50代で36.3%、40代で34.8%と高くなっている。（図表1-11-5）

図表1-11-5 歯科を受診する理由（複数回答）－性別、年代別

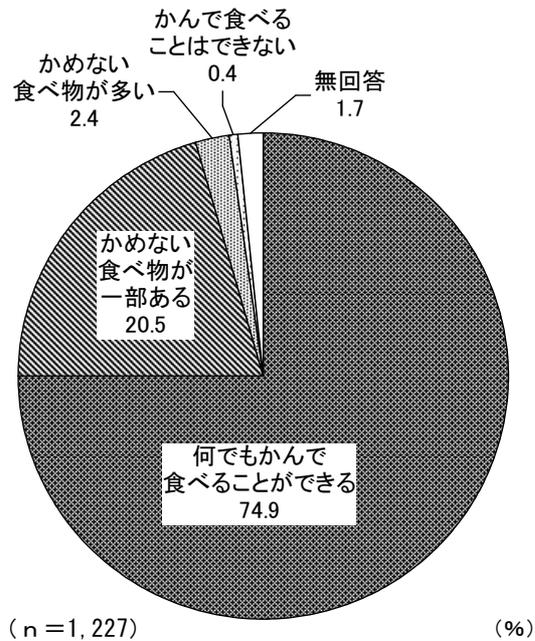


### (3) かんで食べる時の状態

◎ 「何でもかんで食べる事ができる」は74.9%

問38 あなたのかんで食べる時の状態について、あてはまる番号に○を1つ付けてください。  
(○は1つだけ)

図表 1-11-6 かんで食べる時の状態



かんで食べる時の状態は、「何でもかんで食べる事ができる」が74.9%で最も高くなっている。「かめない食べ物が一部ある」は20.5%、「かめない食べ物が多い」は2.4%、「かんでは食べられない」は0.4%となっている。(図表 1-11-6)

「何でもかんで食べる事ができる」の割合を年代別に全国の調査結果と比較すると、70歳以上(56.3%)で全国(61.4%)より5.1ポイント、60代(68.7%)で全国(72.6%)より3.9ポイント、50代(79.7%)で全国(83.3%)より3.6ポイント下回っている。(図表 1-11-7)

図表 1-11-7 何でもかんで食べる事ができる人の割合—年代別 (全国の調査結果との参考比較)

	(%)				
	全体	40代	50代	60代	70歳以上
今回調査	74.9	93.3	79.7	68.7	56.3
全国	75.2	91.7	83.3	72.6	61.4

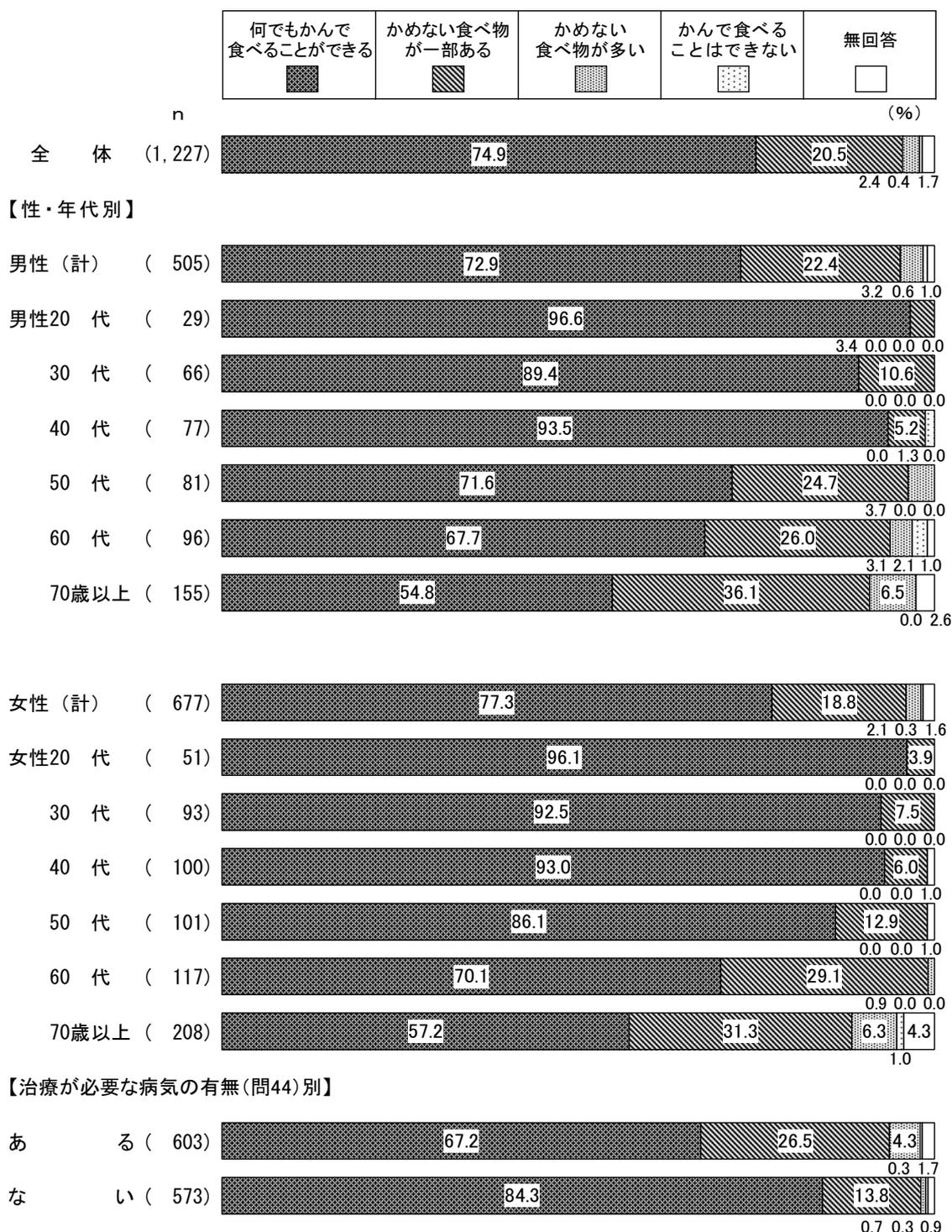
(※) 全国の調査は「国民健康・栄養調査」(厚生労働省・平成27年)

性別で見ると、「何でもかんで食べることができる」は女性（77.3%）が男性（72.9%）より4.4ポイント高くなっている。「かめない食べ物が一部ある」は男性（22.4%）が女性（18.8%）より3.6ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、「何でもかんで食べることができる」は男性20代・40代と女性の20代から40代で9割台と高くなっている。「かめない食べ物が一部ある」は男性70歳以上で36.1%、女性70歳以上で31.3%と高くなっている。

治療が必要な病気の有無別で見ると、「何でもかんで食べることができる」は治療が必要な病気がある人（67.2%）が、ない人（84.3%）より17.1ポイント低くなっている。（図表1-11-8）

図表1-11-8 かんで食べる時の状態—性・年代別、治療が必要な病気の有無別

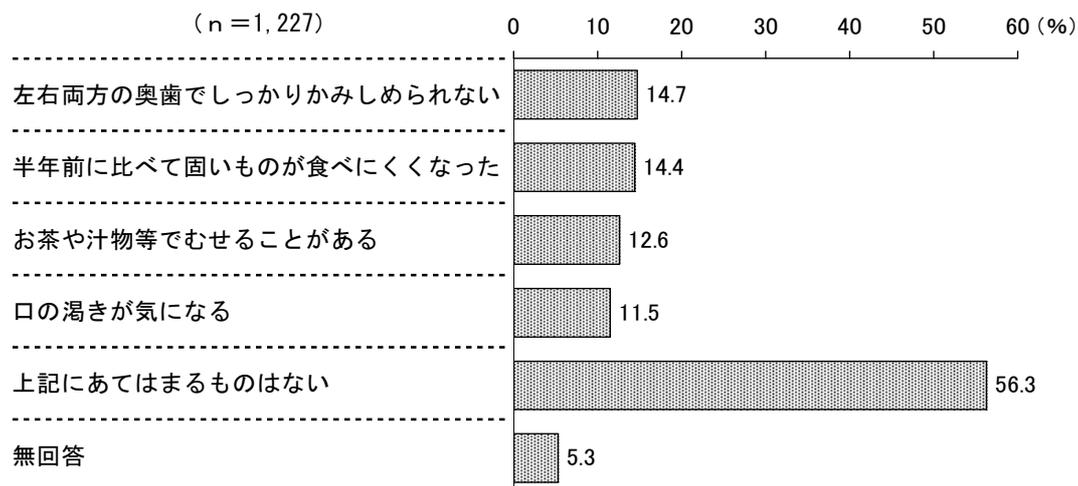


#### (4) 食べ方や食事の様子

◎ 「左右両方の奥歯でしっかりかみしめられない」は14.7%

問39 あなたの食べ方や食事の様子について、あてはまる番号すべてに○を付けてください。  
(○はいくつでも)

図表 1-11-10 食べ方や食事の様子



食べ方や食事の様子は、「左右両方の奥歯でしっかりかみしめられない」が14.7%、「半年前に比べて固いものが食べにくくなった」が14.4%、「お茶や汁物等でむせることがある」が12.6%、「口の渇きが気になる」が11.5%となっている。「上記にあてはまるものはない」は56.3%である。

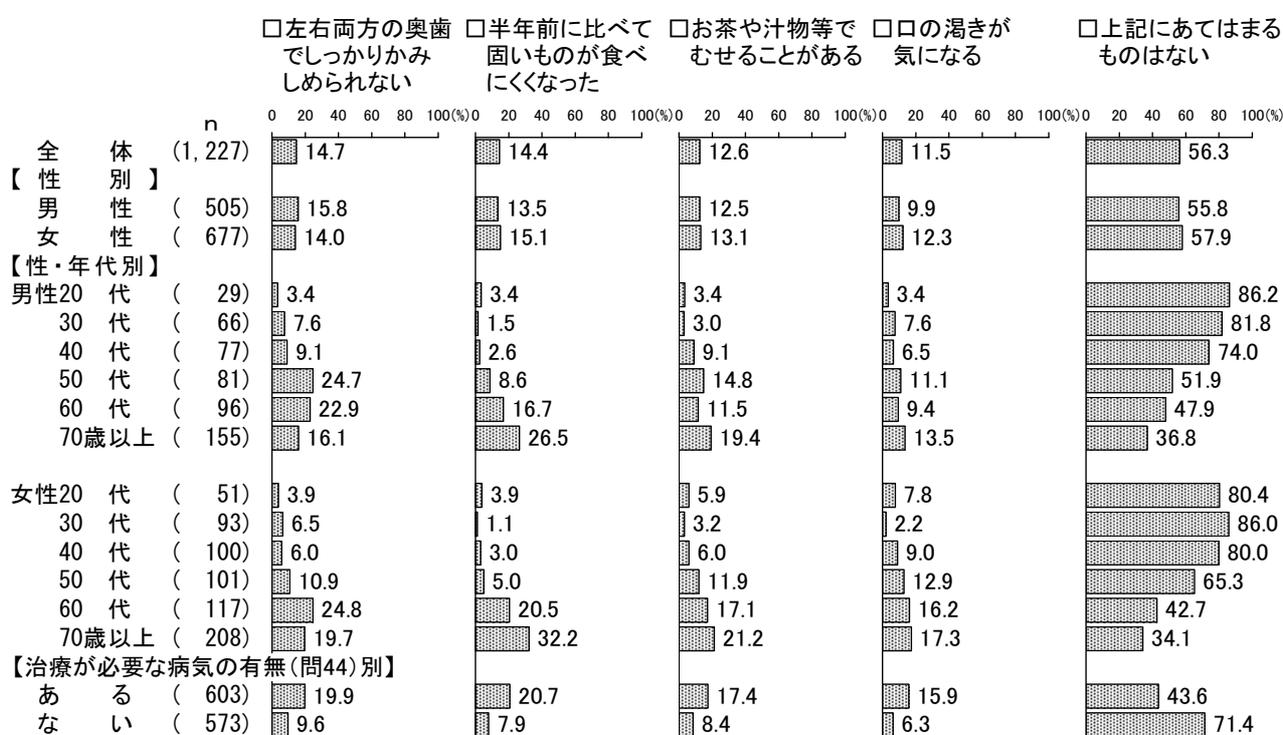
(図表 1-11-10)

性別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

性・年代別でみると、「左右両方の奥歯でしっかりかみしめられない」は女性60代で24.8%、男性50代で24.7%、男性60代で22.9%と高くなっている。「半年前に比べて固いものが食べにくくなった」は女性70歳以上で32.2%、男性70歳以上で26.5%と高くなっている。「お茶や汁物等でむせることがある」は女性70歳以上で21.2%、男性70歳以上で19.4%と高くなっている。「口の渇きが気になる」は女性70歳以上で17.3%、女性60代で16.2%と高くなっている。

治療が必要な病気の有無別でみると、「上記にあてはまるものはない」以外の4項目で、治療が必要な病気がある人の方が、ない人を上回っており、特に「半年前に比べて固いものが食べにくくなった」は治療が必要な病気がある人（20.7%）が、ない人（7.9%）より12.8ポイント高くなっている。（図表1-11-11）

図表 1-11-11 食べ方や食事の様子—性別、性・年代別、治療が必要な病気の有無別



## 12 健康情報について

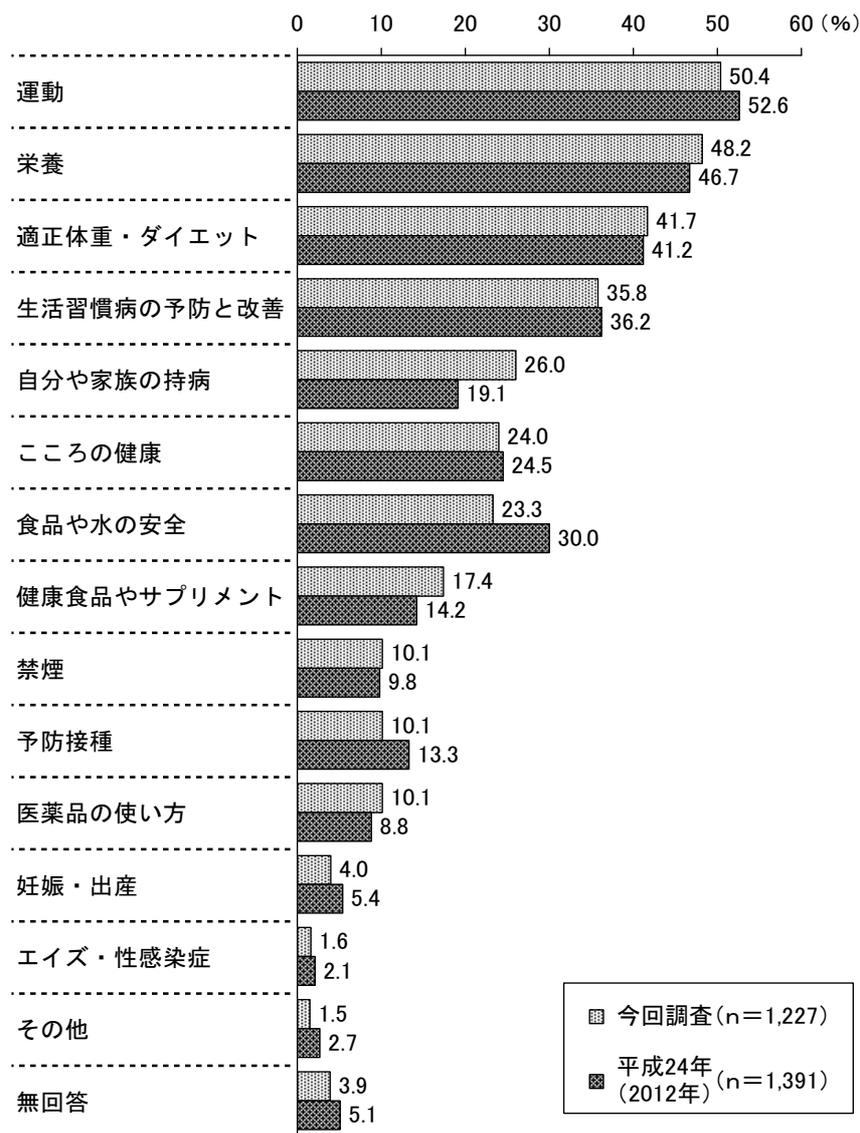
### (1) 健康への関心

◎ 「運動」は50.4%

<前回52.6%>

問40 あなたが、健康について関心のあることは何ですか。(〇はいくつでも)

図表 1-12-1 健康への関心(平成24年調査との比較)



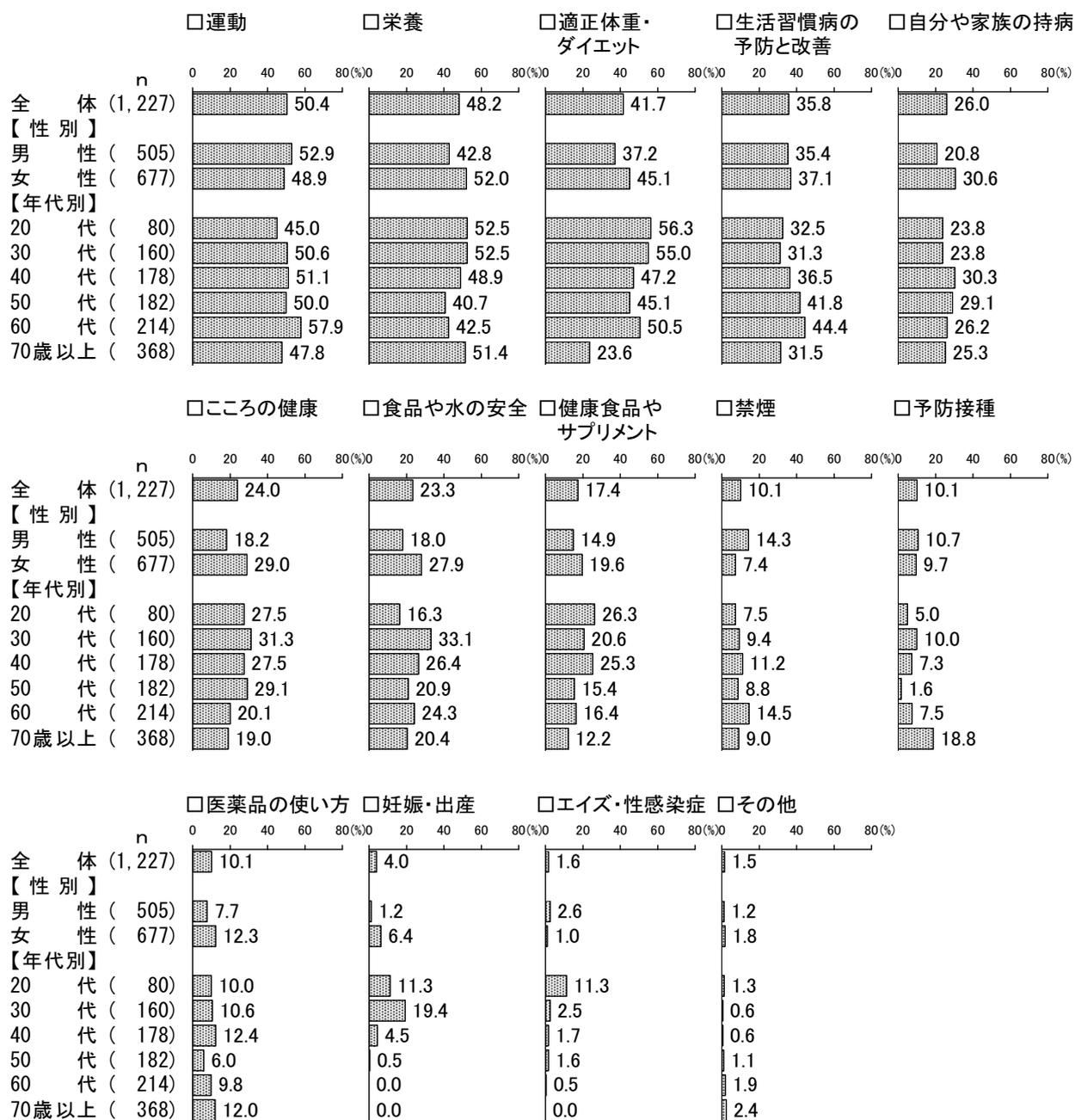
健康への関心は、「運動」が50.4%で最も高く、次いで「栄養」(48.2%)、「適正体重・ダイエット」(41.7%)、「生活習慣病の予防と改善」(35.8%)、「自分や家族の持病」(26.0%)などの順となっている。

平成24年の調査結果と比較すると、「自分や家族の持病」が6.9ポイント増加している。一方、「食品や水の安全」が6.7ポイント減少している。(図表 1-12-1)

性別でみると、「栄養」は女性（52.0%）が男性（42.8%）より9.2ポイント高くなっている。「適正体重・ダイエット」は女性（45.1%）が男性（37.2%）より7.9ポイント高くなっている。「自分や家族の持病」は女性（30.6%）が男性（20.8%）より9.8ポイント高くなっている。「こころの健康」は女性（29.0%）が男性（18.2%）より10.8ポイント高くなっている。「食品や水の安全」は女性（27.9%）が男性（18.0%）より9.9ポイント高くなっている。「禁煙」は男性（14.3%）が女性（7.4%）より6.9ポイント高くなっている。

年代別でみると、「適正体重・ダイエット」は20代で56.3%、30代で55.0%と高くなっている。「生活習慣病の予防と改善」は60代で44.4%と高くなっている。「食品や水の安全」は30代で33.1%と高くなっている。（図表1-12-2）

図表1-12-2 健康への関心—性別、年代別

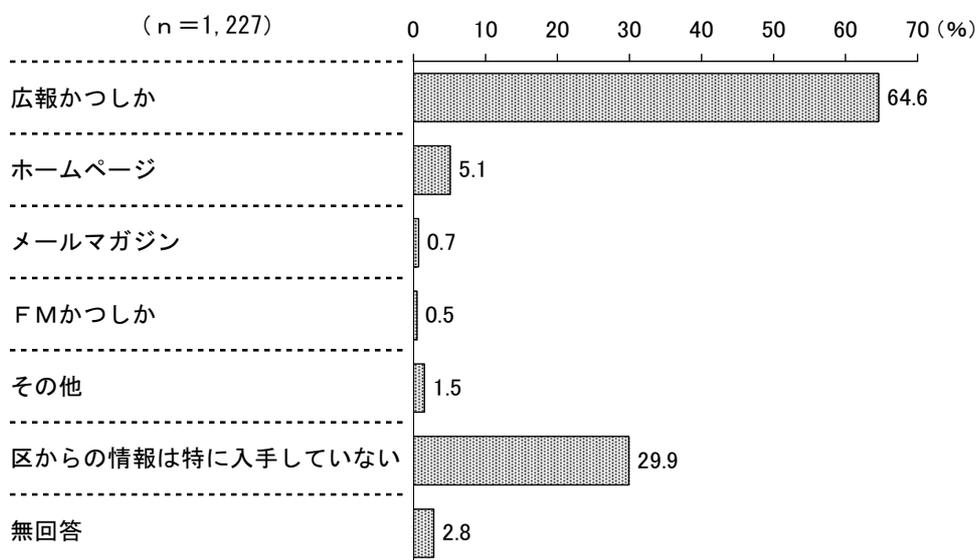


## (2) 区からの健康に関する情報の入手方法

◎ 「広報かつしか」は64.6%

問41 あなたは区からの健康に関する情報をどのように入手していますか。(〇はいくつでも)

図表 1-12-3 区からの健康に関する情報の入手方法



区からの健康に関する情報の入手方法は、「広報かつしか」が64.6%で最も高く、次いで「ホームページ」が5.1%となっている。「区からの情報は特に入手していない」は29.9%となっている。

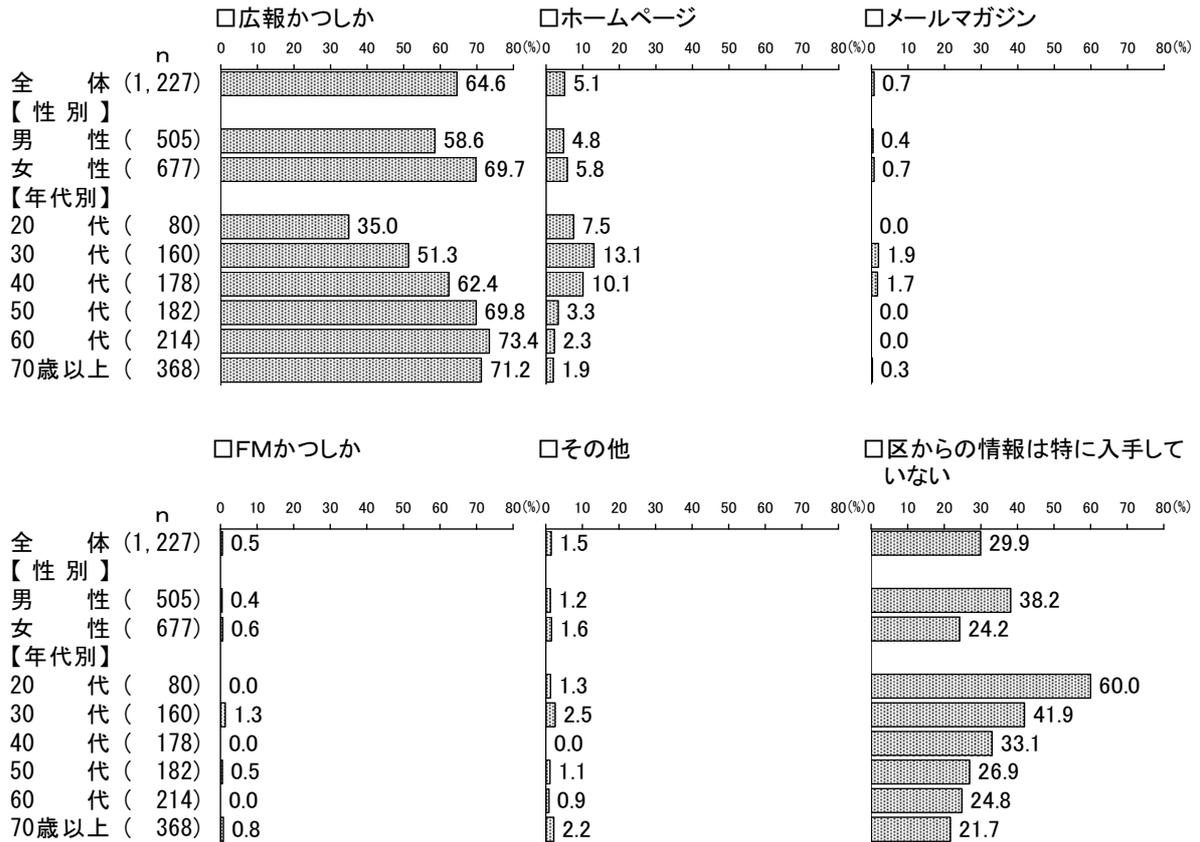
(図表 1-12-3)

性別で見ると、「広報かつしか」は女性（69.7%）が男性（58.6%）より11.1ポイント高くなっている。「区からの情報は特に入手していない」は男性（38.2%）が女性（24.2%）より14.0ポイント高くなっている。

年代別で見ると、「広報かつしか」は60代で73.4%、70歳以上で71.2%、50代で69.8%と高くなっている。「区からの情報は特に入手していない」は20代で60.0%と高くなっている。

（図表 1-12-4）

図表 1-12-4 区からの健康に関する情報の入手方法—性別、年代別



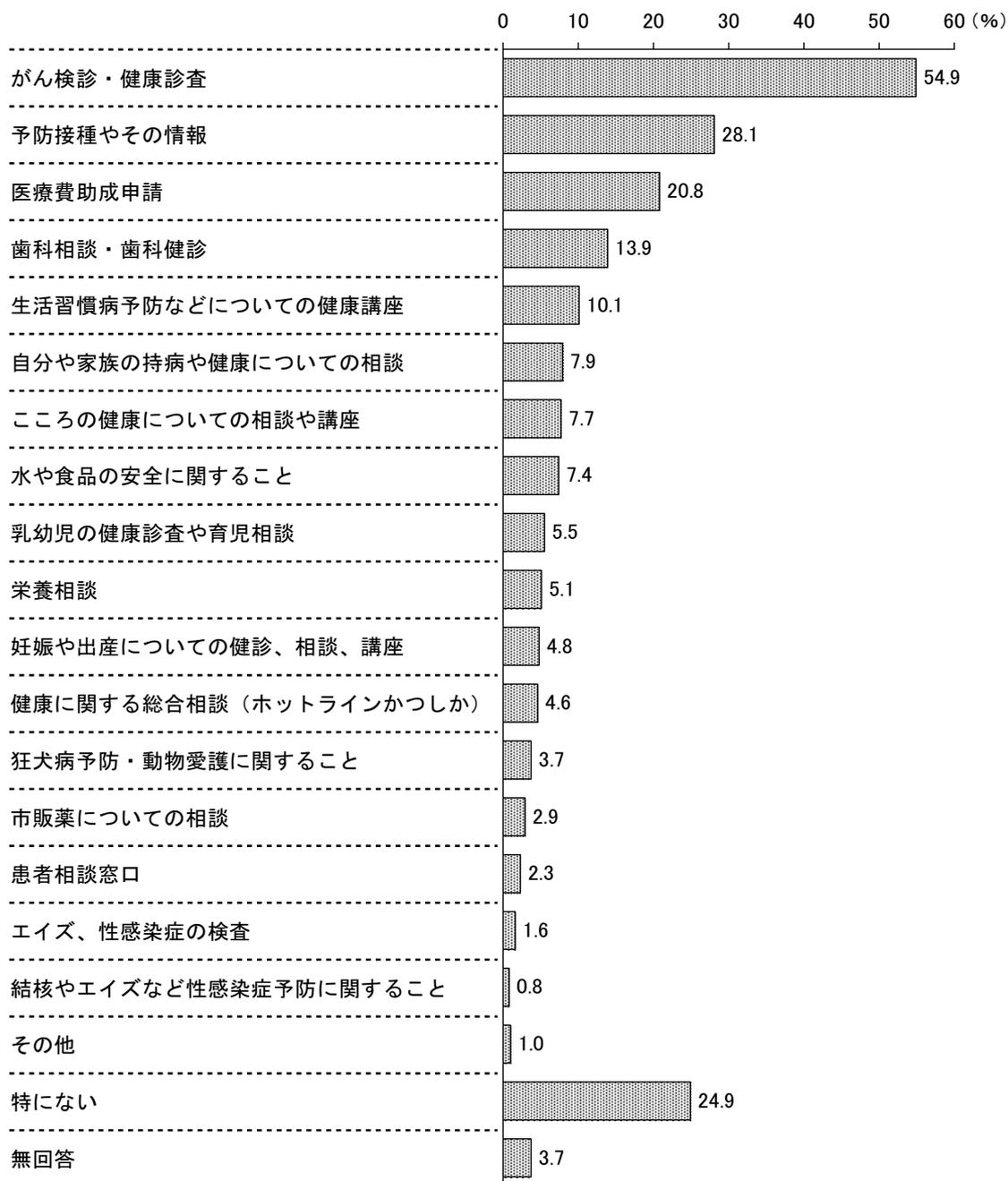
(3) 保健所が行っている保健サービスで利用したいもの

◎ 「がん検診・健康診査」は54.9%

<前回60.8%>

問42 保健所（保健センター含む）が行っている次の保健サービスで、あなたが利用したいものは何ですか。（〇はいくつでも）

図表 1-12-5 保健所が行っている保健サービスで利用したいもの



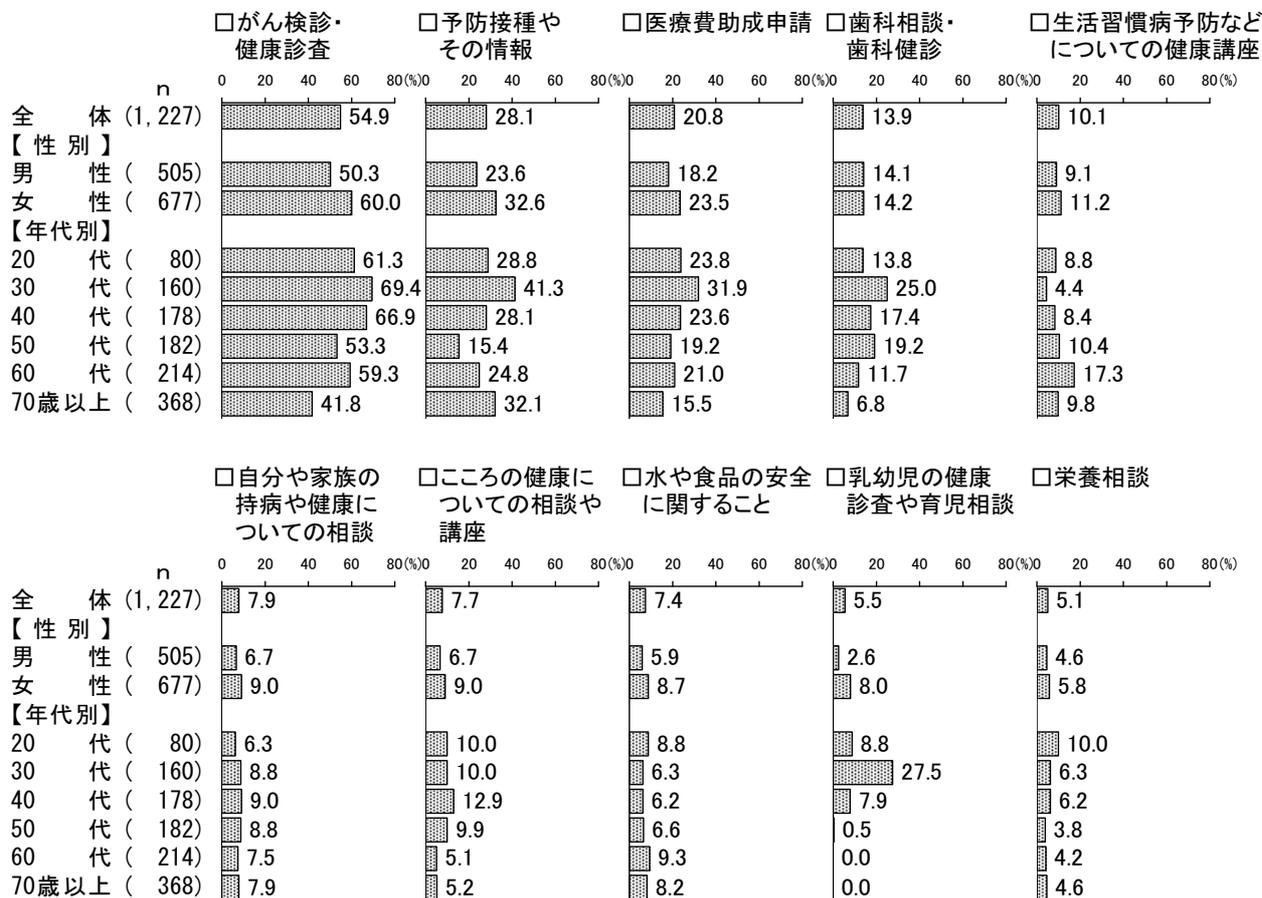
保健所が行っている保健サービスで利用したいものは、「がん検診・健康診査」が54.9%で最も高く、次いで「予防接種やその情報」（28.1%）、「医療費助成申請」（20.8%）、「歯科相談・歯科健診」（13.9%）、「生活習慣病予防などについての健康講座」（10.1%）などの順となっている。

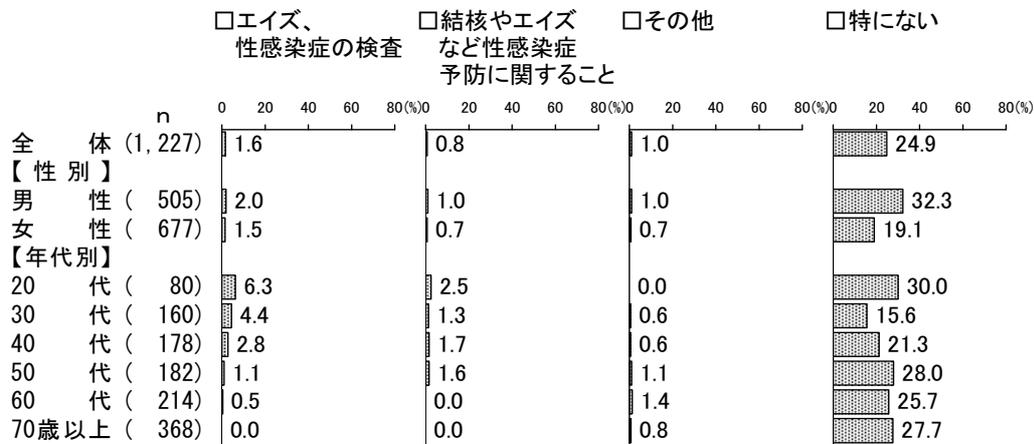
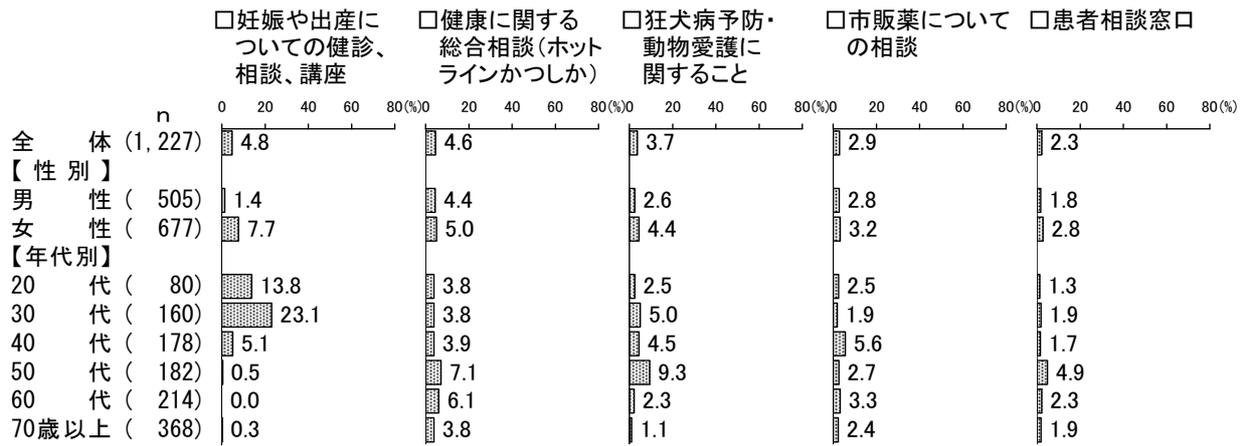
(図表 1-12-5)

性別でみると、「がん検診・健康診査」は女性（60.0%）が男性（50.3%）より9.7ポイント高くなっている。「予防接種やその情報」は女性（32.6%）が男性（23.6%）より9.0ポイント高くなっている。「医療費助成申請」は女性（23.5%）が男性（18.2%）より5.3ポイント高くなっている。「乳幼児の健康診査や育児相談」は女性（8.0%）が男性（2.6%）より5.4ポイント高くなっている。「妊娠や出産についての健診、相談、講座」は女性（7.7%）が男性（1.4%）より6.3ポイント高くなっている。

年代別でみると、「がん検診・健康診査」は30代で69.4%、40代で66.9%と高くなっている。このほか、30代では「予防接種やその情報」が41.3%、「医療費助成申請」が31.9%、「歯科相談・歯科健診」が25.0%、「乳幼児の健康診査や育児相談」が27.5%、「妊娠や出産についての健診、相談、講座」が23.1%と高くなっている。（図表1-12-6）

図表1-12-6 保健所が行っている保健サービスで利用したいもの一性別、年代別



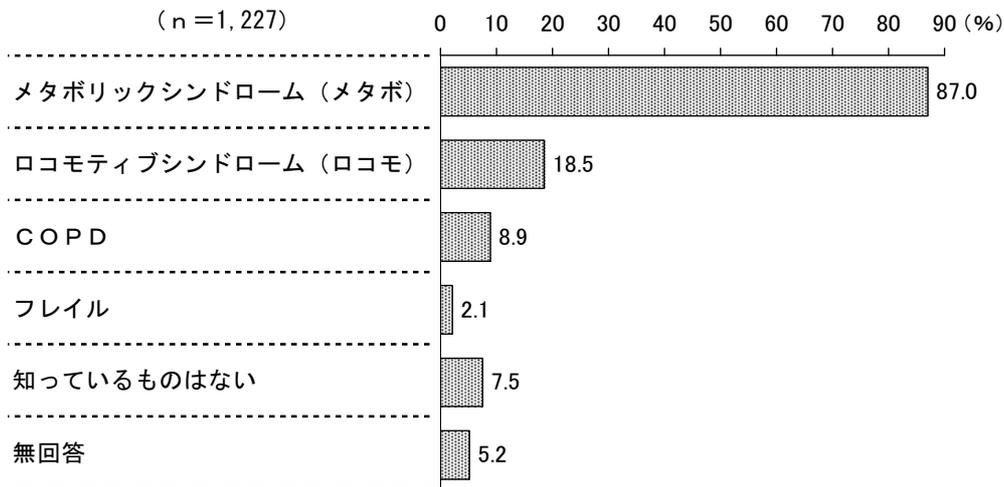


(4) メタボリックシンドローム・ロコモティブシンドローム・COPD・フレイルの認知度

◎ 「メタボリックシンドローム」は87.0%

問43 あなたは、次の言葉を知っていますか。知っているものすべてに○を付けてください。  
(○はいくつでも)

図表 1-12-7 メタボリックシンドローム・ロコモティブシンドローム・COPD・フレイルの認知度



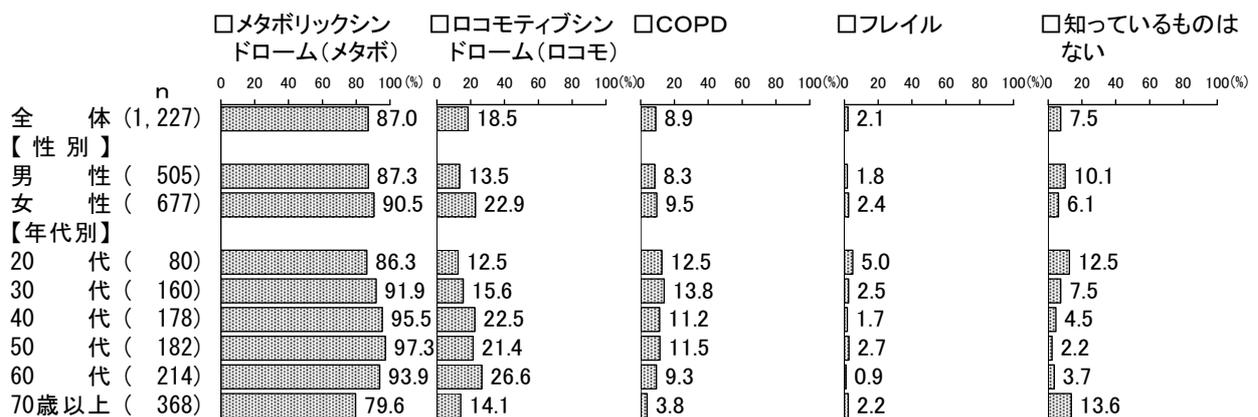
メタボリックシンドローム・ロコモティブシンドローム・COPD・フレイルの認知度は、「メタボリックシンドローム (メタボ)」が87.0%で最も高く、次いで「ロコモティブシンドローム (ロコモ)」(18.5%)、「COPD」(8.9%)、「フレイル」(2.1%)の順となっている。

(図表 1-12-7)

性別でみると、「ロコモティブシンドローム (ロコモ)」は女性 (22.9%) が男性 (13.5%) より9.4ポイント高くなっている。

年代別でみると、「メタボリックシンドローム (メタボ)」は50代で97.3%、40代で95.5%、60代で93.9%と高くなっている。「ロコモティブシンドローム (ロコモ)」は60代で26.6%と高くなっている。(図表 1-12-8)

図表 1-12-8 メタボリックシンドローム・ロコモティブシンドローム・COPD・フレイルの認知度—性別、年代別



### 13 通院状況について

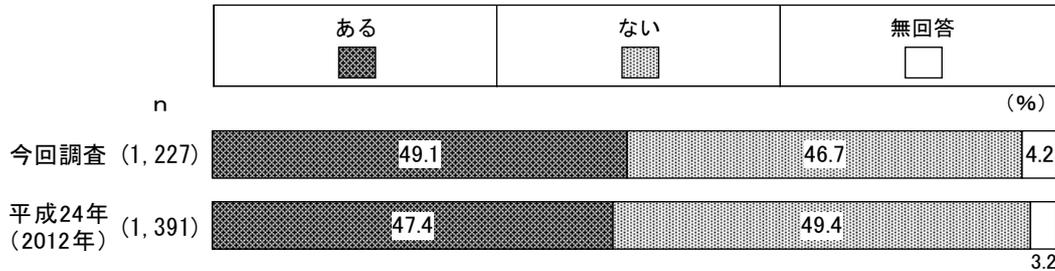
#### (1) 治療が必要な病気の有無

◎ 「ある」は49.1%

<前回47.4%>

問44 あなたには現在、医師から治療が必要と言われている病気がありますか。(○は1つだけ)

図表 1-13-1 治療が必要な病気の有無 (平成24年調査との比較)



治療が必要な病気の有無は、「ある」が49.1%、「ない」が46.7%となっている。

平成24年の調査結果と比較すると、大きな傾向の違いはみられない。(図表 1-13-1)

(1-1) 医師から診断された病気・現在治療中の病気

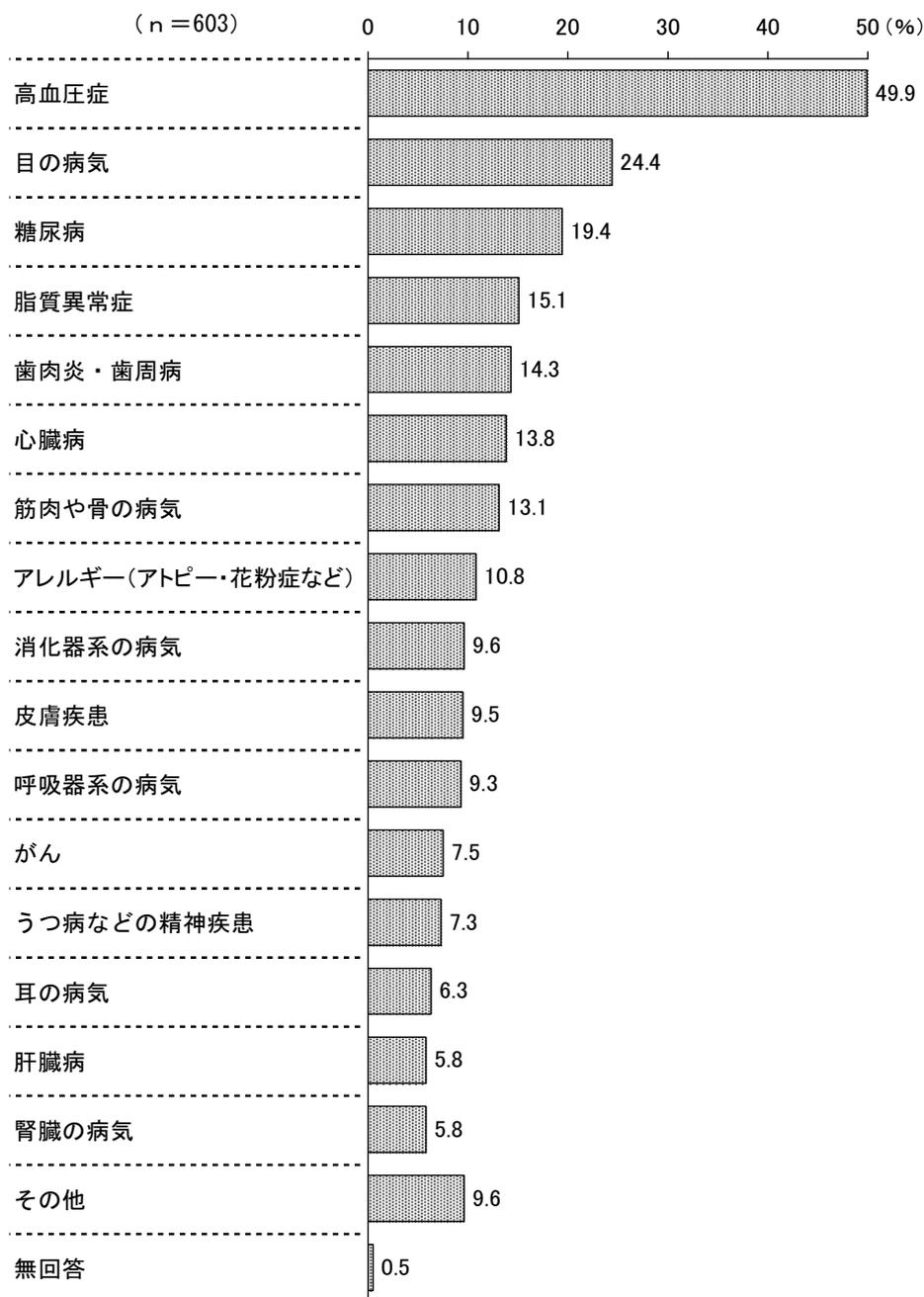
◎ 「高血圧症」は49.9%

<前回45.3%>

(問44で「ある」を選んだ方へ)

問44-1 それはどのような病気ですか。あてはまる病気の番号(1~17)と、その治療状況(①~②)に○を付けてください。(○はいくつでも)

図表 1-13-2 医師から診断された病気

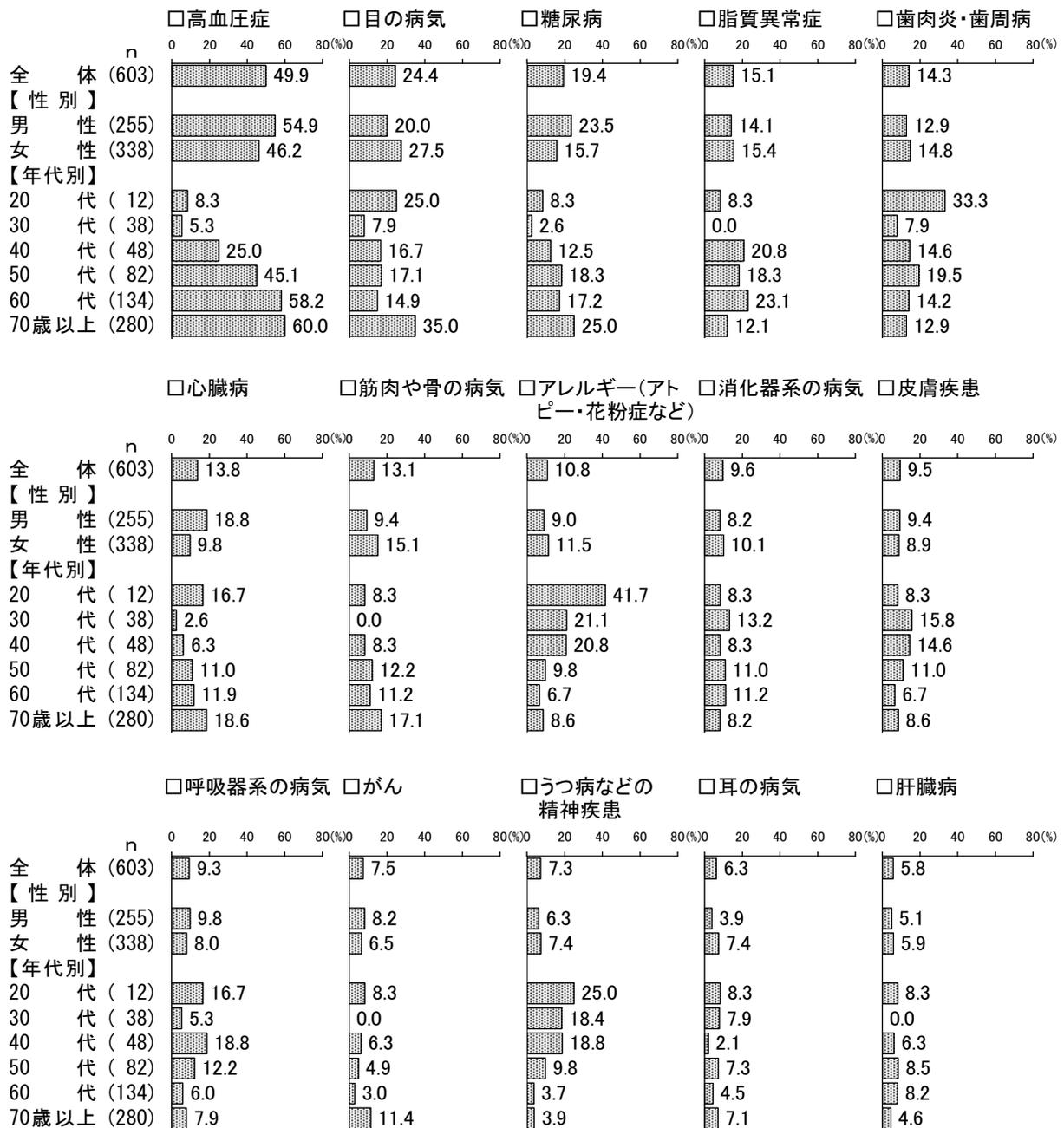


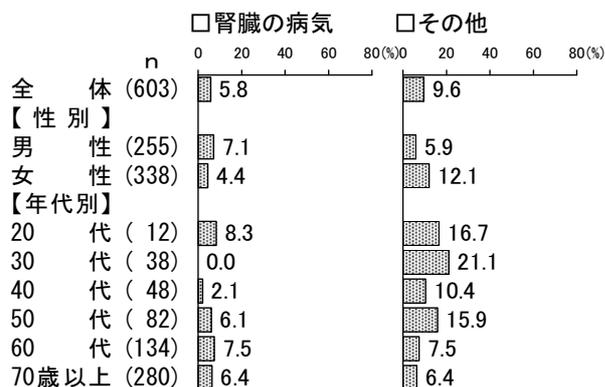
治療が必要な病気が「ある」を選んだ方(603人)の、医師から診断された病気は、「高血圧症」が49.9%で最も高く、次いで「目の病気」(24.4%)、「糖尿病」(19.4%)、「脂質異常症」(15.1%)、「歯肉炎・歯周病」(14.3%)、「心臓病」(13.8%)などの順となっている。(図表 1-13-2)

性別でみると、「高血圧症」は男性（54.9%）が女性（46.2%）より8.7ポイント高くなっている。「目の病気」は女性（27.5%）が男性（20.0%）より7.5ポイント高くなっている。「糖尿病」は男性（23.5%）が女性（15.7%）より7.8ポイント高くなっている。「心臓病」は男性（18.8%）が女性（9.8%）より9.0ポイント高くなっている。「筋肉や骨の病気」は女性（15.1%）が男性（9.4%）より5.7ポイント高くなっている。

年代別でみると、「高血圧症」は70歳以上で60.0%、60代で58.2%と高くなっている。「目の病気」は70歳以上で35.0%と高くなっている。「歯肉炎・歯周病」は20代で33.3%と高くなっている。「アレルギー（アトピー・花粉症など）」は20代で41.7%と高くなっている。「うつ病などの精神疾患」は20代で25.0%と高くなっている。（図表1-13-3）

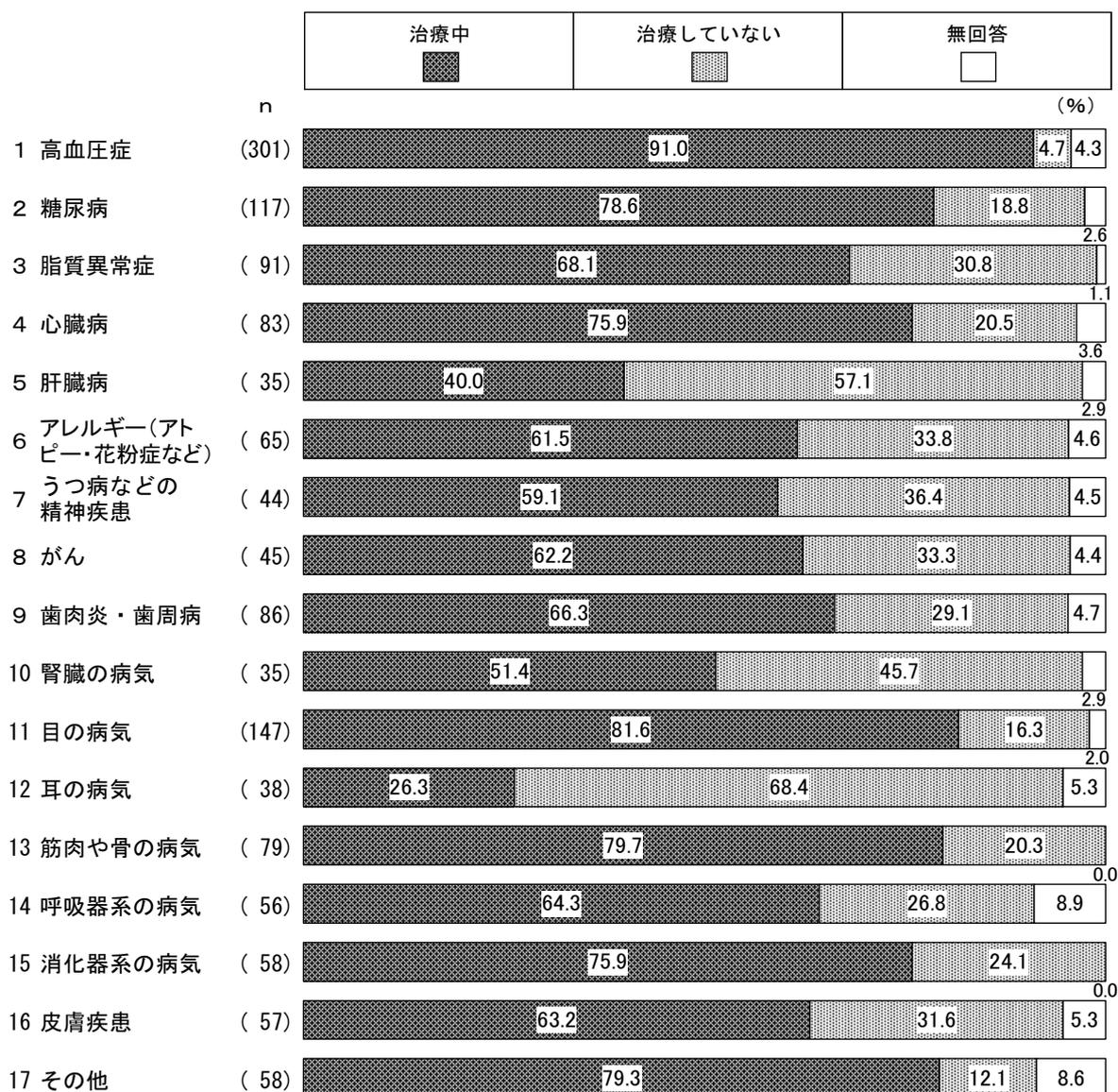
図表1-13-3 医師から診断された病気－性別、年代別





医師から診断された17の病気について、現在治療中か聞いたところ、「治療中」が最も高いのは「高血圧症」(91.0%)で、次いで「目の病気」(81.6%)、「筋肉や骨の病気」(79.7%)、「その他」(79.3%)、「糖尿病」(78.6%)などの順となっている。一方、「治療していない」が最も高いのは「耳の病気」(68.4%)で、次いで「肝臓病」(57.1%)、「腎臓の病気」(45.7%)、「うつ病などの精神疾患」(36.4%)などの順となっている。(図表1-13-4)

図表 1-13-4 現在治療中の病気

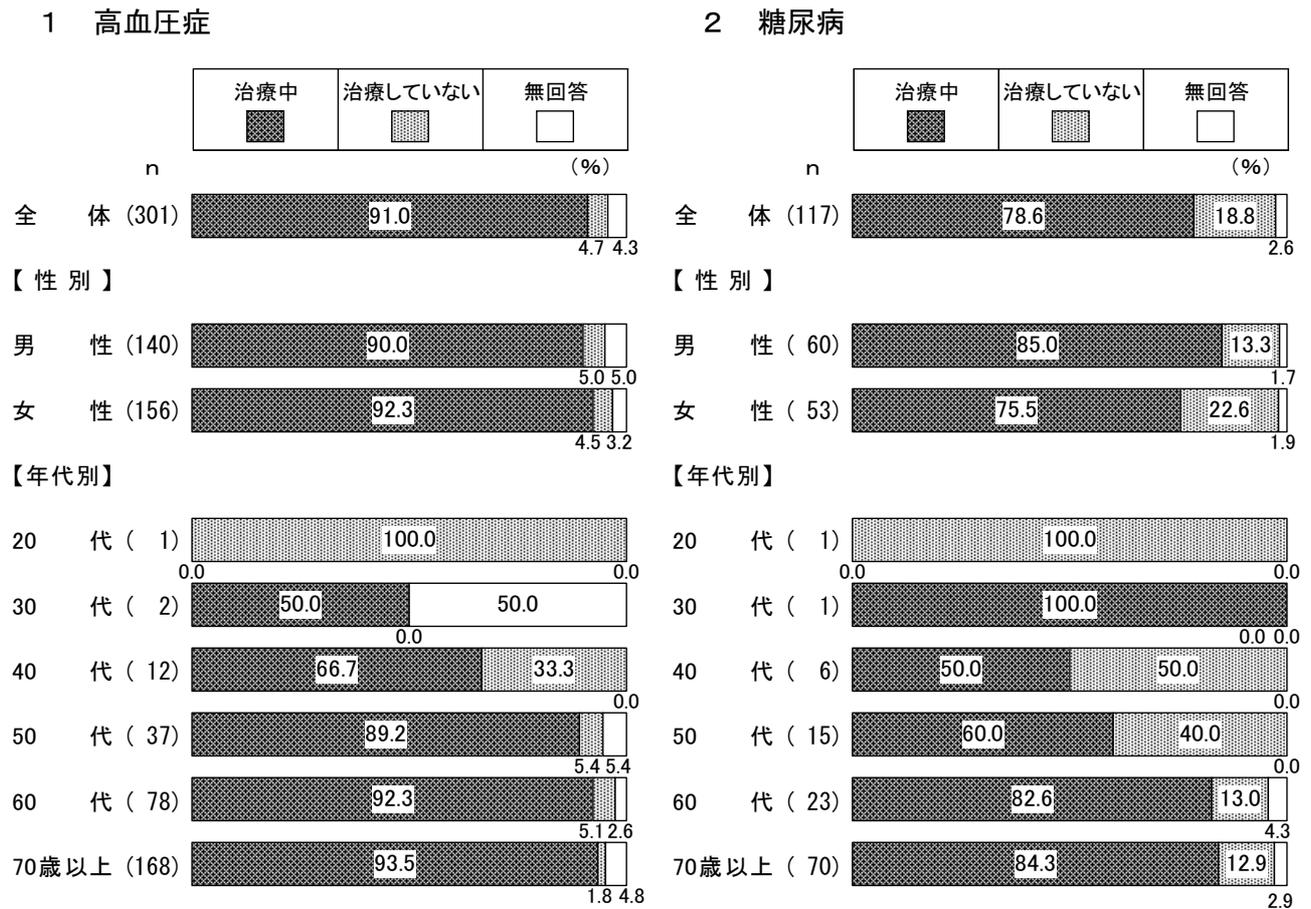


「治療中」の割合を性別でみると、「心臓病」は男性（85.4%）が女性（63.6%）より21.8ポイント高くなっている。「うつ病などの精神疾患」は女性（68.0%）が男性（50.0%）より18.0ポイント高くなっている。「がん」は男性（76.2%）が女性（54.5%）より21.7ポイント高くなっている。

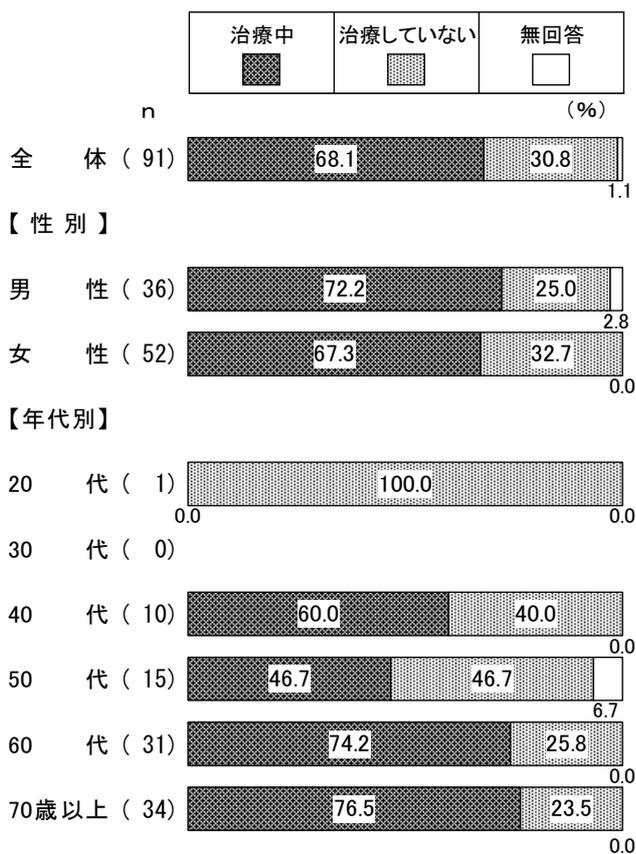
年代別の結果は、多くの病気で低い年代ほどnが少なくなっていることから、参考に掲載する。

(図表 1-13-5)

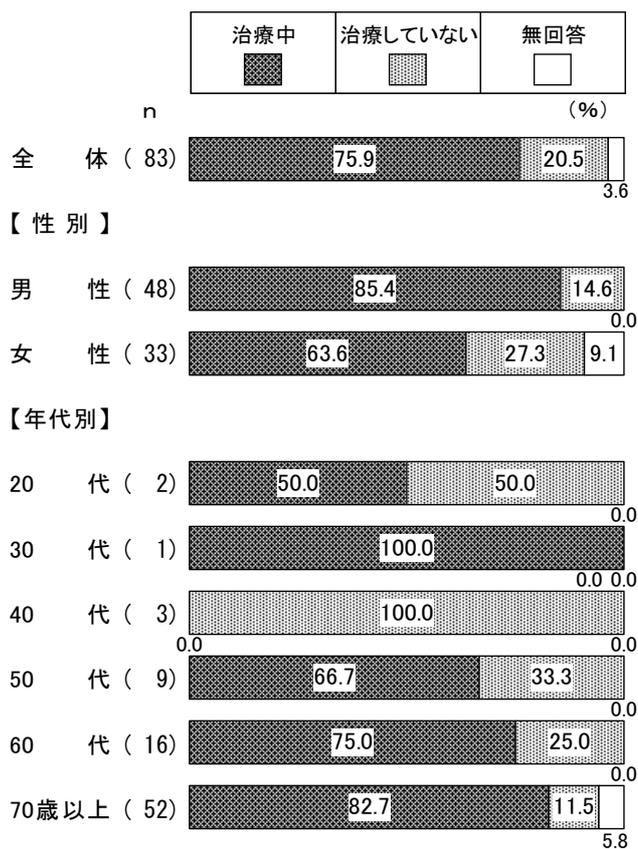
図表 1-13-5 現在治療中の病気—性別、年代別



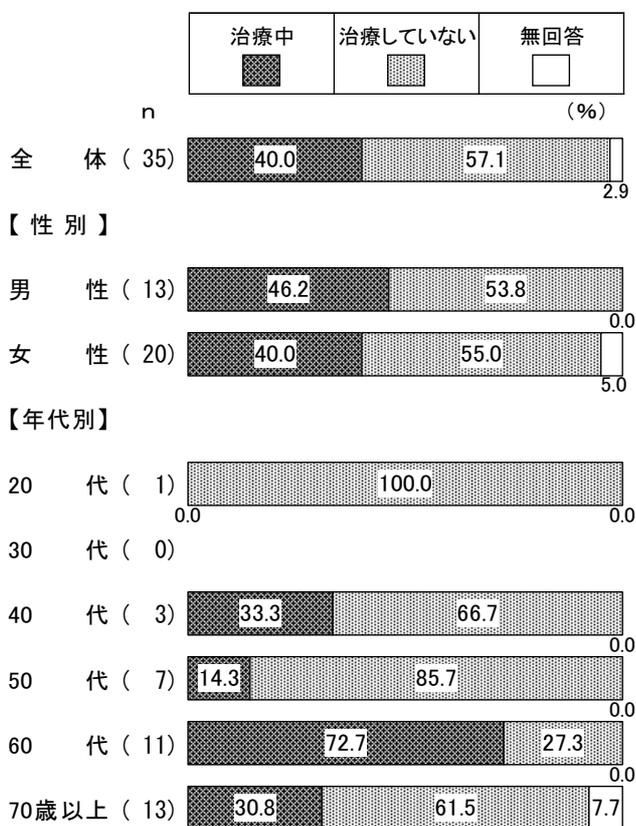
### 3 脂質異常症



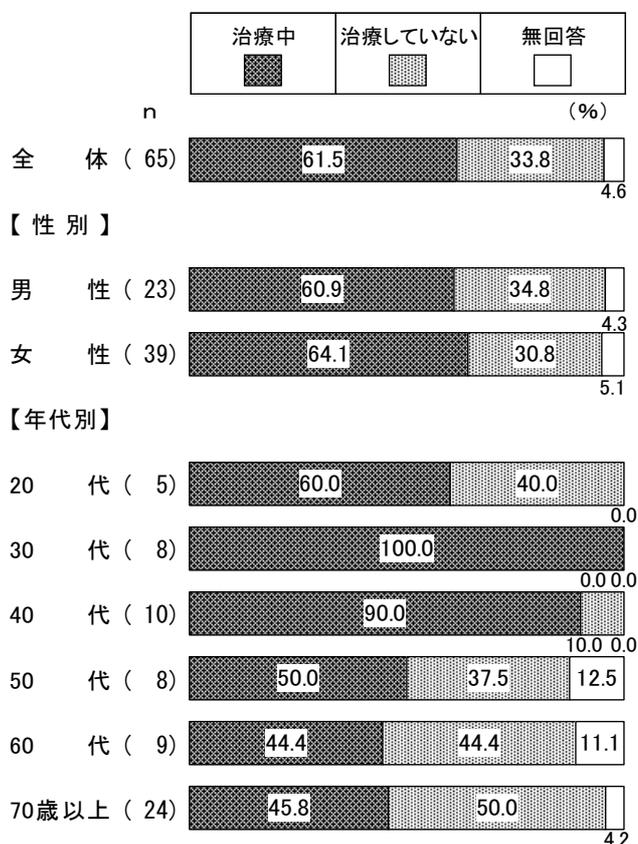
### 4 心臓病



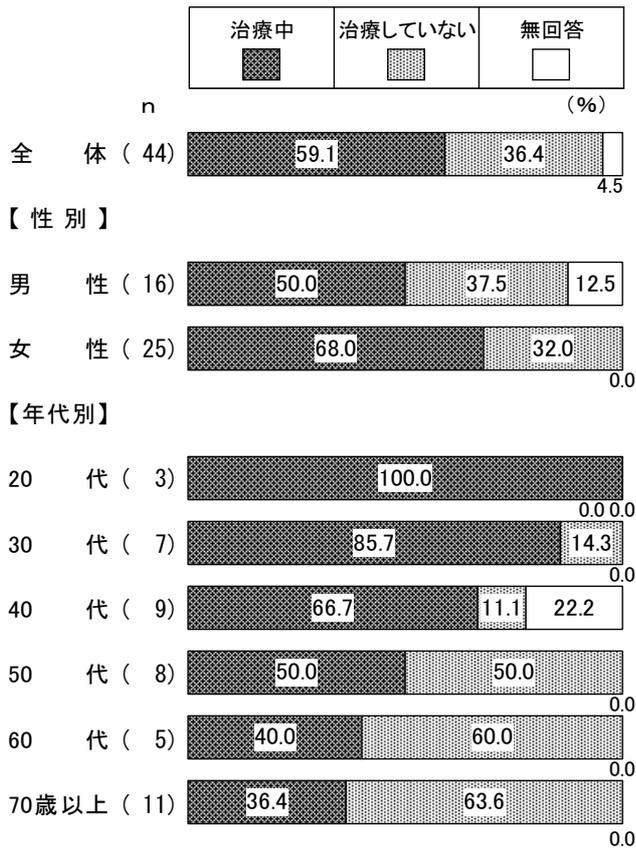
### 5 肝臓病



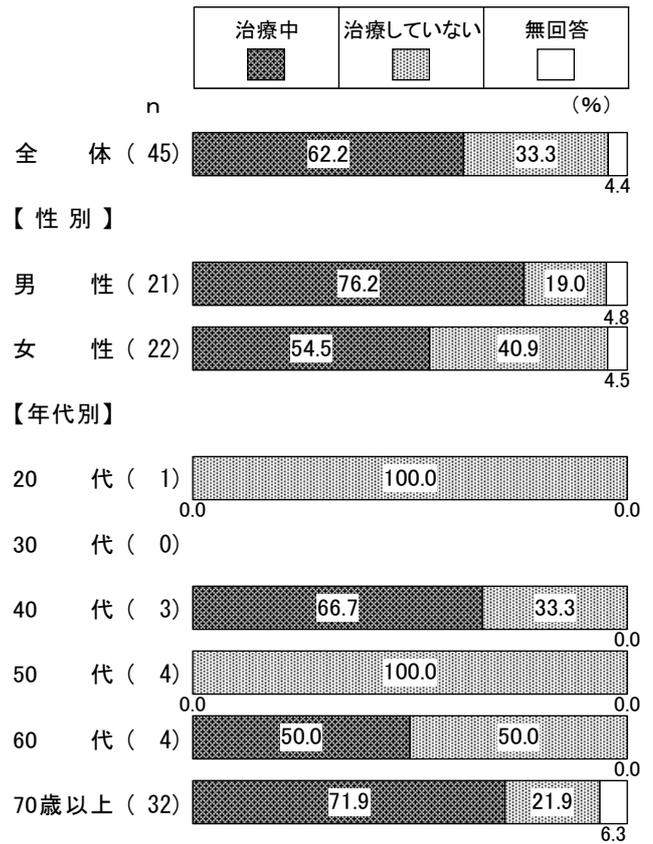
### 6 アレルギー (アトピー・花粉症など)



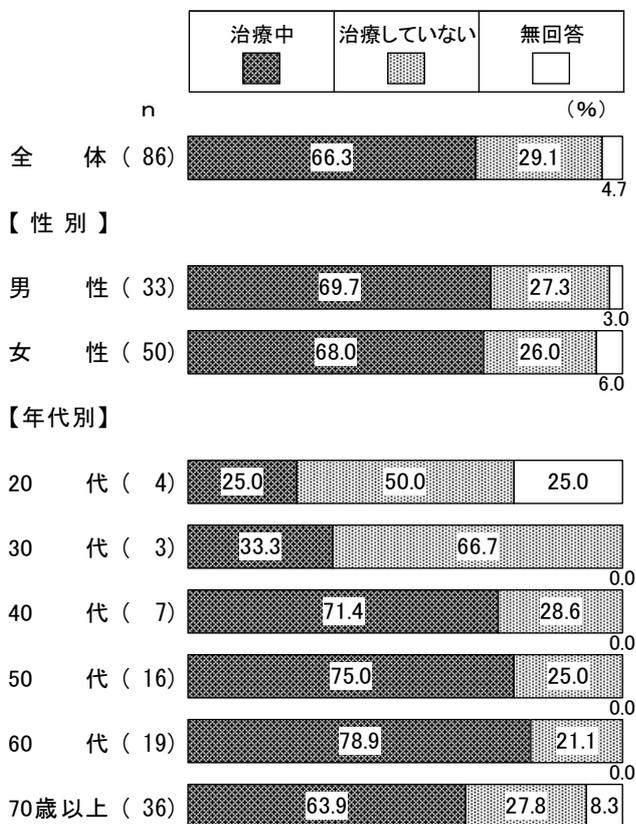
## 7 うつ病などの精神疾患



## 8 がん



## 9 歯肉炎・歯周病



## 14 保健医療施策に対する意見・要望（自由記入）

問45 葛飾区の保健医療施策に対するご意見・ご要望をお聞かせください。

区の保健医療施策に対する意見・要望を自由記入形式で聞いたところ、130人から152件の意見が寄せられた。これらを分類・整理して集計した結果は以下のとおりである。

		回答数	立石・四つ木	茶屋・堀切	南綾瀬・お花	亀有・青戸	奥戸・新小岩	柴又・高砂	金町・新宿	水元	男性	女性	20代	30代	40代	50代	60歳～64歳	65歳～69歳	70歳～74歳	75歳以上
<b>（1）医療機関（8件）</b>																				
医療機関 （6件）	・かかりつけの病院や薬局が区外にあり、近くでかかりつけ医、薬局を見つけない	1							1		1							1		
	・地域の皮膚科が少ない	1			1						1				1					
	・休日診療を行う医療施設を増やしてほしい	1			1						1			1						
	・ベッド数の多い総合医療機関、診療所が入居する医療モールの誘致	1							1		1					1				
	・外来の診察待ち時間短縮の方法として、高齢者と高齢者以外で受診の時間帯を分けるなどの対策はどうか	1							1			1					1			
	・昔と比べて区内の救急指定の医療機関数が増えておらず、また地域に片寄りがある。三次救急の医療機関がいまだにできていない。区内の診療所では質の高い医療が受けられない。区の医療施策の怠慢としか思えない。	1					1					1								1
診察内容 （2件）	・病院での血圧等の検査や薬の処方の仕方などで、患者を適当に扱っているように感じることがある	1		1								1								1
	・心療内科で薬の副作用を見逃されたので、そういう病院は立入り検査をしてほしい	1						1				1		1						
<b>（2）健康診断（38件）</b>																				
区が実施する健康診断 （18件）	・健康診断で毎年行う検査項目のほかに、何年かおきに行う特別な検査を増やしてほしい	7	1			4	2				2	5		1	2	2	1	1		
	・健康診断を無料で実施してほしい	2					2					2			1	1				
	・区の健康診断は、時間の都合がつかないことが多い	1							1						1					
	・これからも葛飾区で健康診断を行ってほしい	1					1					1		1						
	・妊婦健診や新生児健診などの診察項目が他の自治体より多いと思う	1				1							1				1			
	・区内に転居して間もない頃は健康診断の通知が届かず、自費で健康診断を受けた。保健医療に関する情報をきちんと通知するようにしてほしい	1	1										1			1				
	・健康診断の案内は受診を求める人にだけ出せばよいと思う	1							1				1		1					
	・無料で受診できる健康診断の案内はありがたいが、病気が見つかったとその後の通院や医療費の負担が気になり、受診をためらう	1					1						1				1			
	・健康診断を受けた人に何か特典を与えれば、健康診断の受診率が向上するのではないか	1						1				1			1					
	・慢性疾患で通院している人は特定検診を受診する必要はないと思う。税金の無駄遣いだと思う	1					1						1				1			
	・骨密度の検査を月に1回ではなく、何回か実施してほしい。また近くの医院で検査を受けられるようにしてほしい	1								1							1			

	回答数	立石・四つ木	茶屋・堀切	南綾瀬・お花	亀有・青戸	奥戸・新小岩	柴又・高砂	金町・新宿	水元	男性	女性	20代	30代	40代	50代	60歳 64歳	65歳 69歳	70歳 74歳	75歳以上
区が実施する歯科検診(1件)	1				1					1					1				
区が実施するがん検診(17件)	3		1	1	1				1	2	1	1			1				
・がん検診を無料で実施してほしい	1						1			1					1				
・がん検診は毎年誰でも無料で検診ができると思う	1	1							1					1					
・がん検診を土曜・日曜日に受診できるようにしてほしい	1								1					1					
・20代でも乳がん等の検診を無料で受けさせてほしい	1						1			1	1								
・がん検診でもっと精密な検査を実施してほしい	1				1					1				1					
・マンモグラフィ検査を予約しなくても受診できるようにしてほしい	1				1					1				1					
・マンモグラフィ検査で、機械をはさまないタイプの検査機器を導入してほしい	1				1					1				1					
・乳がん検診は、まず超音波またはマンモグラフィ検査を行い、必要な場合に視触診を行うようにしてほしい	1					1				1				1					
・マンモグラフィ検査を68才以上でも利用できるようにしてほしい	1		1							1							1		
・子宮がん検診は、子宮頸がんと子宮体がんの検診を実施してほしい	1					1				1			1						
・保健センターで受診するがん検診で、健康診査を一緒に受診できるようにしてほしい	1						1			1								1	
・乳がん検診を毎年実施してほしい	1	1								1							1		
・子宮がん検診・乳がん検診は申し込みではなく、受診券を送って無料で受診できるようにしてほしい	1					1				1					1				
・広報でがん検診の案内を見ると申し込みと思うのですが、いつも後回しになっている	1	1								1					1				
・大腸がんの内視鏡検査に助成を出してほしい	1		1							1				1					
その他(2件)	1						1		1		1								
・実施場所を教えてください	1							1		1									
・検診などを受けやすくなるな環境づくりが必要だと思う	1							1		1						1			
<b>(3) 区の広報活動(15件)</b>																			
・区の保健医療施策の内容がよくわからないので、詳しく知りたい	3				1	1			1	1	2			1				2	
・区の保健医療施策について詳しく、一元的にまとめた冊子を作成して配布してほしい	2					1			1	1	1			1				1	
・休日、夜間の診療所の案内を充実してほしい	1	1								1						1			
・対象者の年齢や健康状態などさまざまな状況に合わせた告知手段や告知方法、表現方法などを工夫してほしい	1		1								1							1	
・保健医療に関する情報を集約した広報紙を年に何回か発行してほしい	1		1								1				1				
・かかりつけ医として信頼できる医療機関の情報発信	1							1			1				1				
・夏休み・年末年始の休診日を早めに知りたい	1						1				1			1					
・TwitterなどのSNSで区の施策を発信してほしい	1					1				1		1							
・広報かつしかなどにいろいろな情報をのせてほしい。	1					1					1				1				
・誤嚥性肺炎を防ぐ広報活動や健康診断時の高齢者に対する呼びかけなど	1		1								1								1

		回答数	立石・四つ木	茶屋・堀切	南綾瀬・お花	亀有・青戸	奥戸・新小岩	柴又・高砂	金町・新宿	水元	男性	女性	20代	30代	40代	50代	60歳 64歳	65歳 69歳	70歳 74歳	75歳以上	
	・区役所等で掲示しているポスターちらしが子育て支援センターや、町内会の掲示板にあればよいと思う	1					1				1		1								
	・知的障害の人に対する広報活動や健康診断等の通知を、障害者自身が理解できる形式や内容にしてほしい	1				1					1			1							
<b>(4) 医療保険制度・医療費 (14件)</b>		回答数	立石・四つ木	茶屋・堀切	南綾瀬・お花	亀有・青戸	奥戸・新小岩	柴又・高砂	金町・新宿	水元	男性	女性	20代	30代	40代	50代	60歳 64歳	65歳 69歳	70歳 74歳	75歳以上	
	・18歳まで無料で医療を受けられるようにしてほしい	4		1	2		1				1	3		1	2	1					
	・国民健康保険で人間ドックの受診に助成を出してほしい	2						2			1	1			1	1					
	・妊産婦健診を無料にしてほしい。とてもお金がかかり産みたくても産めない	1							1				1								
	・後発医薬品の中には成分等が体に合わず切り替えできない人もいるので、薬局で後発品にしるとうるさく言わないようにしてほしい	1							1				1								
	・歯科の治療費が高い	1					1				1								1		
	・難病患者に対する助成を充実してほしい	1					1					1				1					
	・私も含めてかつてポリオを患った方は、今毎年のように骨折や病気で入院をしています。他の難病の方は、歩いて買物をしたり普通の生活をしているのに医療費は無料です。旧ポリオ患者の医療費も無料にしてほしい。	1							1				1								1
	・メタボリックシンドロームの医療を受けたいが、生活保護の医療券で受診できるのであれば受けてみたい	1				1							1			1					
	・医療の保険適用についての情報をどうやって入手するのかわからない	1						1					1			1					
・子どもの医療費無料について、医師の診察を受ける必要のないものでも病院に行くようになっていて無駄な医療費を負担をしているように思う	1							1				1								1	
<b>(5) 健康づくり (8件)</b>		回答数	立石・四つ木	茶屋・堀切	南綾瀬・お花	亀有・青戸	奥戸・新小岩	柴又・高砂	金町・新宿	水元	男性	女性	20代	30代	40代	50代	60歳 64歳	65歳 69歳	70歳 74歳	75歳以上	
	・高齢者が元気で過ごせるまちづくり	1					1				1									1	
	・介護予防事業を柱とした中高年世代への運動や健康セミナーの充実。またその事業を通じての市場、雇用の拡大	1		1								1			1						
	・たばこを吸う人なくしてほしい	1					1				1								1		
	・指導者がいて、土曜・休日等でも利用できる、運動ができる施設の整備	1						1				1				1					
	・ウォーキング指導	1				1					1										1
	・区内のスポーツ施設の拡充や情報の発信	1								1		1				1					
	・スポーツ指導やトレーナーによるマッサージ等を受けられる施設があるとよい	1		1								1					1				
	・高齢者だけを対象にするばかりでなく、若い人も利用できる健康づくりやスポーツの講座や教室を充実してほしい	1						1					1			1					

(6) 保健医療施策全般への意見 (36件)		回答数	立石・四つ木	茶屋・堀切	南綾瀬・お花	亀有・青戸	奥戸・新小岩	柴又・高砂	金町・新宿	水元	男性	女性	20代	30代	40代	50代	60歳 64歳	65歳 69歳	70歳 74歳	75歳以上	
保健所・保健センターに対する意見・要望 (13件)	・保健所職員の対応が悪い。相談に対して真摯に対応してくれなかった	2		1		1					1	1			1	1					
	・各保健センターでできることを統一してほしい	1		1								1			1						
	・各保健センターが出入りしやすく、相談やちょっとした休憩をしやすい場所にしてほしい	1		1								1			1						
	・電話で相談できるようにしてほしい	1				1					1										1
	・保健センターで健康診断の申し込みができるようにしてほしい	1				1					1						1				
	・かつて乳児健診で小菅の保健センターをよく利用しました。地域の身近な施設がどんどんなくなっていくのは不安です	1			1							1					1				
	・保健センターの予防接種の窓口職員を配置し、来訪者の対応にあたってほしい	1				1					1						1				
	・保健センターは、ややせせこましい	1		1								1	1								
	・子どもの予防接種を保健センターなどで同時に行う日をつくってほしい。病院で接種を受けるとき、同時接種をしてくれるところか調べるのに手間がかかる	1						1				1		1							
	・葛飾区の保健所は清潔感があり、新しさもありこれからは、何かある時は積極的に参加したいと思います。	1	1									1									1
・葛飾区の公的施設が遠く、利用したくても利用できない。もっと活用したい。地域によるので仕方がないが、残念だ	1				1						1							1			
・日本語のわからない方でも相談できる職員の配置	1					1				1						1					
その他の保健医療施策に対する意見・要望 (23件)	・現在の区の保健医療政策に満足している	5	1		1	1		1	1	5						2	1			2	
	・他の区からみると充実感が乏しい	1	1								1							1			
	・産後ケア事業への補助金	1	1								1				1						
	・産後の骨盤矯正に行きたかったが値段も高いし、子どもを見てもらえる環境ではなかったので行けなかった。産後のケアもサポートしてもらえたら助かる	1				1						1		1							
	・小さい子どもがいて、預けるところがないと健康診断を受けようとは思わない。子連れで医療機関に行く敷居は高い	1								1	1			1							
	・出産・子育て世代の健康増進の施策の充実を期待します	1		1							1					1					
	・子どもひとりひとりの成長のペースがあるのに、平均より少し遅いだけで、発達障害や病気を疑う人が多すぎと思う。保健師さんが必要以上に親の心配をあおりすぎている。もう少し大きな目で見れないのか	1							1			1		1							
	・メンタルヘルスの問題を抱えた妊産婦や特定妊婦の産後支援の充実	1	1									1				1					
	・特別養護老人ホームを増やしてほしい。	1				1						1									1
	・健康を維持するために、食事、運動、休息などが重要なことは理解していても、継続して実行できない人が多いと思う。生活の中で簡単に取り入れられる方法を指導をしていく必要がある	1							1			1						1			
・ひとり暮らしや70歳以上の方の家庭を民生委員が定期的に訪問するようにしてほしい	1				1					1										1	
・後期高齢者の健康に関する講演を区役所で行ってほしい	1							1		1										1	

	回答数	立石・四つ木	茶屋・堀切	南綾瀬・お花	亀有・青戸	奥戸・新小岩	柴又・高砂	金町・新宿	水元	男性	女性	20代	30代	40代	50代	60歳 64歳	65歳 69歳	70歳 74歳	75歳以上		
・現在要支援2の認定を受けています。足が少し不自由ですが、生活上のことはなんとか自分でできています。医療の方にご指導を頂き、大変親切にして頂きました。これからも介護が必要となりましたときには、お力を頂きたいと思ひます	1		1								1								1		
・先日、区から米寿の祝金と寿状をいただき、このサプライズに大変な感動をしました。厚くお礼を申し上げます	1				1					1									1		
・アルコール依存症の夫・妻(母親)をもつ家族へのサポート	1							1		1					1						
・体についての小さな悩みを相談すべきかどうか、自分では判断がつかない	1					1					1			1							
・精神障害者の息子がいます。保健所のデイケアや施設に通うなどの努力はしたのですが、続きません。他の障害をもった人と同じ施設なので、合わないようです。精神障害者だけで、適材適所で働くことができる施設があれば、能力や意欲も生かせると思ひます	1				1						1								1		
・48歳のとき心筋梗塞で倒れ、その後のリハビリの内容は歩く速さの1.5倍のスピードで平地を1時間歩くことでした。当時はきつかったが慣れて、1年後には毎日歩いていましたが、70歳を過ぎた現在ははともそんなに早く歩けない状態です。テレビなどでは医師やトレーナーなど専門家の指導の基に歩くことを奨めています。葛飾区でそのような人を紹介してくれませんか	1	1								1								1			
・すべての食品にアレルギー成分表の記載を義務づけてほしい。アレルギー物質を必ず27品目以上記載すべき。原材料名表示だけだとわかりにくい	1				1						1	1									
<b>(7) その他 (33件)</b>		回答数	立石・四つ木	茶屋・堀切	南綾瀬・お花	亀有・青戸	奥戸・新小岩	柴又・高砂	金町・新宿	水元	男性	女性	20代	30代	40代	50代	60歳 64歳	65歳 69歳	70歳 74歳	75歳以上	
このアンケートについて (4件)	・今回のアンケートを機に健康づくりの取り組みや区の広報に関心を持っていきたい	2	1			1						2			1					1	
	・このアンケートがどのように生かされるのか、アンケートの結果を目にする機会があればよいと思う	1							1		1									1	
	・本人は高齢で認知症で回答できません。調査対象者の選定は年齢を考慮してほしい	1		1								1									1
その他の意見 (29件)	・医療に関する情報を調べたいとき、気兼ねなくインターネット等で調べて頂ける人、場所が近くであればよい	1								1	1										1
	・保健所は利用しませんが、高齢者にとって便利な場所でありますようお願いいたします	1					1				1										1
	・今まで病気をしたことがないです	1					1				1										1
	・今のままでよいと思う	1					1				1										1
	・区の保健福祉サービス等に対する感謝のことば	6	1				1	3		1	3	3			1			2	1	2	
	・現在は勤め先などの健康保険サービスを利用しているが、将来はお世話になると思う	5				3	1	1			3	2			2	2	1				
	・特にない、わからない	13	1	3	1			4	3	1	12	1		4	2	2	2	1	1	1	
・葛飾区役所の職員の対応が良くないと思う	1	1								1					1						